

平成 **16** 年度

こどもの城 事業年報



財団法人 児童育成協会

平成**16**年度

**こどもの城
事業年報**

Contents

目次

こどもの城 事業年報

平成16年度

事業の概要

平成16年度の活動	9
1. はしめに	9
2. 一般事業活動	10
3. その他の活動	12
4. 国庫補助による事業活動	12
5. 開館時間・入館料(こども活動エリア)	13
平成16年度活動一覧表	17
1 来館児・者数	17
2. クループ活動実施状況	18
3. 講座・講習会など	19
4. 視察・見学実績	22
1年の歩み	23

各部の活動

体育事業部

平成16年度の活動	27
1. はしめに	27
2. スポーツ遊びプログラム	27
3. まとめ	28
平成16年度活動一覧表	29
1. 一般利用	29
2 講座・講習会など	31
3. その他	35

プレイ事業部

平成16年度の活動	37
1. はしめに	37
2 季節行事と特別期間プログラム	39
3 まとめ	40
平成16年度活動一覧表	41
1 一般利用	41
2. 講座・講習会など	46
3. その他	48

造形事業部

平成16年度の活動	51
1. はしめに	51
2 造形活動のテーマについて	52
3. まとめ	53
平成16年度活動一覧表	54
1 一般利用	54
2. 講座・講習会など	56
3. その他	59
平成16年度プログラム一覧表	60
1 親子プログラム	60
2 子どもだけのプログラム	61

音楽事業部

平成16年度の活動	63
1. はしめに	63
2. 新しい取り組み	63
3. まとめ	65
平成16年度活動一覧表	66
1. 一般利用	66
2. 講座・講習会など	70
3 その他	73

AV（オーディオ・ビジュアル）事業部

平成16年度の活動	75
1. はしめに	75
2. ヒテオライフラリー	75
3. 講座・講習会など	76
4 その他の活動	77
5. サタデー・ラホラトリ	77
6. まとめ	78
平成16年度活動一覧表	79
1. 一般利用	79
2. 講座・講習会など	81
3. その他	83

保育研究開発部

平成16年度の活動	85
1. はしめに	85
2 3つの保育事業	85
3 まとめ	89
平成16年度活動一覧表	90
1. 一般利用	90
2 講座・講習会など	92
3 その他	93

小児保健部

平成16年度の活動	95
1 はしめに	95
2. 現場の指導者を支える「子育て支援講習会」	95
3. 診療・相談活動	97
4. まとめ	100
平成16年度活動一覧表	101
1. 一般利用	101
2 講座・講習会など	101
3 その他	103

企画研修部

平成16年度の活動	105
1 はしめに	105
2 事業全体のとりまとめ	105
3. ホランティア活動と養成	107
4. 講座・講習会など	111
5. まとめ	111
平成16年度活動一覧表	112
1. 一般利用	112
2 ホランティアの活動	114
3 講座・講習会など	119
平成16年度「グループ活動」プログラム一覧表	121

こどもの城 事業年報

平成16年度

劇場事業本部

平成16年度の活動	123
1. はしめに	123
2. 主な自主・提携公演	123
平成16年度公演演目一覧表	131
1 青山劇場	131
2 青山円形劇場	132
3. その他	135

広報部

平成16年度の活動	137
1. はしめに	137
2. 情報の収集と提供	137
3 まとめ	138
平成16年度活動一覧表	139

こどもの城から 全国へ

こどもの城から全国へ

平成16年度の活動	143
1. はしめに	143
2. 動くこどもの城	144
3. 助成金による事業	144
4. まとめ	144
平成16年度活動一覧表	145
1. 講座・講習会など	145
2. 〈動くこどもの城〉	147
3. 助成金による事業	150

利用案内

●開館時間

平 日 午後0時30分～午後5時30分
土・日曜日・祝日 午前10時00分～午後5時30分
学校の季節休み中

●休館日

毎週月曜日

(月曜日が祝日や振替休日にあたる場合は翌日が休館日となります。)

また、学校の季節休み等には休館日が変則となることがあります。)

●入館料

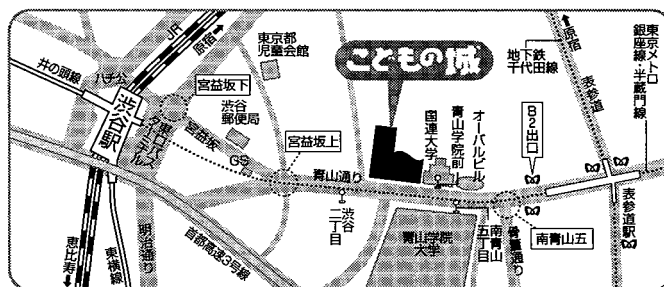
こども 400円(3歳以上18歳未満) おとな 500円
(20人以上の団体は、こども320円、おとな400円です。
事前にご連絡ください。)

●交通案内

- ・渋谷駅から 徒歩10分(東口/宮益坂側)
JR山手線・埼京線/東急東横線・田園都市線/
京王井の頭線/東京メトロ銀座線・半蔵門線
○渋谷駅(東口バスターミナル)から都営バスが
ご利用いただけます。
新橋駅北口行(渋88)「青山学院前」下車すぐ
- ・表参道駅から 徒歩8分(B2出口)
東京メトロ銀座線・千代田線・半蔵門線

●駐車場(地下)

有料・約80台収容・車高制限2m
日曜日・祝日は混み合いますので、なるべく電車・バスで
ご来館ください。



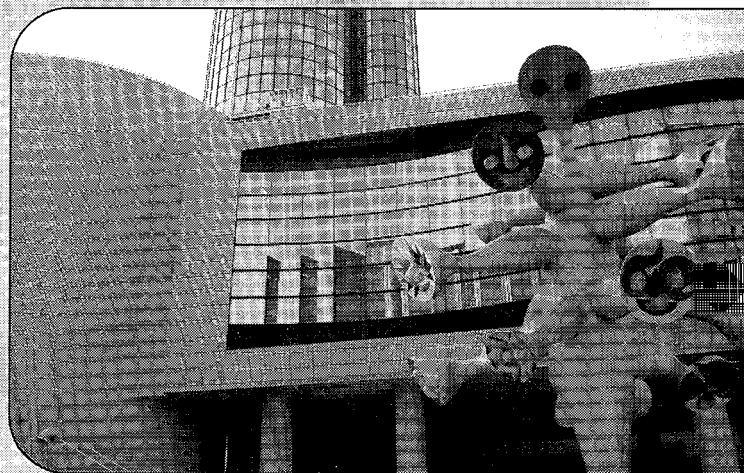
財団法人 児童育成協会



〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1
TEL 03-3797-5666(代表) FAX 03-3797-5676
<http://www.kodomo-no-shiro.or.jp/>

事業の概要

事業の概要



平成16年度の活動

1. はじめに

本年度は印象に残る大きな出来事のあった年だ。プロ野球の2リーグ廃止、1リーグ制への移行を提案した経営者サイドに日本全国でブーイングが起こり、選手会も始まって以来のストライキ。楽天やソフトバンク、ライブドアといった今流行のIT関連の会社名が新聞をにぎわした。夏の猛烈な暑さというのも大変で、40度近い気温が連日続き、合間合間に台風が日本に上陸し、多大な被害をもたらした。新潟の地震も衝撃的。静かな山間の小さな村が一瞬にして崩壊し、思い出だけを残して村民が避難している光景は、メディアを通して我々に大きく伝えられた。

その余震がまだ収まらないころに、日本から遥かに離れたスマトラ沖でも大地震、そして大津波が起こり、歴史上でも類を見ないほどの多数の人命が失われた。子どもを取り巻く環境も厳しさを増し、いくつかの残虐な事件も忘れることができない。それ以外にも、政治、経済、文化スポーツのそれぞれのフィールドの中で多くの出来事が通過ぎていった。

〔こどもの城〕としては押し寄せる「少子化」の波が気になる。国の施策も新エンゼルプラン、新新エンゼルプラン、あるいは少子化対策プラスワン、少子化社会対策大綱など、次から次へと出されるなか、1.29の衝撃的な数字は重くのしかかってくる。しかし、現実には少子化の波をしっかりと受け止めることは大切で、この大きなテーマを避けて通ることはできないと認識している。

乳幼児と母親、父親の育児参加、三世代交流、次世代育成、中高生の居場所、広場、サロンなど、この数年で実に多くのキーワードが登場し、中には〔こどもの城〕から発

信したものもある。これらを、どのように整理し、現実のものにしていくか、〔こどもの城〕の持っている機能を考えつつ、歩を進めていく必要がある。

もう一つ気になるのは、日本の教育界の動向である。「学力低下に対処」「ゆとり教育見直し示唆」「学校週休5日制に反対」——新聞などの見出しを見ても、学校週5日制のあり方などについて、幅広く議論されてきている。〔こどもの城〕では「ビッグサタデー」「サタデー・ラボラトリー」など高学年を対象とした土曜日対策に力を入れてきており、内容も豊富になってきている。それらの活動はそれぞれ定着してきているものの、拡大路線に対しては明らかに水を指された状態になっている。

ハッピーマンデーを含む3連休にかんしても、夏休みなどの特別期間とは一味違ったプログラムを提供している。特に課題となっている高学年の居場所作りとしての認識で取り組んでいるが、ここにも、また同様の影が落とされている。子どもたちにとってゆとりが必要であるとの発想からスタートした「ゆとり教育」、学校以外の体験をと願った学校教育偏重の時代からの脱却も、ふたたび方向転換に向かっているように感じられる。

この傾向は〔こどもの城〕で実施している講座やクラブの活動に影響が出ているようだ。子どもの成長に合わせて、継続的、定期的に子どもたちに接することが大切であるとのねらいで進めているが、教育的な色彩が強い講座・クラブでは、参加者が前年を上回るものもあった。親の視線はその部分にいつているようだ。

長い歴史を持つ全国の児童館も指定管理者制を採用する自治体が多くなり、すでに姿かたちが大きく変わってしまったものもある。併設施設としてリニューアルされたり、

放課後児童クラブとして再出発するところもある。今までに連携をとってきた大型の県立の児童センターもまたその渦に巻き込まれている。しかし、期待されている子どもたちの居場所として、全国に4,000以上ある児童館の存在は大変に貴重である。役割をどのように主張していくかはこれからの課題だが、同時に、指定管理者制移行のために入札に参加する民間企業は多彩で、確かなエネルギーを持ち合わせていることもまた事実かもしれない。

2. 一般事業活動

(ア) 来館児・者数

本年度の来館児・者数は下表のとおり。有料来館児・者数が236,750人、劇場入場者数が390,313人、講座・クラブおよび営業部門（研修・会議室および宿泊施設関係利用者）の利用者数を加えた総数は940,763人で、前年度比25,875人の増となった。

有料来館児・者については4月、11月が天候などの影響で土・日曜日の来館児・者が減少し、9,842人（大人・子ども5,343人、団体4,499人）の減となった。

しかし、児童福祉週間（ゴールデンウィーク）特別期間は総数で15,412人とこの5年間で2番目の多い来館児・者数となった。

団体の減少は、8月の劇場のチケットにより入館券として対応する公演が無くなったことなどの影響があった。

(イ) 一般来館児・者のための活動

【平常期間】

平日は0～3歳の子ども連れの母親の来館が多いため、気軽に参加できるプログラムの提供と、穏やかで居心地のよい雰囲気作りを心がけた。

土曜日にかんしては、ゆとり教育の見直しを取りざたされているように、新聞等の見出しは週5日制への風当たりを助長している面もあり、土曜日のプログラムの拡大路線に対しては水を指された感もある状況の中で、引き続き「ビッグサタデー」「サタデー・ラボラトリー」など高学年を対象とした土曜日対策に力を入れた。

ハッピーマンデーを含む3連休は特別期間とは一味違ったもので、一般来館児・者へのプログラム提供に活気を持たせてくれた。10月9～11日に体育室で開催した「サッカーフェスティバル2004」はJリーグFC東京との協力で実施し、午前中から多くの子どもたちが集まった。プレイ事業部と企画研修部の共同プログラム「忍者武勇伝」はボランティアの協力も得て実施した。台風の影響で実質2日となったが、700人の参加者を数えている。

なお、〔こどもの城〕の安全対策は重要な課題であり、特に不審者に対する対応マニュアルは、渋谷警察等に出向きアドバイスや資料を得て、現場の意見をふまえ、見直し、加筆を行った。

【特別期間】

春休み、児童福祉週間（ゴールデンウィーク）、夏休みの上半期の特別期間は、次のようなキャッチコピーをつけ、全館の催しが相互に関連性を持ち、来館児・者に統一的なイメージを与えるよう工夫した。

- ・ はじまる はじける 春がくる（春休み）
- ・ こどもの城 あそびめぐり（児童福祉週間）
- ・ 夏にはじける あそびのチャンピオン（夏休み）

児童福祉週間に例にとると、ＡＶ事業部の「キャスストレイン」の催しを軸に、列車に乗って〔こどもの城〕館内を旅してまわるといった設定にした。また、エレベータホールから廊下にかけて線路を描いたり、催しの案内を時刻表に見立てて作成するなど工夫を凝らした。こうした方法は来館児・者にも好意的に受け止められ、特に時刻表型の案内は、短時間で施設を楽しもうとする利用者に好評であった。

【外部団体・企業との共催事業】

〔こどもの城〕の活動趣旨に賛同する外部団体、企業の協力を得て積極的に新しい事業展開を行った。本年度は人形劇に新しい企業の協力が得られた。

「キンダー・フィルム・フェスティバル」は12回目を迎え新しい団体、企業の協力も加わった。「CX（フジテレビ）」は催しの広報をテレビ番組をとおして実施し、集客に寄与し、拡大したフェスティバルを支えてくれた。

小児保健部が実施している「マタニティ・コンサート」

【来館児・者数（対前年度比較）】		(人)		
	平成15年度実績 (A)	平成16年度実績 (B)	差し引き増減 (B-A)	
有 料 来 館 児 ・ 者 数	246,592	236,750	▲ 9,842	
3 歳 未 満 児 （推 計）	58,660	57,616	▲ 1,044	
招 待 者	47,105	44,390	▲ 2,715	
劇 場 入 場 者	353,491	390,313	36,822	
講 座 ・ ク ラ ブ 利 用 者	68,433	75,883	7,450	
営業部門（研修・会議室および宿泊施設関係利用者）	140,607	135,811	▲ 4,796	
計	914,888	940,763	25,875	

や「赤ちゃん大集合」には、子育てにかかわる多彩な企業から協賛をいただいた。

3月の「ニッサンゆかいな絵本と童話展」は恒例となっているが、このことがきっかけで（株）日産自動車が援助する学生の研修制度に協力することとなり、本年度も「こどもの城」において研修生の受け入れを行った。

（ウ）講座・講習会など

継続的、体系的に「こどもの城」を利用してもらうため、講座・クラブ活動を実施した。

講座は40種、73コースを開催し、受講者総数は1,497人、クラブは6種6コース、受講者数886人であった。このほか夏休み、春休みの特別期間に、体育・造形・音楽・AVなどの各部門で短期集中講習会（16種、2,166人）を行うと同時に、専門指導者向け講習会（13種、22コース、890人）を実施した。

来館児・者全体の減少傾向が見られるなか、講座・クラブにおける受講者の登録は高い水準を維持しているものが多い。特に体育事業部では登録者が一時900人近くに達した。学校教育への批判や、見直しが行われているが、「こどもの城」としてはこれからも、学校教育とは異なる視点での講座・クラブの運営が求められていると考える。

（エ）グループ活動

平日、「こどもの城」開館前の午前中を利用して、保育所、幼稚園および小学校などの団体を対象に、各事業部において特別プログラムを提供する「グループ活動」は、一般来館児・者の受け入れ、講座・クラブの実施と並び「こどもの城」の事業のなかで重要な位置を占めている。

本年度は138グループ、3,157人を受け入れた。ハンディキャップを持った子どものグループや日本語を解さないインターナショナルスクールの子ども、自主保育グループなどさまざまな団体からの申し入れがあるが、それぞれ細やかな対応をし、積極的に受け入れていることもあり、利用件数は安定している。

（オ）保育研究開発・小児保健（クリニック）

保育研究開発部においては、保育事業の3つの柱である「幼児グループ」「保育クラブ」および「親子教室」を継続して実施した。「子育て相談研修会（基礎編／応用編）」「こどもの城保育セミナー」の開催、ニュースレターの発行など、保育関係者のための研修プログラムなどについても積極的に実施した。

また、一般来館児・者を対象として特別期間に行った「親子工房」や、平常期間の土曜日に親子がゆったりと一緒に遊べる「よちよちクラブ」などにも積極的に取り組んだ。

小児保健部においては、小児保健クリニックでの診療、相談を実施したほか、体育事業部と連携して「健康スポーツ教室くたりすぎクラス」「マタニティスイミング」などを継続して実施した。

診療、相談件数については、医師の診療（保険適用）を中心に前年度に比較して、延べ件数で100件程度減少し、2,864件となっている。注意欠陥多動性障害（ADHD）を心配する相談は定着し、情緒・行動面の相談が再び増加傾向にある。

また、「小児保健セミナー」「子育て支援講習会」「小児肥満のための指導者講習会」や「赤ちゃんサロン」を実施した。特に音楽ロビーを使い、月2回実施している「赤ちゃんサロン」は若い母親たちの育児相談、交流の場として、年間2,456人（約136人／回）にもおよぶ参加者を集めた。開館記念特別期間のプログラムとして例年実施されているサロンの大型版「赤ちゃん大集合」には400組以上の親子が集まり、全館あげて楽しいイベントとなっている。

（カ）劇場事業

自主公演としては、青山劇場で4公演、青山円形劇場で7公演、提携公演として青山劇場で4公演、青山円形劇場で14公演を実施した。このうち、「こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ〜とびこむ絵本Ⅳ」は、平成17年度児童福祉文化賞の舞台芸術部門において、推薦作品に選ばれた。また、「高円宮憲仁親王殿下メモリアル ローザンヌ・ガラ」は日本芸術文化振興基金、「ダンスビエンナーレ TOKYO 2004」は東京都芸術文化発信事業、「日韓ダンスコンタクト」は文化庁国際芸術交流支援事業のそれぞれ助成対象作品に選ばれた。

劇場の貸与については青山劇場が22件、青山円形劇場が37件で、保守・点検等を除いた稼働状況はつぎのとおりであった。

	使用可能日数（日）	使用日数（日）	稼働率（％）
青山劇場	340	289	85.0
青山円形劇場	359	332	92.5
計	699	621	88.9

また、劇場公演の他に、若手舞台芸術家の育成を図るためのプログラム「APAS」（Aoyama Performing Arts Seminar＝エイパス）を18件、実施した。

（キ）利用者サービス事業

「こどもの城」を利用する人などの便宜をはかるため、宿泊施設、売店、各種自動販売機および駐車場の管理、運営を行った。

また、研修室については児童厚生員等を対象とした宿泊

研修や保育・小児保健関係のセミナーの開催場所として利用するほか、他の福祉関係団体が主催する研修会やセミナーの会場としても活用され、児童の健全育成や福祉向上のための事業に寄与した。

3. その他の活動

(ア) 広報

〔こどもの城〕の事業・活動内容をより理解、認識していただくとともに、利用者の増加をはかることを目的として、各種の広報活動を行った。

活動の主な柱としては――

- (1) 「こどもの城ニュース」の発行（年11回発行）
- (2) 各種広報資料（パンフレット、チラシなど）の作成・配布
- (3) 月刊誌「こども未来」を通じて〔こどもの城〕の活動内容の紹介
- (4) 新聞・テレビ・雑誌などを通じての広報
- (5) 広報企画の推進

――などであり、新聞、テレビなどの取材は、外国からのものを含めて年間184件にのぼった。

また、インターネットは総閲覧数が大幅に増加しており、その閲覧数は、「こどもの城ホームページ」が3,398,301件（前年度2,511,367件）、「青山劇場ホームページ」は4,804,587件（前年度3,929,463件）であった。

(イ) こどもの城友の会

〔こどもの城〕のサポーターともいえる「こどもの城友の会」の会員増加をめざして、夏休み特別期間にキャンペーンを実施した結果、7～9月の3か月は36件の増加となったが、本年末現在の会員数は1,227家族と前年度に比べ若干の減少となっている。

(ウ) 国際交流

夏休み特別期間に実施したギャラリーの催し物「フィーブさんのイラストレーション」はオランダの著名なイラストレーターの作品展とワークショップを組み合わせたもので、来館した多くの子どもたちに参加してもらい、またオープニングには駐日オランダ大使が来館するなど、今日のオランダ文化の紹介と交流の目的を果たした。

例年の京浜地区外国人学校の合同造形展「アートスケープ展」にギャラリーを提供したほか、夏休み短期講座のなかでアフリカやインドネシア、ベトナムの民族楽器を紹介し、演奏等をするなど、気軽に自然な国際交流をめざした。

また、グループ活動におけるインターナショナル・スクールの利用件数は40件と全体の約3割にあたり、日本の

児童文化の紹介と社会体験の貴重な機会となっている。

(エ) 実習生・研修生の受け入れ

大学などの要請に応じて、〔こどもの城〕の各事業部をフィールドとし、その活動内容を研修対象とする実習生、研修生を受け入れているが、本年度は実習生27人、研修生・研究生12人を受け入れた。

中・高校生生の職場体験としての依頼が学校から多く寄せられるようになっており、これからのニーズとして考えて行く必要がある。試験的に受け入れた本年度は、中学生1件19人、高校生2件39人の実績を残した。

(オ) 講師派遣

〔こどもの城〕で行う指導者向け講習会やセミナー、〈動くこどもの城〉の派遣事業以外にも、児童館を中心とした全国の児童健全育成の現場からの要請により、講師派遣という形で協会職員が各地に出向き、〔こどもの城〕のプログラム運営の実際と理念の普及に努めた。地域の子育て支援センターや放課後クラブなど子育て支援、次世代育成にかかわる派遣依頼も増加の傾向にある。本年度の派遣実績は133件であった。

(カ) 助成金による事業

独立行政法人福祉医療機構の「子育て支援基金」からの助成を受け、「妊娠中の女性と乳幼児をもつ母親のための子育て支援事業」「子育てネットワークによる小・中学生交流事業」を行った。

4. 国庫補助による事業活動

(ア) 啓発活動

児童の健全育成に関する冊子を配布し事業事例の紹介と理念の普及に努めた。

- (1) 購入部数 30,000部
- (2) 配布先 都道府県、市町村など

(イ) 児童館巡回支援活動等事業〈動くこどもの城〉

全国の児童厚生施設に対し、〔こどもの城〕で開発、蓄積した活動プログラムを巡回、提供し、地域における健全育成活動を支援するとともに、児童厚生員等に対する実技指導を行い、あわせて今後の活動の充実に向け、プログラムの準備、開発に努めた。

本年度〈動くこどもの城〉は新たに奈良県、岡山県で実施し、未実施県は沖縄県のみとなった。

プログラム	巡回支援活動	巡回実技指導
音楽関係	2か所	2か所
映像・パソコン関係	—	2 //
体育関係	1 //	1 //
乳幼児と親子への支援	10 //	10 //
絵本関係	3 //	3 //
折り紙作品の展示	13 //	—
昔遊び・グループ遊び	6 //	4 //
造形活動	2 //	2 //
計	37か所	24か所

(ウ) 中央児童厚生施設活動推進事業

〔こどもの城〕の事業に理解と協力が得られるボランティアの養成、児童の健全育成活動に参加するボランティアの拡充等をはかるための事業を実施した。

本年度末までのボランティア講習修了者数は、2,387人となっており、うち〔こどもの城〕のボランティアとして登録されている者は383人、本年度中における〔こどもの城〕の事業活動に参加した者は延べ6,500人にのぼっている。

5. 開館時間・入館料 (こども活動エリア)

(ア) 平常期間

〔こどもの城〕の「こども活動エリア」の開館時間は以下のとおりである。

平日	午後 0 時 30 分～午後 5 時 30 分
土・日曜日・祝日	午前 10 時 00 分～午後 5 時 30 分
月曜日	休館（祝日・振替休日にあたるときは開館。翌火曜日が休館）

(イ) 特別期間

児童福祉週間（ゴールデンウィーク）、学校の季節休み（夏休み、冬休み、春休み）と11月1日の〔こどもの城〕の開館記念日をはさむ1週間を特別期間とし、多数の来館児・者が楽しめるようなプログラム作りと施設利用の工夫をした。

■児童福祉週間（ゴールデンウィーク）特別期間■

4月29日～5月5日（毎日開館）

■夏休み特別期間■

7月17日～8月31日（毎日開館）

■こどもの城ファミリーウィーク（開館記念）特別期間■

10月30日～11月7日（11月1日は休館）

■冬休み特別期間■

12月23日～平成17年1月10日

（12月28日～1月2日は休館）

■春休み特別期間■

3月26日～4月5日（毎日開館）

(ウ) 入館料

【一般入館料】

一 般 こども（18歳未満）	400円
（保護者が同伴した3歳未満児は無料）	
大 人（18歳以上）	500円
回 数 券 こども（6枚つづり）	2,000円
大 人（6枚つづり）	2,500円
団 体（20人以上） こども	320円
大 人	400円

【優待パス】

平日ゆうゆうパス（1年間有効）大 人	3,000円
わくわくパス（夏休み期間限定）大 人	1,800円
ドキドキパス（夏休み期間限定）こども	1,500円
小・中学生土曜日パス（1年間有効）	
小・中学生	2,500円

【こどもの城】の概要

			オフィス	13F 12F 11F	
			パソコンルーム	10F	
			研修室	9F 8F	
			宿泊施設	7F 6F	
5F	屋上遊園 プレイポート		小児保健クリニック 保育室	5F	ふしぎが丘
4F	ビデオライブラリー		音楽ロビー A・Bスタジオ	4F	
3F	造形スタジオ 青山円形劇場		プレイホール コンピュータプレイルーム	3F	
2F	ギャラリー	屋外 通路	ファミリーラウンジ	2F	青山劇場
1F	アトリウム		エントランスホール レストラン	1F	
B1	プール観覧室		フリーホール	B1	
B2	体育室／プール／健康開発室			B2	
			駐車場	B3 B4	

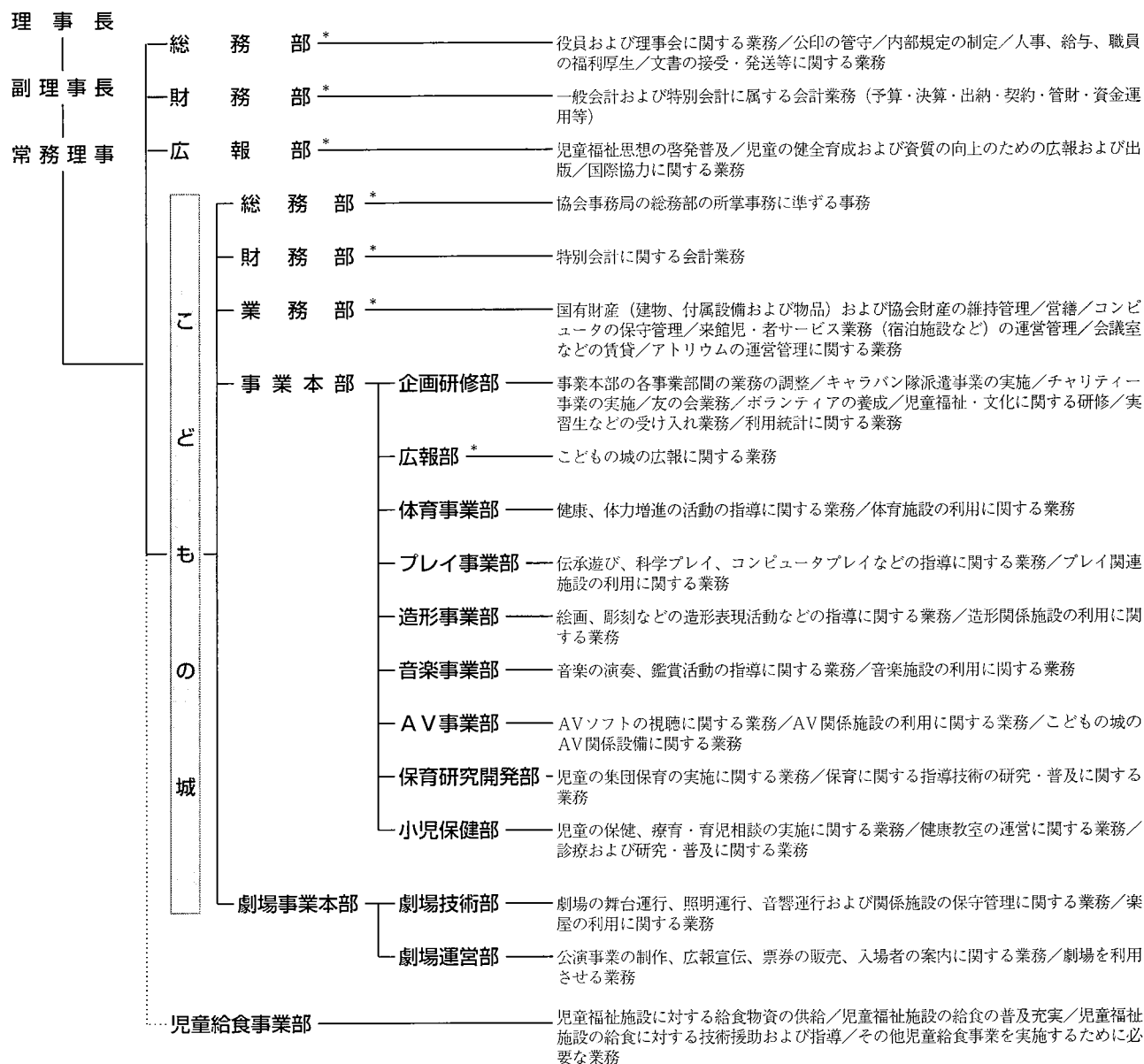
建 築 概 要

所在地	東京都渋谷区神宮前5-53-1	最高高さ	GL+57.6メートル
建築主	厚生労働省（当時：厚生省）	基礎下端	GL-28.5メートル
敷地面積	9,923平方メートル	主要構造	高層部 鉄骨造り
建築面積	6,001平方メートル		低層部 鉄骨鉄筋コンクリート造り
延床面積	41,699平方メートル		地 下 鉄筋コンクリート造り
建ぺい率	60.48%	着工	昭和56年11月
容積率	345.38%	完成	昭和60年9月（11月1日開館）
階数	地下4階・地上13階・塔屋1階		

※ 【こどもの城】は1979年（昭和54年）の国際児童年を記念して、厚生省（当時）が計画・建設した児童の健全育成のための総合施設。運営は、厚生労働省の委託を受けて（財）児童育成協会があたっている。

【こどもの城】組織機構図（平成17年3月31日現在）

【注】＊印は（財）児童育成協会本部と（こどもの城）の役職を兼ねる



職員数				職員数				職員数				職員数			
部	一般	嘱託	計	部	一般	嘱託	計	部	一般	嘱託	計	部	一般	嘱託	計
総務	3	0	3	事業本部	0	0	0	音楽事業	4	0	4	劇場技術	5	0	5
財務	5	0	5	企画研修	9	0	9	ＡＶ事業	5	0	5	劇場運営	7	0	7
広報	3	0	3	体育事業	7	1	8	保育研究開発	8	1	9	劇場事業本部	3	0	3
業務	18	0	18	プレイ事業	8	0	8	小児保健	5	0	5				
				造形事業	4	0	4					合 計	94	2	96

（財）児童育成協会役員（平成17年3月31日現在）

役 職	氏 名	役 職	氏 名
理事長	吉武 民樹	理事	品川 正治 双日（株）監査役
副理事長	小山 敬次郎 目白大学客員教授	理事	篠原 徹 日本商工会議所常務理事
常務理事	本橋 紘	理事	山口 規容子 総合母子保健センター愛育病院名誉院長
理事	今泉 昭雄 （社福）全国心身障害児福祉財団理事長		
理事	大野 出穂	監事	秋山 昭八 弁護士
理事	小澤 壯六	監事	藤間 秋男 公認会計士

【こどもの城】の付帯事業 (平成17年3月31日現在)						
業 種	店 名 等	場 所	利 用 客 席 数	営 業 日 ・ 営 業 時 間	備 考	
宿泊施設	こどもの城 ホテル	6・7階	客室数 27 客室定員 64	無休（12月28日～1月2日を除く）	洋室24室（シングル3、Aツイン10、Bツイン11） 和室3室（4人用1、5人用1、10人用1） ※1泊6,720円～	
貸し室	研 修 室	8・9階	研修室 10 ※一部通しで使用できる。利用人員350人ぐらゐまで	無休（12月29日～1月2日を除く） 営業時間＝9:00～21:00	研修および会議など ※1単位時間12,075円～	
	ギャラリー	1階アトリウム		無休（12月29日～1月2日を除く） 営業時間＝10:00～17:30	各種展示会など ※1日31,500円	
物品販売	売 店	1階アトリウム	1か所	営業日時＝「こども活動エリア」の開館日時と同じ 毎週月曜日休業（月曜日が祝・休日のときは火曜日） 土・日曜日、祝・休日、春・夏・冬休みの特別期間＝10:00～17:30 その他の平日＝12:30～17:30	がん具、文具、音楽用品、スポーツ用品、講座指定水着、催事関係用品、印刷出版物、衣料、雑貨、フィルムなど	
	自動販売機	館内各所	飲・食・乳販売 15か所 たばこ 6か所 フィルム 1か所 テレホンカード 2か所	無休	ドリンク類、牛乳類、スナック類、カップ麺類	
公衆電話		館内各所	15か所 19台	無休		
駐 車 場		屋内（地下2階～地下4階）、屋外（1階）	約126台 （業務車両分含む）	無休（12月29日～1月2日を除く） 営業時間＝8:00～22:00	普通車両は地下駐車場、バスなど大型車両は屋外（1階）に駐車 ※普通車両 30分 300円 マイクロ車 1時間 840円 大型車 1時間1,260円	
飲食関係	レストラン「アンファン」	1階	客席数 140	無休（12月29日～1月2日を除く） 営業時間＝7:30～19:00	ファミリーレストラン、すし、弁当仕出し、パーティー、宿泊施設利用者の食事など	
	劇場内「スナック」	青山劇場内地下および2階ロビー	立食	公演に合わせて営業 営業時間＝開演前・幕間	喫茶、軽食	

平成16年度活動一覧表

1. 来館児・者数

	一般来館児・者			劇 場			そ の 他	計
	有	料	総 数	青 山 劇 場	青山円形劇場	小 計		
4月	大人	(人) 7,444	(人) 27,232	(人) 34,246	(人) 7,628	(人) 41,874	(人) 11,968	(人) 81,074
	子ども	7,704						
	団体	250	推計					推計
	受講生など	11,834	(30,958)					(84,800)
5月	大人	13,940	36,035	35,643	8,677	44,320	11,214	91,569
	子ども	10,078						
	団体	723	推計					推計
	受講生など	11,294	(43,010)					(98,544)
6月	大人	7,006	23,375	30,774	5,890	36,664	13,066	73,105
	子ども	5,531						
	団体	1,269	推計					推計
	受講生など	9,569	(26,883)					(76,613)
7月	大人	11,531	33,849	39,178	7,595	49,773	11,420	92,042
	子ども	10,907						
	団体	2,682	推計					推計
	受講生など	8,729	(39,621)					(97,814)
8月	大人	22,829	60,600	27,116	11,402	38,518	9,245	108,363
	子ども	24,373						
	団体	1,476	推計					推計
	受講生など	11,922	(72,022)					(119,785)
9月	大人	7,835	24,242	7,025	10,335	17,360	10,700	52,302
	子ども	6,075						
	団体	854	推計					推計
	受講生など	9,478	(28,166)					(56,226)
10月	大人	8,155	26,052	19,649	6,933	26,582	11,841	64,475
	子ども	6,803						
	団体	992	推計					推計
	受講生など	10,102	(30,138)					(68,561)
11月	大人	6,510	21,668	13,604	4,563	18,167	10,585	50,420
	子ども	4,892						
	団体	1,299	推計					推計
	受講生など	8,967	(24,929)					(53,681)
12月	大人	5,102	16,276	37,526	8,952	46,478	10,417	73,171
	子ども	4,366						
	団体	350	推計					推計
	受講生など	6,458	(18,831)					(75,726)
平成17年 1月	大人	8,463	28,460	6,816	8,859	15,675	9,061	53,196
	子ども	7,545						
	団体	4,536	推計					推計
	受講生など	7,916	(32,695)					(57,431)
2月	大人	6,757	23,037	19,535	4,093	23,628	13,279	59,944
	子ども	5,103						
	団体	1,857	推計					推計
	受講生など	9,320	(26,420)					(63,327)
3月	大人	9,523	36,197	29,951	4,323	34,274	13,015	83,486
	子ども	9,615						
	団体	2,375	推計					推計
	受講生など	14,684	(40,966)					(88,255)
計	大人	115,095	357,023	301,063	89,250	390,313	135,811	883,147
	子ども	102,992						
	団体	18,663	推計					推計
	受講生など	120,273	(414,639)					(940,763)

注)「一般来館児・者」の“推計”は、3歳未満児の推定来館児数を含めたもの。

「受講生など」は、招待と講座・クラブ受講生を合算したもの。

「その他」は、宿泊施設・研修室等の利用者。

2. グループ活動実施状況

		保 育 所	幼 稚 園	小 学 校	中 ・ 高 校	養 護 学 校	ろ う あ 学 校	盲 学 校	小 学 校 特 殊 学 級	中 学 校 特 殊 学 級	幼 児 教 室 ・ 研 究 所	自 主 保 育 グ ル ー プ	計
件 数		39	47	19	1	17	1	3	8	0	1	2	138
月 別 内 訳	4 月		1										1
	5 月	1	3	2				1					7
	6 月	5	5	4		2		1	5				22
	7 月	1											1
	8 月												
	9 月	5	2			1							9
	10 月	4	1		1	8					1		14
	11 月	3	10	7		2						1	23
	12 月	3	1			1						1	6
	平成17年 1 月	3	6					1					10
	2 月	9	10	4		2	1		2				28
	3 月	5	8	2		1			1				17
地 域 内 別 訳	東京都	区	37	43	19		8	3	8			2	120
		市	2	1			5						8
	他 府 県		3		1	4	1				1		10
参 加 児 童 数 別 内 訳	10人未満		2		1	6		2	3				14
	10～19	22	20	11		8	1	1	5			1	69
	20～29	12	9	7		2					1	1	32
	30～39	3	4	1		1							9
	40～49		2										2
	50～59	1	4										5
	60～79	1	3										4
	80～99		1										1
	100～149		2										2
	150人以上												
参 加 児 童 数	延 べ 人 数	855	1,506	365	6	240	17	20	90		26	32	3,157
	1件当たり人数	21.9	32.0	19.2	6.0	14.1	17.0	6.7	11.3		26.0	16.0	22.9
引 率 者 数		147	196	41	1	201	8	19	42		7	1	663
付 添 者 数		15	42	3		11	14	7	5		26	18	141
活 動 部 門	体 育	6	14	4		2	1		1		1		29
	フ レ イ	23	17			6			1				47
	造 形	6	11	6					2				25
	音 楽	4	25	3		9		3	4			2	50
	A V	4	7	6	1	2							20
	フ レ イ 自 由	33	42	10		7	1	3	6		1	2	105
	A V 自 由	3	2			3							8

注)「活動部門」は、1つの団体が複数の部門を利用することがあるので、重複して計上してある。

3. 講座・講習会など

〈講座〉

部 門	プ ロ グ ラ ム 名	対 象	コ ー ス	総 定 員
体 育	親子水泳	幼児・親	1 年 2コース	60 (組)
	幼児水泳	幼児	// 5 //	270 (人)
	幼児体育	//	// 3 //	120
	小学生水泳	小学生	// 7 //	380
	小学生体育	小学生	// 2 //	60
	シニア・スイミング	小・中学生	// 2 //	60
	シニア・スイミング・フレッシュ	//	// 1 //	30
	ジュニア新体操	小学生の女子	// 1 //	35
	シニア新体操	小・中学生の女子	// 1 //	35
	手足の不自由な子の水泳	小・中学生	// 1 //	15
ブ レ イ	キッズクラブ	小学生	// 1 //	30
	ユースクラブ	小・中学生	// 1 //	40
造 形	こどもクリエイティブクラブ (クレイワーク)	//	// 1 //	20
	// (ゆかいな造形)	//	// 1 //	20
	// (親子でアート)	幼児・親	// 1 //	10 (組)
	// (絵本の世界へ)	小・中学生	// 1 //	20 (人)
	// (ハンズワーク)	小・中・高校生	// 1 //	20
	映・造ワークショップ	//	// 1 //	10
	大人のための造形表現教室	一般	// 1 //	30
音 楽	みんなで楽しいリトミック	幼児・親	// 3 //	60 (組)
	リズム・ムービング	幼児	// 2 //	20 (人)
	リズム・ムービング&パーカッション	小学生	// 1 //	15
	おんがく大好きミュージック・パーク	ダウン症幼児・親	// 1 //	10 (組)
	合唱講座	小学生	// 1 //	30 (人)
	児童合唱団	合唱講座修了者	// 2 //	90
	ガムラン講座	小・中・高校生	// 1 //	15
	三味線	//	// 2 //	24
	混声合唱	高校生以上	// 1 //	15
	和太鼓グループ	小・中・高校生	// 1 //	12
	パーカッション・アンサンブル	//	// 1 //	15
	レッツ・プレイ・サンバ初級	小学生	// 1 //	10
	レッツ・プレイ・サンバ	小・中・高校生	// 1 //	10
小児保健	健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉	小学生	// 1 //	20
計	33種		53コース	1,611

〈クラブ〉

部 門	プ ロ グ ラ ム 名	対 象	コ ー ス	総 定 員
体 育	ダイナミック・ヘルス・クラブ	一般	通 年 1コース	—
	レディース・コース	一般女性	// 1 //	150 (人)
小児保健	マタニティ・スイミング	妊婦	// 1 //	420
保 育	幼児グループ	幼児	1 年 1 //	24
	保育クラブ	//	// 1 //	400
企画研修	L. I. T. (高校生ボランティア)	高校生	// 1 //	30
計	6種		6コース	—

〈講習会（1か月以上のもの）〉

部 門	プ ロ グ ラ ム 名	対 象	コ ー ス	総 定 員
体 育	幼児・母親体育 I・II・III（1・2歳）	幼児・母親	3か月 3コース	60（組）
	幼児・母親体育 I・II・III（2・3歳）	//	// 3 //	90
	母と子のすくすくランド I・II・III	//	// 3 //	60
	ばちゃばちゃファミリースイム I・II・III	幼児・保護者	// 3 //	90
音 楽	おんがく星みつけた I・II・III	幼児・親	3か月 3 //	90
保 育	親子教室	幼児・親	// 3 //	48
企画研修	じょいんクラブ	小・中学生	5か月 2 //	20（人）
計	7種		20コース	458

〈短期講習会（1か月未満のもの）〉

部 門	プ ロ グ ラ ム 名	対 象	コ ー ス	総 定 員
体 育	夏休み子ども集中水泳講習会（A・C）	小・中学生	5日間 2コース	100（人）
	//（B・D）	幼児	// 2 //	80
	夏休み体操教室 ガンバ	小学生	// 1 //	30
	春休み子ども集中水泳講習 A	小・中学生	// 1 //	50
	// B	幼児	// 1 //	40
	成人水泳集中講習会	一般	7日間 12 //	240
ブ レ イ	夏休みパソコンマルチメディア探検隊	小学生	5日間 1 //	20
	春休みパソコン教室スペシャル	//	4日間 1 //	20
造 形	夏休み造形教室	小・中・高校生	1日 35 //	525
音 楽	夏休み手作り楽器のワークショップ	小・中・高校生（親子）	// 15 //	379
	感じる心を育てる講座	一般	// 1 //	80
A V	夏休み映像・科学ワークショップ	小・中・高校生	// 38 //	456
	映像技術セミナーシリーズ	一般	2日間 2 //	40
小児保健	夏休み子ども1日ドック	小・中学生	1日 10 //	10
	季節の離乳食	乳児・親	// 4 //	60
	親子のほっとタイム	//	3日間 3 //	30
劇 場	青山パフォーミング・アーツ・セミナー2004	小学生～一般	1～6日間 18 //	350
計	17種		147コース	2,510

〈専門指導者向け講習会等〉

部 門	プ ロ グ ラ ム 名	対 象	コ ー ス	総 定 員
A V	プロフェッショナルビデオ講習会	指導者・一般	3コース	90 (人)
保 育	保育セミナー	保育関係者	1 //	150
	保育関係者が行う子育て研修会（基礎編）	//	2 //	220
	保育関係者が行う子育て研修会（応用編）	//	1 //	50
小児保健	小児肥満のための指導者講習会	養護教諭・保健師など	1 //	50
	小児保健セミナー	保育士・保健師など	1 //	100
	最新の小児保健の基礎と実際	//	1 //	50
企画研修	おりがみにつよくなる講習会	児童厚生員など	2 //	100
	作って演じる人形劇	//	2 //	60
	こどもの城児童厚生員等実技指導講習会	//	3 //	150
	ボランティア講習会	18歳以上	2 //	60
	女性ボランティア講習会	一般女性	1 //	20
	ボランティア・グレードアップ講習会	ボランティア登録者	2 //	60
ブ レ イ	こどもの城児童厚生員等実技指導講習会（パソコン編）	児童厚生員など	2 //	40
計	16種		24コース	1,040

4. 視察・見学実績

年 度		都道府県・市区町村の 本庁その他の行政部 局、公共団体		児童館、保育所、幼稚 園、学校、施設、サー クル、これらの団体		海外からの視察・見学		そ の 他		計	
昭和60年度		(100)	1,122	(100)	1,578	(22)	169	(18)	410	(240)	3,279
61年度		(121)	714	(192)	4,085	(52)	359	(31)	513	(396)	5,671
62年度		(107)	439	(123)	2,437	(36)	347	(20)	477	(286)	3,700
63年度		(91)	598	(69)	770	(30)	211	(32)	296	(222)	1,875
平成元年度		(72)	541	(71)	931	(10)	86	(25)	195	(178)	1,753
2年度		(65)	605	(27)	292	(8)	156	(17)	212	(117)	1,265
3年度		(63)	417	(47)	705	(11)	77	(6)	274	(127)	1,473
4年度		(78)	585	(62)	1,038	(9)	122	(6)	35	(155)	1,780
5年度		(69)	698	(75)	1,182	(14)	119	(9)	41	(167)	2,040
6年度		(96)	782	(73)	1,251	(13)	144	(13)	116	(195)	2,293
7年度		(136)	956	(101)	1,542	(19)	273	(16)	94	(272)	2,865
8年度		(63)	402	(188)	1,691	(19)	139	(8)	48	(278)	2,280
9年度		(89)	723	(134)	1,335	(14)	229	(24)	43	(261)	2,330
10年度		(63)	474	(150)	1,470	(26)	204	(24)	145	(263)	2,293
11年度		(83)	863	(171)	975	(18)	177	(17)	68	(289)	2,083
12年度		(85)	616	(154)	596	(14)	128	(27)	37	(280)	1,377
13年度		(29)	254	(216)	1,029	(15)	109	(26)	68	(286)	1,460
14年度		(13)	40	(189)	1,212	(16)	211	(8)	38	(226)	1,501
15年度		(8)	14	(152)	1,212	(19)	149	(8)	14	(187)	1,142
平成16年度	4月	(1)	30	(7)	32	(1)	18	(0)	0	(9)	96
	5月	(2)	8	(13)	40	(2)	51	(1)	1	(18)	100
	6月	(1)	3	(15)	98	(2)	14	(0)	0	(18)	115
	7月	(0)	0	(14)	138	(1)	4	(2)	2	(17)	144
	8月	(0)	0	(14)	72	(2)	15	(0)	0	(16)	87
	9月	(0)	0	(13)	54	(2)	8	(0)	0	(15)	62
	10月	(0)	0	(13)	94	(2)	8	(0)	0	(15)	102
	11月	(1)	12	(25)	304	(1)	10	(1)	5	(28)	331
	12月	(0)	0	(7)	38	(0)	0	(1)	1	(8)	39
	H17 1月	(0)	0	(11)	49	(1)	7	(1)	4	(13)	60
	2月	(0)	0	(15)	87	(0)	0	(0)	0	(15)	87
	3月	(0)	0	(9)	60	(0)	0	(0)	0	(9)	60
	合 計	(5)	53	(156)	1,082	(14)	135	(6)	13	(181)	1,283
累 計		(1,436)	10,896	(2,450)	26,166	(379)	3,544	(341)	3,137	(4,606)	43,743

注) () 内は、団体数。

「海外からの視察・見学」は、韓国、中国、台湾、アメリカなど。

「その他」は、中央官庁、中央団体、会社など。

1年の歩み

月 日	事 項
4.1~17	青山円形劇場プロデュース「LYNX・リンクス」
4.29~5.5	児童福祉週間(ゴールデンウィーク) 特別期間「こどもの城 あそびめぐり」=モンスターグランプリ2004/伝承あそびとスポーツ2004~伝承あそびで体力づくり~/~パソコンであそぼう~CG☆魔法のテクニック/こども歳時記「端午の節句」/走れ! キャッスルトレイン ゴールデンウィークスペシャル/家族みんなで歌っちゃおう! ロード・オブ・ザ・シンク!/つくって遊ぼう 親子工房——ほか
5.3~5	こどもフェスティバル(青山円形劇場) =どん・ばら・りん劇場(3日)/あとの時間はアンデルセン(4日)/おながくがスキ!(5日)
5.7~9	オブジェクトシアターVol.8「KOUSKY II ~沢則行 Meets 中西俊博~」(青山円形劇場) ※5月15・16日に「NORISAWA メソッド」のワークショップを開催。
5.19・20	平成16年度第1回こどもの城児童厚生員等実技指導講習会 「ちょっと一工夫! 身近な素材で人形劇~伝授します!! 作ってあそんで演じるポイント」(研修室ほか)
5.29	子育て相談研修会「基礎編」第1回(第2回は10月23日に開催。研修室)
6.4	第4回子育て支援講習会「最近の小児保健の基礎と実際~心とからだの健康~」(研修室)
6.9・10	こどもの城児童厚生員等実技指導講習会パソコン編第1回「児童館でのパソコン遊び(1)」(パソコンルーム)
6.19	子育て相談研修会「応用編」第1回(第2回は9月11日、第3回は平成17年1月15日に開催。研修室)
6.22~7.7	こども歳時記「七夕」(造形スタジオ) ※プレイホールでは「天までとどけねがいごと」(7月3~7日)
6.27	APAS「青少年向けダンスワークショップ」(講師=アレッシオ・シルベストリン)
7.4	こどもの城マタニティコンサート「浜まゆみ マリンパのときめき」(青山円形劇場)
7.17~8.31	夏休み特別期間「夏にはじけろ! 遊びのチャンピオン」=伝承あそびとオリンピックゲーム/素材との出会い展「布と造形」/音楽あそびの祭典! ビコビコオリンピック!/ホットサマーカーニバル! Sun Sun サンバカーニバル/つくって遊ぼう親子工房~CDまんげきょう/パソコン工房 ひみつの宝はこ/サタラボまつり「夏の陣」/ジャブジャブばちャトピア/フィープさんのイラストレーション——など
7.17~8.31	第21回渋谷スタンプラリー(NHKスタジオパーク、たばこ塩の博物館、電力館、東京都児童会館、UNギャラリー、こどもの城)
7.23~25	月猫えほん音楽会2004(青山円形劇場)
7.31・8.1	第18回こどもの城保育セミナー「子どもと生活・家庭と文化PART V~子育て家庭のよきパートナーになるためにII」(研修室)
8.10・11	高円宮憲仁親王殿下メモリアル ローザンヌ国際パレエコンクール日本開催15周年ローザンヌ・ガラ~ローザンヌ国際パレエコンクール受賞者による~(青山劇場)
8.13~18	APAS「NYMTミュージカルワークショップ」(講師=マーク・パデントン/演出/トニー・カストロ:音楽)
8.13~22	第12回キンダー・フィルム・フェスティバル(青山円形劇場ほか)
8.16~18	第10回人形劇カーニバル「人形劇だ・い・す・き」(研修室)
8.17・18	デーモン小暮の邦楽維新Collaboration 青山夏場所 怪談「悪作・牡丹灯籠」(青山劇場)
8.22	つくって演じる人形劇「表情人形の制作」(9月12日に2回目=操演方法。研修室)
8.29	夏だ!! サマーキッズフェスティバル(「L. I. T.」「キッズクラブ」「ユースクラブ」合同プログラム。体育室)
9.30	(財)児童育成協会理事長の高峯一世が退任。10月1日に吉武民樹が理事長に就任。
10.9~11	サッカーフェスティバル2004(9・10日=FC東京のサッカークリニック。体育室)
10.20~22	平成16年度第2回こどもの城児童厚生員等実技指導講習会 「児童館リフォーム作戦~みんなが来なくなる児童館づくり~環境・人・広報~」(研修室ほか)
10.23~11.14	全国児童館おりがみ作品展「季節」・第11回おりがみカーニバル(ギャラリー)
10.24	おりがみにつよくなる講習会「折って遊べるおりがみ~折り紙で子どもたちと遊ぼう~」 (11月7日に2回目=四季のおりがみ~クリスマス etc.)
10.30~11.7	開館記念特別期間ファミリーウィーク=動いてあそぼう~たのしい運動あそび大集合~/第11回親子体験ワークショップ/ぐると日本あそび島~秋のチャレンジゲーム大会~/似顔絵ペインター/わいわいスタジオスペシャル/つくって遊ぼう親子工房「かがみのくにへようこそ」——ほか
11.5	赤ちゃん大集合(研修室ほか)
11.15~28	ダンス ビエンナーレ TOKYO 2004 10,000年の旅路(青山劇場・青山円形劇場)
11.17・18	こどもの城児童厚生員等実技指導講習会パソコン編第2回「児童館でのパソコン遊び(2)」(パソコンルーム)
11.20・21・23	ボランティアが合同で「あそびのおもちゃ箱」(フリーホール)

月 日	事 項
11.20	「全国児童館おりがみ作品展」巡回展はじまる（石川県中央児童会館＝12月11日まで。全国15会場で実施）
11.21・23	APAS「こどもコンテンツラリーダンス」（講師＝濱谷由美子：21日、水と油：23日）
12.3～26	青山円形劇場プロデュース「ア・ラ・カルト～役者と音楽家がいるレストラン」（青山円形劇場）
12.4	こどもの城小児保健セミナー「情報社会のなかで心を育てる」（研修室）
12.23～平成17年1.10	冬休み特別期間「はじける元気 とびだすあそび」＝伝承遊びとスポーツ2004～5 伝承あそび大全集／こどもの城映画劇場～カナダのアニメーション特集～／こども歳時記「お正月」／新春あそびのお年玉～運とこっぴたい運だめし～／新春絢爛おんがく祭～ライブタッチイナ！／新春もちつき大会／つくろう！飛ぶおもちゃ／サタボまつり冬の陣とお正月版ソーモトロープをつくろう——ほか
平成17年1.3～9	第17回こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ「とびこ絵本Ⅳ クルクルおよいだ雲のなか」（青山円形劇場）
1.11～15	デーモン小暮の邦楽維新 Collaboration 青山本場所（青山円形劇場）
1.16	追悼・東音田島佳子 三味線のつとめ（青山円形劇場） ※平成16年9月8日に亡くなられた、東音田島佳子さん（音楽講座「三味線」講師）を追悼する集い。
1.16～2.2	こども歳時記「節分」（造形スタジオ） ※プレイホールでは「節分会～大豆まき大会」（1月29・30日）
1.26～28	平成16年度第3回こどもの城児童厚生員等実技指導講習会「つくってあそぶおもちゃの魅力～手づくりおもちゃの可能性を考える～」(研修室)
1.29	子育てネットワーク全国フォーラム「思春期までを視野に入れた子育てネットワーク活動」（研修室）
2.1～13	保育活動展（ギャラリー）
2.4～3.3	こども歳時記「桃の節句」（造形スタジオ） ※プレイホールでは「みんなでひなまつり」（2月26・27日）
2.16～20	日韓ダンスコンタクトVol.2（青山円形劇場）
2.25～3.6	アートスケープ展（ギャラリー）
3.9～11	女性ボランティアが企画・運営した「にこにこひろっぱ～遊びのおしくらまんじゅう」（フリーホール）
3.11・12	小児肥満のための指導者講習会（研修室ほか）
3.18～20	はくらのサウンド2005（青山円形劇場）
3.19・20	サタデー・ラボラトリーまつり！（音楽ロビー）
3.19～21	ボランティアが企画した「S-1 フェスティバル2005 ワクワクいっぱい！あそびの博覧会」（フリーホール）
3.20	ユースクラブのメンバーが企画・運営する遊びのプログラム「ユースミステリーホテル」（プレイホール）
3.21	2千万人目の来館児・者を迎える。千葉県船橋市から家族3人で遊びにきた、伊場優希ちゃん（5歳）に記念品を贈呈
〃	新体操発表会～Passion～（体育室）
3.26～4.5	春休み特別期間「あそびノビノビ おひさまボカボカ春休み」＝開幕戦～キャッスルスポートゲーム／もじもじタウン／花よりだんす！ダンスはすんだ？！／やってみよう！つくってみよう！～布であそぼう！～／パソコン ポケット手帳——ほか
3.26～4.5	第13回ニッサンゆかいな絵本と童話展～たびたび旅へ～（ギャラリー）

各部の活動

体育事業部



平成16年度の活動

1. はじめに

活動は、講座・クラブの運営と一般来館児・者向けの活動に大きく分けられる。平日は講座・クラブが中心であるが、土・日曜日、祝日は一般来館児・者向けに体育室でスポーツ遊びのプログラムを実施したり、プールの開放を行っている。

活動の主旨は、[こどもの城]に遊びに来る子どもたちに体を動かす遊びやスポーツを提供して、動いて遊ぶ楽しさを発見、体験してもらうこと。その結果、運動が好きになり、体力が向上してくれればと願っている。

25m×5コースの温水プール、バスケットボールコート約1面分の広さの体育室を中心に活動を行っている。

(ア) 一般利用

体を動かすことは健康につながる。誰もが口にする言葉である。大人はいろいろな情報を耳にし、頭では理解できている。しかし子どもはどうであろうか。

運動不足を医者に指摘されて健康のために、しかたなく動く大人とは違い、子どもは健康のためにではなくおもしろさや楽しさの追求（おもしろいだろう、楽しいだろうという期待）で体を使って遊ぶ。だから、遊びは楽しいものでなければならない。また、みんなと遊ぶようになるとルールが発生する。運動がからむ遊びはルールが無いと逆につまらないものになってしまうからだ。

体を動かすことの楽しさ、おもしろさを体験するとともに、ルールの大切さを子どもたちに伝えるために、土・日曜日、祝日に体育室でスポーツ遊びを楽しむプログラムを行ってきた。学校体育では体験できないユニークな練習、

幼児も楽しめるようにアレンジした試合を行ってきた。

(イ) 講座・講習会など

親子、幼児、小・中学生から成人までの幅広い年齢層を対象に水泳と体操の講座を開講している。ほとんどの講座は週1回だが、「ジュニア新体操」「シニア新体操」は週2回、「シニアスイミング」「同フレッシュ」は週3回ある講座枠のうちから自由に選択できるようにしている。ただ、シニアの講座に入るには泳力審査が必要である。

成人向けの講座として「レディース・スイミング/レディース・リズム&ストレッチ」があり、平日の午前中に開講している。水泳初心者でも、まずは25m泳ぐことができるように指導を行っている。

年度後半には、「ジュニア新体操」「シニア新体操」の1年間の活動の成果を発表する「新体操発表会」を開催。年度テーマに基づく演技を発表したほか、「幼児体育」「小学生体育」の参観日を設け、活動の成果を保護者に見てもらっている。また、水泳講座受講生のために「水泳記録会」を設け、自己記録更新に向けての“はげみ”の場になっている。

2. スポーツ遊びプログラム

(ア) 伝承あそびとスポーツ2004

特別期間（児童福祉週間＝ゴールデンウィーク、夏休み、冬休み、春休み）の体育室の活動は、年間でテーマを決めてプログラム作りをしている。本年度のテーマは「伝承あそびとスポーツ2004」。

鬼ごっこ、ゴム・なわ遊び、くつ飛ばしなど、昔、空き地や路上で遊んだ遊びは、今や記憶の片隅に追いやられて



伝承あそびとスポーツ2004 第1弾「伝承あそびで体力づくり」

いるように感じられてならない。子どもたちの親もこれらの遊びの経験が無い年齢に入ってきているといっても過言ではあるまい。伝承いわゆる“伝え”“継承する”ことを念頭におき、昔から伝わるさまざまな遊びを体育室に来る子どもたちに提供し、伝承遊びのおもしろさを学校や地域でも広めてほしいと願ってテーマに取り上げた。

また、遊びの中にはスポーツに必要な駆け引きやスキルが多く含まれている。本年度はオリンピックイヤーということもあり、伝承遊びとスポーツを対比するプログラムも行った。

児童福祉週間（ゴールデンウィーク）特別期間は「伝承あそびで体力づくり」。伝承遊びの中でも運動量が多い遊びを選んで行った。夏休み特別期間は「伝承あそびとオリンピックゲーム」というタイトルにして、1日2回行うプログラムのうち、1回目は伝承遊び、2回目はオリンピック種目にあるスポーツを取り上げた。

冬休み特別期間は「伝承あそび大全集」のタイトルで、児童福祉週間（ゴールデンウィーク）特別期間から行ってきた伝承遊びのプログラムの集大成とし、さまざまな遊びを子どもたちと楽しんだ。

春休み特別期間は17年度の年間テーマ「キャッスルスポーツゲームズ」の「開幕戦」を行った。オリンピックに採用されていないスポーツや、あまりなじみの無いニュースポーツの大会「ワールドスポーツゲームズ」にヒントを得たプログラム。オリンピックと同じく4年に1回開催される。平成13年（01年）に秋田で開催。平成17年（05年）はドイツで行われる。

（イ）ビッグサタデー

学校週5日制にともない平常期間の土曜日の午前中、小学生4年以上を対象に行う「ビッグサタデー」は、3年目を迎えて内容も球技だけではなく、体操系もとりいれ充実してきた。



「ビッグサタデー～体操」

2か月ごとに取り上げる種目を変えるのは前年度と同じ。参加する子どもたちに、それぞれのスポーツの体の使い方を指導したり、ルールを掘り下げて戦法や戦術などをふまえた練習や試合を行った。高学年だからこそできる練習や試合を行い、クラブ活動的な雰囲気作りに努めた。

前年度と同様に、参加者には住所を書いてもらい、種目が変わるごとにダイレクトメールを送り、参加の呼びかけ、定着を促した。

3. まとめ

体育事業部の活動は、動いて遊ぶ、スポーツをするといった体を使うことが主である。運動嫌いだった子どもが〔こどもの城〕に来て、体育室のプログラムに参加したら今まで持っていた運動に対する苦手意識が薄れ、「体を動かすことは楽しいこと」に変わってくれば、スタッフにとってこんなにうれしいことはない。

「伝承あそびとスポーツ2004」を行って感じたことは、昔の子どもは伝承遊びや身近な遊びを日常的に行い、スポーツや運動のプロローグが生活の中でできていたのではなかったか、ということである。あたりまえにやってきた遊びをとおして動くことを体で覚えていて、次のステップ（運動やスポーツ）に移行してもさほど違和感がなかったのではないかということである。

全ての子どもがそうだとは言わない。運動が苦手な子どもは昔もいた。しかし今と違うところは、実際に運動してみたら、「ぼくには不向きだ」と見切りがつけられるかどうかということである。現代の子どもは頭が先行していて、運動する前から「できない」と口ばししてしまうことが多い。とても残念でならない。

体育事業部の活動が少しでも運動苦手意識を持つ子どもたちの可能性が引き出せるプロローグとして役に立てばと願いたい。

平成16年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
プール一般利用	土曜日 13:30～16:00 日曜日・祝日 10:30～17:00	土・日曜日、祝日にそれぞれの時間帯で一般利用。18歳以上300円、小1～17歳200円、幼児100円。レンタル（タオル・水着）各200円。幼児は保護者が1対1でついて利用。（プール）
体育室一般利用 レクリエーションゲーム ドッジボール 卓球 ウォールサッカー ユニホック	各月 第1日曜日と前日の土曜日 第2日曜日と前日の土曜日 第3日曜日と前日の土曜日 第4日曜日と前日の土曜日 第5日曜日と前日の土曜日	週ごとに内容を替えて行っている。卓球の週は終日卓球の自由利用（混み合う場合は各グループ20分交代で利用）。他の種目は、日曜日は14:00と16:00の2回、土曜日は14:00に練習とゲームを行い、それ以外の時間帯はフライングディスクの的当てとフリースローイングを行っている。利用時間は土曜日が13:30～16:00、日曜日が10:00～17:00。土・日曜日と重ならない祝日は、鬼ごっこを行った。（体育室）
体力測定	土・日曜日、祝日	7種目9項目の体力測定を行っている。4歳児くらいから大人までが利用でき、男女別に全国平均値と比べることができる。利用料は1人100円。土曜日＝14:00、15:00、日曜日＝11:00、13:00、14:00、15:00、16:00。（健康開発室）
グループ活動	火・木曜日 10:00～12:00	保育所などの団体向けのプログラム。6種類のプログラムがあり、体を動かす楽しさや、あまり経験できない種目を紹介・体験できるようにしている。利用団体のニーズに合わせて、いくつかのプログラムの中からピックアップしてプログラムを構成。本年度はレクリエーションの希望が多かった。最近は幼児の団体の利用も多く、お別れ遠足のひとつとして利用されているようだ。（体育室）
ビッグサタデー	土曜日 10:30～11:45	学校週5日制に対応して、平成14年度から始めた小学校4年生以上を対象としたプログラム。サッカー、バレーボール、バスケットボール、フライングディスク、体操などの種目を2か月交代で取り上げ、技術や戦法、ルールなどを指導。ゲーム（試合）の楽しさ、おもしろさを体験できるようにした。（体育室）
ファミリーアドベンチャー	5.16 8.8 11.7 H17.3.4～6	身の回りにあるいろいろな“冒険”を家族で楽しむ野外プログラム。参加家族がふれあいながら、不思議の発見、新鮮な出会いなど、ちょっとした“冒険”にチャレンジ。参加費＝1,000～2,500円（1人）。 □5月16日＝バークアドベンチャー～ニュースポーツに挑戦（辰巳の森海浜公園＝東京都） □8月8日＝ウォーターアドベンチャー～思いっきり川遊び（伊奈キャンプ場＝東京都） □11月7日＝紅葉狩りアドベンチャー～クイズハイキングに挑戦（権現山、弘法山＝神奈川県） □平成17年3月4～6日＝スノーアドベンチャー～雪男、雪女になろう （シャトー塩沢スキー場＝長野県）
サッカーフェスティバル2004	10.9～11	9・10日は、JリーグのFC東京のスタッフがサッカークリニックを開催。プロのコーチがさまざまなテクニックを指導した。11日は、〔こどもの城〕独自ルールのウォールサッカー大会を開催した。（体育室）
第17回水泳記録会	12.5 10:00～11:30（泳游祭） 13:00～16:00（記録会）	「泳游祭」は、レディーススイミング受講者およびDHC会員が対象。参加費2,000円。アテネオリンピック個人メドレー入賞の森隆弘選手によるレクチャーおよびデモンストレーションを行った。記録会は、水泳講座受講者がエントリー（一人2種目＝1,000円）を行い、年齢別、男女別で記録に挑戦。幼児2種目、小・中学生11種目。幼児18人、小学生以上160人参加。クラス別対抗リレーも行った。（プール）
親子DEばちばち	12.11	「親子水泳」「ばちばちファミリースイム」が人気を集めている。受講希望者が多く、キャンセル待ちをしている人も多い。ウエイティングしている家族を対象に、一日体験コースを行った。1・2歳親子50組が参加。（プール）
第17回新体操発表会	H17.3.21 10:30～12:30	「ジュニア新体操」「シニア新体操」受講者による発表会。1年間の成果を発揮し、家族の前で演技を発表した。本年度のテーマは「Passion」。43人参加。（体育室）

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 伝承あそびとスポーツ 2004 第2弾「伝承 あそびで体力づくり」	4.29、5.1～5 14:00～15:00 16:00～17:00	伝承遊びもいろいろなパターンがある。歌を歌いながら遊ぶものや体を動かして遊ぶものなど さまざまである。第2弾として体を動かして遊ぶものを選んだ。走ることや力を使わなければ 楽しめない伝承遊びを年齢に応じて体験。「伝承あそびとスポーツ2004」第1弾は、平成16年 3月26日～4月5日に実施。 (体育室)
〈 〃 〉 伝承あそびで体力測定	4.29、5.1～5 11:00～17:00	ゴムだん、くつ飛ばし、お手玉などの伝統遊びを体力測定種目にアレンジして行った。 (健康開発室)
〈夏休み〉 伝承あそびとスポーツ 2004 第3弾「伝承 あそびとオリンピック ゲーム」	7.17～8.31 14:00～15:00 16:00～17:00	伝承遊びの中には、スポーツに通じる所が随所にみられる。以前に「鬼ごっこはスポーツの原 点だ」をテーマにして1年間行ったことがあるが、鬼ごっこほどスポーツの要素が多く含まれ ている遊びはないだろう。伝承遊びとスポーツとの類似点を見つけ、伝承遊びからスポーツへ 移行するプログラムを行った。アテネオリンピックの年でもあり、オリンピック種目のスポー ツに限定したプログラムもあわせて行った。トランポリン、テコンドーは外部講師に依頼した。 □伝承遊び＝鬼ごっこ(色鬼、だるまさんがころんだ、氷鬼、子とろ鬼、キズ鬼など)、くつ飛 ばし、なわ遊び、じゃんけん(じゃんけん列車、ドンじゃんけん、じゃんけんチャンピオンな ど)、相撲、陣取り、ゴムとび、けまり □スポーツ＝サッカー、バスケットボール、ハンドボール、バレーボール、野球、ホッケー、 トランポリン、テコンドー (体育室)
〈 〃 〉 ちびっこプール	7.17～8.31 10:30～16:00	屋上に仮設プール(13.6×5m、水深60cm)を設置、一般利用。利用料200円、レンタル(タ オル・水着)各200円。 (プール)
〈開館記念〉 動いてあそぼう～たの しい運動あそび大全集	10.30・31、11.3、6・7	小学生以上を対象にしたプログラム。伝承遊びや身近な道具を使った遊びなど動いて楽しむ 運動遊び。 (体育室)
〈 〃 〉 動いてあそぼう～親子 ふれあいエクササイズ	10.31、11.3、7	3～6歳の親子を対象としたプログラム。親子のふれあい体操の数々を取り上げた。(体育室)
〈冬休み〉 伝承あそびとスポーツ 2004～2005 第4弾 「伝承あそび大全集」	12.23～H17.1.10 14:00～15:00 16:00～17:00	年間をととして行ってきた伝承遊びの総まとめ。今まで行った遊びの中で人気があったものを 抜粋して行った。 (体育室)
〈春休み〉 キャッスルスポーツゲ ームズ 第1弾「開幕 戦」	3.26～4.5 14:00～15:00 16:00～17:00	17年度のテーマはキャッスルスポーツゲームズ。もう一度スポーツに着目し、子どもたちに スポーツのおもしろさを体験してもらおうと、身近なスポーツから耳なれないスポーツまで分 かりやすくアレンジして行った。第1弾は「開幕戦」。まずは身近なスポーツから、サッカー、 バスケットボール、ハンドボール、など球技を中心に取り上げた。 (体育室)
体力測定	特別期間中 (児童福祉週間特別期間を除く)	健康開発室で7種目9項目の体力測定。男女別に全国平均値と比べることができる。利用料1人 100円。 (健康開発室)
プール 一般利用	〃	10:30～12:00、13:30～17:00に一般利用(プログラムにより変更あり)。有料。(プール)



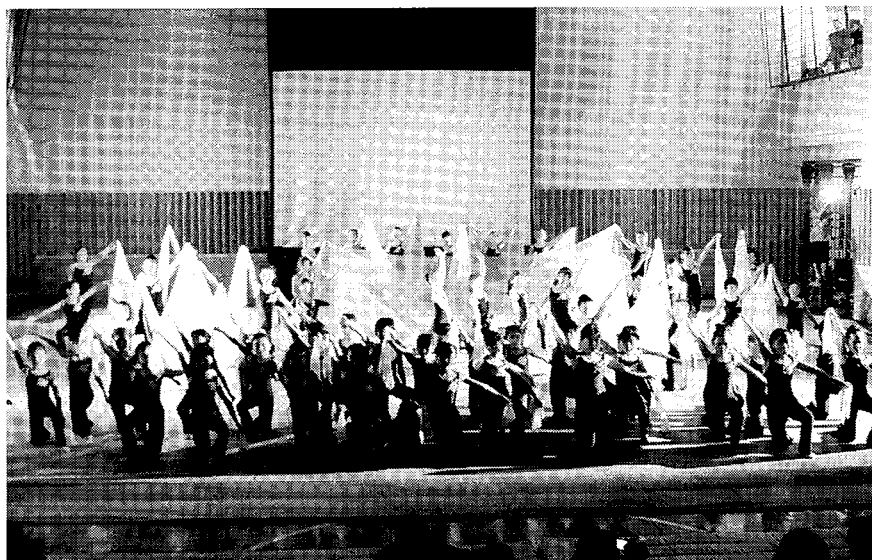
サッカーフェスティバル2004
「FC東京のサッカークリニック」

2. 講座・講習会など

〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
親子水泳 A	(組) 1・2歳児 と親 (30)	(組) ① 32 ② 35 ③ 27	水曜日 10:00～11:00	親と子を対象とした水泳コース。土曜日のコースは父親の参加が多い。父親が参加することで、よりダイナミックな動きができる。 受講料＝1・2期各27,000円、3期17,000円。
// B		① 35 ② 34 ③ 35	土曜日 10:00～11:00	
幼児水泳 A	(人) 3・4歳児 (50)	(人) ① 13 ② 20 ③ 24	木曜日 14:00～15:00	単に泳法の修得だけでなく、陸上と同じように水中でも楽しく活動できるように指導。プールでの活動をとおして、水に慣れることやバランスよく水に浮く感覚など、水泳に必要な運動の基礎を身につける。クラスの人数も少ないので、ゆったりとした雰囲気で行われている。6段階にレベル分けをして、次のステップへの目標としている。
// B	4・5歳児 (60)	① 42 ② 53 ③ 50	木曜日 15:00～16:00	
// C	//	① 26 ② 24 ③ 31	金曜日 14:30～15:30	
// D	3～5歳児 (50)	① 42 ② 48 ③ 49	火曜日 14:30～15:30	水慣れから泳ぎへと個人差に応じた班分けを行っている。クロールなどの練習のみならず、幼児期に必要な水中感覚を得られるように指導を行っている。6段階にレベル分けをして、次のステップへの目標としている。 受講料＝1・2期各21,000円、3期14,000円。
// E	//	① 36 ② 33 ③ 42	水曜日 13:30～14:30	
幼児体育 A	3・4歳児 (40)	① 13 ② 20 ③ 32	水曜日 14:30～15:30	たくさんの友だちと一緒に思いきり体を動かし、運動遊び、リズム遊びなど楽しく動きながら健康な体や運動の基礎を作る。
// B	4・5歳児 (40)	① 18 ② 21 ③ 20	火曜日 15:00～16:00	
// C	//	① 20 ② 14 ③ 8	木曜日 15:00～16:00	「幼児体育A・B」を土台にして、それを発展させながらさまざまな運動を体験し体の使い方を学んでいく。 受講料＝1・2期各19,000円、3期13,000円。

「ばちばちファミリースイム」「親子水泳」の
一日体験コース「親子DEばちばち」



第17回「新体操発表会～Passion」

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
小学生水泳 A	(人) 小1～6 (60)	① 40 ② 44 ③ 33	水曜日 14:30～15:30	生涯楽しめるスポーツ“水泳”を基礎から学び、4泳法をマスター。「シニア・スイミング」へのステップアップが目標。各期の後半に進級テストを実施(10級～1級)。次への目標としている。 受講料=1・2期各21,000円、3期14,000円。 10級 顔つけ もぐり 息こらえ ボビング 水なれ 9級 伏し浮き 背浮き 板キック ボディーイメージ1 8級 伏し浮きキック 背浮きキック ボディーイメージ2 7級 ノープレクロール バックキック ボディーイメージ3 6級 クロール・バック(12.5) プレスト・バタフライ(キック) 5級 クロール・バック(25) プレスト・バタフライ(リズム) 4級 クロール・バック(50) プレスト・バタフライ(呼吸) 3級 クロール・プレスト(タイム) 個人メドレー 2級 個人メドレー(100)(タイム) 1級 個人メドレー(200)(タイム)
〃 B	〃	① 38 ② 26 ③ 18	火曜日 15:30～16:30	
〃 C	〃	① 61 ② 59 ③ 58	水曜日 //	
〃 D	〃	① 45 ② 38 ③ 33	金曜日 //	
〃 E	〃	① 61 ② 52 ③ 41	木曜日 16:00～17:00	
〃 F	小2～6 (40)	① 37 ② 39 ③ 30	火曜日 16:30～17:30	
〃 G	〃	① 24 ② 29 ③ 29	木曜日 17:00～18:00	
シニア スイミング A	小・中学生 (30)	① 11 ② 10 ③ 9	火曜日 16:30～18:00	「小学生水泳」からのステップアップの場であり「シニアスイミングB」へのステップとしての役割もあるため、基礎体力の向上と4泳法の完成を中心に行った。
〃 B	〃	① 7 ② 6 ③ 6	水曜日 //	個別のメニューを組んでより速く泳ぐことにチャレンジする上級者向けのコース。水球も経験する。指導者の推薦が必要。 受講料=1・2期各21,000円、3期14,000円。
シニアスイミング フレッシュ	小3～中3 (30)	① 32 ② 30 ③ 23	金曜日 16:30～18:00	小学3年生以上で泳ぎが不得意な子どものクラス。クロールで25m以上泳ぐことを第一目標に練習を進める。90分の集中的な練習で上達の度合いが大きかった。 受講料=1・2期各21,000円、3期14,000円。
小学生体育 A	小1～6 (30)	① 34 ② 34 ③ 29	火曜日 16:00～17:00	器械体操、球技を中心に多種多様な運動経験をとおして苦手な種目を克服する。さらに、鬼ごっこなどを取り入れ、持久力も身に付ける。 受講料=1・2期各17,000円、3期11,000円。 ※バランス良い発達ができるよう「小学生体育」と「小学生水泳」の2講座の受講ができる。 受講料=1・2期各25,000円、3期17,000円(2コース合計)。
〃 B	〃	① 34 ② 30 ③ 29	木曜日 //	
ジュニア新体操	小1～3の 女子 (35)	① 27 ② 35 ③ 40	水・金曜日 15:30～17:00	跳ねたり、跳んだり、回ったり、リボンやボールを使って楽しく体を動かす。基礎的な運動も含めた新体操の初歩を指導。 受講料=1・2期各26,000円、3期19,000円。
シニア新体操	小4～中3 の女子 (35)	① 27 ② 22 ③ 21	水・金曜日 16:30～18:00	「ジュニア新体操」から一歩進んで新体操独特の美しい表現ができるように練習。創作活動や発表会も開催。 受講料=1・2期各26,000円、3期19,000円。
手足の不自由な子の 水泳	小・中学生 (15)	① 10 ② 11 ③ 10	土曜日 17:00～18:00	身体に障害があり、水泳の機会に恵まれない小・中学生が対象。スタッフ、ボランティアの個人指導を中心に楽しく活動。 受講料=1・2期各16,000円、3期10,000円。
健康スポーツ教室 (太りすぎクラス)	太りすぎ の小学生 とその親 (20)	① 21 ② 21 ③ 20	土曜日 16:00～17:00	小児保健部との協力事業。医師、栄養士による健康・栄養のチェック、体育指導者による体力チェック——3者が協力してトータルな活動を行う。 受講料=1・2期各22,000円、3期18,000円。

※講座回数=1・2期各13回、3期9回(「ジュニア新体操」「シニア新体操」は週2回、1・2期各26回、3期18回)

〈クラブ〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
ダイナミック・ヘルス・クラブ(D. H. C.)	(人) 成人 メンバー ビジター 法人	(人) 年間延 8,703 448 345 合計 9,444	火～土曜日 12:00～13:30 18:00～21:00 日曜日・祝日 18:00～20:00	18歳以上の大人のためのクラブ。プール、体育室、ジムを利用して体力作り、健康管理のために最適な環境で楽しく活動。個人会員は、入会金100%オフ、会費20%オフキャンペーンを実施して、新規会員の募集に努めた。入会金0円、年会費50,000円、4か月20,000円、月会費5,500円、利用料(利用の都度)300円。パス券(月3,000円、4か月11,000円)、ビジター1,500円。『渋谷ウォーカー』ほかに広告掲載。
レディースコース スイミング リズム &ストレッチ	18歳以上の女性 (150)	① 62 ② 65 ③ 58	火・木曜日 10:00～11:00 水曜日 10:00～11:00 土曜日 11:00～12:00	スイミング3コース、リズム&ストレッチ1コースを併せてレディースコースとし、チケット制でどのコースでも参加できるようにした。チケット終了後は6回分の追加チケットを発行。生活習慣の中に定期的な運動を取り入れることが健康作りの第一歩。各クラスとも4班編成。それぞれのレベルにあった班を選択し、「スイミング」ではクロールの練習から4泳法を身に付けることを目標に健康作り。「リズム&ストレッチ」では、ゆったりと気持ちのよいストレッチと軽快なリズム運動で、楽しく動きながら明日への活力を生み出す。 受講料=1・2期各21,000円(13回分)、3期14,000円(9回分)。クーポン券(6回)5,000円。
マタニティ・スイミング	妊娠16週以降の妊婦 (月35)	年間延 1,358	火・木曜日 11:00～12:00	小児保健部との協力事業。水泳プログラムをとおして、妊娠中を楽しく過ごすためのクラス。医師が活動前後に健康チェックを行い、活動中も不測の事態に備えて常駐する。お産や子育てにかんするレクチャーや栄養・心理の相談も受けられる。受講料12,000円(月7回)。

〈講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
母と子のすくすくランド	(組) おすわりのできる乳児と母親 (20)	(組) ① 19 ② 28 ③ 30	金曜日 10:00～11:00	はいはいから歩行へと成長していく時期の赤ちゃんを対象に、楽しい体操や親子での遊び、お母さんのシェイプアップも。1・2期は10回、3期は9回。 受講料=1・2期各23,000円、3期21,000円。
幼児・母親体育 A 〃 B	1・2歳児と母親 (20) 2・3歳児と母親 (30)	① 29 ② 30 ③ 30 ① 32 ② 33 ③ 34	火曜日 13:30～14:30 水曜日 11:00～12:00	親子が体育室でリズムに合わせて跳ね、跳び、走るうちに運動神経を養い、体を動かすことの楽しさを身に付ける。1・2期は10回、3期は9回。 受講料=1・2期各19,000円、3期17,000円。
ばちやばちファミリースイム	1・2歳児と父母、祖父母 (30)	① 27 ② 32 ③ 17	金曜日 10:00～11:00	楽しくプールで活動をしなが、水慣れとともに父母・祖父母と孫のコミュニケーションを深める。1・2期は10回、3期は9回。 受講料=1・2期各25,000円、3期23,000円。

〈短期講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
夏休みこども集中水泳講習会 〃 〃 〃	(人) 小中学生 (50) 4・5歳児 (40) 小中学生 (50) 4・5歳児 (40)	(人) 50 40 50 40	7.22～26 9:30～10:30 7.22～26 10:30～11:30 8.21～25 9:30～10:30 8.21～25 10:30～11:30	5日間の集中練習で泳力アップとさまざまな泳法を体験。 受講料=7,000円。

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
ガンバ！2004	(人) 小学生 (30)	(人) 30	8.21～25 9:30～10:30	器械体操や球技などの基本動作を身に付ける、体操の苦手な子どもの体操教室。 受講料＝7,000円。
春休みこども集中 水泳講習会 A 〃 B	小・中学生 (50) 4・5歳児 (40)	50 40	4.1～5 9:30～10:30 〃 10:30～11:30	5日間の集中練習で泳力アップといろいろな泳法体験。 受講料＝7,000円。
成人水泳集中講習 会	18歳以上 (月20)	延べ 130	水・金曜日 18:00～19:00	18歳以上の初心者やレベルアップを考えている人の集中水泳講習。月ごとに募集 を行い、各月の講習種目に合わせて指導を行う。 受講料＝10,000円（各月7回）。
こども一日ドック	小・中学生 (10)	10	7.23 12:00～17:30	小児保健部との協力事業。体力測定など運動面の指導を担当。 料金＝10,000円。

〈専門指導者向け講習会等〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
小児肥満のための 指導者講習会	(人) 保育士・保 健師・養護 教諭など (40)	(人) 57	H17.3.12・13	小児保健部との協力事業。体育では運動指導や体力測定についてのレクチャーお よび実践を行った。

〈野外活動〉

名 称	日 時	内 容
新体操夏合宿	7.29～8.1	集中的に練習を行うため、講座ではできない活動を体験。生活面、精神面の自立をうながし、集 団活動による協調性を養うことを目標とした。精神面を含め、個人の成長がみられた。30人参 加。東白河郡ユーパル矢祭（福島県）。
スポーツキャンプ	7.27～30	大自然に囲まれたグリーンピア津南でテニスや球技などスポーツをとおして、全力を出した爽 快感、充実感を味わえるキャンプ。また、栄養を考えた食事メニューを自分たちで作ること にも挑戦。グリーンピア津南（新潟県）。
健康スポーツ教室 夏合宿	8.1～3	週1回1時間、体を動かす講座とは別に長時間運動を続けることで体を動かす楽しさを改めて 知ってもらうことが目的。フライングディスクのゲームを中心に1日がかりの登山などの運動 プログラムのほか、丸太切り野外炊事など、食と運動を中心にしたキャンプ。「健康スポーツ 教室〈太りすぎクラス〉」の講座生14人が参加。奥多摩・山のふるさと村（東京都）
チャレンジキャンプ	8.26～29	“何にでも挑戦しよう！”が合言葉の低学年体験キャンプ。今回は、山中湖一周ウォーキングに チャレンジした。天候が悪く、プログラム変更を余儀なくされたがメインプログラム（一周ウォ ーキング）は無事実施することができた。小1～3年生45人が参加。YMCA山中湖（山梨県）。
スキースクール パート1 1期 〃 2期	12.26～29 H17.1.4～7	1期はスキーレッスンに最適な北志賀高原よませスキー場（長野県）、2期はファミリー向け ゲレンデで安心して楽しめるグリーンピア津南。2期は新学期が始まる前なので、往復の疲労 の軽減をはかるため新幹線を利用。また、2期は中学生のみスノーボードのレッスンあり。小 2～中学生対象。1期は30人、2期は37人参加。
スキースクール パート2	3.26～29	小1～3年生の低学年が対象のスキースクール。パート1と違いスキーのみならず「班対抗雪合 戦」「雪上運動会」などレクリエーション的なプログラムも多く含まれている。45人参加。グ リーンピア津南（新潟県）。

3. その他

〈動くこどもの城〉

名 称	日 時	内 容
お母さんと赤ちゃんの すくすくスキンシップ	6.20	青森県アビオあおもり。
身近な道具でスポーツ 遊び	7.1・2	栃木県野木町公民館。
お母さんと赤ちゃんの すくすくスキンシップ	9.13・14	新潟県上越市こどもセンター。
親子ふれあい体操1・ 2・3	9.16・17	奈良県大和高田市子育て支援センター。
お母さんと赤ちゃんの すくすくスキンシップ	10.1	神奈川県葉山町福祉文化会館。
「おにごっこ」で楽しく 体力づくり	10.10・11	岐阜県岐阜メモリアルセンター。
親子ふれあい体操1・ 2・3	10.29・30	三重県小俣町総合体育館。
〃	11.18・19	兵庫県宝塚市立スポーツセンター。

〈講師派遣など〉

名 称	日 時	内 容
楽しい運動遊び、親子 スキンシップ	5.20	東京都板橋区東板橋体育館。
遊びを通じて豊かな友 達づくり～低学年のス ポーツ遊び	6.22	東京都大田区池上会館。
スナック体操・体力作 り	7.13	神奈川県かながわ県民センター。
ひろみちおにいさんと いっしょ～親子で体操	8.8	東京都江東区東京ビックサイト。
小児生活習慣病予防で 家でも継続して出来る 楽しい運動	10.5	千葉県茂原市市民体育館。
親子で創るスキンシッ プ体操	10.26	東京都渋谷区スポーツセンター。
鬼あそび	H17.2.5	山梨県八千代市総合会館。

名 称	日 時	内 容
幼児期に望ましい運動あそび	8.19	山梨県福祉プラザ。
乳幼児の手遊び、歌遊びとの関わり方	9.12	新潟市総合福祉会館。
ママ一緒に遊んで！ ～発達の遊び0・1・2歳編～	9.25	東京都大田区立沢田児童館。
子供の遊びからスポーツへのくふう ゲーム学の実技演習	11.10	埼玉県吉川市立児童館。
鬼ごっこしよう～楽しく遊んで体力づくり	12.21	宮城県石越勤労者体育館。
第3回ライフ・キッズ・スポーツ指導者 研修会	12.27	大阪市ドーンセンター。
身体を使った活動関係の講義および実技	H17.1.24	山梨県田富町立第一保育園。
健康づくりのための仲間作り	3.19	宮城県石越町役場。

プレイ事業部



平成16年度の活動

1. はじめに

プレイ事業部は、[こどもの城]の遊び場所の中心となる、屋内の広い遊び空間であるプレイホールや屋上遊園、またコンピュータプレイルームやパソコンルームの運営を担当し、年間をとおりさまざまなプログラムを実施した。また夏休みや冬休み特別期間には、自然のなかで仲間との共同生活を体験するキャンプ活動を実施した。

活動プログラムは、〈あそび〉をとおり子どもたちのよりよい成長・発達を促すことをねらいに、3つの方向性を基本にして計画・実施した。(1) 子どもの発達年齢や遊びの種類を考えたより良い遊び環境の整備 (2) さまざまな児童文化財を題材にしたプログラムの提供 (3) 集団遊びや交流を促進するプログラムの開発、提供——である。人間関係の希薄化など、子どもたちが育つ環境が大きく変化しているが、仲間と交わり、遊ぶことをとおして、社会的な適応力を高めるということを、プレイ事業部の事業運営の基本と捉え、遊びや仲間同士の関係から得る、さまざまな学びと気づきを大切にしながら活動をすすめた。

(ア) 一般利用

一般来館児・者を対象とした活動では、子どもの発達年齢やさまざまな遊びに対応できるように、〈あそび〉の環境整備をすることを基本とした。プレイホールなどの遊び場の遊具を整えるとともに、平常期間に日替わりで行っている週間行事、そして季節行事や特別期間のプログラムなど、年間をとおりさまざまなプログラムを実施した。

これらのプログラムでは、ボランティアの活動協力を得ながら、児童文化財の伝承や子ども同士・親と子とが一緒

になって遊ぶことの楽しさを伝えた。

特に土・日曜日の活動では、小学生以上を対象とした「サタデー・ラボラトリー」が3年目を迎え、多彩な活動を展開。スタッフとのふれあいを楽しみに、定期的に来館する子どもも多くなった。また日曜日の家族向けプログラム「ファミリープレイタイム」は未就学児とその親を対象として行っていたが、小学生親子の関心も高く、親と子が向かい合うきっかけとして、小学生以上も受け入れを始めた。

一方、遊び場の環境整備については、大型遊具の安全点検・適正整備を行い、事故防止などの安全対策を図ってきた。しかし遊び場環境という点では、本年度の夏は連日の記録的な猛暑となり、屋上遊び場は熱中症を引き起こしかねない状況だった。そこで、WBGT計(湿球黒球温度計=熱中症指標計)を取り入れ、検温を適宜行い、遊びや運動をするには危険とされる基準値に達する場合には、屋上遊び場を休止するなどの安全策を講じた。

(イ) 講座・講習会など

【キッズクラブとユースクラブ】

最近、子どもたちの間で、友だち同士などの人間関係が原因で社会問題となるような事件が多く発生している。このことは他人とのコミュニケーションが上手にとれないことが原因の一つになっていると考えられる。

「キッズクラブ」と「ユースクラブ」では定期的なグループでの活動をとおり仲間の存在の大切さを感じることに、自分だけでなく他者との関係の中であまることが自分主張することなど、遊びをとおり人間関係作りを体験することで、社会的な適応力を高めることを意図した活動を進めている。

「キッズクラブ」では、1期は“クラブのようすを知る、期待感を高める”というねらいを設定し、ゲーム大会やクッキング、クラフトなど、バラエティに富んだプログラムを用意し、さまざまな子の興味や関心に応えられるように配慮した。2期のねらいは“キッズへの帰属感を持つ リーダーシップ萌芽の援助”と設定し、子どもたちの希望を取り入れながら、よりダイナミックな陣取り大会やドッジボール大会、遠足などを実施し、上級生から下級生への指導性や思いやりを育む機会を作った。3期は“自分たちで作るキッズクラブ”をねらいとし、プログラム決めやゲームのルール設定、班編成、役割分担なども、なるべく子どもたちが主体的にかかわるように援助していった。

「ユースクラブ」ではここ数年、メンバーの自主性や社会性を育てることを重点に活動を進めている。メンバーが順調に継続し、高学年の子どもたちがしっかりと自主的に活動を進めることができた。ただし全体のメンバー数は定員を割り込む状態が続いていて、いろいろな仲間がそろって活動するためには、さらにPRなどを行い、多くのメンバーを集める必要を感じている。

夏休み特別期間には、「キッズクラブ」「ユースクラブ」そして高校生の「L. I. T. (リーダーイントレーニング)」のメンバーと連携し、子どもたちによる夏祭り「サマーキッズフェスティバル」を体育室で実施した。各クラブのメンバーだけでなく、低学年から中学生、高校生までの大きな縦割りのグループでのかかわり方や、遊びに来てくれた一般の人とのかかわり方を、身を持って体験することができたようである。

メンバー同士、あるいは「キッズクラブ」「L. I. T.」の双方のメンバーとの関係作りには成果が見られ、一般来館児・者との交流をととして外部の子への思いやりを見せる場面も多く見受けられた。こうした活動に対する保護者からの評価も非常に高かった。



「サマーキッズフェスティバル」

開館当初から5年目ぐらいまでは、〔こどもの城〕の講座・クラブのメンバー、あるいは一般来館の子どもたちが交流したり、ともに活動する機会として「夏祭り」「こどもデパート」「ミステリーハウス」などが毎年行われていた。今、改めて“子どもが作る子どものための活動”の意義を強く感じている。

【パソコン教室スペシャル】

パソコンの操作方法を学ぶだけでなく、課題達成にむけたグループの協同作業をととして、仲間との交流促進を図ることを目的にしてパソコン教室を実施している。本年度は、小学校4～6年生を対象に、夏休み特別期間に「マルチメディア探検隊」、春休み特別期間に「ロボットプログラミング入門」を実施した。

「マルチメディア探検隊」は、〔こどもの城〕館内を取材してレポートにまとめ、ホームページに掲載するところまでを体験するプログラム。「ロボットプログラミング入門」は、パソコンで制御できるレゴブロックでロボットを作り、ロボットを自在に動かすプログラムを組んで楽しむ活動である。どちらのプログラムも、グループごとに協力して課題達成を楽しめる活動となった。

【児童厚生員等実技指導講習会

～パソコン遊びのワークショップ～

3年目となったパソコン遊びの実技指導の講習会。“遊びを広げるパソコンの活用法”をねらいに、まる2日にわたる講習会を6月と11月に2回実施した。

6月の講習会は、「パソコンで楽しむペーパークラフト」をテーマに、パソコンで作った魚や木の葉のぬりえ作品をみんなで壁面飾りにするプログラムや、パソコンで作ってみんなで遊ぶことのできる紙相撲やペーパープレーンなど、パソコンを操作する楽しみから、作って遊ぶ楽しみにまで子どもたちの遊びを広げるパソコンの活用方法について研修をすすめた。

11月の講習会は、「CGアートを楽しもう!」をテーマに、ぬり絵や写真のコラージュ、グラフィックスソフトのフィルター機能を使った作品制作など、さまざまなプログラムを体験した。

両講習会とも多くの参加者を得て、2日間にわたってパソコン遊びや子どもたちにプログラム提供するための具体的な準備作業を体験した。パソコン操作という技術的な内容をもとに、遊びのプログラムを作り上げるという難しい内容を持つ講習会であったが、参加者の熱意の感じられる充実した講習会となった。

(ウ) グループ活動

ブレイ事業部のグループ活動は、さまざまな《ごっこあそび》や《劇遊び》、人形劇を素材とした《表現遊び》など、

季節行事「七夕～天までとどけ ねがいごと」



プログラムをとおして、豊かな心と仲間意識をはぐくむことを、おもなねらいとしている。

前年度から続いて、養護学校や障害児学級のプログラム「みんないっしょに」の利用が増えた。受け入れるグループの子どもたちの様子に合わせて複数の遊びを組み合わせで構成している。件数が増えたことによっていくつかの基本構成もでき、参加児童の状況に合わせてプログラムをアレンジすることが、より柔軟に対応できるようになった。しかし、プログラムの自由度が高まるほど、初めての利用者に対する説明やリピーターに対しての新しい提案など、事前打ち合わせの内容が複雑となり、グループ引率者へのすみやかな情報提供の方法が、課題となった。

また、本年度から「わくわく運動会」というプログラムを立ち上げた。これは「こどもの城オリンピック」を幼児向けに構成し直したもので、人数の多い幼児のグループにもより対応できるようになった。

(エ) 野外活動

夏休み特別期間に、小学校1～3年生対象の「ちびっこ冒険団」と小学校4～6年生対象の「フェローシップキャンプ」、冬休み特別期間に小学校1～3年生対象の「ゆきんこ冒険団」を実施した。

野外活動では、自然の中でのさまざまな活動や仲間たちとのかかわりをとおして、社会性を養うことを目的としている。「ちびっこ冒険団」では、班ごとに考えた野遊びを一日かけて実施するという、より班の活動に重点を置いたプログラムを実施した。

「フェローシップキャンプ」は、新たな試みとしてワンダートレッキングというプログラムを実施した。川の源流からスタートし、道なき道を川に沿って進み、やがて大きな流れとなって一つの川となる所までをたどるというプログラム。1滴の水がやがて川になるという自然の壮大さを

ファミリープレイタイム「親子でチャレンジゲーム」



感じることができ、さらに未開の場所を歩くという冒険の要素も加わるよい活動となった。

「ゆきんこ冒険団」は、暖冬で雪不足が心配されたが、子どもたちが満足に遊べる程度の積雪量があり、若干のプログラム変更があったものの、思う存分雪遊びを楽しむことができた。例年は、学校の終業式が終わった午後1時に東京を出発していたが、今回は出発日が土曜日ということで、午前中に「こどもの城」を出発することができた。そのため、初日から雪遊びの時間が十分確保でき、子どもたちは、そり遊び、かまくら作り、歩くスキーなど、多岐にわたる雪上活動が実施できた。

2. 季節行事と特別期間プログラム

『季節行事』と、『特別期間プログラム』を事業の大きな柱として、さまざまな遊びのプログラムを展開している。

『季節行事』では、節分、雛祭り、七夕など古くから日本に伝わる季節行事の根幹に流れる「家族の健康や子どもの健全な成育を願う心」を大切に、あるものはワークショップ形式で、またあるものは参加劇形式やクイズ形式で催しを実施している。遊びを通じてその行事の起源や意味が参加者に伝わるようなアプローチを心がけている。

冬休み、春休み、ゴールデンウィーク（児童福祉週間）、夏休みなど、多くの来館児・者が訪れる特別期間に行われる『特別期間プログラム』では、遊びを通じて家族の交流を深めたり、子ども同士の交流をはぐくまれる機会を作ることを大きなねらいとしている。

また、『特別期間プログラム』から得たノウハウを、〈動くこどもの城〉や「講師派遣」などでも紹介している。さらに本年度から、秋の3連休にも蓄積してきた『特別期間プログラム』のノウハウを活用した催しを実施した。

【季節行事】

七夕行事「天までとどけねがいごと」では、平塚の七夕

祭りで飾られる大吹き流しを模した「鶴の大吹き流し」を子どもたちと作るプログラムを実施した。最終日には、参加した子どもたちみんなで作った、大きな吹き流しがプレイホールを飾った。

ひなまつり行事「みんなでひなまつり」では、三人官女や五人囃子、牛車や右大臣左大臣など、ひな壇に飾られている人や物をテーマに、チャレンジゲーム大会を行った。牛飼いになって、お内裏様おひな様の乗っている牛車を引っ張って、ふたりが倒れないようにゴールをめざすゲーム、右大臣左大臣に扮して弓を射るポーズをしながら、鬼が隠れている的の番号をいくつか言い当てられるかを競うゲームなどを実施。ゲームをとおして女の子だけでなく男の子にも、また一緒に参加する親にも、ひな壇を身近に感じてもらえる機会となった。

節分行事「節分会大まめまき大会」では、プレイホール内や廊下などに、オニの顔のケンケンパやオニの顔の絵合わせ、オニの顔が描かれた輪投げなどを配置することで、節分の雰囲気盛り上げた。

季節行事を行う上で、ふだんの遊び場から季節感を感じられるような場、雰囲気に変えていくことが、それぞれが持っている季節行事の由来を伝承していく一つの方法と考えている。ボランティアリーダーのかかわりも、行事の由来や雰囲気を伝えるのに、大きな力となっている。ボランティアに行事について理解してもらう時間を事前に十分取り、プログラムやゲームの説明をする中で、参加者とコミュニケーションを取りながら、伝えてもらうようにした。

このほか、ひなまつり行事では、ボランティア企画の「博士クイズ大会」も実施することで、より楽しく由来などを伝える時間も作ることができた。

【特別期間行事】

毎年、ゴールデンウィーク（児童福祉週間）や夏休みなどの特別期間に、屋上ふしぎが丘で特別期間プログラムを行っている。本年度のゴールデンウィーク（児童福祉週間）特別期間には「モンスターグランプリ」という、子どもたちに人気のテレビやゲームなどをモチーフにしたレクリエーションゲーム大会、夏休み特別期間には「ジャブジャブぼちゃトピア」という水をテーマにした遊びを実施した。どちらも、遊びをとおして、子どもたち同士や親子の交流を図ることをねらいとして活動を行っている。

毎年さまざまな形で屋上でのプログラムを実施しているが、新たな試みとして行ったのは、体育の日前後の3連休に実施した「忍者武勇伝」があげられる。

〔こどもの城〕には〈動くこどもの城〉という事業があり、そのなかに、「レクリエーションゲーム大会の演出プラン」というプレイ事業部が担当しているプログラムがある。これは、主に〔こどもの城〕屋上で実施している大型の交流遊びのプログラムを、地方の児童館でも実施できるように一般化し再構成したものである。「忍者武勇伝」は、レクリエーションゲーム大会の一例として紹介している「忍者マスター決定戦」を実際に〔こどもの城〕で実施するという、逆の発想から生まれた。

〈動くこどもの城〉では、多くの児童館でも実施できるようにとコンパクトにパッケージ化してあるので、今まで行ってきた〔こどもの城〕での内容との間にギャップを感じざるを得なかった。しかし、あえてこのプログラムを自分たちのフィールドで行うことにより、さらに〈動くこどもの城〉でのプログラム展開に可能性を見出すことができたと同時に、自分たちの活動を再確認することができた。今回の活動をふまえ、今後も新たなプログラムの開発と、すでに確立されたものを再確認するという両面から、事業を進めていく必要があると感じた。

3. まとめ

本年度、児童厚生員向けの実技指導講習会として、「作って遊ぶ」をテーマにした講習会を1回、「パソコン遊び」を紹介する講習会を2回、計3回実施した。さらに派遣事業である〈動くこどもの城〉も、例年になく多くの回数を実施した。また大学生の福祉施設実習やボランティア実習、さらに中学生や高校生の体験学習の場としても、プレイ事業部の活動が利用された。

これらの活動は、ふだんの活動の蓄積を広く社会に還元することであり、〔こどもの城〕にとっても非常に重要な活動である。今後ますます増えるであろうし、また求められる内容や機能もより幅広くなると考えられる。子どもたちの成育環境や、社会の変化を的確に捉えながら、普段の事業活動をより高め、社会のニーズに応えながら、〔こどもの城〕での活動をとおして蓄積してきた知見を、よりよい形で、より多くの人に広めていくことが大切である。

平成16年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
みんなの にこにこ広場	水曜日 15:00～15:30	週替わりで、人形劇・紙芝居・影絵を上演。いずれも女性ボランティアの協力を得ている。鑑賞型のプログラムには常連の参加も多く、いろいろなジャンルの児童文化を伝える機会となっている。赤ちゃん連れのお母さんの参加が近年増え、子どもと一緒に楽しもうとする姿やアットホームな雰囲気にリラックスしている姿が見られた。 (プレイホール)
おりがみ遊び広場	木曜日 14:00～15:00	日本の伝承遊びの一つである“おりがみ”の楽しさを来館児・者に伝えるプログラム。ボランティアの協力を得て、折り図を用意せず口承で伝えている。1期は「遊べるおりがみ」、2期は「おみせやさん」(魚屋・八百屋・フルーツバーラー・雑貨屋)、3期は「キャラクター」とテーマを決め、折り紙のメニューを決めていった。2期に行った「おみせやさん」では、子どもたちの折った作品をお店屋さんパネルにはりつけてもらい、12月には4軒のにぎやかなお店ができあがった。2・3歳の子どもと保護者の参加も多くなってきている。子どもだけでなく大人も楽しんでいた。 (プレイホール)
金曜開店！ あそびやさん	金曜日 開館時間中	期間ごとに3～4種類のおもちゃを選び週替わりで来館児・者に体験してもらった。 1期＝ブロック／木の車のおもちゃ／魚の動きが楽しい魚釣りゲーム 2期＝木の汽車のおもちゃ／レゴブロック／ドミノたおし／板状のつまみセット 3期＝手びねりゴマ／ネジブロック／板状のつまみセット／働く車のおもちゃ／ブロック (プレイホール)
おはなし人形広場	土曜日 15:00～15:30	人形劇やパネルシアターなどの上演。月1・2回行うプロの人形劇団による公演を中心に、ボランティアやスタッフによる「おはなしの時間」を組み込んで毎週実施。お父さんやお母さんのひざの上でゆったりと見たり、大きな声で人形たちを応援したりとだんだんと“おはなし”の世界に引き込まれていく姿が印象的。本年度は企業の協賛も得て人形劇団の公演回数を増やすことができ、人形劇の広がりや奥深さをより伝えることができた。劇団公演：22回、その他公演：16回。協賛：ビスパオン・ジャパン株式会社。 (音楽ロビー)
サタデー・ラボラトリー	土曜日 13:00～16:00 (受け付け時間)	身の回りに展開するさまざまな現象を遊びとしてとらえる、科学遊び中心のプログラム。3年目をむかえ、さらにプログラムも充実。前年度末から実施している「サタデー・ラボラトリー研究員制度」(常連の子どもたちを把握するとともに、参加の動機付けをねらったもの)のため、たくさん子どもたちがコンスタントに参加するプログラムとなっている。AV事業部との共同プログラム。実施プログラムは別表参照。 (フリーホールほか)
〈ファミリープレイタイム〉 カエルdaピョン～あそべる折り紙	5.23 12:30～16:30	飛び込み台から点数がついたハスの葉をねらう「お池だジャボン」、どこまで高く飛べるか「ハイ high ジャンプ」、絵の街の中を家や木などをよけながらゴールに向かう「さんぽでなんぼ？」など、折り紙で作ったカエルで遊んだ。参加61組。 (プレイホール)
〈 〃 〉 親子でチャレンジゲーム	6.6 12:30～16:30	親子で役割を分担したり、力を合わせたりして、より多く、より早く、記録を更新しながら遊んだ。「カチカチカウンター」「ゆらゆらバランス」「くるくるカード」「パンパン手拍子」「ころころサイコロ」。参加162組。 (プレイホール)
〈七夕〉 天までとどけ ねがいごと	7.3・4 11:00～16:00 7.6・7 13:00～16:00 (受け付け時間)	七夕の由来を伝える行事。短冊に願いごとを書いて笹竹に飾った。今回は平塚(神奈川県)の七夕祭りで飾られる大吹き流しを模した「鶴の大吹き流し」を飾った。子どもたちも鶴を作り、つなげていくことでより大きな吹き流しになった。また、七夕にちなんだ7つのクイズをプレイホールの随所に掲示し、それらを探して解く「七夕クイズラリー」を行った。3択の問題。掲示してある七夕の由来紹介に答えをみつけにくる子どももいた。 (プレイホール)
〈ファミリープレイタイム〉 えんぴつが一本あったとさ	9.19・20 12:30～16:30	鉛筆と紙をつかった遊びを紹介。「絵かきうた」「こすりだし絵」「簡単ゲーム(七五三・陣取りなど)」。参加100組(2日間計)。 (プレイホール)

名 称	日 時	内 容
忍者武勇伝	10.9～11 11:00～16:00	過去に児童福祉週間（ゴールデンウィーク）特別期間などで実施したプログラム資産（ノウハウなど）の有効活用を考え、本年度から「体育の日」の3連休に実施。さまざまな「忍者の修行ゲーム」にチャレンジすると、忍術を体得した証として忍者の道具が描かれたカードをもらえる、という内容。カードにはじゃんけんのマークも描かれており、これを使って大会も開催した。じゃんけんをして勝てば相手からそのカードをもらえ、いちばんたくさんカードを集めた子どもには、「免許皆伝」の称号が与えられるというもの。（ネット広場）
〈ファミリープレイタイム〉 とんとんかみずもう	11.14 12:30～16:30	紙の力士に色を塗り、組み立てる。作った紙相撲力士で親子対親子の対戦遊びをした。参加59組。（プレイホール）
〈節分〉 節分会 だめめまき大会	1.29・30 開館時間中 参加劇 16:00	節分の由来を参加劇し立てで紹介し、子どもたちと一緒に豆まきを行った。数日前からプレイホール内や廊下などに、オニの顔の絵のケンケンパやオニの顔の絵合わせ、オニの顔が描かれた輪投げなどを配置し、節分の雰囲気盛り上げた。今回は保護者にも事業運営体験（参加劇の出演）をとおして、〔こどもの城〕の活動理解と支援につなげていきたいと考え、友の会会員に“オニ役”の参加を呼びかけた。応募は無かったが、後日、友の会会員から「興味はあった」との話もあり、今後もアピールを続けていきたい。延べ600人前後が参加。（プレイホール）
〈ファミリープレイタイム〉 しりとりカードをつくらう	2.11～13 12:30～16:30	3つのしりとりを考え、カードに描いて本に組み立てる。壁面にはしりとり絵本を展示し、ほかの家族が作ったしりとりで自分たちのしりとりをつなげ、「大しりとり迷路」を作成。参加165組（3日間計）。（プレイホール）
〈ひなまつり〉 みんなでひなまつり	2.26・27 11:00～16:00 （受け付け時間）	三人官女や右大臣左大臣、牛車など、ひな壇に飾られている人や物をテーマにしたチャレンジゲーム大会を実施した。ゲームは全部で5種類あり、参加してクリアするたびに参加カードにスタンプを押す“スタンプ集め形式”。「三人官女が持っている三方は食事を運ぶためのもの」など、そのゲームをとおしてひな壇の人や物の意味を伝えることもでき、子どもたちにひな祭りの意味を考えてもらうよいきっかけになった。27日にはボランティアが企画した「ひな祭り博士クイズ大会」も実施。（プレイホール）
第35バンパー大会	H17.3.13 小学生の部 10:00～13:15 中・高校生の部 14:00～15:30	高学年コーナーにある人気遊具「バンパー」（ビリヤードに似たニュースポーツゲーム）の大会。夏休み大会同様に、高学年コーナーに集まる子どもたちの、さらなる交流のきっかけ作りを目的に行った。小学生の部14人、中高生の部5人が参加。（プレイホール）

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 モンスターグランプリ 2004	5.1～5 11:00～17:00	屋上ふしぎが丘をモンスターランドという設定にし、参加者はモンスター使いとなって、いろいろな力試し（ゲーム）にチャレンジして、モンスターカードをたくさん集めて遊ぶプログラム。各ゲームは、2人以上数人の協力がないとクリアできないようなルールにし、来館児・者の交流促進のきっかけ作りを行った。“カードを集める”という要素も手伝ってか、その場で知り合いになった参加者が、カードの見せ合いや交換しあう姿もみられた。参加者が900人を超える日もあり、延べ2,600人が参加した。（ふしぎが丘）
〈 // 〉 ゴールデンウィーク 人形劇フェア	4.29、5.1・2 11:00～16:00 公演=11:30/13:30/ 15:30	人形を作る、遊ぶ、人形劇を見るという3つのねらいをたて、人形遊びのワークショップを実施。首都圏の大学の人形劇サークル・児童文化研究会のネットワークである「じゃんぐるじむ」の大学生とそのOBなどで構成されている「パペットマーケット」の協力を得て、発泡スチロール球、くつした、紙コップを使った3種類の人形を作るコーナー、作った人形で遊ぶコーナー、人形劇を見るコーナーを運営した。親子で楽しんでもらおうと、学生たちも積極的に声をかけ、明るい部屋の中で親子一緒に人形劇の世界にひたる姿が見られた。（研修室）
〈夏休み〉 ジャブジャブぼちゃトピア	8.13～17 11:00～15:00	水を使ったさまざまな遊びを展開。プールに浮かべたさいころに水をかけて回転させて自分と同じチームの色の面を出すゲーム、水鉄砲を使ったうちあい、池の中から宝物を探すゲームなど、5つのゲームを楽しんだ。天候にも恵まれ、小さい子どもから小学校高学年まで、幅広い年齢層の子どもたちが楽しめた。（ふしぎが丘）
〈夏休み〉 第34回バンパー大会	8.28 小学生の部 10:00～12:30 中・高校生の部 14:00～15:00	参加者は、大会に向けて夏休み特別期間中に練習に来館。その中からも交流がうまれたようだ。今大会から参加資格を得た小学校4年生の参加が少なく、小学生の部の人数が伸び悩んだ。小学生の部11人、中高生の部4人が参加。（プレイホール）

名 称	日 時	内 容
〈開館記念〉 わくわくバペットラン ド	10.30・31、11.3 11:00～16:00 公演＝13:30／15:30	紙コップで口が動くブタの人形を作るワークショップ、作った人形で参加する参加劇「3匹のこぶた」の上演を実施。人形をカラフルに塗ったり、顔の表情にもそれぞれの工夫が見られたり、子どもたちは工作を楽しみながら、オリジナルの人形を完成させていった。人形ができあがると、人形を操作したり、親子でおしゃべりをし始めたりと人形の世界を楽しんでいる姿が多く見られた。参加劇では、劇中の人形の動きを真似してみたり、大きな声で声援を送ったりと子どもたちの参加性も高く、会場が一体となった時間を過ごすことができた。今回は、声だけでなく動きのある参加方法（人形の口でわらやレンガをリレーしていく演出）を盛り込むことで、集まった人たちが同士のかかわりがよりもてる遊びとなった。（プレイホール）
〈冬休み〉 2005年新春遊びの お年玉～運とこどっ来 い運だめし～	H17.1.3 13:00～16:00 1.4～10 11:00～17:00 (屋上は16:30まで)	プレイホールには、袋の中の衣装をいかに早く身に着けられるかを競う「福袋ゲーム」、一定時間の間にいくつかに羽根を入れられるかを競う「羽根つき」など、お正月にちなんだ6つのゲームコーナーを配置。屋上にはコマや三ツ馬の練習コーナー、勝負コーナーを配置した。両方とも「運だめし」を共通のテーマとし、ゲーム勝負の結果に応じて「おみくじ引き換え券」がもらえる。集めた「おみくじ引き換え券」の枚数により、受付で3種類のオリジナルおみくじの中から好きなものが引けるようにした。（プレイホール・屋上遊園ほか）
〈春休み〉 もじもじタウン	3.27・28、4.2・3 11:00～17:00	隠された暗号を集めてくると、その集めた暗号の数によって、文字が書かれたチップをたくさんもらえ、文字チップを並びかえ言葉を作る。例えば“やおや”にあるものに限定して言葉を作ると“やおや”を開店できる。このようにしてできた店や家を大きなタウンマップにはり出すと、一つの大きな町ができあがるというプログラム。宝探し、おみせやさんごっこ、言葉遊びの要素を兼ね備えたプログラム。幼児の親子から小学校高学年まで、幅広い年齢層の子どもたちが参加した。（プレイホール）

〈パソコンルームのプログラム〉

名 称	日 時	内 容
CG★魔法のテクニッ ク	4.27～6.6	写真を絵の具で描いた絵のように変化させたり、くねくね曲げたり、光らせたり——フィルターやエフェクトなど画像処理機能を使って加工を楽しんだ。絵画的な作品を作ったり、動物や人の表情をグニャグニャにしたり、複数の加工を混ぜ合わせていろいろな変化をさせることを楽しんでいる様子もみられた。
ネイチャークイズ	6.8～7.11	パソコン用の鳥と花の図鑑を使って、色や大きさなどの特徴からそれぞれの名前を調べようというプログラム。友だち同士で正解率を競っている姿、見たことはあるが以外に知らない名前をパソコンで調べられたと喜ぶ親子の姿などが多く見られた
秘密の宝ばこ	7.13～8.16	箱の展開図にパソコンで色をつけたり、文字を入れてプリントアウト。工作をして自分だけの宝ばこの制作を楽しんだ。
ペーパープレーン	8.17～9.12	パソコンに登録されている飛行機的设计図を改良し、翼の形などが変えられるタイプの「切り紙飛行機」、パソコンで模様をつけて印刷した用紙を折って作る「折り紙飛行機」を実施。プレイホールに特設コーナーを設け、実際に飛ばして遊ぶところまで楽しめるプログラム。
パソコンことばあそび のA★B★C	9.14～10.11	パソコンを相手に“ことば遊び”。「しりとりに、文字を並べ替える「アナグラム」、自分が作った文章が変化するのを楽しむ「4W遊び」の中から選んで遊んだ。子どもたちはパソコンに勝つと喜び、手伝っているお父さんやお母さんまでも夢中になっていた。
似顔絵ペインター	10.13～11.30	CCDカメラで自分や友だち、家族の顔の画像を取り込み、画面上で透明なシートを重ねて、透けて見える画像をなぞって似顔絵を描くプログラム。クレヨンやマーカー、色鉛筆など、さまざまな種類のペンが選択できたため、個性豊かな似顔絵ができあがった。
わくわくカレンダー	12.1～H17.1.18	マークやイラスト、文字情報を自分で選び、デザインしながらオリジナルカレンダーを作る。カレンダーの形を2種類用意することで、クラフトを楽しむ要素も加わった。家族の誕生日をマークしたり、自分の名前を入力したりと、子どもたち独自のカレンダーができあがった。
サウンドエフェクター	1.19～2.13	ある場面の写真に、雨や雷、叫び声などの効果音や場面にあったBGMをつけて楽しむパソコンを使った効果音遊び。子どもたちは独自の物語を作りながら、それぞれの場面に合わせてさまざまな効果音をつけていた。

名 称	日 時	内 容
君もパソコンアニメーター	2.15～3.13	2枚か4枚の絵を画面の上に描き、できあがったものを交互に映し出して簡単なアニメーションを作るプログラム。BGMをつけることもでき、一人ひとりのユニークな発想で、多くの楽しい作品ができあがった。
ポケット手帳	3.15～4.10	半年分のカレンダー台紙を選び、マークやイラスト、文字などを組み合わせて手のひらサイズの手帳を作るプログラム。幼児は親と一緒にマークやイラストなどが入った手帳、小学校高学年以上は時間割や電話リスト、時刻表などを組み合わせた機能的な手帳を作っていた。年齢に応じたさまざまな形の手帳ができあがった。

〈サタデー・ラボラトリー〉

名 称	日 時	内 容
お笑い4コマまんが道場	4.17、6.19	おもしろい物語を4つの場面で構成する「4コマまんが」を創作する。セリフを考えて、ふきだしに記入するプログラムも開催。参加：4月17日＝17人、6月19日＝21人。 (担当：AV事業部)
クイズ100問答えてラリー～君の頭脳と体力に挑戦～	4.24、9.11、H17.1.15	館内にはられた100問のクイズを探し、それに答えるクイズラリー。解答用紙はマークシート方式を採用し、その場で得点ランキングを発表した。毎回数問ずつ問題をかえ、繰り返し来る参加者も楽しめるものとした。参加：4月24日＝34人、9月11日＝30人、1月15日＝34人。 (担当：プレイ事業部)
混虫（まぜむし）工場スペシャル	5.8、7.3、10.2、11.13、H17.2.12	1枚の紙に印刷された展開図を切り抜いて、胴体や足を細かく折り込み、昆虫の模型を作る。低学年の子どもたちが作りやすいように組み立て方などを改良した型紙を制作した。参加：5月8日＝21人、7月3日＝34人、10月2日＝40人、11月13日＝21人、2月12日＝36人。 (担当：AV事業部)
空気で遊ぼう～見えない空気が見えてくる～	5.15	「浮沈子」「CDホバークラフト」などを作り遊んだ。空気の圧力などを利用したおもちゃから、身の回りにおける空気を感じてもらうことがねらい。参加68人。(担当：プレイ事業部)
ニットに挑戦	5.22、9.25、11.27、H17.2.26	身近な材料で作った編み器を使い、毛糸で四季折々のマスコットを作った。てるてる坊主の指人形のほか、鈴を入れたマスコットシリーズではどんぐりをかたどった「どんぐり鈴」、クリスマス用「ベル鈴」、桃の節句「ひなまつ鈴」を制作。参加：5月22日＝27人、9月25日＝74人、11月27日＝35人、2月26日＝45人。 (担当：AV事業部)
スライムの科学	5.29、6.26	ポリビニールアルコールとほう砂、水を調合し、どろどろの物体「スライム」を作る。調合の割合を変え、硬さの違う「スライム」を作った。参加：5月29日＝120人、6月26日＝79人。 (担当：プレイ事業部)
ビックリおもちゃ大作戦	6.5	身近な素材を使って人が「あっとおどろく」おもちゃを作る。「サソリの標本」「発泡入浴剤を使ったロケット」「シュルシュル棒」の3種類の工作をした。参加31人。(担当：プレイ事業部)
ふわっと〇スーパーシャボン玉	6.12	水で薄めた台所用洗剤にポリビニールアルコールやガムシロップなど、さまざまな材料をまぜ、シャボン玉液を作った。参加97人。(担当：プレイ事業部)
ばらばらまんがを作ろう	7.10、10.9、H17.3.5	絵がアニメのように動いて見える「ばらばらまんが」を作る。表紙も付けて、東ねて完成となる。絵を描くのが苦手な参加者用にぬり絵用意した。参加：7月10日＝42人、10月9日＝33人、3月5日＝32人。 (担当：AV事業部)
スチームパワーだ！すずめボンボン船	9.18、11.6	アルミ管とロウソクを使って蒸気エンジンを作り、それを動力として動く船「ボンボン船」を作った。できあがった船は、水に浮かべて走らせる体験もした。参加：9月18日＝17人、11月6日＝23人。 (担当：プレイ事業部)
ゆう／むすぶ／あむ～ひもを楽しむ～	10.16	ひもを編んだり、結ぶことだけでできるアクセサリ（ミサンガなど）を作る。さまざまな“結び”の種類を知るプログラムとなった。参加19人。 (担当：プレイ事業部)
ビデオであそぼう	10.23	赤と青のフィルターをとおしてビデオに撮影すると、絵が動いて見える2コマの簡単アニメを作った。赤と青のサインペンで重ねて絵を描き、色フィルターをとおしたときに一方の色が見なくなることを利用したもの。参加20人。 (担当：AV事業部)

名 称	日 時	内 容
火を考える ～火おこし体験～	11.20	まいぎり式火起こし器を使った火起こし体験。火種を作り、それをおがくずにのせ、息を吹きかけ、火が起きるまでを体験した。参加19人。 (担当：プレイ事業部)
ポップアップカード ～しかけ絵本のしくみ～	12.4	“ポップアップ”＝飛び出す。しかけ絵本のなかで、よく使われている“飛び出す”しかけを使ってクリスマスカードを作った。参加22人。 (担当：プレイ事業部)
チャレンジ アフレコ！	12.11	プロの声優を講師に迎え、[こどもの城]オリジナルのアニメーションに声を吹き込む“アフレコ”を体験。映像とのタイミングを合わせることやせりふをうまく読むコツをプロから教わり、実際にマイクで吹き込んで最後に全員の作品を上映した。参加38人。(担当：AV事業部)
回転のふしぎをさぐる ～こまで遊ぼう～	H17.1.22、3.12	地球ゴマや逆立ちゴマで遊んだり、ダンボールを好きな形に切り出して「丸くないコマ」を作った。さまざまなコマをとおして“回転するもの”の性質を知るプログラムになった。参加：1月22日＝41人、3月12日＝50人。 (担当：プレイ事業部)
“光”のふしぎにチャレンジ！	1.29	ブラックライトやレーザーなど特殊な光の秘密をさぐる。透明な蛍光ペンで描いた絵や文字がブラックライトの下で発光して見える不思議を体験。日常にあるいろいろなものにブラックライトを当てて光らせてみる。参加33人。 (担当：AV事業部)
砂糖大変身！～さとうでつくるお菓子の科学～	2.5	砂糖を原材料としたお菓子「わたあめ」と「カルメ焼き」を作った。砂糖を熱すると液体となり、それが冷えて固まる過程の違いで、さまざまなお菓子に変わることを体験した。参加59人。 (担当：プレイ事業部)
フェルトをつくる・フェルトであそぶ	2.19	羊毛からフェルトを作り、小物入れなどを作成。かりとったばかりの羊毛(実物)や毛刈りのようす(写真)も展示。羊毛、フェルトの性質について知る。参加43人。(担当：プレイ事業部)
サタラボまつり“夏の陣”	7.17～19	「ピンホールカメラをつくろう」(7月17日)、「飛べ！空飛ぶおもちゃ」(7月18日)、「ふわっと〇スーパージャポン玉」(7月19日)に加え、「お笑い4コマまんが道場」(7月17～19日)を行った。 (Aスタジオ)
サタラボまつり“冬の陣”	1.7～10	6プログラムを1日3回(11:30、13:30、15:30)日替わり・時間替わりで実施。お正月用にプログラムをアレンジした「初笑い4コマまんが道場」「ニットに挑戦」「混虫(まぜむし)工場」や、「あったかいぞ!!カイロをつくろう」「おどろきマジックの秘密 てじなの“で”」に加え、音楽事業部の協力で鳥笛を作る「手作り楽器」を実施。 (Bスタジオ)
サタデー・ラボラトリーまつり	H17.3.19～20	「クイズ100問答えてラリー」(3月19・20日)、「おどろきマジックの秘密」(3月19日)、「驚き盤を作ろう」(3月20日)を実施。 (音楽ロビー)

サタデー・ラボラトリー「ニットに挑戦」



サタデー・ラボラトリー「チャレンジ アフレコ！」



サタデー・ラボラトリー「回転のふしぎをさぐる～こまで遊ぼう～」

2. 講座・講習会など

〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
キッズクラブ	(人) 小1～4 (30)	(人) ① 30 ② 30 ③ 30	隔週土曜日 15:00～17:00 (原則)	小学校1～4年生の遊びのクラブ。(1) 家庭や学校では体験できない活動を行う(2) 地域や学校とは違う新しい人間関係作りをめざす(3) 子どもたち自身がプログラムを考え作り上げることで、自発性や発言力を養う——を目的としている。夏休み特別期間に特別プログラム「サマーキッズフェスティバル」を実施。緑日風のゲームコーナーを「ユースクラブ」や「L. I. T.」と共同で作りに上げていくプロセスは相互に良い刺激になったばかりではなく、一般来館児・者との交流を通してメンバーも大きな自信と達成感を得ることができた。開館20周年に向けて、さらにこうした交流の機会を考えていきたい。 1・2期各6回、3期5回。受講料＝各9,000円(1・2期)、8,000円(3期)。
ユースクラブ	小5～中3 (40)	① 36 ② 33 ③ 30	隔週日曜日 13:30～15:30 (原則)	小学校5～中学3年の遊びのクラブ。10代前半の心の成長期に集団活動をとおり豊かな人間形成をはかるのがねらい。(1) いろいろな活動をとおりさまざまな直接体験をする(2) 仲間をとおり人間関係を学ぶ(3) 計画から実施をとおり夢を実現する——を目的とする。前年度に卒業となったメンバーが多く、また近年は中・高校受験の時期に継続できないメンバーも増え、定員を大きく下回っての活動となった。参加者募集のための活動などを活発にして多くのメンバーを集める努力を継続中である。 1・2期各6回、3期5回。受講料＝各9,000円(1・2期)、8,000円(3期)。

〈短期講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
小学生パソコン教室スペシャル～マルチメディア探検隊～	(人) 小4～6 (20)	(人) 8	8.23～27 (5日連続) 10:30～12:30	数人のグループごとに取材手帳とデジタルカメラを持って〔こどもの城〕館内を取材。夏休みのプログラムのおもしろさを担当職員から聞いたり、ふだん子どもたちが接する機会の少ない総合オフィスの職員などにも様子を聞いたりした。取材結果はパソコンを利用して一つのレポートにまとめ、〔こどもの城〕のホームページで発表した。受講料＝7,500円。
小学生パソコン教室スペシャル～ロボットプログラミング入門～	// (20)	17	H17.3.28～31 (4日連続) 10:15～12:45	子ども向けのプログラミング言語「LOGO (ロゴ)」で、コンピュータプログラミングの初歩を学んだ上で、ブロックを組み立てて作ったロボットをうまく動かすためのプログラム(指令書)を作る。最終日にはグループごとに作ったロボットを対戦させるミニゲームも行った。受講料＝7,500円。

〈指導者向け講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
こどもの城児童厚生員等実技指導講習会「パソコン遊びのワークショップ」	(人) 児童厚生員など (20)	(人) 19	6.9・10 (2日間通い) 10:00～16:00	児童館などに導入が進んでいるパソコンをどう活用すれば、子どもたちの遊びを広げることができるか、またその準備作業はどう進めるかなどを、〔こどもの城〕で実施しているプログラムを体験しながら研修を行った。6月のテーマ「パソコンで楽しむバーパークラフト」、11月のテーマ「CGアートを楽しもう!」。 受講料＝10,000円。
	// (20)	17	11.17・18 (2日間通い) 10:00～16:00	

〈野外活動〉

名 称	日 時	内 容
ちびっこ冒険団 2004	7.24～27 (3泊4日)	小学校1～3年生のための合営キャンプ。豊かな自然に恵まれた那須高原を舞台に、班ごとに考えたさまざまなグループ活動を楽しむ。班の仲間と共に“何をして遊ぼうか”“どうやって遊ぼうか”などを相談したり、協力しあうなかで、自己と他者との関係を学んでいったり、協調性や社会性を獲得していくことを大きなねらいとしている。本年度は班活動の活性化をねらい、『遊びサミット』と称したオリエンテーションを行ったり、オリンピック年にちなんで班ごとに世界各国の料理を作る野外炊事『料理ンピック』を開催した。参加者70人、ボランティア22人、職員3人。参加費＝38,000円。 (福島県国立那須甲子少年自然の家)
フェロシップキャンプ 2004	7.31～8.4 (4泊5日)	小学校4～6年生のためのキャンプ。基本は合営とし、1泊は自分たちの作り上げた基地にビバークする。小グループによる活動を基本として、仲間との連携や思いやりなどの社会性を豊かにすることを目的の中心に考えて実施している。本年度のメインの冒険プログラムは、従来行ってきた「沢歩きハイキング」「茶臼岳トレッキング」に替えて、「ワンダートレッキング」を実施した。沢の源流から始まり、次第に大きくなる川にそって歩くこのプログラムは、参加者にも好評で、自然の姿に触れる良い機会になったようだ。参加者42人、ボランティア12人、職員3人。参加費＝45,000円。 (福島県国立那須甲子少年自然の家)
ゆきんこ冒険団 2004	12.25～28 (3泊4日)	小学校1～3年生のための合営キャンプ。冬の自然を感じ、その中で遊ぶことをとおして、仲間との交流を広げる活動を行う。本年度は、土曜日朝に出発できたので現地には昼前には到着。遊びの時間も例年より多く取ることができた。また、暖冬といわれ雪不足が心配されたが、遊ぶに十分な雪に恵まれた。冬の大自然のなか、ソリやかまくら作り、ネイチャースキー、大雪合戦など、思いっきり活動を楽しんだ。班の仲間と話をしながら遊びを決めていく班活動をとおして仲間との関係も深まったようだ。参加者76人、ボランティア27人、職員4人。参加費＝38,000円。 (福島県国立那須甲子少年自然の家)



「フェロシップキャンプ2004」



「ちびっこ冒険団2004」



「ゆきんこ冒険団2004」

3. その他

〈動くこどもの城〉

名 称	日 時	内 容
みんなで遊ぼう パペットランド (みんなであおむしくん)	7.4 プログラム／研修会	午前中は、定期的に活動をしている3歳児とその親を対象とした「うさぎクラブ」のプログラムとして、午後は児童厚生員や保育士を対象に実技講習会。浜川原児童館（岡山市）。
//	9.10 研修会 9.11 プログラム	1日目は近隣の保育士や児童厚生員を対象とした研修会。2日目は「わらすこ広場」に遊びに来る親子を対象に、親子の交流を目的に午前、午後と2回に分けてプログラムを実施。山形県新庄市「わらすこ広場」。
やってみよう！パソコン遊びのプログラム	10.15 研修会 10.16・17 プログラム	「栃木県児童館フェア」に参加という形で実施。1日目は児童厚生員を対象とした研修会。2・3日目は児童館フェアに来た子どもたちに向けてパソコン遊びのプログラムを実施した。パソコンで設計したペーパープレーンを印刷し、実際に組み立てて飛ばして遊ぶという「ペーパープレーンファクトリー」プログラム。栃木県子ども総合科学館。
レクリエーションゲーム大会の演出プラン (忍者マスター決定戦)	10.23 研修会 10.24 プログラム	佐世保市（長崎県）の児童館の交流事業「よっといで交流会」のプログラムとして実施（会場：陸上自衛隊相浦駐屯地運動場）。児童厚生員向けの研修会を実施するとともに、児童館に遊びに来ている子どもたちに「忍者の達人を決める大会がやってきた」という設定の、交流を目的としたレクリエーションゲーム大会『忍者マスター決定戦』を実施した。
みんなで遊ぼう パペットランド	10.28 プログラム／研修会	午前中は、月に2回ほどのペースで開催している「やちの子」という親子教室の3歳の子とその親を対象に親子プログラム。午後は子育て支援にかかわるボランティアや託児支援のNPOグループ・まんな、近隣の佐久や小諸の子育て支援に携わるメンバーや保育士を対象に、実技講習会。八千穂村福祉センター（長野県）が主催する子育て支援事業として実施。
レクリエーションゲーム大会の演出プラン (忍者マスター決定戦)	H17.2.7 研修会	財団法人仙台ひと・まち交流財団が主催する児童厚生員等研修会として指導者向け講習会を実施。今回は子どもの参加するプログラムを実施しなかったため、午前に講習を行い、午後は体験実習という形で指導者側と参加者側に役割をわけて『忍者マスター決定戦』のプログラムを実施した。会場は仙台市中央市民センター。
レクリエーションゲーム大会の演出プラン (モンスターグランプリ)	3.5 研修会 3.6 プログラム	川副町児童館（佐賀県）が主催する「児童館で遊ぼう春の集い」の事業として実施。児童厚生員向けの研修会を実施すると共に、児童館に遊びに来ている子どもたちには「モンスター使いのナンバーワンを決める大会がやってきた」という設定の、交流を目的としたレクリエーションゲーム大会『モンスターグランプリ』を実施した。

〈講師派遣など〉

名 称	日 時	内 容
三鷹市（東京都）学童 保育所指導員研修会	6.17 9:00～11:30	市内の学童保育を担当する指導員を対象にした研修会。実技指導「仲間を広げるグループゲーム」と題し、じゃんけんを使ったさまざまなゲームと新聞紙を使った遊びを紹介した。三鷹市社会福祉協議会会議室。
富山県児童厚生員等講習会	12.9 10:00～12:00	県内の児童館職員、放課後児童クラブ指導員を対象とした研修会。講演のテーマは「健全育成論」。富山県民共生センター。
静岡県放課後児童指導員研修会	H17.2.10 13:00～15:30	県東部の指導員を対象に実施した研修会。「仲間作りゲームのあれこれ」と題し、インシニアティブゲームや室内でもダイナミックに遊べるゲームについて紹介した。静岡県東部総合庁舎研修室（沼津市）。
品川区（東京都）東品 川児童センターボラン ティア講座	2.26 17:00～19:00	小学生を対象としたレクリエーションゲームを紹介し、その指導法を伝える講習会。同児童センターに所属するボランティアを対象にした「ボランティア講座」全5回のなかの1回として実施。東品川児童センター遊戯室（東京都品川区）。
愛知県児童環境づくり 県民講座「やるじゃん！ お父さん」	2.27 13:30～15:00	父親の子育て参加を実際の体験の中から感じてもらうための講座。全4回のなかの「むかしのあそびをやってみよう！」という回を担当。昔から行われている「だるまさんがころんだ」「鬼ごっこ」などの路地裏遊びをアレンジして日常も親子で遊べるように紹介した。あいち健康プラザ ホール（名古屋市中区）。

■キッズクラブのプログラム一覧■

日 時	プ ロ グ ラ ム 名	内 容
4.17	キッズへようこそ！ わくわくゲームパーティー	1回目はジャンケンや名前ビンゴ、クイズなどのゲームで親睦を図った。
5.8	とびだせ！ホップ！ ステップ!! 運動会!!!	「万歩でなんぼ?」「投げたらアカン!」など、ユニークな運動会を屋上で実施。
5.22	キッズ・ザ・ミステリーツアー	班ごとにビデオカメラを持ち、館内の面白いものを発見してレポート番組を作った。
6.12	ギョウれつのできるギョウザ屋さん	全員で役割分担して、焼きギョウザと水ギョウザ作りに挑戦、お迎えの保護者にも試食してもらい、大好評。
6.26	スーパードッジ大会	ドッジボールのルールをしっかりと確認。応用編の王様ドッジも行った。
7.3	水鉄砲を使った陣取りゲーム ウォータープロジェクト IX	水鉄砲を使った陣取りとスイカ割りを実施。「L. I. T.」も加わり、親睦を図った。終了後には夏祭りのアイデア会議も実施。
8.15	キッズ・ユース・L. I. T. 合同企画 会議	「ユースクラブ」「キッズクラブ」「L. I. T.」合同で、夏祭りのゲーム屋台の企画会議。スタッフ扮する実行委員に一生懸命プレゼンする姿が見られた。
8.28	夏祭り合同準備合宿	〔こどもの城〕に泊まりがけで地下2階体育室に夏祭りの会場を設営した。
8.29	夏だ！サマーキッズフェスティバル～全員集合まちがいない～	体育室で夏祭りを実施。大勢の来館児・者がゲームを楽しんでいった。
9.11	アテテネ・オリンピック～クイズ 大会～	夏に開催されたアテネオリンピックをもじった、室内オリンピック風クイズ大会。
9.25	～こどもの城取材班～あの人だ！ ビビッときたらビビッとビンゴ！	館内にいる来館児・者に質問をして、あらかじめ予想した答えが出たら丸をしていくビンゴゲーム。
10.16	～スイートポテト&カボチャタルト～ 秋限定！みんなで作ろうケーキ屋さん	ハロウィンと秋にちなんで、スイートポテトとカボチャタルト作りに挑戦。
11.6	秋の陣取り・新宿御苑の戦い	新宿御苑に遠足に行き、バックカンと人間ジャンケンを実施。
11.20	ドッジボールだよ！全員集合！	4年生にチーム決めや当日進行手順を決めてもらって、子どもの手で実施。
12.11	お楽しみクリスマス会	プログラム係と食べもの係に分かれて準備し、保護者も招いて手作りのパーティーを実施。
H17.1.22	だじゃれカルタで遊ぼう！	家で考えてきたダジャレを使ってカルタを作り、4チームで対戦。
2.5	爆笑！ビデオしりとり	〔こどもの城〕周辺を歩きながら、ビデオを使ったしりとりを実施。
2.19	パンパカパン・クッキング	強力粉、卵、砂糖、ベーキングパウダーなどを混ぜて本格的なパン作りに挑戦。
2.26	キッズメンバー自主運営ドッジボ ール大会	子どもたち自身で班分け、進行、ルール説明などを行う完全自主運営のドッジボール大会。
3.12～13	こどもの城に泊まっていっぱい遊 んじゃおう！	怪人21面相の挑戦を受け、烏山川緑道を搜索に。途中のバレー教室ではマット運動や跳び箱の難題をクリア。最後には怪人21面相の謎を解き、豪華な夕食を入手。他にも陣取りやドッジボールなどの遊びを満喫した。

□ユースクラブのプログラム一覧□

日 時	プ ロ グ ラ ム 名	内 容
4.11	「みんなヨロシク!!」ゲーム大会	ジャンケンゲームなど手軽にみんなで遊べる活動を行い、後半は自己紹介を行った。新入会員も多く、早く慣れるように活動を工夫した。
4.25	思い切り遊ぼう！ ゲーム in 代々木の森	大きな公園の広場へかけて行き、体を動かして「しっぽ取り」「クマ狩り」などのゲームを仲間と思い切り楽しんだ。
5.18	～小江戸の旅～ 川越☆蔵と歴史の物語	埼玉県・川越市へ出かけ「街探検」。班に分かれ街を巡りさまざまな取材をした。最後に班でアピールをまとめ、市長へ手紙を出した。
6.6	魅惑のスイーツ！ コロコロ大騒動の巻	たこ焼き用プレートを用意し、その形を利用してホットケーキを作った。竹串を持って焼く作業へ皆揃って参加することができたのはよかった。
6.27	こどもの城を楽しもう!! 館内のマル秘探し大作戦	班に分かれて他の班の考えた文字を館内から探し出し、1つの言葉に仕上げるゲームを行った。
7.11	本格的クッキング！ UDON作りに挑戦	渋谷区立千駄谷社会教育館の調理室を借りて、本格的なクッキング「手打ちうどん」に挑戦。力を合わせ、取り組む姿が印象的であった。
8.15	キッズ・ユース・L.I.T. 合同企画 会議	「ユースクラブ」「キッズクラブ」「L. I. T.」合同で、夏祭りのゲーム屋台の企画会議。スタッフ扮する実行委員に一生懸命プレゼンする姿が見られた。
8.28	夏祭り合同準備合宿	〔こどもの城〕に泊まりがけで地下2階体育室に夏祭りの会場を設営した。
8.29	夏だ！サマーキッズフェスティバル～全員集合まちがいなし～	体育室で夏祭りを実施。大勢の来館児・者がゲームを楽しんでいった。
9.12	ワクワク！ドキドキ！ウキウキ!! ゲーム大会&企画会議	グループで楽しむゲームの対抗戦。「だるまさんがころんだ」などのなじみ深い遊びをアレンジして体と知恵を使った遊びを展開。後半は互いの夢を語り合い今後の活動内容を検討。
9.26	館内文字探しゲーム	屋外活動の予定が雨のため、館内で文字探しのゲームに。6月に行った内容を発展させ実施。
10.17	すきなものを焼くから「スキ焼き 大作戦」の巻	炭火を起こして自分たちの好きな物を焼いて食べるプログラム。買い出しも自らい、買ってきた物は互いに他の班へ分け合う約束にした。
11.7	UENO ZOO～といってみよう!	メンバーの希望から実施したプログラム。動物の名前などでマスをうめ、実際に回って見学したらチェックしていく。いくつビンゴできるかが勝負。
11.21	2学期最終回企画会議「みんなで 夢を叶えよう」	最終回の内容を全員の総意で決めることを提案、話し合いをした。互いが納得し自分の主張だけでなく他の意見に耳を傾ける姿がみられた。
12.18・19	夢の実現プロジェクト「あそび& パーティー」宿泊プログラム	「みんなのやりたいことをやる」を合い言葉に、日暮れまで代々木公園で遊び、その後パーティーを計画・準備。翌早朝には「館内鬼ごっこ」を楽しみ、みんなの夢を実現することができた。
H17.1.16	明けましておめでと!! ゲーム大会	新しい仲間を迎え、手軽にみんなで楽しめるゲームを行った。リレーをアレンジしたゲームなど身近な題材で仲間の輪を深めることができた。
2.6	ハッスルあそびー！ ゲーム in 代々木の森	公園でダイナミックにフィールドゲームを楽しんだ。2期にできなかったこともあり、「クマ狩り」「Sケン」など大いに盛り上がった。
2.20	遊び爆発！スパイ大作戦!! こどもの国でやってみよう& 最終回企画会議	館内文字探しをアレンジし広い屋外で実施したプログラム。グループ対抗で自分たちは読まれないようにしながら、相手の背中につけた文字や広場の中央に掲げた文字を集め言葉にするゲーム。終了後、〔こどもの城〕へ戻り最終回に向けて作戦会議を行った。
3.6	最終回作戦会議・準備& うまゲームに挑戦!	最終回の企画を決定し、準備。「ユースらしいことをやる」を合い言葉にミステリーツアーを手作りし、一般公開することとした。終了後にメンバーの考え出した「うまゲーム」を行った。
3.19・20	ユース ミステリー ツアー	メンバーの企画・準備・運営による手作りのプログラム。泊まり込みで準備をし一般公開。題にそって今回は「ホテル」をテーマに色々なミステリーを考えて実施。

造形事業部



平成16年度の活動

1. はじめに

開館以来、造形スタジオでは子どもたちが造形体験を豊かにしながら、感性を健やかに育てていく方法として、(1) 新しい視点で素材を探究して、子どもたちに素材への広い関心を抱かせる方法(素材との出会い展) (2) そのままでは素材になりにくい音や光などを制作の媒体としてとらえ、子どもたちの造形感を新しくする方法(造形発見展) (3) 制作活動の基本となる「素材と道具と技法」の3つの関係を理解できるように視覚化した方法(オープンスタジオ)——これらの3つの「ワークショップ」を軸に活動。これらを、順次くりかえしながら、スタジオの運営をしている。

ワークショップの構成要素である“展示”“体験”“制作”という従来の基本コンセプトに加え、プログラムに応じて

環境設定を行い、その環境に子どもたちが積極的にかかわっていただけるようにプログラムを展開した。

本年度は、紙、木、土、金属、竹に続き、新たに“布”という素材をテーマに取り上げた。

(ア) 一般来館児・者へのワークショップ

本年度の一般来館児・者への活動は、私たち人間にとって身近な素材である“布”に焦点を当て、自然素材から化学素材まで、さまざまな種類の布を制作活動をとおして体験できるよう企画した。夏休み特別期間には「素材との出会い展～布と造形」を開催、9月以降も“布”をテーマに「やってみよう！つくってみよう！～布であそぼう」を行った。また、季節の行事を題材にした「こども歳時記」も布を使ったプログラムを実施した。

(イ) 講座・講習会など

講座・クラブの活動では、「こどもクリエイティブクラブ」5コースと、AV事業部と共同で「映・造ワークショップ」を実施。成人を対象にした「大人のための造形表現教室」も前年度に続き実施した。

(ウ) グループ活動

平常期間の午前中は、「かげをうつそう」「木をつくろう」「ねんどのジャングル旅行」「竹体験ワークショップ」を実施した。これらのプログラムは、すでにルーチン化していて、スタッフ全員が交代で進行を担当した。また、事前の打ち合わせを当日の進行担当者が行えるよう調整した。利用者にも、当日の雰囲気伝わりやすく、子どもたちの様子も直接聞くことができ、当日の進行に生かした。



「こども歳時記～お正月」

前年度に引き続き、養護学校などの利用もあり、それぞれのグループのようすに合わせたプログラム構成で行った。「竹体験ワークショップ」の参加グループからは、あまり使う機会がない竹に触れることができ、貴重な体験になった、という意見があった。

リピーターで活動に参加するグループがあるなかで、今後ともプログラムの内容の充実や新しいプログラムの考案が重要になると思われる。

2. 造形活動のテーマについて

(ア) 素材との出会い展～布と造形

私たちは、寒さや暑さから身を守り、害虫や外傷から体を保護するために衣服を身につける。また、ものを包んだり覆ったりして保管したり、運搬を容易にしたりするために布を使う。大昔は、草木の葉や皮、動物の革を利用していただが、次第に麻の繊維や羊毛などを紡いで糸を作ること覚え、その糸を織って布（織物）にするようになっていった。

近代になって合成繊維が出現するまで、天然繊維の主要なものは植物性の麻類と木綿、動物性の絹と毛であった。民族的には、農耕民族は麻などの植物繊維を、遊牧民族は獣毛を紡織したり縮充させてフェルトとして用いていたようである。そして、より早く、より正確に織物を織るために織機が発明されるが、最初の織機は紀元前4200年ごろの新石器時代のものとされている。

古くから私たち人類の身近にあった織物——布。造形スタジオでは、前年度の秋からこの布をテーマにしたワークショップ「やってみよう！つくってみよう！～布であそぼう」を行ってきた。改めて布を造形素材としてとらえ、はる、引っ張る、のばす、つづる、織る、縫う、染める、刷

るなど、いろいろな方法で、手や指先はもちろん、時には体全体で布と接しながら造形活動を展開してきた。

夏休み特別期間には、布を“綿”“絹”“麻”“羊毛”“化学繊維”の5種類に分類し、これらの手触りや肌触り、視覚的な違いなどを体験できる場を設けた。5種類の布の素材感の違いをより分かりやすくするため、造形スタジオを“布の森”のイメージで構成し、5種類の布でできた高さ3mほどの木、布で覆われた大きな動物、鳥などを点在させ、手で触ったり直接身に付けたりしながら、それぞれの布の感触の違いを確かめるコーナーなどを設けた。自然と布をふれあうことから、子どもたちを造形活動の場に導いていった。

毎日夕方の4時から、5歳児以上を対象にしたイベント「布とあそぼう」を実施した。手触りだけで布の種類を当てるクイズ形式のものや、それぞれの原材料がどういふものかイラストと原物（綿花やまゆ玉など）で確認したり、大きな象の造作物に気に入った感触の布切れをはって飾り付けをするなど、遊びの中で素材の違いによる布の違いを体験する場にした。

布に触れ、その布を他の造形素材と同じように表現の材料として用いることは、造形表現の可能性を広げるだけでなく、子どもの造形体験を豊かにすることにもなると考えている。私たちはこういった活動を通じながら、子どもたちの健やかな成長を願ってやまない。

(イ) やってみよう！つくってみよう！～布であそぼう

布は、動植物の細い繊維を糸にしたものを織ったり、縮毛させることによって成立している。布それ自体は平面的なものだが、柔軟性に富んでいるため、“巻く”“丸める”“結ぶ”といった行為を経ることにより、形を変えて生まれ変わる。

春休み特別期間には、一枚の布を巻いたり丸めたりすることによって平面である布が立体物となる、何かに巻き付けることで巻き付けられたものが本来持っている形をより明確化する、結ぶという行為で布同士をつなげたり強靱なものに変化させたりできる——などから、造形素材としての布の可能性を探っていき、布のおもしろさや不思議さなどを子どもたち自身が見いだせる環境を提示した。それらのキーワードを生かして、子どもたちをプログラム制作の場へと導いていった。

造形スタジオ入口では、人の背丈ほどもある『巨大布ロイド（小学生コーナープログラム「布ロイド」の巨大版）』が子どもたちを出迎える。この『巨大布ロイド』は、造形スタジオ内の各コーナーの案内役も兼ねている。壁や天井が、春休みのイメージカラーであるエメラルドグリーンの布で覆われた造形スタジオに入ると、受け付け後ろの壁面



「素材との出会い展～布と造形」

ワークショップ「布とあそぼう」



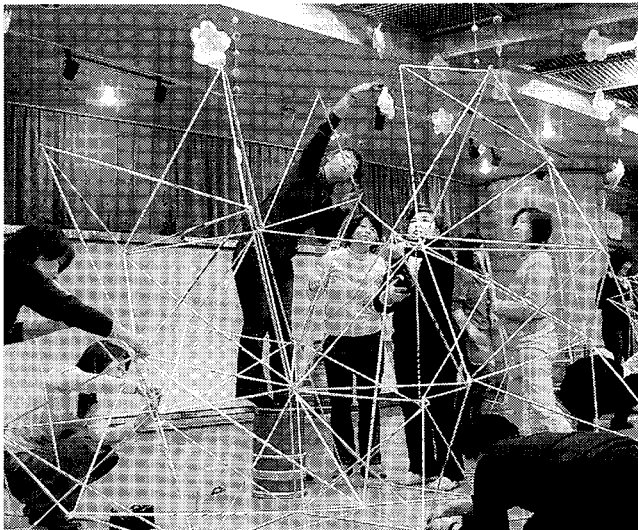
には布帯が渦巻き状(直径20～90 cm)に巻き付けられたオブジェがあり、その下には色とりどりのロール布(反物)50数本が整然と並べられている姿が目飛び込んでくる。このロール布は、“巻く”“丸める”のキーワードに関連させたもの。子どもたちがふだん接することの少ない、工場から出荷されたままの状態では大量の布を提示した。活動材料ストック分として倉庫に保管している布をあえて展示環境に用いている。

展示コーナーでは、垂木を組み合わせた骨組みのオブジェに、赤、青、黄、緑に染められた伸縮性のある包帯を自由に巻き付けて、新しい形を発見する「まき巻き実験室」、外見からは分からないように布が巻き付けられたやかん、スリッパ、バケツなどを外見から中味をあてるクイズ形式の「まき巻き工房」、「着てみる工房」では、ひも同士を結ぶと次々に形が変わる服、お腹や腕、脚などに布を巻き付けるとやわらかかった布がどのような感触に変化するのかが確かめられる服などを提示した。

展示・体験コーナーをとおして、子どもたち自らが布を触り、巻き、丸め、そして結んだりしながら、五感を使って布を体験。布のおもしろさや不思議さなどを遊びの中で見つける場となった。

春休み特別期間中の夕方4時から、「まき巻きワークショップ」を実施した。色とりどりに染めた包帯で、はさみ、鉛筆削り、トンカチから掃除機の吸い口まで、とにかく身の回りにあるものなら何にでも巻き付けてしまうイベント。そのものが本来持っている色や形を布で覆い隠し、

“新聞紙であそぼう”(「大人のための造形表現教室」から)



そのものが本来持っている形を再認識させることが目的。参加した子どもたちは、巻き方を工夫したり、巻きあがったものを互いに見せあったりしながら、布が持つおもしろさを体を使って体験していた。

3. まとめ

開館以来19年間、造形スタジオでは常に、子どもたちの造形体験が豊かであるように、また、感性を健やかに育てていけるようにさまざまな試みを行ってきた。本年度は前年度秋から引き続いて“布”に焦点をあて、「素材との出会い展～布と造形」を実施した。自然素材から化学素材まで多様な“布”を使い、どのように造形表現へと結び付けるかを探り出すことからはじめた。アプローチの過程に新しい発見もあり順調にプログラム開発へと進んだ。

造形事業部とAV事業部は“造形”と“映像”というジャンルを超えて、開館当初から講座「アニメ体験」「映・造ワークショップ」などのワークショップを断続的ではあるが行ってきた。本年度からさらに土・日曜日の小学校高学年対象の「造形実験室」で「アニメーションスペシャル」を実施し“映・造”の世界を広げた。

また、「第8回図工大好き子ども美術展」や「鉄はうたう vol.3」を実施した。〈動くこどもの城〉をはじめとする普及活動でも外部の社会福祉や教育関連の施設や団体とも協力し、共同事業を積極的に行った。これらの活動をとおして、造形スタジオの活動も幅を持てるようになるので、今後とも継続実施していきたい。

平成16年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
やってみよう! つくってみよう! 「布と造形」	4.9~16、5.8~6.20、7.8~16	夏休み特別期間プログラム「素材との出会い展~布と造形」に向け、プログラム試行のステップとしてプログラム開発、実施、再考を行いながら、布を体験的に学ぶワークショップ活動を実施した。
〃	9.4~10.31、11.9~12.5、H17.3.4~21	春休み特別期間プログラム「やってみよう! つくってみよう! ~布と造形」に向けたワークショップ活動を実施した。
こども歳時記		
端午の節句	4.20~5.5	「布と造形」期間中なので、布を中心にした構成の展示をした。廊下壁面に全面ミラーシートをはり、いろいろな素材の布で作ったコイを、泳いでいるように飾った。合わせ鏡にはたくさんのコイが映りこんで見えた。ロビーのスロープには5色に色分けしたコイに、それぞれの色の柄の布でうろこを作り、パナーとして飾った。スタジオ入り口に、小学生プログラム「鯉きんちゃく」の巨大版を飾り、プログラムへの誘導役とした。スタジオ天井には、高学年プログラム「造形実験室」で実施した、染めのプログラムで子どもたちが染めた布をつぎあわせ、コイの頭と尾をつけた全長3mのコイ6匹がダイナミックに泳ぐように展示した。壁面には、いろいろな素材、唐草などの柄の布に目玉をつけコイのぼりを飾った。スタジオ奥は、コイのぼりに変身できる体験コーナー。「鯉きんちゃく」の大型版やコイ模様のエプロン、手ぬぐいなどを身につけて遊べるようにした。また、前年度に引き続き、端午の節句にちなんだ全国各地の伝統的な民芸品も展示。ふだん見る機会が少なくなったこと、それぞれの地域固有の形や素材感などが保護者にも好評だった。
七夕	6.23~7.7	廊下壁面のミラーを生かして、布で作った星を飾ると、合わせ鏡には無数の星が映りこんで見えた。スタジオ壁面と天井には、親子プログラム「紗・天の川」材料と同種類の長い紗の布を天の川にみたくて飾った。スタジオ入り口やスタジオ内壁面には布や紙で作った星やカササギ、その周りに織り姫、彦星を飾った。
クリスマス	12.7~25	廊下の壁面全面に赤と白の布を交互にはり、布で作った旗や星、雪だるまなど、クリスマスにちなんだアイテムを飾った。ロビースロープには、春休みに展示した布で作った動物のタペストリーをアレンジして、クリスマスのアイテムを縫いつけて飾った。スタジオ入り口には、骨組みになる自然木を四角すいに組み、メッシュの布で覆ったツリーを設置、内部に4色のスポットライトを仕込み、スイッチ操作で色彩を調光できるようにした。スタジオ内や入り口は、親子プログラム「クリスマススノメント」のような、布のオーナメントで飾った。スタジオ壁面には、レリーフ状の巨大サンタクロース、トナカイを飾った。また、扉を開くとクリスマスについての絵と説明が見られるものも展示した。スタジオ奥には、布のおもちゃで遊べるコーナーを設置。スポンジで作ったクッション人形、棒状のクッションをスナップで形を変えたりつなげたりして遊べるもの、マジックテープがついた飾りをはり変えて遊べるものを用意した。プログラム制作に参加できない幼児も、布の素材を楽しめるコーナーとなった。
お正月	12.26~H17.1.16	廊下壁面の赤と白の布に、干支の酉（とり）や正月アイテムを布で作りにぎやかに飾った。床には、カッティングシートで作った鳥の足形をはり、スタジオへの誘導とした。ロビー天井とスロープ壁面には、全国各地の凧と説明のパネルを展示した。スタジオ入り口の四角すいの立体物は、クリスマスツリーから鳥のオブジェに変身、引き続きスイッチ操作で調光して遊べるようにした。スタジオ入り口前には、お正月の賑やかな雰囲気を出すために、紙の筒で作った鳥居を設置したり、布で作ったレリーフ状の大きな羽子板を飾った。スタジオ内は、レプリカの凧、布で作った半立体の獅子舞、さまざまなお正月アイテムを飾った。二の鳥居、三の鳥居と「御酉神社」を作り、そこでイベントを実施した。鳥にまつわることわざが書いてあるおみくじを引き、絵馬に一年の抱負を書き神社に飾った。また、鳥スタンプコーナーも設置し、幼児でも参加できるようにした。スタジオ奥には遊べるコーナー。親子コーナーで作った「お正月かぶつとり」をかぶって、布で作った鳥の羽がついたマントや鳥の足を着けて変身できるもの、マジックテープがついた顔のパーツを付け替えて遊べる布で作った福笑いなどを用意した。正月のならわしについて文章と絵で紹介したもの、干支にちなんだ全国各地の伝統的な民芸品も展示した。

名 称	日 時	内 容
こども歳時記		
節分	1.18～2.3	廊下壁面の赤と白の布に、布で作ったレリーフ状のこん棒や豆、鬼の服を飾った。スタジオ入り口の四角すいの立体物は、鬼の頭と手をつけて鬼に変身、引き続き4色の光りをスイッチ操作で調光して遊べるようにした。正月用展示物の鳥居は、目や角、鼻などをつけて鬼の門とした再利用。スタジオ内は、布で作った鬼と福の神、豆やこん棒、ますなどで装飾した。また、親子プログラム「オニカクレテン」の大型版を設置。ひもを引くとカーテンが開き、節分にまつわる習わしと、その絵を見ることができるもので、幼児もその動きを楽しんだ。
桃の節句	2.4～3.3	廊下壁面は、交互にはった黄緑、ピンク、白の布の上に、布で作ったレリーフ状の桃の花やだいたい、おひな様を飾った。床に、カッティングシートで作った桃の花をたくさんはり、華やかな雰囲気を作った。ロビースロープには、各地の民芸品のおひな様を圖案化したタペストリーをつるした。スタジオ入り口には、照明の点滅にあわせて着物の柄が見え隠れする行灯のおひな様を飾った。スタジオ内は布で作った桃の花やだいたいやおひな様、天井には桃の花やちりめんで作った飾り、床にはカッティングシートの花——花に囲まれた環境となった。スタジオ奥のひな壇には、紙の筒で作ったおひな様と三人官女。小学生プログラム「かたぞめびな」で型染めした布を張り合わせて、着物の柄にした。また全国各地の民芸品（おひな様）も展示。

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈夏休み〉 素材との出会い展 「布と造形」	7.17～8.31、9.5～7	天然素材としての布から化学素材の布まで多様な布を体験できるように環境を整備し、展示・体験・制作のワークショップを展開した。
〈開館記念〉 第11回親子体験ワークショップ	11.2～7	親と子が積極的にかかわるプログラム「親子ワークショップ」の11回目。プログラムは「あっちこっちリング」。特別に親にも材料がわたされ、親子で協力して制作した後、リングの一部を交換したり、友だちとあわせてみたりと、さまざまな人とのつながりが生まれていた。
〈 〃 〉 開館19周年記念 第19回造形スタジオ展	11.1～24	平成15年11月～16年10月に実施した一般来館児・者対象のさまざまなプログラムと、「こどもクリエイティブクラブ」の作品を、活動風景写真などをまじえたパネルで展示。見ただけでは伝わりにくい触感や動きを楽しむプログラムは、触れることができる見本を展示し、来館児・者を楽しませた。一般来館児・者プログラムでは、同時期に実施した親子コーナーと小学生コーナーを1枚のボードの上下に配置して展示した。また、「造形実験室」（小学4年生以上が対象）で実施した“染め”のプログラムについては、技法の違いを掲示するとともに、子どもたちが染めた布をつなぎ合わせ、隣接する小学生コーナーとの仕切り布として展示した（幅1m×長さ2.5mほどのもの3枚）。
〈春休み〉 やってみよう！つくってみよう！ 「布であそぼう！」	H17.3.23～4.5	布を体験的に学ぶワークショップ活動を実施した。



第19回「造形スタジオ展」

2. 講座・講習会など

〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
こどもクリエイティブクラブ A 土の冒険〜クレイワーク	(人) 小1〜中3 (20)	(人) ① 13 ② 15 ③ 13	火曜日 16:00〜17:30	土に触れ、たいたたり、のぼしたり、ひもにしたり、道具を使って変化させる。表現の材料として土を用い、子どもたちが造形表現の可能性を広げられるよう指導した。1期は「かたまりからの変化」。大きな粘土の塊を使い、体全体を使った活動。粘土はどうすればできるのかを体験するために、3種類計60kgの土の粉に水を入れ、手で混ぜたり踏んだりして大量の粘土を作った。続いて、「虫食いハウス」(くり抜き)、「ナゾの宇宙生命体」(つまみ出しとくり抜き)、「たまごをつくろう」(くり抜き、象がんと、磨き)、ひも状にした粘土をつなげてつくる「リング・リング・リング」などを制作。2期は「板からの変化」。たた板の厚さの粘土の板「たた」を作り、筒型に巻いて「かびんをつくろう」「トテムポール」。「トテムポール」は全員の作品を重ねると2m以上の高さになり、子どもたちも歓声をあげていた。その他、四角く切ったたたを箱状に組み立て、粘土で作った宝物を入れる「宝箱をつくろう」など。3期は「ひもからの変化」で、ひも状にした粘土を積み上げて作る「わくわくランド」「ヘルメットランプ」などを制作。これらの体験をとおり、子どもたちは与えられた粘土だけで作るのではなく、自分たちが使う粘土が何からどのようにできているのか、また粘土同士を組み合わせた方や土の変化の過程、触感の変化などを、それこそ体全体を使って感じとっていた。
〃 B 素材の楽しみ〜ゆかいな造形	〃 (20)	① 22 ② 20 ③ 19	水曜日 16:00〜17:30	布、木、金属、プラスチックなどのさまざまな素材を用い、そしてそれら素材に見合った道具を使い分け、遊びをとおりより深い造形体験をすることが基本。本年度は、“布”によるさまざまな造形活動を行った。1期は、“染め”がテーマ。いろいろな絞り染めで染めた布をコラージュして「のれんをつくろう」、浸染の技法で染めたガーゼの帯をアルミ線の骨組みに巻き付けて「ミイラクンの家」、ステンシル技法で模様を作る「まほうつかいのぼうし」。2期は、簡単な織りや羊毛の縮毛、裁縫などの技法を取り込んだ作品作り。「ケイタイゲーム盤〜オレキング〜」は、フェルトにマス目を毛糸で縫い込んだゲーム盤に、布と木を組み合わせて作った駒を配置して対戦するもの。携帯用に布製の巾着も裁縫によって制作した。羊毛を縮毛させてフェルト化したものを木に見立て、布で作ったいろいろな動物を飾る「フェルト家の住人」、自由に組み合わせた自然木にたて糸とよこ糸を織り込んでいく「あみあみリース」を制作した。3期は、布と他の素材を組み合わせた。ガーゼと石膏を組み合わせた石膏帯で家、木、小山などを作り、その中に光源を仕込んで作品を幻想的に浮かび上がらせる「ホワイトハウス」。迷路を作り、コース上にスポンジやひも、竹、釘などでふわふわや凸凹、行き止まりなどの障害物を設定し、全体を伸縮布で被って指先感覚だけでビー玉を動かしながらゴールをめざす「ゆびさき迷路」。子どもたちは、さまざまな素材や道具、技法に接し、個人の造形表現の幅を広げながら、それぞれに楽しみを見出していた。
〃 C 親子でアート〜わくわくアート	(組) 5歳児と 親(10)	① 12 ② 6 ③ 8	木曜日 15:30〜16:30	身近にある材料、素材を使って、親子で協力して制作したり、それぞれが制作したりする。互いに触発しあいながら、新しい親子のかかわり方、大人と子どもの関係を見つめ直していくことがねらい。1期は、色紙を水でふやかしてミキサーでドロドロにした後、好きな形にして固める「お弁当セット」、型取りした石ころの自分の指をコマに見立てた「〇×ゲーム盤」、靴底がスタンプになっている「ベタベタサンダル」で床に敷いた紙の上を歩いて作る巨大版画。みなれた物が姿形を変える楽しさ、不思議さ、新しい素材の触感などを体験。2期は、自分の手のコピーを面に仕上げた「分身おめん」、紙粘土に水を加えてやわらかくし、絞り出しやへら塗りで作る「紙ねんどケーキ」、全員で、直径15mほどのドーナツ形に敷きつめた羊の原毛をフェルト化させた「フェルトドーナツ」、同じ原毛で「ふわふわの帽子」も制作。角材を釘、金具、針金で飾る「ハリネズミカー」など。3期は、筒状の金網を胴体に色セロハンなどで飾り付けた「金網ドリ」、オーブンで焼ける粘土を使った「ねんどランド」、素材からデザインまで自分で決める「親子マラカス」など。時間を忘れて黙々と、時に会話をはずませながら、親子同士がしだいにうちとけ、楽しい活動を終了した。

※「クレイワーク」：1期12回(30,000円)、2期11回(27,500円)、3期9回(22,500円)。各期ごとに焼成費8,000円が必要。

※「ゆかいな造形」「絵本の世界へ」「ハンスワーク」：1期11回(27,500円)、2期12回(30,000円)、3期9回(22,500円)。

※「わくわくアート」：1期11回(33,000円)、2期12回(36,000円)、3期9回(27,000円)。

※「映・造ワークショップ」：1期7回(17,500円)、2期7回(17,500円)、3期5回(12,500円)。

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
こどもクリエイティブクラブ D イメージする楽しみ～絵本の世界へ	(人) 小1～中3 (20)	(人) ① 11 ② 9 ③ 8	金曜日 16:00～17:30	製本された本の形にとどまらず、さまざまな素材や形態で造形物を制作。その中に、“お話し”的な要素を取り入れ、子どもたちがイメージを喚起しやすいようなプログラム作りをめざした。各プログラムの完成度を高めるだけでなく、それぞれの子どものペースに合わせて、内容を展開させていくことを心がけた。1期は、自分たちの中にある“お話し”的なイメージを視覚的に表現できるように、いろいろな素材や技法の体験が中心。新聞紙面から自分の名前や文字を見つけ、コラージュ技法で名札を作った。スタンピングの技法を使って、講座中に使う制作台のカバーを共同制作。そのスタンプを使い講座中に身につけるエプロンも作った。「フェルトのマスコットとその街」では、羊毛を縮毛しフェルト化した立体のキャラクターと、のこぎりや金づちなどの道具を使って街の建物などを制作。すべてを収納できる箱も作り、宝箱のようにした。「影遊び&タペストリー」では、写真用のマウントにいろいろな素材を入れて布のスクリーンに投影。その布に背景となる絵をペイントし、再度そこに透明なシートに描画したものをOHP投影機で映した。光りと影の関係を子どもたちの視点で見えていくプログラムが展開していった。2期は、いくつかの場面で構成される造形物を制作した。「透明シート絵本」では、透明なシートに描画をし、重ねたり、またページを減らすことによって、絵の構成が変化するのを楽しんだ。布を素材とした「着せかえアーム人形」「からくり洋服絵本」も制作した。アーム人形は、上下が分かれている筒状のもので、2体作り、入れ替えて遊ぶことができる。洋服絵本は、子どもたちが実際に着られるボンチョ型で、縫う、編むなどの技法でポケットや扉をつけ、そこから飾りが出てくるなどの仕組みを作った。3期は1年の集大成。世界に1冊しかない絵本作りをした。「商店街絵本」では、箱の中にお店を作り、1年間に体験した技法から好きな方法を選び、キャラクターも制作。自分たちで小物を配置し、場面場면을指導者がデジタルカメラで撮影。プリントアウトした写真を自分たちで合紙製本をした本にはりこみ、そこに絵やおはなしを書いていった。自分たちが作った立体物が絵本になったことで、充実感があつた様子。“商店街”というテーマも子どもたちのイメージを喚起した。ほかの子どもの作った店に、自分たちのキャラクターを遊びに行かせて撮影するなど、互いにコミュニケーションが深まっていた。一年をかけて体験したことが、3期に生かしていた様子だった。
// E 創造探検～ハンスワーク	小4～中3 (20)	① 9 ② 5 ③ 5	土曜日 16:00～17:30	プログラム内容、子どもの着想、目的などにあわせて、手道具から電動式の工具まで幅広く活用。キット的に組み立てるのではなく、構造や仕組みなどの理解を深め、じっくりと思考して制作。素材、技法、道具などについて、より良い知識を蓄積し、造形表現の力を養うクラブ。紙、木といった一般的な素材に加え、石こう、金属、樹脂など、抵抗感のある素材や新素材を積極的に取り込み、日常にひそむ物の形、色、法則、不思議さの発見をめざした。本年度は“動き”をキーワードにプログラム展開をした。クランク、カム、ギヤといった仕組みを使って動く作品を制作しているアーティストのビデオを見て、それぞれの機構が持つ動きを確認。各自「クランクくん」「かむcômBOX」を仕上げた。アルミ線をしんにして自在に体をうねらせる丸木の「ウッデンオブジェ」、揺りかごの原理を利用した「ロッキンオブジェ」を制作。ゼンマイやモーターなどの動力を活用した作品作りも進めた。プラスチックの絵の具カップに溶かし固めた合金（重り）を入れてバランスをとり、水中に半分だけ体を沈めて進む「謎の水中生物」、ゼンマイの振動によってバタバタと弾けるように動き回る「ゼンマイくん」を制作。また、じっくりと手を動かすことを目的にして、銅のお皿、鉄のスプーンを1枚の金属板から、打ち出し技法を使って根気よく仕上げた。
// F 映・造ワークショップ	// (10)	① 4 ② 2 ③ 2	日曜日 13:30～16:30	“時間”“動き”“光”を伴う映像性と“素材”“色”“形”“触覚性”を持った造形性の融合によって生まれる総合的な表現を子どもたちとともに追求するクラブ。1期は高校1年生、小学6・5・4年生とそれぞれ年齢も経験も違うメンバーが集った。“いつ”“どこで”“なにが”“どうした”というテーマでそれぞれの経験などにあわせた技法で制作した。2期はメンバーが2人になり、“光り”をテーマに原始人の朝から夜までを粘土や他の素材を使って人形などを作り、撮影した。3期は“ピープショウ”の大型判を制作。一般活動の「造形実験室～アニメーションスペシャル」との相乗効果を期待したが、参加者は増えなかった。次年度は短期講習へ移行し、高学年でも参加がしやすいようなスケジュールを考え、プログラムを再検討したい。協力：名古屋芸術大学前田ちま子氏

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
大人のための造形表現教室	(人) 保育士、児童厚生員、学校教員、児童の造形教育、表現教育に興味のある人 (30)	(人) ① 12 ② 18 ③ 22	木曜日 18:30~20:00	児童の造形教育の新しい方法論を開拓したブルーノ・ムナリーの造形思考を柱に、造形スタジオで行った子どものためのワークショップ「アートとあそぼう」をはじめ、造形スタジオで実施してきたプログラムなどの資料と活動をととして、造形表現とは何かを体験していく講座。本年度はムナリーの子どもと一緒に制作する創造的絵本『みんなともだち』をテキストの中心にし、造形スタジオの活動から「かげをうつそう」「竹体験」「新聞紙のオブジェ」などを実施した。 受講料=1期(9回) 18,000円、2期(12回) 24,000円、3期(7回) 14,000円。 講師は、岩崎清・元こどもの城造形事業部長(ギャラリーTOM副館長/武蔵野美術大学非常勤講師)

《短期講習会》

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
夏休み造形教室 A モコモコフェルト帽	(人) 小3~高3 (5日間 計75)	(人) 延べ 28	7.24~28 10:00~16:30	はぐした羊毛をたくさん重ね、湯溶き洗剤をつけてよくもむと、フェルトに変化する。できあがったフェルトに、さまざまな素材で飾り付けると、夏はオブジェに、冬は帽子となる。受講料5,000円。
// B そめコラクッション	//	延べ 69	7.31~8.4 10:00~16:30	ビー玉絞り、板締め絞り、折り染め——など数種類の技法で染めた布をカラージュしながらクッションを制作。受講料5,000円。
// C あみむめん	小3~高3 (5日間 =2回/日= 計150)	延べ 13	8.7~11 10:00~12:30 14:00~16:30	荒目の網の目に、布や糸、ボタンなどを縫う、くぐらせる、結ぶ、引っ掛けるなど、いろいろな方法で飾り付け、思い思いのお面に仕上げる。受講料3,000円。
// D パッチアニマル	小3~高3 (5日間 計75)	延べ 48	8.14~18 10:00~16:30	垂木で骨組みを作り、厚手の段ボールで覆って好みの動物を作る。各種の布を使ってパッチワーク感覚で飾り付ける。脚にはキャスターをつけ、乗って動かすことができる。のこぎりや電動ドリルなどの各種工具も体験。受講料5,000円。
// E からくりパペット	小3~高3 (5日間 =2回/日= 計150)	延べ 137	8.21~25 10:00~12:30 14:00~16:30	針金を曲げて作ったクランクに、関節のついた人形を組み合わせる。レバーを回すと、人形がユーモラスに動き出すからくりおもちゃ。受講料3,000円。



夏休み造形教室D「パッチアニマル」



夏休み造形教室A「モコモコフェルト帽」

3. その他

〈動くこどもの城〉

名 称	日 時	内 容
造形ワークショップ	6.26・27 (ワークショップ)	「いろのまほうつかいエリック・カール絵本の世界」展の関連事業の一つとして実施。平成12年(2000年)に「こどもの城」でエリック・カール氏と共同で実施した「コラージュワークショップ」をもとにしたワークショップを実施。26日は大人50人、27日は小学生以上の子ども30人と3歳以上の親子30組が参加。ここ数年、造形事業部が「ムナーリ展」をはじめ地域の美術館に協力してきた活動の一つ。 (新津市美術振興財団新潟県新津市美術館)
造形ワークショップ+ 造形ワークショップ展	12.8(実技研修会) 12.8~H17.1.16(展示)	19年間の造形スタジオの活動のなかから、一般親子を対象とした「こども歳時記」のプログラム「リンリンクリスマス」「バクバクししまい」「によっさりオニ」「のほりこい」のプログラムを紹介した。あわせて1月16日まで「造形ワークショップ展」を開催した。岐阜県児童厚生員等実技研修会、52人参加。 (岐阜県社会福祉事業団 梅林児童館)

〈講師派遣など〉

名 称	日 時	内 容
第8回園工大好き子ども美術展	9.14~10.11	東京都小学校図工専科教師の有志団体「東京児童幼画堂」との共催で、都内公立小学校の子どもの作品展をギャラリーで開催。テーマは「ラブ&ピース」。学年別に展示。今回初めて、「こどもクリエイティブクラブ」の子どもの作品も展示(こどもの城)では4回目。 (ギャラリー)
和歌山県児童厚生員等資格認定研修会	9.15	一般親子向けのプログラムなかから、「マペット」「竹のぼり」「ひかりのチューブ」を取り上げて紹介。参加50人。 (県民交流プラザ和歌山ビック愛)
秋田県児童厚生員等実技研修会	9.24	人気の高かった一般親子向けプログラムのなかから、いくつかのプログラムを取り上げて紹介。主催は秋田県児童館連絡協議会。100人参加。 (秋田県生涯学習センター)
平成16年度第2回こどもの城児童厚生員等実技指導講習会	10.20・21	「児童館リフォーム大作戦〜環境〜」というテーマで、造形スタジオの環境作りのコツや変遷を画像を見せながら解説。機構が同じでもテーマによって設定をかえられることを「インディアン」「コラージュ」を制作して体験した。 (こどもの城)
横須賀市立美術館準備室ワークショップ	11.8	平成19年度開館予定の横須賀市立美術館の事前プログラム。ブルーノ・ムナーリのワークショップ「木をつくろう」を実施。小学1年生32人参加。 (市立夏島小学校)
山口県実技研修会	11.12・13	「コラージュワークショップ〜色であそぼう、形であそぼう」を実施。12日は児童厚生員をはじめとした指導者対象(参加56人)、13日は小学生以上の親子を対象に実施(参加10組)。コラージュ技法全般について時間をかけ、じっくり紹介した。 (山口県児童センター)
日本保育協会地域子育て支援センター担当者研修会	12.2	日本保育協会主催の実技ワークショップ。プログラムは、「マペット」「竹のぼり」「リンリンクリスマス」を実施。参加50人。 (造形スタジオ)
鉄はうたう vol. 3	H17.1.18~2.13	ユーラシア大陸を中心に世界中に分布し、生活に密着した音具「口琴」の展示とコンサート、クリニックを行った。今回は、東シベリア・サハ共和国の口琴「ホーム」を中心に世界各地の口琴を展示。愛知万博へ参加予定のキム・ボリーソフ氏(サハ共和国)を中心としたコンサートを21日に開催した。クリニックは22日に実施。あわせて、サハの子どもの口琴の絵画展「心のメロディー」も開催。主催は日本口琴協会、こどもの城造形事業部。サハ共和国文化省が後援。 (造形スタジオ)
埼玉県児童館連絡協議会南部ブロック	2.9	一般親子向けのプログラムのなかから、「マペット」「竹のぼり」「リンリンクリスマス」を取り上げて実施した。 (鳩ヶ谷市役所市民フォーラム)

平成16年度プログラム一覧表

1. 親子プログラム

名 称	内 容
〈布と造形〉	
ぬのコラージュ	さまざまな色、柄、材質の布を、15 cm角のケント紙の台紙のにりではりながら絵や模様を制作するコラージュ遊び。
へんしんクロス	ケント紙を半分に折り、下側（内側）に布で飾り付けをする。上側（外側）の紙に切り込みを入れ、めくって見える下側の飾りに合わせて別の飾りをする。上の紙をパタパタ動かして飾りを変化させることのできるモンタージュ絵本。
あやつり布	布を切ったり、はり合わせたりして作った人形の脚の部分はケント紙の台座にはり付け、頭や体にはたこ糸をつけて竹ひごに結び付ける。台紙を持って竹ひごで釣りあげれば操り人形の完成。
うでマキーフ	10×15 cmの布で好きな形を切り、輪にしたアルミ線を小さく切ったクロス紙でのり付けしてとめる。色々な布で飾りをする。アルミ線が自在に曲がり、腕にピタッと巻き付けられる。
糸へんげ	ケント紙にペンで基本となる絵（形）を描く。動かすところを決めて、ポンチで穴を開け糸を通す。糸の部分が自由に動く絵ができる。
なんですタイ？	6×30cmの細長い布の片端に、ポンチで2か所穴をあけて毛糸を通す。布には自由に飾りをつける。毛糸を首の後ろで結んでオリジナルネクタイの完成。
レリーフ布	ケント紙を好きな形に切る。布をかぶせ、新聞紙を丸めて詰めながら、形にあわせてホッチキスでとめる。レリーフのように片側がモコッとした布のオブジェ。
つつむくん	15cm角ほどの布で丸めた新聞紙を包み込む。口をアルミ線でしばり、形を整えて手足にする。飾りをつけて、小さな布の人形が完成。
カップリン	長さ20cmのケント紙の帯を輪にし、その輪に長さ15cmのケント紙の帯4本をつけてドーム状の土台を作る。全体を布で飾りながら覆う。おもしろカップの完成。
ペコップ	クロス紙を自由な形に切り、紙面の端に毛糸を小さな布でのり付けする。紙面のまわりに糊をつけて布にはる。クロス紙の形に合わせて布を切り抜く。飾りをつけて完成。本体の端を押さえて毛糸を引っ張ると、ペコッとおじぎをする。
くるりもめん	10×15cmの布で、ぶら下がっているような形の人形を作る。竹ひごのにりでとめてぶらさげる。竹ひごをゆっくり回転させると、人形がクルリとユーモラスにまわる。
カクレンボウ	割り箸に布をろうと状に巻き付け、絞り口を輪ゴムでかるくとめる。布が開いている方の割り箸の先端に、2～3 cm角のスポンジをつけて布で包み込み、輪ゴムでとめて頭にし、体の飾りをつける。ろうと状の布をスライドさせると人形が隠れたり、現れたりする。
あっちこっちリング	5×10cmのフェルトを指に入るサイズで筒状のにり付ける。2・3個のリングに切り分け飾る。上下を変えたり、位置を変えたり、交換したりできるリング。
フラフラーフ	12cm角の布に輪にしたアルミ線をつけて飾る。台紙（ケント紙）に立てた長さ30cmほどのアルミ線の先端に、飾った布を傘のようにとりつける。バランスを見てアルミ線を曲げて、自立するようにする。台紙をゆすると布飾りがフラフラとユニークにゆれる。
布ッタージュ	B5サイズほどの白い布を、スタジオに設置された金網やでこぼしシートにのせて、上からクレヨンでこすって模様を写し取る。封筒のような形で片手の入るよう3辺をのり付けする。フロッタージュ技法を用いて飾り付けた布のパペット人形。
くるりぼたん	厚紙にポンチで穴をあけボタンにし、带状の布の片端に糸でとめる。反対側の端には、切り込みを入れてボタンホールを作る。ボタンを目やタイヤに見立てて飾り、腕に巻いて遊ぶ。
ラップテップ	布に指の出る大きさの穴をいくつか開ける。布は三角形にはりあわせ、手を入れられるようにする。穴から指を出して、何か生き物に見立てて飾る。手の動きが直接表情として伝わる“布生物”。

名 称	内 容
〈こども歳時記〉	
〈端午の節句〉 およげ！ pees・ゴイ	紙をもんで柔らかくし、筒状にのり付けする。布を使って飾りつけをするとコイの指人形が完成。
〈七夕〉 紗・天の川	紗の布を带状に切り、天の川を作る。布の両端をホッチキスで半分に折った紙にとめる。布で飾りをする、七夕カードの完成。
〈クリスマス〉 クリスマス・ヌノ メント	布をのり付けして袋状にする。スポンジを中に入れ、ひもを通す穴をポンチで開ける。布で飾り付けをすると、クリスマスツリーに飾れるオーナメントの完成。
〈お正月〉 お正月かぶつとり	带状の紙をホッチキスでとめ、帽子の骨組みを作る。そこに布を被せ、固定する。干支にちなんだ鳥の飾りをする、帽子の完成。
〈節分〉 オニカクレーテン	紙と布に、ポンチで風糸を通す穴をあける。糸を引くとカーテンが動き、紙に飾ったオニが現れる。
〈桃の節句〉 ひながえし	棒の両端にスポンジと布で飾りをし、おひな様を作る。ひっくり返すとおびな、めびなと変身する。

2. 子どもだけのプログラム

名 称	内 容
〈布と造形〉	
ヌイヌイ	木枠に布をホッチキスでとめ、ベースを作る。飾り用布をベース布の上でレイアウトし糸でぬう。最後に布を木枠からはずして、コラージュハンカチが完成。 (小2以上、1時間)
めのはるよ	3層ダンボールで動物、人、建物などのパーツを作る。各パーツを木工用ボンドで固着し、つなぎめを和紙で補強する。全体に布をはり、飾りをつけて完成。 (小2以上、1時間)
デルーフ	厚紙を好きな形に切る。布を厚紙より一回り大きく切り、数か所穴をあけておく。厚紙には長さ25cmの带状の布3本の両端を好きなところにホッチキスでとめる。布をかぶせて厚紙と接着。布にあけた穴から帯布を引っ張り出したり、詰め込んだりして遊ぶ。 (小2以上、1時間)
布クルダンス	9cm角の1層ダンボールを2枚、好きな形に切り、中央にポンチで穴を開ける。1枚に竹ひごを通し、先端を和紙で固定する。長さ10cmほどの布で飾りを作り、ダンボールにぶら下がるように接着する。もう1枚のダンボールを下から布に接着。飾りをつけて竹ひごを回せば、体をよじらせて踊るおもちゃの完成。 (小2以上、1時間30分)
クツとん	15×30cmの布を正方形になるよう半分に折って、2辺の端を縫う。エアークッションを適量詰め込み縫い閉じる。クッションとざぶとんのような物体が完成。 (小2以上、1時間30分)
めのがため	自分の手の形に切ったガーゼを、水で溶いた石こうに浸し、段ボールに立てたアルミ線の骨組みにかぶせて硬化させ、ドームや生き物のすみかに見立てて飾り付ける。 (小2以上、1時間30分)
かたそめーる	型紙にポンチで穴をあけて模様を作り、布の上に置いて穴に染料をつけていく。最後に固着処理をすると、型染め技法を使ったハンカチができる。 (小2以上、1時間30分)
ロープナー	綿のロープを端からほどいたり、再び束ねたり、編んだりして布で固定する。飾りをつけて、不思議な生き物に変身。 (小4以上、1時間)
バベップ	伸縮性のある布を丸く切って、端から1cm内側を針と糸で縫う。糸の両端はまとめて結ぶ。手にはめて糸をしぼると、巾着のようにすっぽり手を包み込む。手の動きに合わせて表情をかえる飾りをつけて完成。 (小2以上、1時間30分)
フェルダー	フェルトを2枚重ねて、大きく好きな形に切る。形にそって、フェルトの端にポンチで穴を開けていく。穴を毛糸を通して縫い合わせ、エアークッションを詰めてふくらませる。飾りをつけたら首からぶら下げて完成。 (小3以上、1時間)

名 称	内 容
〈布と造形〉	
フニャール	長方形のスポンジを切ったりはったりして、土台となる形を作る。全体を伸縮性のある布で覆って飾る。握るとフニャッとした不思議な感触に出会える物体。 (小3以上、1時間)
アミネット	曲げやすい、1cmピッチの亀甲金網を使用。好きな形に曲げて、毛糸を縫い込んだり、結んだりして飾りをつけ、生き物に仕上げる。 (小3以上、1時間)
ヒネップ・クネツプ	長さ4cmに小割(角材)をカットして、ドリルで穴をあける。アルミ線を半分まで通して、片方(からくり部)は?の形に、もう一方はレバーになるようL字に曲げる。からくりが隠れるように布を袋状にして小割にはり付ける。レバーを回すと布がひねられ、クネツとした動きを見せるからくり玩具。 (小2以上、1時間)
フェル棒	太い木の枝にドリルで穴をあけ、手足となる竹ひごを差し込む。羊の原毛をからませて石けんを溶かした湯につけ、よく揉んでフェルト化させる。飾りをつけてモコモコとしたフェルト人形の完成。 (小2以上、1時間30分)
バックバック	布の両端にフェルトの帯をつけ二つ折りにし、両脇を糊付けしてがま口のような形にする。フェルト部の両端をつまんで押したり引いたりすれば、パクパクと口を動かすバックに変身。端切れ布で作ったおやつをバックと食べる。 (小2以上、1時間)
ヌノロイド	アルミ線で生き物の骨組みを作り、新聞紙を巻き付けて肉付けする。新聞紙が見えなくなるように上から布を巻いて飾り付ける。クネツと自在に動かせる人形の完成。 (小3以上、1時間)
〈こども歳時記〉	
〈端午の節句〉 鯉きんちゃく	2枚の布を縫い合わせ、袋状にする。コいの飾りをして、ひもを通すと巾着の完成。 (小3以上、1時間)
〈七夕〉 七夕シャ・紗シャ・ドーム	針金でドームの骨組みを作り、そこに紗の布をはり屋根を作る。七夕の飾りをしたドームの完成。 (小3以上、1時間)
〈クリスマス〉 クリスマス布木布木	数種類の木から好きなものを選び、のこぎりやドリルで加工する。木と布、ひもで作るオーナメントのできあがり。 (小3以上、1時間30分)
〈お正月〉 お正月アミー鳥 (5歳)	網に、ひもを結ぶ、布で作った羽をつけるなど、鳥の飾りをする。干支にちなんだ網の鳥の完成。(小3以上、1時間30分)
〈節分〉 のびーるオニ	毛糸を引っ張ると、鬼の首が伸びる。布で作るからくりおもちゃ。 (小2以上、1時間30分)
〈桃の節句〉 かたぞめびな	ポンチで型抜きをして型紙を作る。布に型染めをし、着物を作る。木をのこぎりで切り、着物を着せ、飾り付けをしたら、おひな様の完成。 (小2以上、1時間30分)
〈造形実験室〉	
染め体験	(1) 巻いて染める (2) シルクスクリーンを刷ろう (3) 泥を使った染め体験。 (第4土・日曜日、小4以上、1時間)
アニメーションスペシャル	(1) 接写台の上で、切り紙を少しずつ動かしながら作るアニメーション (2) 椅子や段ボール箱など、いろいろな物を床の上で動かして作るアニメーション (3) 自分自身が少しずつ動いて作るアニメーション (4) 三角や四角に切った、マグネット付きの色厚紙をホワイトボードにくっつけて、少しずつ動かして作るアニメーション (5) 色や大きさのさまざまな丸いマグネットをホワイトボードの上で動かして作るアニメーション (6) 砂をライトテーブルの上に置き、刷毛やくしなどで動かして作るアニメーション (7) 色砂を刷毛やくしを使ってライトテーブルの上で動かして作るアニメーション。 (第2土・日曜日、小4以上、1時間)

音楽事業部



平成16年度の活動

1. はじめに

音楽事業部の活動は、音楽ロビーを一般来館児・者活動の拠点とし、A・Bスタジオは特別な催しと講座・クラブの活動の場としている。

音楽ロビーは、長年の実験的プログラム実施の積み重ねで、ユニークな音楽遊びが展開されるオープンスペースとして、[こどもの城]の中でもなくてはならない遊びの場となっている。手作りの楽器や民族楽器などをそろえ、いかに音楽の楽しさと共感する喜びを子どもたちに伝えることができるかをコンセプトにプログラム開発を行い、環境整備に工夫をしてきた。

平常期間の平日は、一日1回の音楽遊びのイベントを核として、ストリートオルガンの体験と童謡コンサート「うたってハッピー」を数回実施している。音楽遊びのプログラムでは特に親子のスキンシップが図れる歌遊びやダンスを取り上げ、1回30分程度のプログラムのなかで“動”と“静”のめりはりをつけた構成としている。

日曜・祝日は、12時30分から5時まで、7本のプログラムを組んでいる。ストリートオルガンの体験、童謡コンサート「うたってハッピー」、音楽遊びプログラム「音楽広場」そして世界の民族楽器が体験できる「いろいろ楽器コンサート」などである。

さらにそれらのプログラムの合間をぬって、管楽器や打楽器で編成されるバンドが、マンボ・ポルカ・サンバなどの楽曲演奏を展開。自然に体が動き出すような楽しい選曲で、子どもたちも自由に楽器を鳴らし、常に音楽で遊べるスペースとなっている。

スタジオの一般来館児・者活動の核となるのが、Bスタ

ジオで行われる「わいわいスタジオ」である。世界各地の民族音楽を定期的に取り上げて、来館する親子に鑑賞型の音楽体験の場を提供している。

特別期間の催しは特に来館児・者が多いことと、学童の来館も増えることを念頭においてプログラムを実施。多人数異年齢の集団に幅広い音楽体験の場を提供している。

また、ワークショップのプログラムも積極的に実施。平常期間では前述の「わいわいスタジオ」枠でフィルムケースを使ったおもしろ笛の数々を作っている。さらに、夏休み特別期間にはインドネシアやアフリカの楽器をベースにした「手作り楽器のワークショップ」を実施。すべてのコースが満員となる人気企画として定着している。

講座・クラブについては、ほかでは体験できない音楽活動をめざして邦楽・民族音楽系なども含むユニークなラインアップで運営している。

音楽事業部が担当するグループ活動は、[こどもの城]全体の利用件数の約半数を占めている。個々のグループの要望にフレキシブルに対応できる、柔軟で積極的な姿勢と応用力のあるプログラムを用意している。

2. 新しい取り組み

【特別期間の新プログラム】

本年度は特別期間を中心に新しいプログラムをいくつも生みだし、実践した。いくつかのチームを編成し、各特別期間のテーマを軸にそれぞれのチームが時間や期間別に独自の案を構成する方式を取った。競争とまではいかないが、各チームがそれぞれを意識しつつ、より個性を発揮して影響し合うことができた。

チームに細分化することで常勤・非常勤にかかわらず、

スタッフそれぞれの責任感が一層強まったことで、ユニークな新プログラムが次々に生まれた。結果的に各職員の個性・独自性が例年以上にプログラムに反映されたと思われる。

児童福祉週間（ゴールデンウイーク）特別期間の「家族みんなで歌っちゃおう！ ロード・オブ・ザ・シング」は、家族であらかじめ歌う曲を決めてエントリーし、スタッフの生バンドの伴奏に合わせてステージで歌うというものがある。コンセプトは「家族みんなで歌う」ということが第一で、歌をとおして家族の絆をより深められるようなきっかけになればという思いがあった。TV番組のように司会者とコメンテーターを配置するという演出で実施した。実際に館内案内TVに生中継するということで、参加者のモチベーションもかなり高まったようだ。

その他の家族も、初対面にもかかわらず、ステージの家族の歌に合わせて音楽ロビーの楽器などを演奏し、全体に一体感のある音楽ならではのコミュニケーションの場となった。

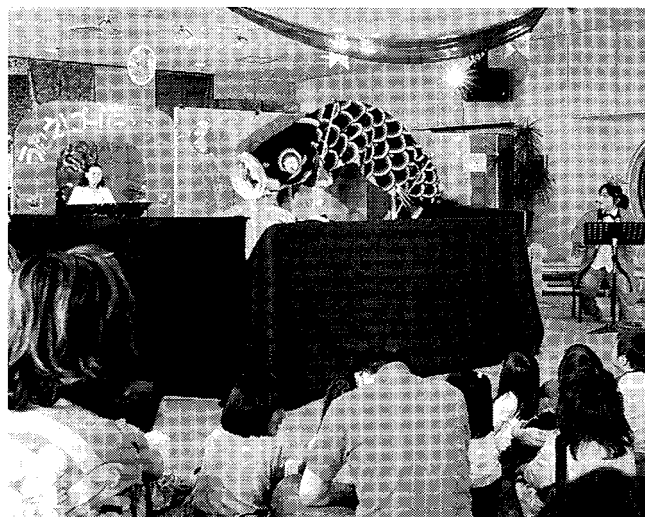
この催しに合わせて、音楽ロビーの自由に使える手作り

楽器も、「応援グッズ」としていくつか新作が登場した。一つは、すずらんテープを裂いて作ったチアガール風「ポンポン」である。色鮮やかないくつものカラーを組み合わせ、幼児でも持ちやすいように20 cmほどの丸棒をつけ、鈴も取り付けた。見た目にも華やかになり、子どもたちがそれぞれ即興的な振り付けをして踊る姿なども見られた。もう一つは「取っ手つきミニマラカス」。フィルムケース2つにBB弾のプラスチック玉を入れてふたをし、直径1 cm長さ20 cmの丸棒をつけて持ちやすい形にした。重さとサイズも手ごろで、乳児でも持てるうえに、4、5歳児以上になると両手に10個ほども持つことも可能で、より音量を出すこともできる。

児童福祉週間（ゴールデンウイーク）特別期間プログラムのもう一つの目玉は「おはなしおんがくパンパカパーン」。ストーリー、音楽、キャラクターなど、すべてスタッフのオリジナルの「べにとロク」を上演した。金魚が主役の人形劇で、人形はAV事業部のスタッフが制作。途中でクイズやみんなで歌う場面があったり、最後はテーマ曲でダンスをしたり、参加性の高い内容となった。すべてオリジナ



「家族みんなで歌っちゃおう！ ロード・オブ・ザ・シング」



「おはなしおんがくパンパカパーン」



「ホットサマーカーニバル」



「音楽あそびの祭典！ ビコビコオリンピッこ！」

ルということで来館児・者からの反響も大きく、問い合わせも多数あった。

夏休み特別期間に実施したオリンピックイヤーにちなんだ催し「音楽あそびの祭典 ピコピコオリンぴっこ」では、いくつものオリジナル遊びを展開したが、なかでも新聞紙を使った「やぶれ！かぶれ！」は、素材と音と運動的な動きがマッチして、次々と展開していく内容でユニークな形のプログラムができた。

春休み特別期間の「花よりだんす！ダンスはすんだ?!」でもいくつか新しい試みを行った。特に「いっしょに踊ろう！ぱんぶきんぐワルツ」では初めてワルツステップに挑戦した。シンデレラのかぼちゃの馬車をヒントに、「かぼちゃ姫」というキャラクターを設定し、姫の舞踏会に子どもたちが招待されるというストーリーを作り、ヨハン・シュトラウス作曲「春の声」に合わせて踊った。スカーフを手にとって、それをさまざまに活用し、親子ペアで参加できる簡単だが優雅に踊れる振り付けをした。

【他部門との共同プログラム】

本年度、最も特徴的な事業となったのが体育事業部との共同プログラム「親子であそぼう～体育室からお兄さんお姉さんがやってきた～」である。体育スタッフによる運動遊びと音楽スタッフの音楽遊びをリンクさせ、運動遊びのさまざまな動きに対して、音楽を即興的にからませていくなどの活動を行った。

同じ施設の中にいながらフロアが違うと、なかなか他部門の細かい活動までは把握できていないのが現状である。同じような“音楽に合わせて体を動かす”活動に対しても、体育スタッフは全く違ったアプローチの方法をとるなど、音楽スタッフにとっても大変勉強になった。また体育スタ

ッフからも「いつもの活動に音楽が加わると、また違った雰囲気になり効果的であった」との感想も聞かれた。

どのような活動でも、それぞれのスタッフの人間性が表れ、それが各個性となってプログラムを構築していくものである。体育のスタッフも個人のキャラクターを存分發揮し、ほとんど全スタッフが日替わりでさまざまなプログラムを展開。バリエーション豊かな活動となり音楽スタッフにもよい刺激になった。もちろん来館児にもいつもの音楽プログラムとはかなり違った内容と雰囲気のもものが提供でき、体育スタッフのアピールの場にもなった。

【対象を広げた「高学年楽器体験コーナー」】

本年度で3年目を迎えた土曜日の高学年向け楽器体験プログラム。前年度まで小学4年生以上を対象としていたが、参加者は平均して1日10人前後であった。少人数ならではの中身の濃い活動はできたものの、もう少し参加者を増やしたいということから、本年度から対象を小学3年生以上とし、年齢の幅を広げた。しかし効果としてはさほど参加者増はみられず課題が残った。

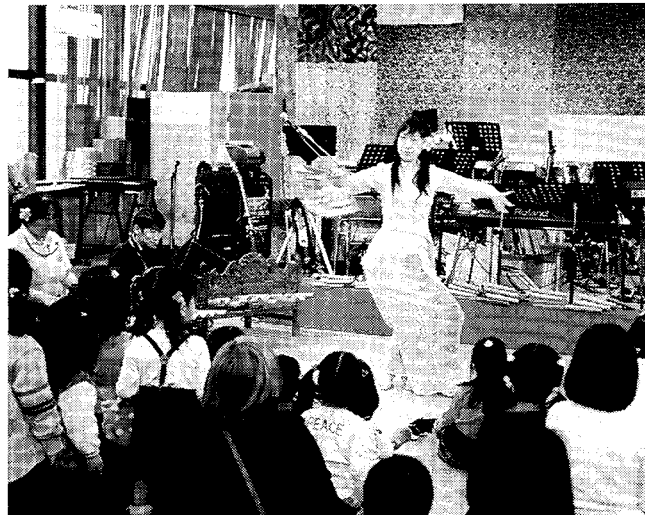
高学年対策は今後も〔こどもの城〕全体としての課題のひとつでもあり、今後も内容面でより一層の充実をはかるなど積極的に取り組んでいきたい。

3. まとめ

本年度事業の最も特徴的であったものの一つが体育事業部との合同プログラムであった。来年度20周年を迎える〔こどもの城〕としても各事業部間の連携というものが益々今後の重要課題であると思われる。音楽事業部としても今後さらに他事業部との共同プログラムに積極的に取り組んでいきたい。



「新年絢爛おんがく祭 ライブブチャイナ！」



「花よりだんす！ ダンスはすんだ?!」

平成16年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
みんなでライブ	火曜日 14:30～15:00	子どもたちのよく知っている手遊び、季節に合わせたパネルシアター、童謡、体を動かす遊びのプログラム。音楽を楽しむ中で、親子のふれあいを感じるものを取り入れている。直前まで行われている「赤ちゃんサロン」との関連で、乳児と保護者の参加が増加。幅広い年齢層に対応するプログラム作りを工夫している。 (音楽ロビー)
ストリートオルガン やってみよう！	火曜日 13:30～14:00 16:00～16:30 水曜日 13:30～14:00 15:30～16:00 木曜日 16:00～16:30 金曜日 13:30～14:00 16:30～17:00 土曜日 11:30～12:00 日曜・祝日 12:30～13:00	音楽ロビー常設のオランダ式手回しオルガンの演奏体験。親子、兄弟、友だち同士などでペアになり、演奏を楽しんだ。 (音楽ロビー)
うたってハッピー	火曜日 15:00～15:30 16:30～17:00 水・金曜日 14:00～14:30 16:00～16:30 木曜日 14:00～14:30 土曜日 12:30～13:00 日曜・祝日 13:00～13:30 14:00～14:30 15:00～15:30 16:00～16:30	バンド形式による弾き語り。レパートリーは童謡のほか、アニメのヒットソングなどのリクエストも多く、子どもたちが積極的にロビーの楽器を楽しんだ。それぞれのスタッフが毎回工夫し、個性豊かな内容を展開することができた。 (音楽ロビー)
すいようパチパチパーク	水曜日 14:30～15:00	歌遊び・手遊びを中心とした参加型プログラムと、アフリカ、インドネシア、ブラジルなどの音楽を聞かせる鑑賞型プログラムの2種を実施。後者は観賞型であるが、使用した楽器にふれたり、スタッフと演奏する参加部分も設け、子どもも一体となって音楽を感じあえるイベントを行っている。 (音楽ロビー)
なにができるかな？ うきうきタイム	木曜日 13:45～14:00	本年度から開始したプログラム。“15分のミニイベント”という特性を生かして、新規プログラム開発のシミュレーションを多数行った。手遊びやパネルシアターに加え、夏休み特別期間に実施した「やぶれ！かぶれ！」などもこのコーナーから生まれたプログラム。 (音楽ロビー)
木ようなかよし広場	木曜日 14:30～15:00	遊び歌を中心としたプログラム。親子でじっくりふれあう、大勢で盛り上がる、パネルシアターや絵本を見る など。担当スタッフの個性やレパートリーに合わせて内容は変わるが、子どもたちが楽しめるプログラム構成で行っている。 (音楽ロビー)
王さんの楽器屋さん	木曜日 15:30～16:00	世界各地の楽器を紹介する、鑑賞と体験のプログラム。子どもたちが気軽に参加できるように音楽スタッフが店長・店員になって“楽器屋さん”という遊びの演出を行っている。引き続き、一緒に活動する女性ボランティアの位置付けを模索。本年度はボランティアも演奏に参加することを試みた。 (音楽ロビー)
みかんちゃんズの オパオバサンバ！	金曜日 15:00～15:30	サンバのリズムに合わせて体を動かす女性ボランティア中心の活動。親子でともに活動することに重点をおく「楽器でチュー」と、音楽にあわせて体を動かす「サンバ新聞」というプログラムに取り組んだ。新しいボランティアメンバーも加わり、サンバの演奏技術の習得、向上にも力を入れている。 (音楽ロビー)
赤ちゃん特等席 ばぶりんパラダイス	火～金曜日 開館時間中 (催し開催時間を除く)	前年度の冬から始めた、0～1歳児と保護者のコーナー。特別期間に実施している乳幼児向けプログラム「ゆったり親子のおんがく園」の利用者や「赤ちゃんサロン」(月2回/火曜日)の参加者によく利用されている。コーナー設置後は、より小さな乳児と保護者が気軽に音楽ロビーに足を運ぶようになった。 (音楽ロビー)

名 称	日 時	内 容
ハートフルライブ	土曜日 13:00～13:30 14:00～14:30	演奏を聞く・楽器にふれて演奏してみるという体験をとおり、さまざまな音楽を楽しむ鑑賞・体験合体型のコンサート。さまざまな楽器をテーマ（竹、アフリカ、日本、インドネシア、弦楽器など）にそって紹介。長年続けているインドネシアのガムランの体験を、より小さな子どもたちでもアンサンブルを体験してもらえるように改良を加えた。（音楽ロビー）
高学年 楽器体験コーナー	土曜日 10:30～11:00 13:30～14:00 14:30～15:00	3年目を迎える高学年向けの楽器体験コーナー。前年度までは4年生以上を対象としていたが、ここ2年間のようすから、対象年齢を引き下げても問題ないと判断、本年度から3年生以上を対象とした。箏、エレキギター、金管楽器、ドラム、アフリカンパーカッション、中国の楽器などを取り上げた。延べ295人が参加。（音楽ロビー）
マンボ・ボルカ	日曜日・祝日 13:45～14:00 14:30～15:00 15:45～16:00	マンボ、ボルカ、サンバなどのリズムカルな楽曲を、マリンバ、サクソ、フルート、トランペットなどの楽器で演奏。子どもたちはそれらの楽曲に合わせて手作り楽器や木琴などを自由に演奏する。オリジナルアレンジの新曲に挑戦して、レパートリーを増やしている。「みんなであそぼう！音楽広場」を実施する日は、14:30の回はなし。（音楽ロビー）
みんなであそぼう！ 音楽広場	日曜日・祝日 14:30～15:00	担当スタッフの個性とレパートリーを生かした手遊び、歌遊び、リズム遊びを中心とした豊富な内容に、パネルシアターやダンスなども加えバラエティー豊かなプログラム。「わいわいスタジオ」のある日は実施しない。（音楽ロビー）
いろいろ楽器コンサート	日曜日・祝日 16:30～17:00	世界各地の楽器を演奏し、紹介・体験する参加型のプログラム。世界のさまざまな楽器を演奏し、楽器の特徴を分かりやすく紹介。コンサート終了後は、使用した本物の楽器をゆっくり体験してもらう。（音楽ロビー）
わいわいスタジオ	日曜日・祝日 (ほぼ隔週) 13:30～14:00 15:30～16:00	来館している親子全般を対象にしているコンサートで、幼児でも楽しめるように構成。アフリカ、ブラジルなどの民族音楽、ア・カベラ、草笛、生演奏と読み語りなど、演奏者を招いて行うコンサートと、フィルムケースを用いて笛を作る手作り楽器のワークショップなど、さまざまな音楽や新しい企画を取り上げるように努めている。（Bスタジオ）
ぼくらのサウンド 2005	3.18 17:30～18:30	「和太鼓グループ」「レッツ・プレイ・サンバ」「レッツ・プレイ・サンバ初級」の公演。サンバの演奏には、女性ボランティアも参加。（青山円形劇場）
	3.19 13:30～15:00 16:30～18:00	「みんなで楽しいリトミック」「音楽大好きミュージックパーク」「合唱講座」「こどもの城合唱団」「混声合唱団」の公演。（青山円形劇場）
	3.20 13:00～14:30	「リズム・ムービング」「リズム・ムービング&パーカッション」「パーカッション・アンサンブル」の公演。（青山円形劇場）
	3.20 17:30～18:30	「三味線」「ガムラン講座」の公演。合唱団も賛助出演。（青山円形劇場）

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 ストリートオルガン やってみよう！	4.29、5.1～5 12:30～13:00	音楽ロビー常設のオランダ式手回しオルガンの演奏体験。親子、兄弟、友だち同士などでペアになり、演奏を楽しんだ。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 家族みんなで歌っちゃ おう！ ロード・オ ブ・ザ・シング！	〃 13:00～13:30 15:00～15:30	いつもはスタッフが演奏しているステージに立って家族で歌おうという新企画。100曲を超す曲目リストから選曲し、エントリーしてもらう。歌番組というコンセプトで司会者が進め、演奏の後にはコメンテーターがゆかいに総評。館内のテレビに生中継された。生パントならではの臨場感あふれるステージに、ロビーで見守る来館児・者もボンボンなどの応援グッズを手にステージにいるかのような熱のこもった応援。104家族272人が参加。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 うたえ！ゴールデンラ イブ！	〃 14:00～14:30 16:00～16:30	バンド形式による弾き語り。レパートリーは童謡ほか、アニメのヒットソングなどのリクエストも多く、子どもたちが積極的にロビーの楽器を楽しんだ。それぞれのスタッフが毎回工夫し、個性豊かな内容を展開することができた。（音楽ロビー）

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 おはなしおんがく パンパカパン！	4.29、5.1～5 14:30～15:00	おはなし、音楽、人形ともにスタッフ完全オリジナルの人形劇「べにとロク」を上演。クイズ、歌、踊り——見ている子どもたちを巻き込む参加型の公演。期間終了後にもたくさんの問い合わせがあり、好評だった。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 いろいろ楽器 コンサート	〃 16:30～17:00	世界の民族楽器を紹介するコンサート。アフリカの太鼓、ブラジルのサンバ、インドネシアのアンクルン、カリブ海のスチールドラムを演奏。コンサート終了後は使用した楽器の体験ができる。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 ゆったり親子の おんがく園	4.29、5.1～5 開館時間中	0～3歳の乳幼児と保護者がゆったりと音のでるおもちゃ“音具”で遊ぶことのできる部屋。親子のふれあいを楽しむためのスペースと位置付け、大勢の親子に利用された。(Aスタジオ)
〈 〃 〉 こどもフェスティバル おんがくがスキ！	5.5 13:00／15:00	毎年恒例の〔こどもの城〕オリジナルプログラムのコンサート。本年度は6人の基本スタイルにもとし、新聞を使った演奏や打楽器紹介の新曲、がらくた楽器演奏の新プログラムなどを加えた。 (青山円形劇場)
〈夏休み〉 元気ライブフェスティ バル！	7.17～8.8 開館時間中	夏休み特別期間の始めは、元気な音楽のライブ特集。 ロビー常設の手回しオルガンの体験「ストリートオルガンやってみよう！」(12:30～13:00)／バンド形式による弾き語り「夏のごいっしょライブ！」(13:00～13:30、15:30～16:00)／元気な曲を集めた「マンボ！ボルカ！」(13:45～14:00、16:45～17:00)／サンバのリズムを楽しむ「サンバdeうたおう！」(14:00～14:30)／世界の楽器にふれる「めずらし楽器にチャレンジ！」(14:30～15:15／16:30～17:15)。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 音楽あそびの祭典！ かがやけ！ピコピコオ リンびっこ！	8.9～15 13:00～13:45 14:00～14:45	オリンピックイヤーにちなんで、音楽でオリンピック。新聞紙を使って投げたり、ちぎったり、最後はまるめた新聞紙を片手に、あちらこちらへ大騒ぎ「やぶれ！かぶれ！」。楽器を鳴らして、鈴を釣り、落とさないで走ってタイム競う「それいけ！どんどんチリンレース」。楽器の名前や音を当てたり、逆さまの曲を当てたりする「クイズ あわててアテテネ！」。サンバの演奏と踊り「オリンピックカーニバル」。各プログラムの開始と終了時はオリジナルソング「オリンピックたいそう」で準備運動。気分はオリンピック。「ストリートオルガンやってみよう！」(12:30～13:00)も実施。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 ホットサマーカーニバ ル！	8.16～31 12:30～17:00	夏休み特別期間の後半は「Sun Sunサンバカーニバル」を中心にプログラムを展開した。子どもになじみの曲をオリジナルのサンバアレンジで演奏する「Sun Sunサンバカーニバル」(13:00～13:30、14:30～15:00、16:00～16:30)／パネルシアター・紙芝居を日替わりのメニューで「おはなしホットタイム」(14:00～14:30)／身の回りにある日用品を楽器にして、屋台風のディスプレイにまとめて紹介する「がらくた楽器屋台」(16:30～17:00)。その他「ストリートオルガンやってみよう！」(12:30～13:00)、「マンボ！ボルカ！」(13:45～14:00)、「めずらし楽器にチャレンジ」(15:00～15:40)も実施。 (音楽ロビー)
〈開館記念〉 わいわいスタジオ	10.31、11.3 13:30～14:00 15:30～16:00	通常はBスタジオだが、特別企画として「爆熱中！アフリカン・タムタム～西アフリカセネガルの太鼓」(10月31日)、「ハッスル中！1・2・サンバ」(11月3日)を音楽ロビーで実施し、大盛況だった。 (音楽ロビー)
〈冬休み〉 うたってハッピー	12.23～27 14:00～14:30 15:00～15:30 16:00～16:30 (23、25、26日は、13:00の回あり／27日は、13:00、14:30、16:00の3回)	バンド形式のライブ演奏。通常の童謡やアニメソングに加えてクリスマス・ソングもふんだんに取り入れた。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 ストリートオルガン やってみよう！	12.23～27 12:30～13:00	音楽ロビー常設のオレンジ式手回しオルガンの演奏体験。親子、兄弟、友だち同士などでペアになり、演奏を楽しんだ。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 マンボ・ボルカ	12.23、25～27 13:45～14:00 15:45～17:00	マンボ、ボルカ、サンバなどのリズムカルな楽曲を、マリンバ、サクソ、フルート、トランペットなどの楽器で演奏。子どもたちはそれらの楽曲に合わせて手作り楽器や木琴などを自由に演奏する。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 いろいろ楽器コンサ ート	12.23、25～27 16:30～17:00	世界の民族楽器を紹介するコンサート。アフリカの太鼓、ブラジルのサンバ、インドネシアのアンクルン、カリブ海のスチールドラムを演奏。コンサート終了後は使用した楽器の体験ができる。 (音楽ロビー)

名 称	日 時	内 容
〈冬休み〉 わいわいスタジオ	12.23、25、26 13:30～14:00 15:30～16:00	恒例となったクリスマスコンサート。23日はおもしろコンビ“モーモーズ”による歌と遊びのコンサート「ようこそクリスマス」。オリジナルのストーリー「はやくおきてよクリスマス」も上演。25日は恒例になった「ア・カベラ コンサート」。出演はペンギン・フィッシュ。素敵なハーモニーでクリスマス・ソングを演奏。26日は「手作り楽器のワークショップ」。フィルムケースで笛などを製作した。 (Bスタジオ)
〈冬休み〉 新年絢爛おんがく祭 ライブチャイナ!	H17.1.3～10 12:30～17:00	毎年恒例になった、新年を祝う中国風の音楽ロビー。手回しオルガンの体験「ストリートオルガンやってみよう」(12:30～13:00)/アニメソングや童謡と一緒に歌い、楽器を鳴らす「ウタウタッチャイナ!」(13:00～13:30/16:00～16:30)/元気な曲を華やかに演奏「マンボタッチャイナ!」(13:40～14:00/14:40～15:00)/サンバで歌い、一緒に演奏「サンバタッチャイナ!」(14:00～14:30)/「めずらし楽器にチャレンジ」(15:00～15:30)/音楽に関するクイズ「おんがくクイズ大会・メダルトリ〜ナ」(16:30～17:00)。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 ゆったり親子のおんがく園	1.3～10 開館時間中 (10日は16:00まで)	0～3歳の乳幼児と保護者がゆったりと音のでるおもちゃ“音具”で遊ぶことのできる部屋。親子のふれあいを楽しむためのスペースと位置付け、大勢の親子に利用された。(Aスタジオ)
〈春休み〉 花よりだんす! ダンスはすんだ?!	3.26～4.5 13:30～15:15 15:00～15:45	3月はインドネシアの音楽で踊る「マリリンとインドネシアの午後」、輪になって踊るフォークダンス「みんなで踊ろうずっきーのフォークダンス」、フォークダンスと手遊び「ずっきーとモーモーズのダンスバザール」、かっこいいリズムにこだわった「hey MOW! たかちゃんのグルグルぐる〜び〜」、かぼちゃ姫とワルツを踊る「いっしょに踊ろう! ばんぶきんぐワルツ」。担当者それぞれの個性と音楽の特徴が生かされたプログラムとなった。4月は体育事業部との共同で運営。「親子であそぼう〜体育室からお兄さんお姉さんがやってきた〜」を実施。体育の活動を音楽にからませ、新しいスタイルを模索。音楽の活動にはない多様な動き方の提示や、音による活動の発展性を双方で感じあった。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 めずらし楽器にチャレンジ	3.26～4.5 16:30～17:15	世界の民族楽器を紹介するコンサート。アフリカの太鼓、ブラジルのサンバ、インドネシアのアングルン、カリブ海のスチールドラムを演奏。コンサート終了後は使用した楽器の体験ができる。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 うたってハッピー	4.2～4.5 13:00～13:30 14:00～14:30 16:00～16:30	バンド形式のライブ演奏。通常の童謡やアニメソングに加えてクリスマス・ソングもふんだんに取り入れた。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 ゆったり親子のおんがく園	4.1～5 開館時間中 (1日は13:00～)	0～3歳の乳幼児と保護者がゆったりと音のでるおもちゃ“音具”で遊ぶことのできる部屋。親子のふれあいを楽しむためのスペースと位置付け、大勢の親子に利用された。(Aスタジオ)
〈 〃 〉 太鼓部屋	4.2～5 開館時間中	大きな大きな和太鼓を自由にたたいてみることのできるスペース。子どもたちに混じって大人も真剣にたたき姿が多く見られた。 (Bスタジオ)



わいわいスタジオ
「爆熱中! アフリカン・タムタム〜西アフリカセネガルの太鼓」



わいわいスタジオ「ハッスル中! 1・2・サンバ」

2. 講座・講習会など

〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
リズム ムービング	(人) 4・5歳児 (20)	(人) ① 18 ② 9 ③ 8	火曜日 15:30～16:20 (全32回)	主にコンガ、ボンゴなどの打楽器、リズムやメロディー、ハーモニーを即興で演奏できるオルフ楽器を使用。そのほかに音を全身で表現したり、造形活動を行ったりしている。楽譜は使用していない。 受講料＝1期19,000円、2期18,000円、3期14,000円。
リズムムービ ング&パーカッ ション	小1～3 (15)	① 10 ② 6 ③ 5	火曜日 16:30～17:20 (全32回)	リズムによる自己表現を行う。さらに読譜力など、音楽的基礎力の理解、打楽器演奏法の導入、オルフ楽器を使った即興演奏をするなど一歩踏み込んだ指導を行う。受講料＝1期19,000円、2期18,000円、3期14,000円。
パーカッション・ アンサンブル	小4～高3 (15)	① 13 ② 13 ③ 13	火曜日 17:30～19:30 (全32回)	さまざまな打楽器をふんだんに使い、演奏したり、体を楽器にしてリズム打ちを行ったり、子どもたちのはじけるようなリズム感を表現する。初心者もていねいな指導。受講料＝1期19,000円、2期18,000円、3期14,000円。
みんなで楽しい リトミック I	(組) 3歳児と 親 (20)	(組) ① 16 ② 15 ③ 14	水曜日 14:00～15:00 (全32回)	子どもの発達段階に即したリズム遊び、歌遊び、簡単な造形活動をととして親子のコミュニケーションを図り、音楽を楽しむ心と豊かな感受性を養うことをめざしている。受講料＝1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。
II	4歳児と 親 (20)	① 15 ② 15 ③ 15	水曜日 15:00～16:00 (全32回)	「I」で培ってきた感性や音に対する感受性を引き続き伸ばすよう心がけ、それぞれの成長の実際に合わせながら、個性豊かな発達を促すような活動へとさらに高めていっている。受講料＝1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。
III	5歳児と 親 (20)	① 20 ② 20 ③ 19	水曜日 16:00～17:00 (全32回)	就学を迎えるころになると感受性も親離れが始まり、子どもたち同士の接触の機会が多くなる。生き生きと目を輝かせて音楽を楽しみながら学び、遊んでいる子どもたちが印象的。受講料＝1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。
おんがく大好きミ ュージック・パー ク～ダウン症児のため の楽しいリトミック	2歳6か月 ～6歳のダ ウン症児と 親 (10)	① 10 ② 10 ③ 11	木曜日 14:30～15:45 (全29回)	ダウン症児とその保護者を対象としたクラス。音楽を使って無理なく楽しみながら療育の手助けをすることをめざしている。さらに、音楽での保護者の心身開放も目的の一つ。受講料＝1・2期各19,000円、3期17,000円。
和太鼓グループ	(人) 小3～高3 (12)	(人) ① 11 ② 11 ③ 11	土曜日 14:00～15:30 (全32回)	湯島（東京都文京区）に伝わる「助六太鼓」のコース。大太鼓、中太鼓、締め太鼓の3種の太鼓を使って演奏する組み太鼓。口唱歌で指導している。 受講料＝1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。
レッツ・プレイ・ サンバ初級	小1～3 (10)	① 13 ② 12 ③ 12	土曜日 13:00～14:00 (全15回)	「レッツ・プレイ・サンバ」の低学年向けの初級コース。サンバ楽器を使った演奏と踊り（ステップ）の指導を行っている。サンバをととして、音楽の楽しさや仲間と演奏することの楽しさ、音楽に合わせて体を動かすことの楽しさを感じてもらうことをめざしている。受講料＝各期6,500円。
レッツ・プレイ・ サンバ	小4～高3 (10)	① 10 ② 10 ③ 9	土曜日 15:30～17:00 (全15回)	ブラジルの独特な打楽器を使い、サンバのリズムを楽しくアンサンブルするコース。対象年齢を引き上げたため、より高度で力強い演奏を展開している。 受講料＝各期6,500円。

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
合唱講座	(人) 小1～4 (30)	(人) ① 37 ② 38 ③ 37	土曜日 14:00～15:30 (全32回)	遊ぶことをとおして無理なく体を動かしたり、声を出したりすることを体験する。 体全体で音楽を表現するユニークな合唱活動プログラム。 受講料＝1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。
こどもの城 児童合唱団 I	小2～3 (合唱講座修 了者・30)	① 50 ② 49 ③ 48	土曜日 15:30～17:30 (全32回)	音楽をとおし、協調性・創造性・幅広い知的好奇心を養い、豊かな音楽性を育てることを目的としている。合唱活動だけでなく野外活動、シンセサイザーやリズム楽器による合奏なども体験し、総合的なプログラムを展開。 受講料＝1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。
// II	小4～中3 (合唱講座修 了者・60)	① 111 ② 108 ③ 107	土曜日 17:00～19:00 (全32回)	
混声合唱団 こどもに聞かせる おとなのコーラス	高校生以上 (15)	① 69 ② 64 ③ 63	土曜日 19:00～21:00 (全32回)	子どもたちに豊かな音楽や表現のすばらしさを伝えることをめざし、合唱を楽しんでいる。メンバーは、高校生から社会人まで幅広く、コンサートや合宿などのときは、常に「こどもの城児童合唱団」と活動をともにしている。 受講料＝1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。
三味線講座 A (初級)	小2～高3 (12)	① 24 ② 19 ③ 15	日曜日 10:00～11:30 (全32回)	学校教育への和楽器導入を受け、三味線への注目度がよりアップしたようだ。高学年の子どもの入会が多かった。長年、指導にあたられた田島佳子講師が、9月8日に逝去された。新講師、受講生ともに田島講師の遺志を引き継いで、思いを一つに、ますます精力的に活動している。 受講料＝1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。
// B (経験者)	小2～高3 (12)	① 9 ② 11 ③ 11	日曜日 11:30～12:45 (全32回)	
ガムラン講座	小1～高3 (15)	① 11 ② 9 ③ 10	日曜日 13:30～15:00 (全32回)	インドネシアの青銅の打楽器アンサンブル「ガムラン」の初心者と継続者のクラス。さまざまな音楽的要素が潜在し、アンサンブルすることでその特異さがわかる民族音楽。受講料＝1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。

《講習会》

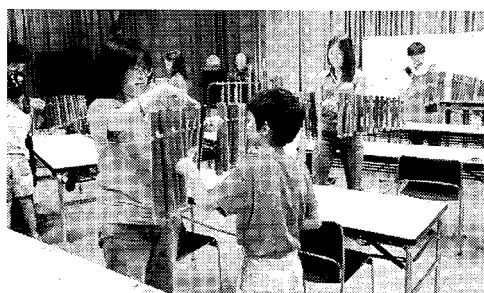
名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
おながく星みつけた～就園前のリトミック～	(組) 2歳児 と親 (30)	(組) ① 30 ② 32 ③ 30	木曜日 10:30～11:30 (1・2期10回、3期9回)	就園前の幼児と親が対象で、リズム遊びを中心に、造形活動や身体表現なども取り入れた活動を行っている。母親とスキンシップをしながら楽しく音楽と遊べることをめざす。受講料＝1・2期各16,000円、3期15,000円。



「ほくらのサウンド2005」で演奏する「三味線講座」のメンバー

《短期講習会》

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
親子で作ろう手作り楽器	ベトナム式の金属で作る“口琴（コウキン）” （人） 小1～高3の親子 ※小4以上は子どもだけで参加も可。 （25）	（人） 25	8.7 13:00～16:00	世界各国、さまざまな地域で使われている小さな楽器。その音色は人々を楽しませてくれる。指ではじいて中央の弁を振動させ、半開きのくちびるにあてると、口腔や頭に共鳴して音を出すというユニークな楽器。“宇宙人のような声が出る楽器”を紹介。受講料＝親子ペア 5,000円、子どものみ 2,500円。
	アフリカの太鼓“ジェンベ” 〃 （各日30）	計 120	8.8、18、27、31 13:00～16:00	「講義」＋「製作」＋「演奏」のワークショップ。子どもが演奏しやすい小型のジェンベを作った。本年度も全日満員。セネガル出身のパーカッションスト、ワガン・ンジャエローズさんの合奏指導も、前年度以上の白熱ぶりだった。5年目を迎えた大人気プログラム。受講料＝親子ペア 9,200円、子どものみ 4,600円。
	インドネシアの竹のリコーダー“スリン” 〃 （各日30）	計 60	8.10、30 13:00～16:00	竹のたて笛を2種類製作。インドネシアの6穴のたて笛「スリン」は、インドネシアの多くの地域で演奏され、ジャワ島のガムラン音楽にも使われている。細い棒をスライドさせて、鳥の鳴き声をまねできる「スライドホイッスル」も制作。5年目のプログラム。受講料＝親子ペア 5,400円、子どものみ 2,700円。
	インドネシアの竹の木琴?！“ガンパン” 〃 （19）	19	8.11 13:00～16:00	ジャワ島のガンパンは、木琴に似た竹製の楽器。“ドレミファ……”の聞きなれた音階と独特な民族音階の両方が楽しめる。受講料＝親子ペア 9,000円、子どものみ 4,500円。
	インドネシアの竹のベルリラ“チャルン” 小1～高3の親子ペア （9）	（組） 18	8.14 13:00～15:30	本年度新登場。ジャワ島スダ地方の伝統的な竹の鍵盤楽器。ベルリラのように、片手で楽器を持ち、もう一方の手でバチを持っていたいて演奏。受講料＝親子ペア 8,000円。
	アフリカのトーキングドラム“タマ” 小1～高3の親子 ※小4以上は子どもだけで参加も可。 （各日30）	（人） 90	8.17、20、26 13:00～16:00	西アフリカのウォロフ族に伝わる奏法をワガン・ンジャエローズさんに指導してもらう。太鼓の胴にたくさんのひもが張られていて、ひもをコントロールすることで音程が変化し、しゃべっているかのような音を表現できる。受講料＝親子ペア 9,800円、子どものみ 4,900円。
	“BIGアングルン” 小1～高3の親子ペア （10）	（組） 20	8.21・22（2日間） 13:00～16:00	これまで一人1台のアングルンを作る講座を行ってきたが、初の試みとして1オクターブ（8台）を2日間で作るコースを設けた。連日楽しそうに作業する親子は職人顔負けだった。受講料＝親子ペア 15,000円。
	インドネシアの竹のハンドベル “アングルン” 小1～高3の親子 ※小4以上は子どもだけで参加も可。 （30）	（人） 30	8.25 13:00～16:00	“竹のハンドベル”ともいわれ、多人数で演奏するほど魅力を発揮する楽器。初めての試みとして、完成したアングルンを持って、アトリウムで演奏（発表会）を行い、盛況だった。7年目を迎える不動のプログラム。受講料＝親子ペア 5,400円、子どものみ 2,700円。



「インドネシアの竹のベルリラ “チャルン”」

〈専門指導者向け講習会等〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
(人) 大人（指導者・一般）のための手作り楽器「アングルン」と「スリン」	(人) 指導者・一般 (20)	(人) 29	8.15 13:00～16:00	大人（指導者・一般）が参加できるコース。前年度実施して好評だったので、本年度も実施した。アングルンやスリンの制作だけでなく、子どもへの指導方法などをレクチャー。指導者にとって魅力のある内容で、意欲的に取り組んでいた。受講料＝4,800円。
感じる心を育てる～感性の重要性	一般・講座受講生 (80)	80	11.3 13:30～16:00	日本ダウン症協会理事長の玉井邦夫山梨大学助教授を講師に招いて、「感性の重要性」について講演と受講生によるワークショップを実施。ワークショップには「おんがく大好きミュージックパーク～ダウン症児のための楽しいリトミック」と「こどもの城児童合唱団」とのジョイント・コンサートもあり、当日の受講生（ダウン症児やその他の障害を持つ保護者）も大いに楽しんだ。協力、日本ダウン症協会。

3. その他

〈動くこどもの城〉

名 称	日 時	内 容
ガドガドコンサート「おんがくがスキ！」	10.10	〔こどもの城〕音楽プログラムから生まれたバンド形式の参加型コンサート。音楽遊び、ダンス、民族楽器の紹介、がらくた楽器の演奏などをもちこんだプログラム。2公演行い、約200人の親子が参加した。 (香川県さぬきこどもの国)
手作り楽器のワークショップ&アングルンコンサート	11.13	身の回りにある廃材（フィルムケース）を利用して音具を制作し、それを使って遊びに展開するプログラム。参加者は20人を超え、積極的かつ熱心に受講。研修の成果を現場に持ち帰って、広がりをもてるであろうことが期待できた。コンサートには約70人が参加し、アングルンの音色を楽しんだ。児童館スタッフにも参加してもらい、活動の幅を広げた。インドネシアの曲や歌も取り入れた。 (岡山県植松児童館)

〈講師派遣〉

名 称	日 時	内 容
民族音楽講義と演習	4～7月	小学校の国語と理科と音楽の教師になるためのコースの大学生に対し、民族音楽の講義と演習を行った。「インドネシアのガムラン音楽」「ブラジルのサンバ」「手作り民族楽器」など、ほとんどの学生にとっては初めて体験する音楽ばかりであったと思われるが、非常に熱心で演奏の質も高い内容であった。短時間の授業ではあったが彼らが教師となった時、この経験はなんらかの形で子どもたちに展開されるだろうという、小さな確信を持てた。〔こどもの城〕で行っている民族音楽の活動の新しい一つの広がりであったように思われる。東京学芸大学。
それいけオルガン探検隊	7.19	サントリーホールに常設されているパイプオルガンを使ったウォークラリーとレクチャー、コンサートの企画で、子どもの応対、司会を行う。本年度で4年目。サントリーホール。
民族音楽講義と演習	8.3、5	教員免許取得課程の大学生に対し「ブラジルのサンバ」を中心に民族音楽全般の講義と演習を行った。確実に知識としても、演奏技術としても身に付け、それを子どもたちに指導できるようにする、という目標を前提に行った。その場の音楽体験にとどまらず、何らかの形で子どもたちに展開していくだろうという期待のもてる授業となった。千葉大学。
子育て支援の輪づくり講座	8.27	ここ数年行っている新潟市主催の子育て支援講習会。テーマは「乳幼児の遊び、歌遊びと関わり方」。受講者は遊びを体験しながら、グループに別れ乳児向けの親子ダンスを創作。参加者は約80人。新潟市総合福祉会館。
リズムにのってらんらんらん	10.5、12.24	10か月から3歳まで30組を対象とした音楽プログラム。12月は季節がら、さまざまなクリスマスの曲をプログラムとして取り上げて遊びに使用した。また土曜日だったので、お父さんも一緒に参加して遊べるように工夫した。東京都調布市立深大寺児童館。

名 称	日 時	内 容
めずらし楽器のコンサート	11.6	アフリカのジェンベやインドネシアのアンケルン、ブラジルのサンバ楽器などを中心に民族楽器を紹介し、演奏を聞いてもらう。参加コーナーも設けた。東京都千代田区番町幼稚園。
子育てひろば講座 リズムにのって	11.16	「親子でリズムあそびをしながらスキンシップを深める」を目的としたプログラム。1～3歳までの子どもと保護者、約25組が参加。東京都調布市立緑が丘児童館。
母親セミナー	11.26	2～4歳と保護者を対象にした親子遊びプログラム。30分のコンパクトなプログラムを2回行った。各回定員20組。東京都小金井市貫井南児童館。
地域子育て支援センター 指導者講習会	12.2	日本保育協会主催。全国各地から約45人の参加。乳児と親のプログラム、幼児と親とのプログラムについて、プログラムの組み立て方や親子で遊ぶための呼びかけ方、パネルシアターの上演などを中心に講習した。〔こどもの城〕。
子育てひろば講座 リズム遊びを楽しもう	H17.1.18	1歳6か月以上の子どものための音楽あそび。手遊び、パネルシアター、ダンスなどを行った。約30組が参加。東京都調布市立東部児童館。
音楽あそび	2.16	幼稚園の父母会主催によるコンサート。4～5歳の園児、110人が参加。歌遊び、がらくた楽器、パネルシアター、アフリカの楽器にダンスを実施。園からリクエストを受けた曲で子どもたちとの合奏も行った。東京都世田谷区立八幡山幼稚園。
ゆうキッズ 音楽プログラム	3.15	1歳前後を中心とした親子の音楽プログラム。約60組の親子が参加。春らしい曲を使った音楽遊びでプログラムを構成した。東京都杉並区立堀ノ内東児童館。

〈演奏依頼〉

名 称	日 時	内 容
ガドガドコンサート 「おんがくがスキ！」	7.23	〔こどもの城〕の音楽プログラムから生まれたバンド形式の参加型コンサート。音楽遊び、ダンス、民族楽器紹介、がらくた楽器の演奏などを盛り込んだプログラム。約180人の親子が参加。茨城県阿見町かすみ公民館。
ブッチガドコンサート 童謡コンサート	11.9	〔こどもの城〕の音楽プログラムから生まれたミニバンド形式の参加型童謡コンサート。音楽遊び、ダンス、民族楽器紹介、がらくた楽器の演奏なども盛り込んだプログラム。約150人の親子が参加。東京都杉並区八幡幼稚園。
〃	11.10	同上。約150人の親子が参加。東京都中野区中野たから幼稚園。
〃	11.27	同上。約200人の親子が参加。茨城県土浦市ツ都和公民館。
〃	12.15	同上。約100人の親子が参加。東京都府中市おとまち幼稚園。
〃	H17.1.14	同上。約120人の親子が参加。千葉県高洲幼稚園。
ガドガドコンサート 「おんがくがスキ！」	1.21～30	毎年恒例となった欧州公演。5か国6公演を行い、延べ約2,700人の親子が参加。開催都市はパリ、ジュネーブ、ブリュッセル、フランクフルト、デュッセルドルフ、ロンドン。(株)全日空主催。

〈その他〉

名 称	日 時	内 容
こどもの城児童合唱団 夏合宿	7.29～8.5	夏合宿にあわせて、札幌市の児童館、4か所で公演。児童館での宿泊や小樽山でのキャンプなど、地域の子どもたちや自然とのふれあいも体験。公演は麻生児童館（7月30日）、美しヶ丘児童館（31日）、山鼻児童会館（8月2日）、厚別北小学校（3日）。

A(オーディオ・ビジュアル)V 事業部



平成16年度の活動

1. はじめに

AV事業部では、子どもたちが映像に対し〈みる×しる〉〈つくる〉などさまざまな角度からアプローチすることで、豊かな知識や感性をはぐくんでほしいと願い事業を展開している。そして、この目標実現に向け直接子どもたちに接する“対利用者活動”はもとより、多くの“後方支援活動”に対しても力を注いでいる。

【対利用者活動】

◎ビデオライブラリー

ライブラリー内には35のブースが設置されており、子どもたちは2万タイトルのビデオソフトの中から希望の作品を選択し、自由に視聴できる。

◎A・Bスタジオおよび音楽ロビー

子どもたちにぜひ見てもらいたい優良作品の上映会や、視覚がん具作りのワークショップなどを実施。また、子どもを対象とした短期講習会や指導者向けのビデオ講習会なども行った。

【後方支援活動】

◎AV資料室

ビデオライブラリーに登録する作品を1本ずつ視聴。コンピュータ制御に必要となる種々の情報を入力し、データベースを構築する。

◎映像調整室

スタジオで行われる各種イベントの映像記録と館内テレビへの中継を実施。また、館内テレビ用の番組制作や各部への技術支援も併せて行った。

◎マスターコントロール室

青山劇場・青山円形劇場で行われる公演や、館内外での

各部の活動を収録・編集してビデオ作品を制作。作品はオリジナルソフトとしてビデオライブラリーに登録する。

2. ビデオライブラリー

【DVDの導入】

近年、市販のビデオ作品はVHSやレーザーディスクなどからDVDに移行しつつある。そんな折、ビデオライブラリーでも7月からシステムの一部にDVD視聴機能を導入しはじめた。

DVDは、デジタル化されているため映像がきれいで、劣化しないという特性がある。また、言語の選択度が向上しているため、外国人の利用者にはより多くのソフトが視聴可能になると同時に、日本人にとっても外国の作品を日本語で視聴できることになる。選択により、字幕スーパーが表示できるということは、聴覚障害者にも大きな利便性をもたらすことになる。そのほか、図鑑などでは見たい所、調べたい事柄がすばやく簡単に検索できる。

ビデオライブラリーでは、テープの収納スペース確保が近年の悩みの種であったが、DVDは小スペースで収納することができる利点もある。作品によっては、本編の他に制作過程の映像や出演者のインタビューなど、特典映像も収録されている。

DVDは、VHSのようにケースに収納されていないため、傷に弱いという欠点もあるが、総合的に考えると利用者にとっての導入メリットは大きいといえる。

導入して数か月たつが、利用者の状況を見ると、DVDの特性を最大限利用できている利用者は少ない。一般家庭でDVDが普及していないのか、あまり凝ったものを要求しないのか、調査検討を続けていきたい。ただし、操作方

法が複雑なために、機能が充分生かされていないということも考えられるので、今後は使用方法の解説などにも積極的に取り組みたい。

【視聴傾向】

視聴傾向を見ると、アニメ・童話が全体の68%、ヒーロー物が11%、映画・ドラマが10%などとなる。分類ごとに調べてみると、〔こどもの城〕オリジナル作品（講座の発表会・キャンプの記録作品など）が前年度より増えた。要因としては、〔こどもの城〕で行われているプログラムに参加するに当たって、事前の資料として活用しているように思われる。

自然科学の分野にかんして、特に生き物では昆虫のソフトが見られている。ここ数年AV事業部では、昆虫をテーマにしたペーパークラフトに力を入れており、この影響もあるのではなかろうか。その他では、恐竜がよく見られている。反対に植物がほとんど見られていない。子どもにとって植物のように動かないものより、動くものの方に興味が集まるのだろうか。

年齢・性別でみると、男女・幼児小学生の区別なく藤子不二雄の作品が最も良く見られている。幼児・小学校低学年の男子は、ヒーロー物、幼児・小学校低学年の女子はプリンセス系のもの、小学校高学年の男子は探偵物や冒険物、小学校高学年の女子は特に怖い物系を好んで見ている。これらの傾向については以前とあまり変わってはいないように思われる。

【特集を組む】

ビデオライブラリーでは、利用の約80%がアニメなどである。そこで、あまり視聴されることのない作品の視聴促進活動として、特集などを組んでいる。本年度はDVDシステムの導入が始まったため、大きな特集を組むことはできなかったが、恒例の鉄道特集とクリスマス特集を行った。クリスマス特集では、ビーズを使ったクリスマスリース作りのコーナーなどを設けて雰囲気作りを行った。

今後は、今回の調べであまり視聴されていなかった植物



ビデオライブラリーの受付カウンターの下にもケースを陳列

をテーマとした特集も考えていきたい。また、童話などで同一題名でもいろいろな作り方、表現方法の作品があるが、子どもたちはどういった作り方の作品を好んで見るか。それはどういったところがよいのか、などの調査を含んだ特集も組んでいきたい。

【検索について】

ビデオライブラリーを利用する場合、“好きなビデオ”“見たいビデオ”を探すことから始まる。そこで、どのように探すか、つまり検索のしやすさということが重要になる。

検索方法は3種類ある。まずカタログによる検索である。活字だけで作られている総合カタログと、幼児でも写真を見て選べる写真カタログとがある。総合カタログは圖書の分類法に準じて99分類されているが、映像の場合はあてはまらず、現在の分類法には検討の余地がある。次に、パソコンを使った検索があるが、自前で作ったものでもありオールマイティではない。ただし、子どもたちは遊び感覚で使っているので、その点では今後も使っていきたい。

もう一つは、ビデオケースを陳列する方法である。利用者にとっては一番利用しやすいようだが、陳列するスペースが必要となる。ビデオライブラリーには2万タイトルの作品があるが、陳列できるのはせいぜい500ケースである。その結果、陳列されている作品がよく見られるという弊害が生まれるので、本年度からひんぱんに陳列作品の入れ替えを行ったり、シリーズ物については、表のような形にして1ケースに収まるように工夫した。

利用者が、求めている作品をいかに素早く探せるか、思いがけない作品に出会うことができるかなどは、検索機能によって大きく左右される。この検索機能をいかにていねいに分かりやすくできるかが現在進行形の課題である。

3. 講座・講習会など

夏休み映像・科学ワークショップは、前年度の4コースに新たに1コースを加え計5コースを実施した。新コースと、内容に変更のあった講習会は以下のとおりである。

○手作り映像おもちゃ「映画のしくみを体験！」

キノーラ（新規）

少しずつ動作の違う絵をとじ、指先でパラパラとめくると絵がアニメのように動いて見える。そのようなパラパラ漫画（フリップ・ブック）をなめらかに連続して見ることのできる装置が「キノーラ」である。

キノーラは軸に絵を放射状に張り合わせて回転させていく。身近な材料で簡単にそのような装置を作るにはどのようにしたらよいだろうか？ 試行錯誤の末、ペットボトルを軸にして絵がはさめるバンドを巻きつけ、ハンドルで回転させる方法をあみだした。バンドはバイアステープにスナップをつけたもので、簡単に絵の取り外しが可能だ。

子どもが簡単に組み立てられるようにキノーラの材料をそろえておいたので、装置の作成にはさほど時間はかからなかった。印象的だったのは、12枚の連続した絵を熱心に描く子どもが多かったことだ。絵が苦手な子どものために塗り絵も用意しておいたが、ほとんどの子どもが自分で絵を描いていた。自分の絵がアニメのように動いていると喜ばれ、家でも描いてみると好評だった。

○いきもの図鑑（内容変更）

1枚の紙から作るペーパークラフトで、「いきもの」を再現する講座である。本年度は、前年度の「ヘラクレスオオカブトムシ」に「アブラゼミ（2倍大）」の型紙を加えた。両方のペーパークラフトを一度に作るのは、限られた時間内では難しいため、参加する時間帯により、制作する種類をどちらか一方に限定した。参加者はノウハウを持ち帰り、自宅で、残りの型紙を作ることができた。

「ヘラクレスオオカブトムシ」「アブラゼミ」の各講座は同数回行ったが、人気は前者に集中。今回は希望者の集まり具合により、実施回数をコントロールする必要がある。

なお工作が複雑な「アブラゼミ」は、型紙の事前切断をしておいた。これにより構造が簡単で切断から工作を行う「ヘラクレスオオカブトムシ」と工作時間をそろえることができた。

上記2種類のほかに、「カブトガニ」「ブルー・モルフォ」「実物大アブラゼミ」のおまけの型紙もつけた。前年よりも種類は減ったが、その分カラー印刷に凝るなどして、クオリティを高めた。

4. その他の活動

鉄道イベントは、場所を変えて計3回実施した。また、夏休みには特別イベントを行った。

【鉄道イベント】

「走れ！キャスルトレイン こども鉄道模型運転会」は、ビデオライブラリーにある鉄道ビデオの視聴促進活動の一つとして10年前に開始され、現在まで継続して行っている。鉄道模型に詳しいボランティアとA V事業部が共同で行っている事業で、Nゲージ模型の運転を中心にパソコンの運転シミュレーターや鉄道にちなんだ工作、幼児向けのプラレールなどをスペースいっぱい配置している。実施回数が20回以上を数えるこのイベントも、本年度はゴールデンウィークと9月、春休みの3回行った。

鉄道模型を趣味とする年齢層は広く、幼児から大人までが大好きな遊びである。今までになく工夫を凝らしたのが春休みに行ったものである。当施設はもちろん一般的に行われているNゲージ運転会は、明るい場所で開催されるのが常であるが、今回使用したBスタジオは照明などが自在に操れるため、思い切って“夜”をテーマにしてみた。列

車は車内照明が点灯するように改造し、線路横にはイルミネーションを配した。部屋全体は夕暮れの明るさにして雰囲気を出した。いつもはガヤガヤしている催しもしっとりとした雰囲気となり、子どもはもちろんのこと保護者にも好評であった。また、幼児に人気のプラレールコーナーはAスタジオ全体を使ったため、のびのびと遊べたようだ。

【昆虫（まぜむし）工場夏休みスペシャル「ブルー・モルフォをつくろう」】

映画『天国の青い蝶』の日本公開に合せたイベントで、映画に登場する“神秘の蝶”ブルー・モルフォのペーパークラフトを作った。7月27・28日の両日に実施。このうち28日には、映画のキャンペーンで来日した昆虫学者のジョルジュ・プロッサール博士の講演も行った（106ページを参照）。

型紙製作は実物の昆虫標本の調達からはじめた。完成した小学校高学年以上対象の型紙は、標本からとった体表模様をカラー印刷した豪華版。一方で、幼児を含む親子での参加も想定し、低年齢層対象の簡易版も用意した。こちらは模様は印刷されていないが、サインペンで自分の好きな模様を描き込むことができる。実施前からポスター掲示や完成品の展示を行ったためか、予想以上に盛況となった。用意した型紙が足りなくなり、追加印刷をしなければならなかった。2日間の工作参加者は延べ338人。博士の講演には、事前応募も含め約40人が参加した。

5. サタデー・ラボラトリー

プレイ事業部と共同で行っている、小学生以上向けのプログラム。リピーターの子どもたちが増加し、定着しつつある。3時間の受け付けで平均約40人という参加人数は、小学生以上対応のプログラムとしては決して少なくない数であると思う。新鮮さを保つため、新規のプログラムを少しずつ増やす努力を続けている。

A V事業部の本年度新規企画は、オリジナルの4コマま



手作り映像おもちゃ「映画のしくみを体験！」キノーラ

んがを描く「お笑い4コマまんが道場」と、蛍光インクがブラックライトで浮かび上がる「光のふしぎ」の2つ。前年度から実施して好評だった「ニットに挑戦」では、季節ごとにテーマを変える工夫や、「ばらばらまんがをつくろう」では、用紙のサイズを変えて絵を描きやすくするなど、改良を行って実施した。

なるべく多くの子どもたちに参加してほしいし、帰宅してから作ったもので遊んだり、応用して遊びを発展させてほしいと考え、ここでのプログラムは約1時間程度の時間で個別に体験することができる内容にしている。また原理などを紹介する簡単な掲示を作って、科学的な興味を喚起させるような工夫を心掛けている。

【スペシャルプログラム「チャレンジ! アフレコ」】

スペシャルプログラムとして12月に「チャレンジ! アフレコ」を実施。プロの声優2人を講師に迎え、〔こどもの城〕オリジナルのアニメーションでアフレコ体験をするというもの。2～3人で1組になって配役を決め、声優の指導のもと練習をし、組ごとにアフレコをして最後に全部の作品を見るという約1時間のプログラムである。

プロの演技を間近で聞き、あまりの迫力に子どもたちは最初驚いた様子だったが、練習が始まると積極的に質問をしながらセリフを読んでいった。低学年にとっては字を読むことでさえままならないが、「分らない字は赤ペンでふりがなをふろうね」「読みにくいところはチェックしておこうね」とコツを説明するとクリアできた。

参加者の中には「将来声優になりたいのですがどのようにしたらよいですか?」と質問に来る中学生がいたり、声優にサインを求める子どもがいたり、ふだんの生活ではなかなか体験できないプロとのコミュニケーションが図れてよい刺激になったと思われる。

【サタデー・ラボラトリーまつり】

「サタデー・ラボラトリーまつり」は、春休み前の音楽ロビーの特別プログラムとして行ってきた。しかし、そのほかの季節休みにも科学的な内容を中心とした小・中学生対応のプログラムが必要なのではないか、ということで本年度は夏休みと冬休みの特別期間にも実施した。

夏休み特別期間は、Aスタジオを会場として日替りで実施。「お笑い4コマまんが道場」「飛べ! 空飛ぶおもちゃ」と

いった人気プログラムに加え「ピンホールカメラをつくろう」さらに、屋上ふしぎが丘を会場として「ふわっと〇スーパーシャボン玉」を実施。

冬休み特別期間にはプレイ・AV事業部に加え、音楽事業部の協力を得て、同様の年齢層を対象に行っている「手作り楽器」プログラムも実施。人気の「ニットに挑戦」や「カイロをつくろう」など全部で6種類のプログラムを1日3プログラム、時間替わりで行った。

今後も特別期間の小・中学生対応のプログラムの充実、そして平常期間の「サタデー・ラボラトリー」のアピールの意味合いも含めて、特別期間の「サタデー・ラボラトリーまつり」を企画していきたいと考えている。

※「サタデー・ラボラトリー」については、44・45ページ参照。

6. まとめ

開館からおよそ20年が経過するが、その間の映像機器の進歩には目を見張るものがある。映像記録媒体の民生用規格を例にとっても、20年前のVHSや β のビデオテープが主流だった時代が過ぎ、8mmビデオやHi8のコンパクトなビデオテープが登場し、その後DVCやDVDというデジタル規格へと移行されていった。

このような傾向は、家庭用の規格に限ったことではなく、AV事業部で稼動する業務用の機器にあってもさらにその進歩の度合いが顕著である。現に、ビデオテープなどの記録媒体は存在するものの、その規格の機器が世の中から姿を消しており、結果として再生して見るができないという例は珍しいことではない。2011年の現行テレビ放送の終了後には、このような問題がより深刻になるであろう。

AV事業部でもこのような経過を踏まえ、本年度からVHSとレーザーディスクに対応している、ビデオライブラリーのシステムの一部にDVD視聴機能を導入し始めた。〔こどもの城〕の映像機器のほとんどが開館時に導入されたものであり、今後機器の進歩にあわせて改修を順次進める必要がある。そして、機器の改修と同時に忘れてはならないのが、開館時から蓄積されてきたさまざまな映像資産である。劇場公演や館内外活動の記録映像などの資産は膨大な量となる。これらについても、いかにして次世代規格に継承して行くかの検討を始めなければならないだろう。

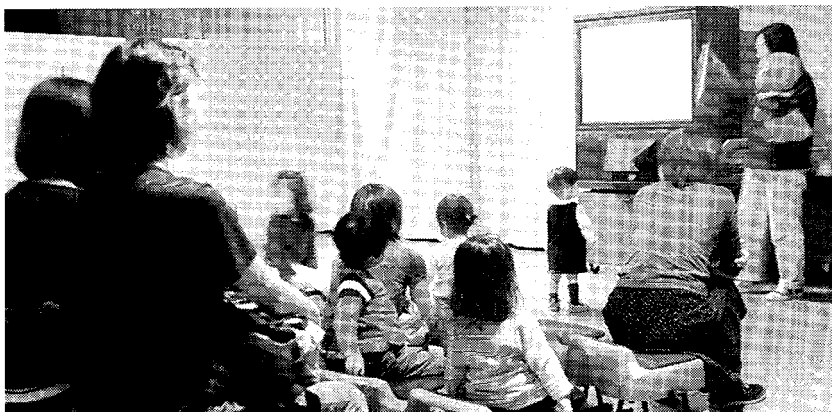
平成16年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
ビデオライブラリー 自由利用	開館時間中	趣味、教養、娯楽、スポーツ、アニメなどさまざまなジャンルにわたるビデオソフトを、20,000タイトル所蔵するビデオの図書館。利用者は、ビデオライブラリー内に設置された35のブース(小部屋)で好みのソフトを視聴できる。 (ビデオライブラリー)
おもしろビデオ館	金曜日 15:30～16:00	ビデオライブラリーにある上映可能なビデオソフトから、テーマを決めて作品を選び、上映。作品に興味を持ってもらうため、上映のあいまにクイズやゲームをはさんだ。(Bスタジオ)
サタデー・ラボラトリー	土曜日 13:00～16:00 (受付時間)	小学生～高校生を対象とした、身近な不思議を体験するプログラム。クラフト、科学遊び、映像遊びなどを週替わりで実施。本年度は、メンバーズカードの発行によるリピーターの集客が効を奏した。新規のプログラムも増やしてフレッシュなイメージを保つことに留意している。プレイ事業部と共同で主催。 (フリーホールほか)
不思議な映像実験室	土曜日 15:30～17:30	2枚の絵を描いて作る簡単なアニメおもちゃ「くるくるアニメ」と、表と裏の絵が重なって見える「ソーマトロップ」を実施。ボランティアスタッフが参加する日には、簡単な視覚がん具の展示も行い、プログラムのボリュームアップをはかった。 (音楽ロビー)
わいわいスタジオ「不思議な映像実験室」	日曜日・祝日(月1～2回) 11:00～17:30	映画発明以前からあった、絵が動いて見えるおもちゃ(視覚がん具)の展示とワークショップを行った。展示と、幼児向けのくるくるアニメコーナーは開場時間中は随時参加できるようにしている。ワークショップは、時間枠を決めて実施。「ソーマトロップ」(11:30～12:30)、「フィルムに絵を描こう」(13:30～14:30)、「ばたばたアニメ」(15:30～16:30)を実施した。 (Bスタジオ)
こどもの城映画劇場	日曜日・祝日(月1～2回)	フィルム・ライブラリー「武蔵行雄記念文庫」収蔵のNFBC(National Film Board of CANADA)のアニメーション映画などを1日4回上映(11:35、13:35、14:35、15:35)。 (Bスタジオ)
館内放送テレビ中継録画	日曜日・祝日、特別期間	Bスタジオで実施される音楽事業部担当「わいわいスタジオ」などを館内のテレビへ中継および録画。特別期間には、「こども活動エリア」の催し物案内を中心とした映像情報の作成・送付も行った。 (Bスタジオ・映像調整室)
走れ! キャスルトレイン～こども鉄道模型運転会(第21回)	9.25～10.3	鉄道模型(Nゲージ)の運転を体験できるプログラム。鉄道関連のパソコンコーナーやプラレールコーナーなども設置。プラレールの展示もした。 (フリーホール)
不思議な映像実験室「くるくるアニメをつくろう」/サタデー・ラボラトリーまつり	H17.3.18～20	音楽ロビーを2つに区切り、幼児から参加できる「不思議な映像実験室～くるくるアニメをつくろう」(3月18～20日)と、小学生以上対象の「サタデー・ラボラトリーまつり」(科学遊びのプログラム/3月19・20日)を実施。「サタデー・ラボラトリーまつり」では、クイズ100問答えてラリー(3月19・20日)、おどろきマジックの秘密(3月19日)、驚き盤を作ろう(3月20日)を実施。 (音楽ロビー)

「おもしろビデオ館」



〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 走れ！キャスルトレイン～こども鉄道模型運転会（第20回）“ゴールデンウィークスペシャル”	4.29～5.5	鉄道模型（Nゲージ）の運転を体験できるプログラム。今回はギャラリーを使って、通常行っているコーナーのほかに工作、展示、ゲームなど多彩なプログラムを実施した。（ギャラリー）
〈 〃 〉 不思議な映像実験室スペシャル	4.29～5.5	視覚がん具の展示と「くるくるアニメコーナー」は平常期間と同様。「ソーマトロープ」のワークショップでは、季節をテーマに「かぶと」と「こいのぼり」の絵柄を追加。午後の回は、「混虫（まぜむし）工場スペシャル」と「ばらばらまんが」を加え日替わりで実施。（Bスタジオ）
〈夏休み〉 サタラボまつり “夏の陣”	7.17～19	「ピンホールカメラをつくろう」（7月17日）、「飛べ！空飛ぶおもちゃ」（7月18日）、「ふわっと〇スーパーシャボン玉」（7月19日）に加え、「お笑い4コマまんが道場」（7月17～19日）を行った。また幼児コーナーとして「くるくるアニメ」も実施。（Aスタジオ）
〈 〃 〉 混虫（まぜむし）工場夏休みスペシャル「ブルー・モルフォをつくろう」	7.27・28	サタデー・ラボラトリーなどで実施している昆虫ペーパークラフト教室「混虫（まぜむし）工場」のスペシャル版。映画「天国の青い蝶」に登場する神秘的な蝶、ブルー・モルフォをペーパークラフトで再現した。（Aスタジオ）
〈 〃 〉 おもしろビデオ広場	7.31～8.5	絵本をもとにしたアニメーションの上映会。上映の合間にさまざまなキャラクターを使ったゲームコーナーを設け、3回参加した子どもに景品を渡した。その他、影絵を楽しめるコーナーを展示。（Bスタジオ）
〈 〃 〉 第12回キンダー・フィルム・フェスティバル	8.13～22	キンダー・フィルムフェスト・ベルリンの元ディレクターを名誉ディレクターとして運営している、日本唯一の国際子ども映画祭。ゲストとして児童映画の監督、エルサ・クヴァンメさん（ノルウェー）を招いて、映画演出と演技のワークショップを実施。その他テレビ局との提携で多くのゲストによるショーも行われた。（Bスタジオ、青山円形劇場）
〈 〃 〉 不思議な映像実験室	8.7～31（8.18は休み）	視覚がん具の展示とワークショップ。展示コーナーは本格的な視覚がん具の再現品から、夏休みの宿題のヒントになるような身近な材料で作れる視覚がん具を展示。ワークショップコーナーは、幼児から小学生低学年を主な対象に「くるくるアニメ」を実施。（Aスタジオ）
〈冬休み〉 ビデオライブラリー「クリスマス特集」	12.11～25	クリスマスに関連したビデオソフトの視聴促進活動を目的に行った特集。12月18～25日は、ビーズを使った“クリスマスリースを作ろう”を実施した。そのほか、いろいろなサンタクロースのイラスト写真なども展示した。（ビデオライブラリー）
〈 〃 〉 サタラボまつり “冬の陣” / お正月版ソーマトロープをつくろう	H17.1.3～6	6プログラムを1日3回（11:30、13:30、15:30）日替わり・時間替わりで実施。お正月用にプログラムをアレンジした「初笑い4コマまんが道場」「ニットに挑戦」「混虫（まぜむし）工場」や、「あったかいぞ!! カイロをつくろう」「おどろきマジックの秘密 てじなの“で”」に加え、音楽事業部の協力で鳥笛を作る「手作り楽器」を実施。また、幼児コーナーとして、お正月用に用紙をアレンジした「ソーマトロープ」も実施。（Bスタジオ）
〈 〃 〉 こどもの城映画劇場「カナダのアニメーション特集」	1.7～10	フィルム・ライブラリー「武蔵行雄記念文庫」収蔵のNFBC（National Film Board of CANADA）のアニメーション映画から、表現技法や対象年齢別に11タイトル4プログラムを組んで上映。（Bスタジオ）
〈春休み〉 走れ！キャスルトレイン～こども鉄道模型運転会（第22回）“夜、鉄道の旅”	3.26～31	鉄道模型（Nゲージ）の運転を体験できるプログラム。今回はA・Bスタジオ、ビデオライブラリー、ロビーを使って実施。模型運転コーナーでは、照明設備を駆使して“夜”をイメージした会場設営を行った。（A・Bスタジオ、ビデオライブラリー、ロビー）

2. 講座・講習会など

〈講座〉

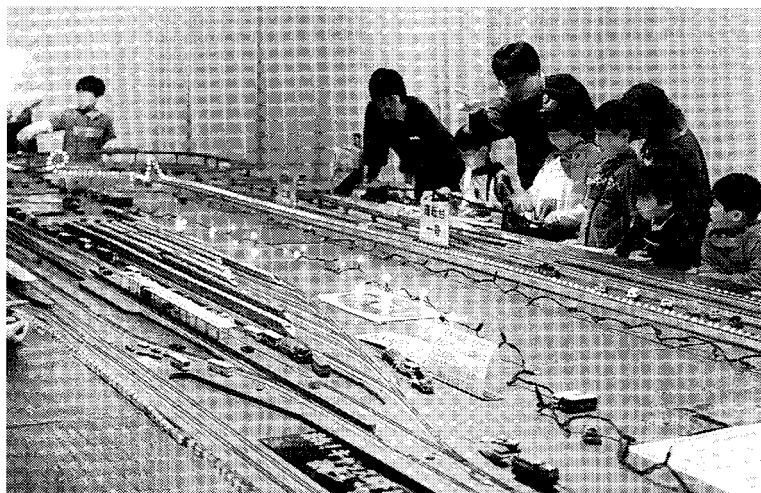
名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
映・造ワークショ ップ	(人) 小4～高3 (10)	(人) ① 4 ② 2 ③ 2	日曜日 13:30～16:30	映像と造形の合体による新しいプログラム作りをめざし、絵画史のトピックからヒントを得たセットを作ってアニメ撮影したりする新規内容を実施。 受講料=1・2期(各7回) 各期17,500円、3期(5回) 12,500円。(造形スタジオ)

〈短期講習会〉

名 称		対象・定員	受講数	日 時	内 容
16mmフィルム 撮影初歩セミナー		(人) 一般(20)	(人) 5	7.24・25 (2日間)	16mmフィルムでの映画撮影入門セミナー。フィルムの取り扱いから撮影技術まで、基礎的な専門知識を習得する講座。ボレックスやアリフレックスなどのポピュラーな16mm撮影機の取り扱いをとおして、フィルムについての基礎知識や露出の計測までを初心者に分かりやすく講義。受講料＝10,000円。(Aスタジオ)
アニメーション 制作セミナー		// (20)	10	7.30・8.1 (2日間)	アニメ作りでの撮影技術にスポットをあて、カメラや照明機器の選び方とその使用方法などを講義するセミナー、実際に受講者が短い作品を作るワークショップを実施。また、アニメ作家の保田克史さんを特別ゲスト講師に迎え、人形アニメの制作についてのレクチャーも実施。受講料＝10,000円。(Aスタジオ、会議室)
夏 休 み 映 像 ・ 科 学 ワ ー ク シ ョ ッ プ	いきもの図鑑	小4～高3 (4日間 =2回/日= 計96)	計 93	8.11～14	オリジナルペーパークラフトで“いきもの”を再現する。「アブラゼミ」「ヘラクレスオオカブトムシ」を交互に制作。他に数種類のおまけの型紙つき。 受講料＝1,800円。 (Aスタジオ)
	手作り映像おもちゃ「映画のしくみを体験！」ムービーミエール	小3～高3 (2日間 =2回/日= 計48)	計 48	8.15・16	35mm映画フィルムを動かして見る簡易フィルムビューアーを制作。ムービーミエール本体の組み立てと、ピエロがパントマイムをする白黒映画フィルムへのダイレクトペイントを体験。受講料＝2,700円。 (Aスタジオ)
	天体望遠鏡工作教室	小4～高3 (4日間 =2回/日= 計96)	計 94	8.19～22	塩化ビニールパイプやボール紙など、身近な材料を使って天体観察用望遠鏡、マックロースコープを作る。受講料＝2,200円。 (Aスタジオ)
	手作り映像おもちゃ「映画のしくみを体験！」キノーラ	小1～高3 (3日間 =2回/日= 計72)	計 75	8.23～25	ばらばらマンガがアニメのように連続して見られる装置、キノーラを制作。装置を組み立て、12枚の動く絵を描いてセットする。受講料＝2,000円。 (Aスタジオ)
	手作り映像おもちゃ「映画のしくみを体験！」ブラクシノスコープ	小1～高3 (6日間 =2回/日= 計144)	計146	8.26～31	映画が発明される前にあった視覚がん具、ブラクシノスコープを制作。帯状の紙にアニメのように絵を描き、その絵を多面体の鏡に映して絵がアニメのように動いて見える映像おもちゃ作りを体験。受講料＝2,200円。 (Aスタジオ)
アニメーション 作画セミナー		一般(20)	4	H17.2.12、19 (2日間)	アニメーターの荒井知恵さんによる初心者向けのていねいな指導でアニメの作画にスポットを当てて実施。受講料＝10,000円。 (Aスタジオ、会議室)

〈専門指導者向け講習会等〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
現代アニメーション講座2005	(人) 指導者・ 一般(60)	(人) 10 18	H17.1.9 18:00~20:00 3.6 17:00~19:00	日本アニメーション学会の協力により実施しているアニメや映像にかんする知識をひろめる講座。CG制作で新しい技術となっているモーション・キャプチャーを取り上げ、その最先端技術を有する制作スタジオの実際などを技術者を招いて解説。受講料=2,000円。 (Bスタジオ)
プロフェッショナルビデオ講座 「デジタルビデオの信号管理」	// (30)	8	3.13 13:00~17:00	アナログ機器に必須なビデオの信号管理と実際の技術を、各種モニターを実際に使用しながら詳細に解説。ウェーブフォーム、ベクトル、ピクチャーの各モニターを受講者が体験使用する時間も設定。受講料=5,000円。 (会議室)
// 「音声入門」	// (30)	40	3.21 13:00~17:00	ビデオ撮影における音声収録についての講座。録音についての基礎的な解説から、ロケでの実践的なノウハウ、音響機器の取り扱いなどを解説。 受講料=5,000円。 (Bスタジオ)



「走れ！キャスルトレイン〜
こども鉄道模型運転会“夜、鉄道の旅”」



「不思議な映像実験室ワークショップ〜
フィルムに絵を描こう」



「キンダー・フィルム・フェスティバル」
子ども審査委員を囲んで（左が高峯一世理事長＝当時）

3. その他

〈動くこどもの城〉

名 称	日 時	内 容
不思議な映像実験室	12.9	富山県児童館連絡協議会主催の児童厚生員等講習会の演習プログラムとして実施。参加者がプログラムを持ち帰り、実践できるよう簡単な紙工作で映像遊びができる「ソーマトロープ」「くるくるアニメ」「ピンホールカメラ」を紹介。（富山県民共生センター「サンフォルテ」）

〈講師派遣など〉

名 称	日 時	内 容
バルテノン多摩 アニメ・ワークショッ プ	4.1～4	毎年恒例の「バルテノン多摩アニメ・ワークショップ」を実施。今回は簡単な「ばたばたアニメ」からはじまる初級コース、切り紙や粘土のアニメを作る中級コースを開催。東京都多摩市バルテノン多摩。
宮城県仙台市 第1回児童館職員等研 修会	7.9	「サイエンスの興味を引き出す映像おもちゃ作り」と題して、映像の工作に取り組む講習を実施。70人の参加者は各自で紙工作による「くるくるアニメ」や「ピンホールカメラ」作りを行い、その原理を確かめながら、児童館での科学遊び実施にかんしての理解を深めた。仙台市中央児童館。
バルテノン多摩 アニメ・ワークショッ プ	7.21・22、24・25、29	夏の映像ワークショップに協力。7月21・22日には「16mmフィルム制作コース」を実施し、16mmフィルムを使ってみんなで1本の短編映画を制作。24・25日には、「アニメ・ワークショップ上級コース」を実施。春のアニメ・ワークショップ中級終了者を対象とし、小学校4年生から中学生が参加し、粘土や紙コップの人形をパソコンでコマ撮りしていく方法で各自が短い作品を制作。両コースの作品は、29日にホールで上映し、参加した子どもたちと保護者が鑑賞した。東京都多摩市バルテノン多摩。
八王子市教育委員会 夏季パワーアップ研修 会	7.26	「みる・しる・つくるアニメーション」の講習会を実施。参加者は、八王子市内の小・中学校の教員23人。実習とともに現代の子どもたちに向けたアニメ・ワークショップのあり方などを討議。主催は八王子市教育委員会、会場は八王子市夢美術館。
八王子市夢美術館 アニメーション教室	8.3	〔こどもの城〕発売の「アニメ・キット」の視覚が人具を組み立てて楽しむ、子ども対象のアニメ・ワークショップを実施。参加20人。主催は八王子市夢美術館。
大田区児童指導員研修 会	9.9	大田区児童指導員研修会で「科学遊び」プログラムの講習を実施。「ソーマトロープ」や「くるくるアニメ」を取り上げ、絵が動いて見えるしくみをテーマに科学的な視点で遊びをとらえることについてを、ワークショップを交えて講義した。池上会館（東京都大田区）。
流山市児童厚生員研修 会	11.18	科学遊びの講習会を実施。参加者80人。映像遊びを科学的な視点でとらえ、その展開方法などをテーマにしたワークショップを実施。流山市文化会館（千葉県）。
日本保育協会地域子育て 支援センター担当者研 修会	12.2	日本保育協会主催の地域子育て支援センター担当者研修会で、〔こどもの城〕各部門のプログラムを体験する研修会を実施。A V 事業部は、子育て支援のプログラムとして「不思議な映像実験室」を開催。参加者26人。
愛知こどもの国「あそ び・たんと・テント」	12.25・26	毎週土・日曜日に開催されている「あそび・たんと・テント」で、透明な16mmフィルムに絵を描いたり、黒いフィルムを引っかけて遊ぶフィルムのワークショップを実施。2日間で計60組が参加。あいち健康プラザ（愛知県大府市）。
グループ地球儀「ライ ツ・フロム・ザ・ハート」上 映	H17.1.22	カナダの子どもの権利条約啓発アニメ「ライツ・フロム・ザ・ハート」シリーズの上映と講演を小金井市福祉会館内の公民館で開催。終了後には、市民による子どもの権利にかんするフリースタートークも開催。参加者48人。
児童健全育成推進財団 こども映画祭モデル事 業	2.2	三重県松坂市で行われた「こども映画祭モデル事業」（主催：児童健全育成推進財団）で、児童厚生員を対象にした映像の講習会を実施。参加者15人。映画祭運営法と題して映画上映の催しや関連したワークショップについてを講演。「くるくるアニメ」の実技講習も実施。

〈映像記録〉

名 称	日 時	内 容
館内活動の記録	通年	館内の講座等をビデオ取材しソフト化して参加者に販売。体育事業部「母と子のすくすくランド」(Part 1～3)の3本。同作品はオリジナルソフトとしてビデオライブラリーに登録。
館外活動の記録	夏休み、冬休み、春休みの各特別期間	〔こどもの城〕の館外活動に同行してビデオ取材、ソフト化して参加者に販売した。 体育事業部「チャレンジキャンプ2004」「スキースクール」(Part 1－1期、同－2期、およびPart 2)／プレイ事業部「ちびっこ冒険団2004」「フェロシップキャンプ2004」「ゆきんこ冒険団2004」／企画研修部「ジュニア・アウトドア・スクール2004」「ジュニア・スプリング・キャンプ2005」 同作品はオリジナルソフトとしてビデオライブラリーに登録。視聴できる。
劇場公演の記録	通年	青山劇場・青山円形劇場で行われた公演・講座発表会をビデオ記録し、編集の上ビデオライブラリーで公開。また一部を出演者等に販売。 ◎青山劇場＝自主公演「青山太鼓見聞録」など4本。 ◎青山円形劇場＝自主公演「ア・ラ・カルト」「デーモン小暮の邦楽維新 collaboration」など21本。 ◎青山円形劇場＝共催公演「The End ～ヒロシマ2005～」〔こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ とびこも絵本 IV〕など4本。 ※このほか、自主公演「ダンスビエンナーレ東京2004」のフリーホール公演も収録。

保育研究 開発部



平成16年度の活動

1. はじめに

急速な少子化の進行のなかで、保育や子育てをめぐる施策が次々と出されている。「保育サービスの充実」「新エンゼルプランと待機児童ゼロ作戦」「就学前の教育・保育を一体としてとらえた一貫した総合施設」、それに続く「子ども子育て応援プラン」などである。加えて増えつづける“虐待”も子どもを取り巻く大きな話題の一つ。児童相談所をはじめ関係機関はその対応に苦慮しているのが実情ではなかろうか。

保育研究開発部は“子ども家庭支援プログラム”を3つの事業に分けて行った。保育事業（「親子教室」「保育クラブ」「幼児グループ」）、一般来館児・者事業（「親子工房」「よちよちクラブ」「1・2歳の遊び場」）および研修事業（「保育セミナー」「子育て相談研修会・基礎編／応用編」「子育て支援のニュースレターの発行」）である。

事業を進めてきたなかで、多くの見学者、研修参加者、保育クラブの保護者などが関心を寄せるのが、「幼保一元化」に替わる「総合施設」のことである。幼児教育、次世代育成支援の観点からも、今後とも関心を集める問題だと考える。「総合施設」の基本的な考え方は、親の就労の有無・形態などで区別することなく、就学前の子どもに適切な幼児教育・保育の機会を提供し、子どもの成長をうながすことである——と政府の方針のなかで位置づけている。さらに、地域の実情などに応じて、地域の子育て家庭に対し、子育てにかなう必要な相談・助言・支援や親子の交流の場を提供することが重要であるとも述べている。

「総合施設」の基本的な考え方は、「こどもの城」で行ってきた保育の考え方と共通することも多い。本年度は、「こ

どもの城」の保育事業を重点的に取り上げ、報告したい。

2. 3つの保育事業

（ア）親子教室

1歳児の親子を対象に、講座形式で年3期（各10回）行っている。1・2期は定員（16組）を確保したが、3期はリピーターの親子を含めても定員に満たなかった。参加後のアンケートからは、内容に満足したとの回答が多かったが、地域に類似のプログラムが増えたことも参加の減少につながっていると思われた。

「親子教室」についての問い合わせのなかに「地域の親子遊びとどこが違うのでしょうか」という質問もある。「こどもの城」では、運動遊びや音楽遊びなども保育をベースにしながら、それぞれの専門のスタッフがかかわって指導す



初めての給食（「親子教室」）

ることを伝えると納得していた。

以前は「親子教室」終了後、2歳になると優先的に「保育クラブ」に入会できるとしていたが、希望者が多くなり中断をしていた。本年度は「保育クラブ」会員に登録できるように戻した。「親子教室」への参加がそのまま「保育クラブ」の会員になれるというメリットを喜ぶ応募者は多い。「保育クラブ」の新規会員募集の枠とも関係し、難しい問題だが、本年度は受け入れ方法を工夫しながら実施した。

「親子教室」の応募総数は減少したものの、両親プログラムへの出席率が高いことから、両親プログラムの内容充実や広報の工夫などが次年度の課題となった。

(イ) 保育クラブ

「保育クラブ」(2～5歳児)に登録をする会員数は415人。例年400人前後で安定している。母親が就労しているのかかわらず、子どもにより良い保育環境や集団遊びの体験をさせたいとの応募理由が圧倒的に多い。保育プログラムは、(1)異年齢混合 (2) チームで保育 (3) 保育ボランティアの参加——などを特徴としている。

保育クラブの会員には毎年「保育クラブガイドブック」を作成し配布をしている。保育クラブのシステムや保育内容のほかに「会員資格」「会員更新」「会員の特典」を定めた保育クラブの規約を記載してある。規約は年度によって変更することもあるが本年度は大きな変更はなかった。

保 育 ク ラ ブ の 規 約

【会員資格】

- ・ 保育クラブは会員制となっています。対象は2歳より就学前までの幼児となります。
- ・ お子さんが就学年齢に達しますと、会員資格が失われます。また、会員更新期間中に更新されない場合は、登録が無効となりますので、ご注意ください。
- ・ 会員の弟妹は、2歳になりますと入会資格が与えられます。2歳の誕生日以降、随時登録致しますので、ご希望の方は、窓口までお申し出下さい。(ただし、定期予約のお申し込みはできません)

【会員の更新】

- ・ 会員の有効期限は、入会した月にかかわらず、その年度の3月末日までとなります。
- ・ 各年度ごとに更新のご希望をおとりします。更新の手続きについては、あらかじめおたよりで連絡致します。
- ・ 保育のシステムについては、年度ごとに変更することがあります。更新の際に年度の変更点についてお知らせ致しますので、ご了承の上、更新手続きをおとり下さい。
- ・ 会員の更新時には、年会費として5,000円を納入していただきます。
- ・ 更新期間が過ぎますと、再度入会金(10,000円)を頂く場合があります。

【会員の特典】

- ・ クラブ員証は、有効期限内、入館券としてお使い頂けます。対象は、登録児と保護者2名です。
- ・ こどもの城の館内プログラムにも、親子で積極的にご参加下さい。入館の際には必ず入口にてクラブ員証をご提示下さい。

観 察 室 に つ い て

お母さんから離れて遊ぶお子さんの様子を見ていただくためのお部屋です。いつもとは違うお子さんの姿を発見したり、いろいろと感じたりすることもあると思います。

観察室からご覧になったことは、保育者との話し合いに活かして、お子さんには伝えないようにしましょう。

また、他のお子さんの様子などを保護者同士や外部の人に話さないようお願いいたします。

※観察日は月1回行なう予定です。

※観察日以外にご覧になりたい方は、スタッフまでご相談下さい。

※カメラ・ビデオの撮影はご遠慮ください。

■2歳児の保育■

2歳児でも、すでに親子プールやリトミックなど何らかの習い事や地域の子育て支援センターに親子で参加しているという家庭が増えてきた。[こどもの城]の集団遊びが初めてという親子が少なくなり、保育者や保育室に慣れやすくなっている。

その反面、親と子どもが離れられないで、周囲の親子がすんなり離れている姿をみて落ち込む親の姿もある。難しいのは、今までは母親と離れても遊べた子どもが、急に母親の後追いをしたり、泣き出したりすることで母親が悩むことである。2～3回繰り返されると母親は「どうしてうちの子どもは慣れないのか」と他児と比較をするようになる。時には父親も一緒になって保育者に相談にくる。発達的なこと、家庭の養育環境などいろいろなことが起因していると思われるが、初めての子育てを一生懸命にしている親(父母)にとってはつらく感じてしまうようだ。

子どものことについては、保育者が驚くほどの知識や情報を親は持っている。それが現実のわが子にあてはまらないことから生じるジレンマを抱えている場合がある。こうした親には、ありのままの子どもの姿を理解してもらうためにマジックミラー越しに見ることができる観察室に入ってもらいたいことがある。子育てに不安を持つ親だけでなく、自分の子どもを含めていろいろな子どもの姿を客観的に見ることができるために、保護者には好評である。観察室は、曜日や時間を決めて保育を利用する保護者に開放している。観察日には保育者も入室して、保護者からの質問を受けたり子どもたちの行動を誤解のないようにていねいに伝えたりする。

保護者とのコミュニケーションは、子どもの受け入れ時や帰宅時にその日の保育の内容やようすを保護者全員に伝えることを基本にしている。その後、個別に子どもの遊びや他児とのかかわり、食事の進み具合、排泄のようすなどを一つひとつ具体的に話すようにしている。保育のようすを具体的に伝えることが、親にとっては育児について学ぶ場になっているようだ。

この他、年2回ほど、曜日別に保護者懇談会を開き、親



こんなこともできるよ！（2歳児の保育）



ままことあそび（2歳児の保育）

同士の意見交換なども行い交流を図るようにしている。2歳児の保育は、まだまだ養護の部分（食事、着脱、排泄など）が中心。そして、集団のなかで他児との遊びを少しずつ体験していく。子育て中の家庭に対して、保育者は保護者一人ひとりと細やかなコミュニケーションしていくことが欠かせないものとなっている。

■3～5歳児の保育■

3～5歳児は、3年保育の幼稚園を希望する家庭が主流になる中で、定期的に保育に参加する応募者が減少すると思われたが、例年並の応募があった。2歳児からそのまま進級する子どもと、新たに会員になった3歳児からの子どもとの構成である。本年度は、発達になんらかの障害があると思われる子どもの入会を希望する家庭が多かったのが特徴といえる。そのため職員の受け入れ体制を改めて見直

した。

3～5歳児の保育活動は、週4日（火～金曜日）保育する「幼児グループ」の4・5歳児を核として進めている。このグループにも、言葉が出ない・発達が気になりな子どもがすでにいるため、無理なく保育を進めていくためにはどのようにすればいいか、職員間で話し合った。結果的には受け入れる子どもの人数にも限界があり、またその子どもの状態によっても違ってくることから、率直に子どもと親に面談をすることから進めることとした。定期的に保育に参加することを希望する会員にたいしては、親子でガイダンスに来てもらうことにしているので、その際に面談した（不定期の場合はこの限りではない）。

入会を希望してくる、発達などに気がかりがあると思われる子どもの家庭では、手をつくして受け入れてくれる保

【保育プログラム】（2歳児・3～5歳児の各クラスは、その年度の4月1日の時点で分かれており、誕生日以降も、年度の途中でクラス変更することはありません）

年 齢	2歳児（平成13年4月2日～平成14年4月1日生まれ）		3～5歳児（平成10年4月2日～平成13年4月1日生まれ）	
保 育 区 分	集団保育(A)	集団保育(B)	集団保育(C)	長時間保育(D)
目 的	お子さんに集団遊びの場を提供します。		お子さんに集団遊びの場を提供します。	お母さんの仕事や学習、社会参加をする際などの保育を援助します。
活 動 日	月～金曜日のなかから、週1～2日を選択		火～金曜日の中から、週1～2日を選択	
活 動 時 間	10:00～13:00	10:00～14:00	10:00～14:00	10:00～16:00
予約の形態	定期予約 フリー予約 緊急予約	定期予約 緊急予約	定期予約 フリー予約 緊急予約	
1日の定員	7人	7人	9人	4人
内 容	無理なくお母さんと離れて遊べるよう、保育者が一人ひとりでいねいに対応して保育をすすめていきます。 また、集団体験の場となるよう、子ども同士のかわりを大切にし、集団遊びを援助していきます。		異なった年齢の子どもたちとの交流を重視しながら、4・5歳児の幼児グループと一緒に保育をします。 音楽・造形・体育などの活動・館外活動を通して遊びの範囲を広げていきます。 （4・5歳児の幼児グループと合計35人）	午前中は3～5歳児の「集団保育(C)」プログラムの子どもと一緒に活動し、午後は異年齢児の小グループで、家庭的な雰囲気の中で遊びます。それぞれの子どもたちの生活リズムを大切にし、異年齢児の子どもたちがリラックスして過ごせるように配慮します。
保 育 者	保育者3人 （そのほかに、こどもの城のボランティアが加わります）		保育者3～4人 （その他、こどもの城のボランティアが加わります）	保育者1～2人 （その他、こどもの城のボランティアが加わります） （午前中は、3～5歳児の「集団保育(C)」プログラムと同じ）

育施設を探していることが多い。本年度は、(1) 赤ちゃんの時大きな手術を行い現在も経過観察中 (2) 不安が強く一時も母親から離れられずパニックを起こしやすい (3) 発達に障害がある——この3人を受け入れることにした。健常児との触れ合いや遊びの雰囲気を感じさせてやりたいという、親の願いを受けたものである。具体的には、保育のスタッフと親とがしっかりとコミュニケーションをとることから始めた。

基本的には、子どもがある程度落ち着くまでは親(母親)も一緒に保育参加をすることにした。(1)の例では両親とも病気の再発を恐れており、とりわけ母親は自分でも認めているように、過保護、過干渉になってしまうという状態であった。子どもは1週間に1度の4時間保育であったが、少しずつ母親がいなくても元気に友だちと遊べるようになった。しかし、母親の方は心配で子どもから離れたくない気持ちが高く、保育者と信頼関係を築くのには時間がかかった。

(2)の例は子どもの知的レベルは高く、常に絵本をかたわらにして母親から離れない、という状態がしばらく続いた。少しでも離れると火がついたように泣くので、母親は疲れきっていた。子どもは集団の中で母親と行動をとともにした。担当の保育者は常にさりげなく間に入り、子どもに声をかけたり、母親と短い会話をしたりしてかわった。父親も観察室から子どもの様子を見てから、出勤する日もあった。1年が経過するころには母親に代わる保育者にもなつて、言葉を交わすまでになり、集団の中でも遊べるようになった。

(3)の例では、子どもに発達の障害があることを承知はしていても、親の気持ちとしてはなかなか受け入れがたいのは当然なことだろうと思われた。〔こどもの城〕の保育以外の発達センターをはじめ、医療機関や児童福祉施設などを親は丹念に調べて、子どもの養育の一助にしていた。子

どもは健常児の中の雰囲気にも慣れて、好きな遊びも母親と一緒に見つめるようになった。ほかの子どもたちも違和感なく仲間の一員としてみていたが、母親は緊張していたと思われる。〔こどもの城〕以外に定期的に通っている発達センターの担当者とも連携しながら、保育を進めたケースである。

不定期に保育に参加してくる子どもたちや親の方にも、気になるケースがあった。例えば「もうすぐ4歳だが、しゃべらない」「幼稚園でうまく遊べずやめてしまった」「子どもは元気だが、母親同士の付き合いが精神的に負担になっている」などである。保育者に話す子どものこと、親自身の悩みなどのなかには、時には重いと思われるケースもあるが、大方は話を聞いてもらってほっとしたとか安心しましたという保護者が多い。親の相談相手としての保育者の役割が大きくなっている。また、相談の内容によっては小児保健部の受診をすすめることもある。

(ウ) 幼児グループ

2年間定期的に週4日保育に参加する、4・5歳児のグループ。「保育クラブ」の3～5歳児を交えた異年齢混合保育で、保育活動の基盤になる子どもたちでもある。

「幼児グループ」の保育のねらいは、家庭と協力して人間性豊かで自発的な子どもを育てることにあるが、具体的には以下のとおりである。

- ・健康な体と心を育てる
- ・自分で考え行動する力を育てる
- ・感受性・共感性を豊かに育てる
- ・探究心・好奇心を育む
- ・表現力を豊かに育てる

〔こどもの城〕のスペースや設備を生かし、各部門の専門スタッフと連携して、さまざまなプログラムを取り入れて、子どもの心に響く体験や出会いを展開することをめざしている。

通常の保育活動は保育室1を中心に屋上遊園、ネット広場での遊びとなるが、本年度も〔こどもの城〕のグループ活動に積極的に参加するようにした。音楽事業部との連携で「和太鼓」の体験、プレイ事業部との連携で「忍者修行道場」というごっこ遊び、体育事業部の協力で「大玉ボール」の遊びなどを行った。

年間をとおして週に1回プール活動を行っているが、2年間定期的に行うことで水に対する子どもたちのとけこみかたはスムーズになってきていると感じている。

健康や社会の面では、都市の車社会の中で“歩く”ことが不足しがちになっている子どもたちに、街の中を歩くプログラムを随所に入れ、代々木公園や近くの自然がある場所を見つけては歩いて出かけた。子どもたちにとって、季



「幼児グループ」の「親子遠足」

和太鼓（音楽部門との連携）



節感や街の生活感を感じることもつながっている。

また保育活動の場として〔こどもの城〕の裏庭にある保育専用の砂場は、年間をとおして子どもたちが砂と水をふんだんに使って遊べる貴重な場所となっている。

幼児グループの年長児は毎年「お泊り保育」を実施しているが、ねらいは「家庭から離れて友だちと生活する」ことにおきている。ほとんどの5歳児が、初めて親からはなれて一泊をする体験であるが、子どもより親の方の不安や心配が強い。親しんでいる〔こどもの城〕内に宿泊することで、親子とも安心するようである。「お泊まり保育」は、その後の子どもたちの生活面の自立や遊びへの自信ともつながってくる。

こうした保育の活動を写真、作品、子どもの言葉として残しておき、2月に行う「保育活動展」で紹介した。本年度は子どものエピソードを集めた言葉の小冊子を作って各方面に配り、子どもっておもしろいですねとの感想が寄せられた。

家庭とのコミュニケーションでは月に一度「キゾラウスキッズ」と題した、保育内容などをのせた小冊子を発行している。保護者懇談会も毎月開き、就学に向けて小学校の校長先生を招いて話を聞いたり、「幼児グループ」を修了した親との懇談会を開いたりして、親の不安や疑問に応えている。一人っ子の家庭や今の学校の様子が分からないという親からの要望を受けたもので、保護者からは喜ばれている。

「幼児グループ」は、時間を延長して保育に参加してもいいことにしているが、家族が少ない家庭も多く延長保育に参加してたくさん遊んで帰りたいという親子が多い。

また、両親のいずれかが外国籍という2組の家族と日本

忍者修業道場（プレイ部門との連携）



人の子どもが、遊びの中で起こったことをきっかけに親が絡んだトラブルになったこともある。双方の親たちと頻繁に面接を行いながら解決を図ったが、保育者のとまどいも大きかった。保育も確実に国際化が進んでいる。文化の違いを認識しながら保育を進める難しさを痛感した。

3. まとめ

子ども家庭支援プログラム「親子教室」「保育クラブ」「幼児グループ」を始めてから18年が経過した。この間、若干のシステムを変更したり、保育の内容などを工夫したりしてプログラムの充実に努めた。

保育研究開発部は、これまで「ここは保育所でもない、幼稚園でもない保育施設」と言われていた。そのたびに「大型児童館の中の保育施設です」と答えてきた。最近は「一時保育や保育相談、一般の親子も楽しめるプログラムがあるから子育て支援センターですか」という見学者もいる。どちらもあたっているが、それだけではない。いつも補足説明を行っていた。本年度、次世代育成支援のなかで出てきた保育所や幼稚園の枠を超えた「総合施設」の構想で、今後は〔こどもの城〕の保育についても理解されやすいものとなるのではないかと期待している。

一般来館児・者事業の「親子工房」と「よちよちクラブ」は、リピーターも多く定着したものとなっている。常設に向けた方向で取り組めないものかと考えている。

専門指導者向け研修事業の一つ「こどもの城保育セミナー」の参加者がここ数年来減少している。参加者が減少しても、時代を少し先取りした内容にするのが妥当と思われるのだが、企画や運営方法も十分に考慮する必要があり、運営も難しくなってきた。

平成16年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
親子遠足（春）	5.15	「保育クラブ」「幼児グループ」の2～5歳児の家族プログラム。家族同士の交流を図るのがねらい。年度始めの春は保育スタッフから家族に積極的にかかわるようにしている。保育スタッフにかんするクイズ、家族同士が力を合わせてパラバルーンで遊ぶなど。ほかの親子とも知り合えて楽しかったと参加者に喜ばれた。代々木公園（渋谷区）、親子216人参加。
親子遠足Part II（秋）	10.2	「保育クラブ」「幼児グループ」の2～5歳児の家族プログラム。家族同士で体を動かして遊ぶことがねらい。まねっこ体操や玉入れ、借り物競争などミニ運動会の要素も取り入れた。一人っ子の家庭が多くなり、親として初めて体験するプログラムばかりで新鮮だったという感想も聞かれた。代々木公園（渋谷区）、親子166人参加。
保育活動展	H17.2.1～13	前年度に引き続きテーマを「こどもようパートⅡ」とした。例年「幼児グループ」を中心に、「保育クラブ」の2～5歳児の一年間の作品や活動の様子を写真やビデオで紹介している。今回は、保育の中で聞かれる子どもたちの「言葉」を集めたコーナーを設けて紹介した。保護者以外の一般の来館児・者からも子どもの生の姿がうかがい知ることができると好評だった。小冊子の編集は広報部の協力を得て行った。（ギャラリー）
よちよちクラブ	土曜日 11:00～12:00 13:30～14:30	一般来館の1・2歳児の親子のための子育て支援プログラム。年間20回。延べ438組の親子約818人参加。リピーターが増え、「親子教室」「保育クラブ」につながるケースが増えてきた。「よちよちクラブ」以外にも、兄弟が館内で遊べるのが魅力という家族もできた。また、保育スタッフへ子育て相談など気軽に声をかけられるのがいいという親もいる。予約制だが、当日参加が多い。（保育室1）
保育室の一般開放	土・日曜日・祝日 10:00～17:00	1・2歳児のためのおもちゃや絵本を用意して、〔こどもの城〕に来館する親子に遊べる場を提供した。定期的に遊びに来る親子もいる。こどもの城ボランティアグループが定期的に絵本の読み語りを親子に行っている。（保育室2）



「親子遠足Part II」（秋）



「よちよちクラブ」

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 つくって遊ぼう親子工 房「かがみのかんづめ」	5.3～5 10:30～12:00 13:30～15:00 15:30～17:00	ミラーシートを反射面が内側になるように丸め、底をくりぬいた茶筒に入れる。ホログラムシートを丸く切って両面テープでふたの内側に止め、ふたを戻す。ミラーテープなどを筒のなかに入れる。ハサミや穴あけパンチで穴を開けたのぞき穴のシートを作り、くりぬいた底にふたをするように両面テープで茶筒にとめ、上からビニールテープを巻く。ふたを回しながらのぞくと、光の海にダイビングしているような気分。親子で楽しめた。親子643人の参加。ここ4年間は300人前後の参加者だったので、異例の増加。材料：茶筒（底をくりぬいておく）、ミラーシート、ホログラムシート、ミラーテープなど／道具：ハサミ、ボールペン、穴開けパンチ、両面テープなど。 (保育室1)
〈夏休み〉 つくって遊ぼう親子工 房「CDまんげきょう」	8.13～15 10:30～12:00 13:30～15:00 15:30～17:00 (15日の15:30回は休み)	鏡シリーズ第2弾。別名“万華鏡モドキ”。CDをこまのように回すため、中央に軸になる凸パーツ（塩化ビニール板にボールペンの先などを押し当ててとがらせる）をつける。CDの上に両面テープをはり、小さく切ったホログラムフィルムなどをはりつけ、油性ペンで模様を描く。別に、ボール紙・画用紙で筒を作り、CDを回していろいろな角度からのぞいて見る。CDが美しい光を撒き散らしているように見え、参加した親子からは「きれい!」の歓声が上がった。親子460人参加。材料：CD、回転盤の軸（塩化ビニールの板）、ホログラムフィルムかホログラムペーパー、ボール紙か画用紙／道具：ハサミ、ボールペン、油性ペン、両面テープ。 (保育室1)
〈開館記念〉 つくって遊ぼう親子工 房「かがみのくにへよ うこそ」	11.2～3 10:30～12:00 13:30～15:00 15:30～17:00	鏡シリーズ第3弾。別名“不思議な箱”。三面鏡のしくみ（鏡の前にいる自分や部屋の風景が何重にも映ること）を応用したもの。牛乳パックの底と注ぎ口を切り落とし、風景・人物などを描いたのち、のぞき穴をあけたアルミはくの鏡をはって両側にふたをする。風景の中にいろいろな人や動物などを作って置くと一層たのしいものになる。親子で工夫しながら作った。親子129人参加。材料：アルミはく、牛乳パック、ケント紙／道具：ハサミ、セロハンテープ、ペン類、穴あけパンチ。 (保育室1)
保育室の一般開放	特別期間中の土・日曜日 10:00～17:00	一般来館の1・2歳児の親子が、おもちゃなどで自由に遊べる場を提供した。午前中は、兄弟が母親と館内のはかのプログラムに参加し、下の子どもが父子で遊んでいるケースを見かけるようになった。午後は閉館間際まで混みあうことが多くおもちゃのかたづけをしなくて退出する親子も多い。保育スタッフが折々にかたづけの声をかけた。 (保育室2)



つくって遊ぼう親子工房「CDまんげきょう」



「保育活動展」

2. 講座・講習会など

〈クラブ〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
幼児グループ	(人) 4歳児 (11) 5歳児 (11)	(人) 11 9	火～金曜日 10:00～14:00	〔こどもの城〕を保育の場とする週4日、2年間にわたる継続的な保育活動。「保育クラブ」の主に3歳児が曜日別に加わり、異年齢保育となる。多様な人間関係を体験するため、ボランティアとも遊ぶ。チームで保育を行い活動を深める。プレイ、音楽、体育事業部と連携をして、子どもたちはプログラムに参加した。かかわりの難しいと思われる親子、ささいな子ども同士のトラブルにからむ親などがあり、子ども理解のための話し合いの場をしばしば設けてトラブル解消につなげた。「保育クラブ」に連動している。保育料41,000円、給食費4,800円(いずれも月額)。延長保育を希望する家庭が多い(別途保育料)。
保育クラブ	2～5歳児 (登録数 416)	14 9 (1日 あたり)	月～金曜日(2歳) 10:00～13:00 10:00～14:00 火～金曜日(3～5歳) 10:00～14:00 10:00～16:00	登録をして利用する会員制の保育活動。日時を選べる。少子化の影響からか、集団遊びへ参加したいとの理由から応募するケースが多い。入会のためのガイダンスをビデオで見せ、ていねいに「保育クラブ」の利用の仕方を伝える。家庭環境調査票、児童調査票の提出を義務付けているのは、親とともによりよい子育てをすることがねらい。保育のほかにイベント、通信の送付、家族プログラムのサービス実施。希望で延長保育(3～5歳児)も受けられる。入会金10,000円、年会費5,000円。保育料として、2歳児1,200円(1時間)、3歳児以上850円(1時間)。昼食代600円、おやつ代200円(1回)。

〈講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
親子教室 1期 2期 3期	(組) 1歳児親子 (各期16)	(組) ① 16 ② 16 ③ 13	月曜日 10:00～12:30 (全10回。月曜7回、 土曜1回、日曜2回)	親子遊びを中心に子育ての楽しさを両親で体験するプログラム。スタッフの援助で、ほかの親子との交流も図れるようにしている。医学・心理発達にかんする講義、栄養士などからのアドバイスもある。父親の参加3回を含む。リピーターの参加者も受け入れた。受講料は35,000円。

〈専門指導者向け講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
子育て相談研修会 (基礎編) 春	(人) 育児相談 担当者 (110)	(人) 71	5.29 10:00～17:00	テーマは「保育所や児童館が行う子育て相談の基本と実践」。春・秋とも「保育行政の動向」(角田雄三・厚生労働省)と「基本的な相談の技法」(山崎美貴子・神奈川県立保健福祉大学)の基本講義。秋には「他機関の連携」(上別府圭子・東京大学大学院)などについて学習。〔こどもの城〕子育て相談研修会の企画委員の事例報告を題材に、事例を分析・把握するための手法「エコマップ(環境関係図)」「ジェノグラム(家族関係図)」で書き表し方を学んだ。事例や具体的な説明が多く分かりやすいと参加者には好評。受講料6,000円。(研修室)
〃 秋	〃 (110)	71	10.23 10:00～17:00	
子育て相談研修会 (応用編)	〃 (50)	27	6.19、9.11、 11.7、11.15 14:00～20:00	テーマは「保育所や児童館が行う育児相談とは何か」。スーパーバイザーは、山崎美貴子(神奈川県立保健福祉大学)と山田美和子(元全国社会福祉協議会高年福祉部)の両氏。参加者が持ち寄る事例を中心に、具体的な子育て支援のかかわり方を学んだ。受講料30,000円。(研修室)

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
第17回こどもの城保育セミナー 「子どもと生活・家庭と文化 PART V～子育て家庭のよきパートナーになるために～」	(人) 保育関係者など (150)	(人) 64	7.31 10:00～17:00 8.1 10:00～15:00	全国の保育所、児童館、行政の児童福祉担当者などが対象。毎回児童福祉が現代社会の中でどのような動きとなっているのかを取り上げている。1日目は「家族を考える」のテーマで小児科医の立場から福祉の観点から対談。参加者の関心と呼んだ。続いて子育てのトピックスとして「虐待」と「地域の活動」を取り上げた。参加している各地の子育て支援の実践者は情報交換を交えながら今後の方向性を探った。 【対談】 「家族を考える」山崎美貴子（神奈川県立保健福祉大学） 巷野悟郎（こどもの城小児保健クリニック） 【現代の子育てトピックス】 「虐待の背景は？」庄司順一（青山学院大学） 「子育て家庭の現状」奥山千鶴子（NPO法人びーのびーの） 【分科会】 「ハイリスク家族を支える支援とは？」 助言者＝倭文真智子（東京都墨田区児童相談所） 「子どもをどう理解するか」 助言者＝菊地政幸（社福・東京児童協会・船堀中央保育園） 「絵本とどうつきあうか」 助言者＝山口雅子（学習院女子大学）

3. その他

〈講師派遣〉

名 称	日 時	内 容
親子で楽しむリズムあそび	6.5	子育て支援にかかわる保育士を対象に、〔こどもの城〕のプログラムを例にしながら指導。地域における子育て支援の熱意を感じさせられた。参加200人。主催は神奈川県保育士会。
楽しめる絵画制作	10.13	幼児期における絵画制作の指導法や子どもの絵の読み取り方について、保育士を対象に実践的に指導。具体的にユニークな素材の取り扱いで楽しく学べたと好評。参加者30人。主催は福生市（東京都）保育協議会。
保育所における家族援助～地域のコミュニケーションの場に～／遊びをととした子育て支援～こどもの城の保育の造形活動～	10.27	子育てを取り巻く環境の変化により、保育所への期待も子どもの保育のみではなく家族を含めた支援を求められてきている。〔こどもの城〕を紹介しながら家族援助のあり方を講義。さらに、造形活動をととした子育て支援プログラムのワークショップを行った。〔こどもの城〕が初めてという地方からの参加者もいて、新鮮だったとの感想も寄せられた。参加20人。主催は鉄道弘済会。
ゆとりの子育て 「現代子育て事情」 「親子の運動あそび」 「手作りおもちゃと造形あそび」 「楽しい親同士の交流」 「楽しく子育て～親もリフレッシュ」	11.9 11.16 11.30 H17.1.11 1.18	地域の子育て支援の一環で三鷹市（東京都）市民大学家庭教育講座（全28回）の一部を担当。参加者からは、最新の情報や子どもとの付き合い方を考えるチャンスになった、との声が寄せられた。講師となった職員にとっても地域の実情を知るよい機会となった。継続の参加者25人。主催は三鷹市社会教育課。
一緒に遊ぼう会	11.10	2歳～就学前の子どもを持つ地域の家庭を対象に、具体的な“親子のふれあい遊び”を紹介。親子が一緒にいても意外にも遊んでいないなど、親からの反省もあった。参加者親子50組。主催は市原市（千葉県）児童福祉課。

名 称	日 時	内 容
親子で楽しむ運動あそび	11.24	手軽に、楽しく身体を動かす遊びを紹介。改めて向き合って遊ぶことで、親子のつながりを感じさせられる雰囲気になり、ほほえましい集まりになった。参加親子25組。主催は三鷹市（東京都）西部地区住民協議会。
3歳児の造形～表現活動の理論と実際～	12.1	保育所の現任保育士の資質向上がねらい。〔こどもの城〕の保育活動を紹介しながら、3歳児の造形活動について実技指導。枠にとらわれない発想と、身の回りの素材を生かした展開に参加者からは大いに参考になったとの感想。時間がオーバーするほどだった。質問も多く、地方における研修の場の少なさを痛感。参加100人。主催は宮城県子ども総合センター。
〔こどもの城〕における保育の実際	12.7	設立の由来、保育研究開発部で行っている子ども家庭支援について50人の学生に講義。具体的なプログラムをビデオなどを使って紹介。例年、学生の関心が高い。男子学生の質問が目立った。その後積極的に〔こどもの城〕に見学に来る学生もいる。主催は玉川大学文学部教育学科。
〔こどもの城〕の事業と運営及び保育研究開発部について	H17.1.13	国際児童年を記念して設立され、児童の健全育成のためのプログラムをさまざまな角度から行っていることを学生に講義。主催はYMCA。
幼小の連携について	1.18	保育所と小学校との連携について、〔こどもの城〕の保育を例に紹介。少子化が進むなかで小学校（進学）への期待感とともに不安を抱えている親も多いことを、保育関係者も学校側ももっと理解しなければならない。そのためには双方の情報交換やふだんから、垣根を越えた交流が大切になると児童福祉施設長20人に話をした。主催は日本保育協会長野県支部。
4・5歳児の造形と表現活動	1.20	現任保育士（4・5歳児）の資質向上を図るための研修会。〔こどもの城〕の保育プログラムを例に指導。熱心な参加者で時間ぎりぎりまで学ぼうという姿勢。子どもの自由な発想をどのように生かしていけるか、か課題との感想も寄せられた。参加100人。主催は宮城県子ども総合センター。
たのしい運動あそび 音楽ふれ合いあそび	1.21 2.5	地域の2歳半以上の幼児と保護者35組を対象に、楽しく体を使う遊びを紹介。「いい汗をかきました」と父親の感想。音楽遊びはゆったりとしたなかで親子（父母）がふれあいながら遊ぶプログラムを紹介。ちょっとしたアドバイスで親子が生き生きと遊んでいる場面が多くみられ、子育ての援助の大切さを改めて痛感。主催は川越市児童センター。
たのしい、親子あそび	2.9	地域の子育て支援のプログラムの活性化のために、〔こどもの城〕のプログラムを紹介。2～5歳の親子が保育スタッフの音楽遊びや運動遊び、パネルシアターなどを楽しんだ。参加親子25組。主催は戸塚区（横浜市）家庭教育学級。

〈その他〉

名 称	日 時	内 容
ニュースレターの発行	第32号（7.15） 第33号（H17.1.15） 第34号（3.15）	行政、経済界、利用者に関する情報および子育てをめぐる情報、子育て相談研修会の内容の概要などを紹介。本年度は児童福祉施設における次世代の子育てを支える支援策など、行政の動きをはじめ各地の実践などを中心に取り上げた。児童福祉施設の果たす役割の大きさを実感させられるとの読者の声。〔こどもの城〕で行っている「親子工房」、「子どもと絵本」など保育セミナーの内容なども紹介。主な配付先は、市長会、見学者、関係所管課。年間講読料2,000円（郵送費、印刷代一部負担金）

小児保健部



平成16年度の活動

1. はじめに

小児保健部は子どもの健康について取り組む部門である。子どもが心身ともに健全に育つよう援助していくこと、保護者への子育て支援を行うことが小児保健部の目的である。そこで、以下の4つを中心に活動をしている。

- (1) 「小児保健クリニック」で子どもの健康上の心配ごとについて診療・相談の場を提供する
- (2) グループで行う講座や催しなどで、子どもの生活習慣病予防や保護者への子育て支援の活動を行う
- (3) 子育て支援の現場にかかわる専門職への啓発活動を行う
- (4) 活動の成果をまとめるための研究をする

小児保健部の活動は、医師のほかに保健師・看護師・管理栄養士・臨床心理士などの専門スタッフが、診療・相談をとおして個人としての子どもや保護者が心配事や問題を解決し、成長していけるよう援助することに中心を置いている。グループで行う子育て支援活動（「赤ちゃんサロン」「親子のほっとタイム」「季節の離乳食」）は、特に0～2歳までの子どもの生活や親の子育てを保健的な観点から援助していこうという特徴がある。さらに、太りすぎの小学生を対象とした「健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉」などにみられるように、現代の社会がもたらす生活習慣病対策としての援助にも力を入れている。

個々の相談や講座で出会う親子のようすは、現在の社会の風潮につながっているところがあり、子どもや子どもを取り巻く状況について多くを学ぶことができる。このような経験が“子育て支援”にかんする講習会などを主催する時のテーマ設定や講習内容に生かされ、より多くの現場の

人々と問題意識を共有することにつながっている。

本年度は、「マタニティ・スイミング」の修了者で2歳未満の子どもを持つ人を対象に行ってきた、年1回の「マタニティ・スイミング同窓会」を廃止した。最近「マタニティ・スイミング」のレクチャーによって子育てへの準備意識を持ってもらうようにし、出産後は「赤ちゃんサロン」への参加を勧めている。講座参加者だけの同窓会より、「赤ちゃんサロン」という広がりのある場所への橋渡しが自然にできるようになった。実際「赤ちゃんサロン」で講座修了者同士が集まり、話し合っている場面もみられるようになったので、特別には「同窓会」をもうけないことにした。

2. 現場の指導者を支える 「子育て支援講習会」

本年度は、“子育て支援事業”のこれまでの経験から、「子育て支援講習会～最新の小児保健の基礎と実際 心とからだの健康～」を紹介する。

(ア) 内 容

平成13年度から、0～2歳の乳幼児を持つ親の“子育て支援”を行っている専門職を対象に、2日コースで「子育て支援講習会」を開催している。講師は当部の専門スタッフで、小児保健の各分野から最新に話題になっている基礎知識を伝えるように努力している。本年度の参加者は、保育所、子育て支援センター、児童館などに所属する保育士、栄養士、看護師、保健師、児童厚生員、ベビーシッターなど39人が全国各地から参加した。

1日目の午前是小児科医師による「最近の子育ての問題点」（次ページのコラム参照）。最初に、脳神経系の発育を

もとに、0～2歳児の発達の基礎となる生理的身体的な特徴を整理して参加者に伝えた。すなわち、子どもの健康をめざすために支援者が理解しておくべき自律神経の働きを説明し、幼児期の生活リズムの大切さを強調した。

午後は管理栄養士による「離乳食や食生活一般」。離乳食は、赤ちゃんの口腔機能を理解するために、ビデオを見せながら説明。さらに最近の食器、スプーンなどの食具、離乳食作りに便利な調理器具などを実際に見てもらった。手づかみ食への大切さ、幼児期の特徴的な食べ方のとらえ方など、母親から寄せられる身近な悩みの質問にどのように答えたらいいのかを話した。

看護師による「健康管理や応急処置について」では、身体発育曲線の見方、感染症と予防接種、事故防止と応急処置、保育所での薬の取り扱いについてなどを具体的に話した。応急処置に使っている便利な薬品や用具を見せたのが

好評であった。また、三角巾の使い方を実技指導。参加者が互いをモデルに三角巾を使ってみることで、会場の雰囲気や和ませることとなった。

2日目の午前中は、臨床心理士による「気になる子どもの理解とその対応」。発達障害といわれる言葉遅れ・自閉症・注意欠陥多動性障害（ADHD）・学習障害（LD）など気になる子どもの状態のとらえ方、幼児期以降にみられる心理的・情緒的な要因から起きる情緒障害や心身症などの問題を整理して分かりやすく説明した。

午後は、「こどもの城」の子育て支援事業である「赤ちゃんサロン」を担当している臨床心理士が、「親と子の集まり～子育て支援の方法と実際～」として、会場設営や支援者の心構えなどをイラストやビデオを使って具体的に説明。分かりやすいと好評だった。

最後に「情報交換」の時間を持ち、現場で困っている事

最近の子育てに思うこと

子育ては昔も今も変わらず手がかかります。ことに始めの3年間は自分から何一つできなくてすべて親まかせですから、一時も目を離せません。食べることから排泄することまで、寒さ暑さに対応することもすべてが人まかせで、ことに幼若なほど自分中心です。

欲しいものがあれば欲しいし、いやなことはいやです。このような自分中心の行動が、子どもを発達させて、いつでも自分を受け入れてくれる大人と心が結びついていきます。そして人を信頼し、精神知能の発達とともに聞き分けのよい子どもとなり、集団生活になじんだころ3歳を迎えます。

ここにいたるまでの過程を振り返ってみると、わからずやの子どもの相手ですから、親は独身の時代が懐かしく思い出されることでしょう。しかしわが子が次第に自分に寄り添ってきたとき、母親や父親としての喜びを感じとってくるのではないのでしょうか。子育てはたいへんだけれど、たいへんだからこそその結果の喜びには、何物にもかえがたい重みがあります。このようなことは子育てを振り返った時に、初めて感じられるものです。

厚生労働省が行っている子育ての縦断調査によると、生後6か月の時点でのお母さんの答は、「たいへん」80%に対して、「楽しい」という回答が99%という数字。まさにそれを物語っていると言えましょう。

要するに子育てはたいへんだけれど、だから楽しいのだということで、それは時代が変わろうと、生活様式が変わろうと、母親の労働が多くなろうと、変わる

ものではないと思います。子育ては生物としての行動の部分が大きいからでしょう。今はややもすれば子育てはたいへん、自分の時間がもてない、お金がかかるという声が大きくて、子育ての楽しい実感を押さえつけてしまっているようです。

ごく一般的な遊びを考えてみても、お金がかかるし、遊べば疲れるし、遊ぶためには自分がやらなければならない仕事の時間がつぶされます。要是楽しいこと楽しかったことを強調するか、それともお金がかかる、疲れる、仕事ができないということを強調するかです。

子育てがたいへんという声があまりにも大きいと、子育て支援に傾いていきます。その支援がすすむほどに子育てが親から離れていくのではないかと心配します。子育て支援も大切だけれど、それにも増して子育てを応援して、楽しさをふくらませてあげることだと思います。

日本と北朝鮮とのサッカーの試合が、遠く離れたタイのスタジアムで行われたということは、両陣営の人たちにはたいへんな条件だったでしょう。そんな雰囲気での全力投球は、ずいぶん精神力を必要としたと思います。それを勇気づけてくれたのは他でもない、場外からの日本人サポーターの声援だったと新聞が報じていました。

人手やお金で支える支援もあるけれど、私たちはまずは親子の楽しいふれ合いやよろこびを応援することが必要だと思います。（小児科医師 巷野悟郎）

柄について話し合った。例えば、おもちゃや砂場の消毒方法、夜泣きがおさまらないという相談にどのようにアドバイスするか、かみつき後の消毒や処置、虐待を見つけたときの対応、偏食の考え方などさまざまな疑問が参加者から発せられ、活発な意見交換が行われた。

参加者は、遊びを中心とする支援と同時に乳児期からの新しい保健知識や情報を取り入れながら現場に生かしたいと勉強熱心である。研修会で得られた内容を参考にしてもらえるように、さらに研鑽を深め、今後も最新の「子育て支援講習会」を展開していきたい。

3. 診療・相談活動

(ア) 統計にみる診療・相談の特徴

本年度の小児保健クリニックの診療・相談件数は表1に示したとおりである。診療（予約制・健康保険扱い）の総件数は1,137件で前年度より184件減少した。しかし、平成14年度の1,066件よりは多い。心理・発達相談の件数も90件ほど、乳幼児健康診査（公費）の件数も38件減っている。前年度はマスコミで何度か「健康スポーツ教室〈太り過ぎクラス〉」が紹介され、肥満を主訴に来所する人が多かった。本年度は小児科医の診療枠も結果的に前年度より少なめであったので、新規来所者の件数も355件から292件に63件減少した。

ここ数年、乳幼児健康診査（公費）が100件以上あったが80件に減少している。以前は、他団体の妊婦教室で「こどもの城」の紹介などをしていたが、そうした広報の機会が減り、影響がでていているといえる。

利用者の地域別内訳（表2）では、前年度は東京都内の

利用が計297人（83.7%）であったのに今年度は219人（75.0%）に減り、千葉県など他県の利用が増えているのが目立つ。また年齢別（表3）では、公費の健診の減少で1歳児が50人（14.1%）から25人（8.6%）に減り、「保育クラブ」（保育研究開発部）などの健診が増えたので4歳児が若干増加しているが、他には大きな変化はない。

新規来所者の診療・相談の内容内訳（初診時の診断分類）では、「発達についての相談」が一番多く、次いで「情緒・行動面の相談」「身体的・心身症的な相談」の順であった。最近の傾向としては、「学習障害・注意欠陥多動性障害」ではないか、という訴えで来られる方が増えていた（前年度38人）が、本年度には25人に減っている。これはマスコミなどによりADHDという障害名が広まったことによる社会的な注目がやや沈静化したからとも言えよう。また、情緒発達に早期からなんらかの問題をかかえている「情緒障害」は件数的には前年度と同数であるが、不登校は4人から17人へと再び多くなっているし、「情緒・行動面の相談」の小計は66人（18.6%）から74人（25.3%）と増えている。

それを反映するように、統計上は現れていないが、最近では、ひとり親（特に母子）家庭の相談が増えており、再婚後の家族関係についての相談も目立つ。背景にDV（ドメスティック・バイオレンス）があったり、情緒的なネグレクトや不適切な養育の問題も見えたりする。また、両親ともに社会的には活躍しているが、子どもにふさわしい情緒的なかわりがもてなかったり、知的な教育にのみ走っているような親子も来談する。そういった相談の継続は心理相談でなされることが多いが、経済的にも保護者との関係作りにも困難をきたすことがある。時代の傾向を反映し、当

【小児保健クリニック月別診療・相談件数（初診・再診内訳）】（表1）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
診 療	102	105	97	108	79	94	88	107	79	89	93	196	1,137
健 康 診 査（公費）	9	2	3	6	5	4	8	10	8	8	8	9	80
健 康 診 断（自費）	1	3	20	6	1	5	0	1	4	2	0	0	42
育 児 ・ 健 康 相 談	2	1	0	4	0	0	1	1	1	1	0	0	11
心 理 ・ 発 達 相 談	126	113	114	111	101	119	101	100	108	93	105	110	1,301
ダ ウ ン 症 療 育 相 談	6	10	7	3	9	6	6	5	7	9	9	6	83
合 計	246	233	241	238	195	228	204	224	207	202	215	221	2,654
内 初 診（新 規）	22	25	27	32	20	16	23	25	26	21	24	31	292
再 診	224	208	196	206	175	212	181	199	181	181	191	190	2,344

【小児保健クリニック新規来所者の居住地域内訳】（表2）

居住地域	渋谷区	世田谷区	港 区	目黒区	太田区	その他23区	市郡部	計	神奈川県	千葉県	埼玉県	その他	計	合 計
人	56	19	19	16	12	77	20	219	32	20	17	4	73	292
(%)	(19.2)	(6.5)	(6.5)	(5.5)	(4.1)	(26.4)	(6.8)	(75.0)	(11.0)	(6.8)	(5.8)	(1.4)	(25.0)	(100)

【小児保健クリニック新規来所者の年齢内訳】（表3）

年 齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12～17歳	18歳以上	合 計
人	45	25	18	18	28	27	15	20	15	19	20	12	25	5	292
(%)	(15.4)	(8.6)	(6.2)	(6.2)	(9.6)	(9.2)	(5.1)	(6.8)	(5.1)	(6.5)	(6.8)	(4.1)	(8.7)	(1.7)	(100)

【新規来所者の診療・相談内容別内訳】(表4)

内 容		件 (%)
発 達 の 相 談	精神遅滞(疑いも含む)	29 (9.9)
	学習障害・注意欠陥多動性障害(疑いも含む)	25 (8.6)
	言語発達遅滞(疑いも含む)	22 (7.5)
	自閉症・自閉的傾向(広汎性発達障害)	10 (3.4)
	ダウン症、その他先天異常	5 (1.7)
小 計		91 (31.2)
情 緒 ・ 行 動 面 の 相 談	情緒障害・情緒不安	44 (15.1)
	不登園・不登校	17 (5.8)
	神経症(強迫神経症・恐怖症など)	8 (2.7)
	集団不適応	3 (1.0)
	育児不安(夜泣き・指しゃぶりなど)	2 (0.7)
小 計		74 (25.3)
身 体 的 ・ 心 身 的 な 相 談	肥満・肥満と心理的な問題	25 (8.6)
	心身症(脱毛・チック・吃音など)	11 (3.8)
	夜尿症・遺ふん・頻尿など	6 (2.1)
	身体疾患(低身長・内反足など)	4 (1.4)
	小 計	46 (15.8)
合 計		211 (72.3)
健 診	健康診査(公費)	54 (18.5)
	健康診断(自費)	27 (9.2)
合 計		81 (27.7)
総 計		292 (100)

クリニックにもさまざまな形態の家族が訪れるようになっている。

【(イ)「心理相談・発達相談」ってなにをするの？】

小児保健クリニックには、臨床心理士が3人いて、小児科医から「心理相談・発達相談」に紹介された患者を担当する。といっても実際のところ何をするのか分かりにくいと思うので、ここで説明してみたい。当クリニックでは、便宜上、心理的な問題を主訴とされている人の相談を「心理相談」、言葉の発達の遅れ、自閉的傾向など特に幼児の発達の相談を「発達相談」と分けている。



「マタニティ・コンサート」

【遊戯療法(プレイセラピー)】

小児保健クリニックの特色は、子どものための心理療法を行うプレイルームが2つあることである。白木の床や遊具棚でできており、子どもの背丈に合わせた低い座卓とカーペット、手を洗える流しも備わっている。広い窓があり明るい。ここに1歳くらいの子どもの好きな球を入れるがん具から、プラレール、ままごとセット、野球盤やサッカー盤、年長の子どもの遊ぶオセロや将棋などのゲームまでいろいろながん具が置いてある。

「子どもは〈あそび〉をとおしてこそいろいろな体験ができ、自分を成長させることができる」という考えは「こどもの城」全館共通のものだが、それは小児保健部も変わらない。すなわち、〈あそび〉はとても意味深いもので、子どもの“心の成長”をうながすひとつの治療的な手段にもなるのである。〈あそび〉によって子どもの心を癒し、成長させる心理療法を「遊戯療法(プレイセラピー)」と呼んでいる。

小児保健クリニックを訪れる子どもたちは、例えば学校の友だちとの関係で傷つき、友だちに言いたいことが言えないでいたり、両親との間でも、お母さん・お父さんの指示や意向に従ってはいるが、実は自分の本当の気持ちを抑えこんでいたりする。いわば自分の本当の欲求や感情を人にうまく表現できないでいることが多い。

心理相談に紹介された子どもは、1対1でプレイルームに担当の臨床心理士と入り、「好きなように遊んで良い」と告げられる。そこでの50分間は、外の現実から離れた非日常の世界。自分の好きなように遊べる時間と空間である。主人公は自分だが、多くの子どもが最初は何をしてよいかわからず、なかにはなかなか自分からがん具を手にとれない子どももいる。

担当者は本人の遊びを援助する人であり、よほど危険のない限り、子どもが自発的に遊ぶ(したいことを表現する)ことが尊重される。活動的なボール遊びやチャンバラをしたいと思えば担当者は相手になり、やりとりを楽しみなが



「小児保健セミナー」

ら攻撃性を発散するのを助ける。また怪獣の戦いごっこや病院でのお医者さんの受診風景を演じている時には、「君はいつも襲ってくる怖いものと戦っているんだね」、あるいは「本当は自分も助けて大事にしてもらいたいと思っているんだね」などと、子どもの気持ちを言葉で代弁してあげる。子どもにとって自分の心のなかにある気持ちを理解してもらい経験は大切なことである。こういった形の遊戯療法は、1回50分、週1回、または隔週に1回など定期的に通い、2、3年継続することもまれではない。

このなかでは自由な遊びや言動が許されると分かってくると、子どもはだんだんに自分の葛藤や願望を現す遊びを選ぶようになる。そして今までにない新しい自分を表現し始める。そうすると日常の世界に戻ってからも、親に言葉で自己主張するようになったり、友だちともかかわろうとしたりと変化がみられる。

こうして「遊べること」は子どもの心を内面から豊かにし、自我を成長させてくれる。大人である担当者と1対1の基本的な信頼関係を作り直し、心の安定を得ることも大きな支えとなる。そしていずれその関係が家族・友だちへと広がっていくのである。

今の社会では、小さいころから子どもたちが人と一緒に夢中になって遊ぶという体験が少なくなり、大人の管理の下に過ごすことが多い。しかし、自発的な〈あそび〉はこのような子どもの心の成長に不可欠である。

【カウンセリング】

臨床心理士の仕事と言うと、まずは“カウンセリング”ということばを思いつく人も多いだろう。これは、いわゆる“相談”という意味だが、主にソファなどに腰掛けて1対1で、1回50分程度面談をする形式をとる。一般には、主に心配事があったり気分が落ち込みがちだったりする人、社会適応に困難を感じている人、身体に症状が出ているが心理的な原因（たとえば対人関係や集団生活のストレスなど）も関係していると思う人などが来談され、そういったことについて相談されることが多い。

この場合、カウンセラー（臨床心理士）は相談者の話をよく聞き、その問題について一緒に考える。助言をすることもあるが、基本的には、相談者が話をするだけで気分が楽になったり、今起きていることについて自分で考えをまとめたり、自分の感情に気づいたりする援助をするのである。そうすることで、その人が問題解決や自己成長をはかれるようにサポートする。単に「こうしたらいいですよ」と助言するのではないことが特徴である。

主に言葉を用いるカウンセリングという方法は、人にもよるが、小学校高学年くらいから可能である。それはこのころから自分の内面を意識することができてくるからであり、これくらいの年齢になると、本人も遊戯療法ではもう“子どもっぽい”と感じることが多い。従って、中学生以上ではカウンセリングという方法を用いることになるが、思春期はあまり人に自分の内面を語りたがらない難しい時期でもあり、ゲームなど別のコミュニケーション方法を取り入れることもある。

【保護者面接】

受診するのに子どもを連れてくるのは、保護者である。医師の診察を受けた後、心理相談に紹介されるが、子どもの来談意欲とともに、保護者の問題意識があって初めて心理相談が成立する。従って子どもの遊戯療法などと並行して保護者にも面接することが多い。一つには子どもの状態を判断するのに生育歴や家族の背景など情報が必要だからでもある。さらには親の心配に耳を傾け、親の立場で子どもの症状・行動や家族の関係をどう理解したらよいかということと一緒に考えていくためでもあり、カウンセリングの形をとる。これを保護者（親）面接と呼んでいる。

子どもの遊戯療法が進むと、子どもが親に今までになく口答えするようになったなどの変化を示す。こういった変化は、症状や行動が悪くなったのではなく、成長のプロセスとして必要なことだと保護者に理解してもらいことも必要である。保護者によっては、面接を続ける中で自分なりに問題を考え、家族の関係にも変化をもたらし、親として



「赤ちゃん大集合」



ダブルダッチに挑戦する
「健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉」の子どもたち

自信を持って成長していく場合もある。

【発達相談もプレイルームで】

2歳ごろからの幼児で、「言葉の発達が遅い」「自閉的ではないか」といった発達の相談に来られた場合も、「発達相談」としてプレイルームで親子に面接することが多い。

入室前は緊張していた親子も、おもちゃの部屋をみるととたんに表情が変わる。そこでリラックスして、子どもは好きながん具を手に取り、担当者やお母さん・お父さんと遊ぼうとする。担当者もまずは子どもと遊ぶ。そして子どもの様子を行動観察していると、がん具の扱い方や人との関係をとおしておおよその発達の様子が理解できる。また、両親とも本人のそこでの遊びから日常生活の様子を話題にできるので、相談の緊張感を和らげつつ、現実にもくした話ができるように思われる。

発達相談でも、子どもの発達の状況をとらえ、親の心配事を聴き、臨床心理士なりの見立てを伝えたり、生活上のことなどで助言することもある。そこから当クリニックの小児精神科や地域の療育機関にも橋渡しができるように配

慮している。

4. まとめ

本年度は、0～2歳児の子育て支援の指導者に向けた「子育て支援講習会～最新の小児保健の基礎と実際 心とからだの健康～」の内容を紹介した。さらに、それぞれの親が子育てを楽しくできるよう“応援”する姿勢が大切だという小児科医師の意見を掲載した。また、小児保健クリニックの「心理相談・発達相談」について解説した。

「小児保健クリニック」にもさまざまな形態の親子が訪れるようになっており、子どもが健全に成長していけるように、診療や相談にあたるスタッフの側にも工夫や研鑽が求められる時代となっている。また、情報化時代のなか、人間関係が希薄化し、他人をたやすく信じられない時代に入っている。子どもが育つために、家族を中心としながらも、心の成長に必要な人とのかわりをどう作っていくかが課題となってきたように思われる。

平成16年度活動一覧表

1. 一般利用

〈平常期間〉

名 称	日 時	内 容
小児保健クリニック (診療・相談) 小児科診療 育児・健康相談 乳幼児健康診査 健康診断 栄養相談 心理相談 発達相談 ※専門相談 ダウン症療育相談	月曜日を除く毎日 9:30～17:00 日曜日・金曜日(各月1回)	診療・相談は予約制。小児科医師・保健師・看護師・管理栄養士・臨床心理士が診療・相談にあたる(週2回小児精神科・月1回小児耳鼻科を含む)。 小児科医師の診療には、原則として健康保険が適用される。乳幼児健康診査は、東京都乳幼児健診委託機関のため受診票で受けられる。 育児・健康相談は相談料1回5,000円。心理・発達相談は担当者1人の場合1回50分5,000円、医師の診察を受けずに直接相談に入る場合、初回のみ7,000円、専門相談のダウン症療育相談は、相談料8,000円。 専門医が担当。
赤ちゃんサロン	火曜日(年18回) 12:30～14:00	対象は3か月～1歳半の乳幼児とその保護者、妊婦。参加者同士の自由な交流(井戸端会議)の場で、育児情報の交換や、医師・保健師・管理栄養士・臨床心理士による育児相談が行われる。本年度は延べ2,456人が参加した。入館券対応。(音楽ロビー)
第19回マタニティ・コンサート	7.4 15:00～17:00	妊娠中に、楽しくリラックスできるひとときをすごしてもらい、出産を迎えようという主旨のコンサート。マリンバ(浜まゆみ)とピアノ(大橋めぐみ)の演奏、絵本のスライド上映と朗読とのコラボレーションを行った。このほか、野末源一山王病院産婦人科医師と荻野悟郎こどもの城小児保健クリニック医師の話、体育事業部スタッフによるリラックス体操などを行った。公募、無料招待。247人参加。劇場事業部との共同事業。(青山円形劇場)

〈特別期間〉

名 称	日 時	内 容
〈開館記念〉 第11回 赤ちゃん大集合 ～赤ちゃんサロンス スペシャル～	11.5 10:30～15:30	企画研修部主催の全館行事。対象は3か月から2歳未満の乳幼児と保護者。小児保健部は9階研修室の「赤ちゃんサロンスPECIAL」会場で「小児科医師の話」や「井戸端会議」「子育て相談」を行う。また8階で育児用品関係業者・団体による「情報・展示コーナー」を開催。他の事業部もそれぞれ「親子ふれあい遊び」「にこにこパーク」「にこにこ広場スペシャル」「うたってパブリン・おどってパブリン」「子育てビデオ特集」「すくすく体操」などを実施した。参加者は836人(418組)。(研修室ほか)

2. 講座・講習会など

〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
健康スポーツ教室 〈太りすぎクラス〉 第21期	(組) 太りすぎの 小学生とそ の親(20)	(組) ① 21 ② 21 ③ 20	土曜日 14:00～17:00	太りすぎの改善のために医学指導(東京女子医科大学附属第二病院小児科医師)・栄養指導(和洋女子大学家政学部栄養学助教授・講師)・体育指導(水泳と体育を交互に)を行う。保護者向けレクチャー(栄養、心理の年2回)、親子で屋外活動(スケート、フィールド・アスレチック、ダブルダッチの年3回)、奥多摩の山のふるさと村で夏合宿(8.1～3)なども実施。体育事業部との共同事業。 受講料1・2期(各12回)各22,000円、3期(9回)18,000円。 (小児保健クリニック/体育室/プールほか)

〈クラブ〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
マタニティ・スイミング	(人) 妊娠16週 以降の妊婦 (35)	(人) 4月19 5月25 6月29 7月30 8月23 9月21 10月25 11月21 12月22 1月16 2月21 3月22 (計274)	火・木曜日(月7回) 11:00～12:00	妊娠中、心身ともに健康に過ごすことを目的として水泳を行っている。母になる人々の友だち作りにも役立ち、妊娠期からの子育て支援の意味も大きい。水泳前後の検診は、日本赤十字社医療センター産科医師、助産師と小児保健スタッフが担当。年4回レクチャーも実施。体育事業部との共同事業。 入会金10,000円、月謝12,000円。 (プール)

《短期講習会》

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
季節の離乳食	(組) 5～15か月の乳児とその親(10)	(組) 5月12 7月 3 9月 9 11月12 1月 9 3月10	木曜日(隔月) 13:30～14:30	離乳食の作り方・与え方に悩む母親たちに、実際に調理した食材などを見せながら、ちょっとした工夫のできる調理法などを紹介。互いに疑問点を質問し合い、話し合う母親同士の交流も大切な要素になっている。 (小児保健部プレイルーム) 受講料2,000円。
親子のほっとタイム	3～10か月の乳児とその親(10)	6月 3 9月 5 2月 5	木曜日(3日間) 13:30～14:30	1コース、3日間。健康管理・食生活・発達や親子関係のテーマについて、親同士の輪に小児保健部のスタッフが加わり、子育ての疑問や悩みなど話し合う。話を聞いたり、正しい情報を得ることで、不安を解消し、子育ての自信をつけてもらうことが目的。受講料3回で5,000円。 (小児保健部プレイルーム)
こども1日ドック	小・中学生(10)	10	7.21 12:00～17:30	対象は小・中学生。医学と体育の両面からの総合健康診断。医師による診察、尿検査、血圧測定、身体計測、生活習慣調査、食生活調査、心理検査、体力測定の結果に基づいて診断・指導を行う。料金10,000円。 (小児保健クリニック／健康開発室)

〈専門指導者向け講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
第19回小児保健 セミナー「情報社会のなかで心を育てる」	(人) 保育士・児童厚生員・保健師・看護師・養護教諭など子育て支援の専門家 (100)	(人) 93	12.4 10:00～17:00	子どもたちは、ビデオ、パソコン、携帯電話などさまざまな情報・通信機器とそれが作り出す“バーチャルな”世界に取り囲まれている。今回は、コンピュータが作り出す“バーチャルな”世界についての講義「コンピュータ人間にならないために」(村田光範和洋女子大学大学院教授)のほか、「言葉の発達と人とのかわり」(大伴潔東京学芸大学教育実践研究支援センター教授)、「社会的ルールをどう身につけるか」(柴崎正行大妻女子大学教授)の講義で、子どもの健全な成長をうながすために、専門家としてどのような心構えをもって対応すべきかを考えた。 受講料8,000円。 (研修室)

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
子育て支援講習会 (第4回) 「最新の小児保健の 基礎と実際～心と からだの健康～」	(人) 保育士、栄 養士、看護 師、保健師、 など (50)	(人) 39	6.4・5 10:00～17:00	2日間コース。子育て支援の活動にたずさわる現場の職員の研修会。「最近の子育ての問題点」のほか「健康管理や応急処置」「離乳食や食生活一般」「気になる子どもの理解とその対応」などの講義、「子育て支援の方法と実際」の説明や質疑応答による情報交換の時間を持った。講師は小児保健部スタッフ。保育所、児童館、保健センターなど全国各地から中堅の職員が多数参加。受講料 15,000 円。 (研修室)
小児肥満のための 指導者講習会 (第 34回)	栄養士、養 護教諭、保 健師、保育 士、医師な ど (50)	43	H17.3.11・12 10:00～17:00	2日間コース。全国から肥満児の指導について学習したい栄養士・養護教諭らが集まった。「肥満の判定と指導」(村田光範和洋女子大学院教授・小児科医師)、「肥満改善のための食事・栄養指導」(坂本元子和洋女子大学教授・栄養学)、「肥満児の運動指導・実技紹介」(羽崎泰男こどもの城体育事業部長)、「肥満の子どもの心理的理解と対応」(井口由子こどもの城小児保健部長)。最後に、情報交換、健康スポーツ教室の体育指導の見学を行った。受講料 20,000 円。 (研修室・体育室)

3. その他

〈動くこどもの城〉

名 称	日 時	内 容
お母さんと赤ちゃんの すくすくスキンシップ	6.21	親子向けの体育プログラムに保健師が同行。親向けに季節の健康面でのアドバイスなどの話を行った。午後は職員向けに乳児を持つ親子への子育て支援の方法について研修会を実施した。 (青森県青森市アビオあおもり)
〃	6.22	〃 (青森県弘前市総合学習センター)
〃	9.14	〃 (新潟県上越市こどもセンター)
〃	10.1	親子向けの体育プログラムに臨床心理士が同行。「赤ちゃんサロン」のように、親同士の交流の場に援助者が加わって相談ができるようにする方法を実際に行った。発達などについて親向けのトークを行った。 (神奈川県三浦郡葉山町福祉文化会館)

〈講師派遣など〉

名 称	日 時	内 容
チャイルドシート連絡協議 会「チャイルドシート・ シンポジウム」	4.10	初産の妊婦を対象とした「チャイルドシート安全装着キャンペーン」に看護師が救急担当として協力した。 (東京都・六本木オリベホール)
学校法人めぐみ幼稚園PTA 講演会「子どもはおとな に何を望むのか」	4.20	保護者向けに、子どもの気持ちを理解することと大人のかかわり方について臨床心理士が記念講演を行った。 (静岡県・めぐみ幼稚園ホール)
秋田県立児童館連絡協議会 「児童の発達理論 子ども の心の成長とそれを見 守る大人の目」	5.28	児童厚生員等を対象に、子どもの発達の理解とその支援について臨床心理士が講演を行った。 (秋田県生涯学習センター)
藤沢市教育委員会相談指 導教室研修会	6.25、7.22、9.30、 11.25	不登校の児童・生徒の相談・指導にあたっている教職員の研修会に、定期的に臨床心理士が出向いて助言・指導を行った。 (神奈川県藤沢市教育委員会相談指導教室)
名古屋市健康福祉局「食か らのメッセージ―生活 習慣病予防のために」	9.16	給食施設の管理者・栄養士・調理師などが対象の健康講演会で管理栄養士が講演を行った。 (愛知県名古屋市中区役所)

名 称	日 時	内 容
東京更生保護女性連盟「子育て支援勉強会」	9.24	更生保護を行っている女性対象に、現代の子育ての現状をふまえ、大人のかかわり方について臨床心理士が講演を行った。 (東京都・保護観察所)
能登北部保健福祉センター「わかりやすい乳幼児栄養相談のコツ」	9.27	市町村栄養士、児童福祉施設栄養士の業務報告をもとに、管理栄養士がその助言と講演を行った。 (石川県・県生涯学習センター)
大田区大森本町児童館「子どもの成長と生活リズム」	10.7	子育て支援の一環である子育て講座で、保護者を対象として保健師が生活リズムの大切さを講演した。 (東京都・大森児童館)
(財)児童健全育成推進財団「東日本ブロック中堅児童厚生員等研修会・気がかりな子の理解と対応」	10.28	児童館職員を対象として、現場における気がかりな子の理解と対応について臨床心理士が講演を行った。 (東京都・国立オリンピック記念青少年総合センター)
高知県食育研修会「食事から子どもの心と体を考える」	11.12	幼稚園・保育所職員向けに、管理栄養士が最近の食生活について講演を行った。 (高知県・高知県教育センター)
徳島県阿南市教育委員会、同市幼稚園PTA「幼稚園で育つ子どもの心」教職員「子どもの心理を求めて」	11.30	保護者を対象として、子どもの心の発達などを臨床心理士が講演した。その後、教職員向けにも家族の支援について講演を行った。 (徳島県・ひまわり会館)
江戸川区子ども家庭部学童クラブ指導員研修会「ADHD・ダウン症・自閉症のケーススタディ」	H17.1.25、27	学童クラブ指導員を対象に、臨床心理士の立場からそれぞれの障害についての解説と現場のケーススタディを行った。 (東京都・江戸川区総合文化センター)
埼玉県児童館連絡協議会「児童の発達理論 現代の子育て事情」	2.10	児童厚生員対象に、臨床心理士の立場から子育てについての講演を行った。 (埼玉県・鳩ヶ谷市役所)
港区教育委員会家庭教育学級「みんなで考えよう！睡眠・生活リズム」	2.10、24	港区在住の子育て中の母親対象に、保健師が生活リズムについて2回シリーズで講演を行った。 (東京都・港区立生涯学習センター)
山口県市町村栄養士研究会協議会「乳幼児の食生活と保護者への支援」	3.14	市町村栄養士対象に乳幼児期の食生活について講演を行った。 (山口県・県健康づくりセンター)

〈妊娠中の女性と乳幼児をもつ母親のための子育て支援事業〉

名 称	日 時	内 容
静岡市東部勤労者福祉センター清水テレサ (静岡県)	8.28	独立行政法人福祉医療機構・子育て支援基金からの助成を受けて実施された事業。地元の子育て支援関係のNPO法人や市民グループ、自治体などの協力を得て、妊娠中の女性と夫の参加する「マタニティ・コンサート」と乳幼児とその保護者の参加する交流の場「赤ちゃんサロン」を同時に実施し、妊婦にも乳児にふれる体験をしてもらおうとの主旨で企画された。地域で妊娠中からの子育て支援事業を奨励する目的。本年度は2年目にあたり、コンサートの持ち方なども多様性をもたせ、子育て中の親にもコンサートを聞いてもらう場を持つなどの試みを行った。企画研修部が運営にあたり小児保健部が協力して行った。毎回、臨床心理士・管理栄養士が交代で参加し、主に「赤ちゃんサロン」の実施と地域の援助者を対象に行った「子育て支援研修会」の講義を担当した。
青梅市釜の淵市民館 (東京都)	10.30	
長野県県民文化会館 (長野県)	H17.3.6	

企画 研修部



平成16年度の活動

1. はじめに

本年度も、「企画部門」と「研修部門」の2部門において事業とそのとりまとめを行った。

企画部門では、「こども活動エリア」での一般来館児・者を対象とした事業、グループ活動、野外活動などの企画調整、業務部総合案内課とともに「こどもの城友の会」の運営、ギャラリーや研修室を使用した外部関連団体との協力事業などを実施している。また、国庫補助事業〈動くこどもの城〉の事務局、全国の児童館などの情報の収集、インターネットを利用したホームページの運営のほか、全国レベルでの子育て支援に関するモデル事業を行う助成金事業について各部と協力して実施した(助成金事業については「こどもの城から全国へ」=143ページ=の項参照)。

研修部門では、ボランティアの養成と日常活動のコーディネートのほか、夏休み・春休み特別期間の野外活動、高校生の社会参加を目的としたグループ活動(L. I. T.)、児童厚生員などを対象とした実技指導講習会、福祉講座などの企画運営にあたった。

2. 事業全体のとりまとめ

企画部門での中心的な業務は、劇場部門を含めた複数の事業部にわたる事業調整にある。この事業調整の基本になるのが、「事業計画書」および「事業報告書」のとりまとめ、事業内容をまとめた小冊子『こどもの城事業と運営』の年次改訂、特別期間ごとの事業計画のとりまとめ、日常的なものでは週間事業予定表や週末や特別期間の館内掲示用事業予定“デイリー版”の作成などである。

年度始めには、来館児・者に配布する平日プログラム・

チラシ作成(日本語・英語)も作成している。

(ア) 来館児・者を増やすために／ 学校週5日制への対応

来館児・者数の増加対策として行っている、春休み特別期間の新1年生招待(渋谷・港・目黒・世田谷の4区)、年間をととした小学校開校記念日の全児童招待(渋谷・港の2区)を本年度も継続して実施した。

新1年生招待用に、4区の公立・私立の幼稚園・保育所に招待券付きちらし合計9,488枚を送付。303件の利用があり、回収率は3.2%と前年度(3.6%)を若干ながら下回った。

開校記念日の招待券回収率は、渋谷区が9.0%(昨年度10.0%)、港区が6.4%(昨年度11.5%)だった。前年度と単純に比較すると、39校中13校が入館者増となっている一方、全体の回収率は落ちている。増減の理由は分かっていないが、曜日の関係や子どもたちの予定などの要因が考えられる。たまたま本年度の回収率が低いからといって効果がないとは言い切れないことと、地元とのかかわりを持続していくためにも、開校記念日招待は次年度も継続したい。

PRとして、児童福祉週間(ゴールデンウィーク)特別期間に渋谷・港の4区の公立小学校に全児童分のちらし約10,000枚を送付。夏休み特別期間には、23区と三鷹・武蔵野市の小学校、幼稚園、保育所、児童館(合計約52,000校)に、冬休み・春休み特別期間には渋谷・港・目黒・世田谷4区の公立小学校125校に全児童分のちらし約48,000枚を送付した。

平成14年度からはじめた学校週5日制に対応するため

の土曜日プログラムの充実と「小・中学生土曜日パス」の制度は本年度も継続。「小・中学生土曜日パス」の販売数は42枚と減少傾向にある。また、各プログラムの参加者数も頭打ちで、特に高学年の児童が減少している傾向にある。各部門と協力して、新たな方策を考えていきたい。

優待パス類の売り上げは、平日の大人用「平日ゆうゆうパス」184枚（前年度245枚）、夏休みフリーパスの子ども用「ドキドキパス」150枚（前年度130枚）、おとな用「わくわくパス」128枚（前年度133枚）で前年度とほぼ同様の売り上げがあった。

（イ）グループ活動

受け入れ件数は、138団体3,157人。過去最高となった前年度（160団体3,260人）にはおよばなかったものの、例年と変わらない利用状況が続いている。グループ活動は、団体利用者にオリジナルのプログラムを提供することを目的にした活動だが、一般来館児・者とは異なる利用者の確

保という見地からも、こうした高水準の利用を維持できるよう努力を続けて行きたい。

（ウ）中・高校生の体験実習の受け入れ

中・高校生の体験学習の依頼が学校から多く寄せられるようになった。本年度は試験的に、中学生1件19人、高校生2件39人の受け入れを行った。体験学習の需要は、家庭科における子育て分野の学習の一環で実際に幼児とふれあいたいというもの、一般的な意味で働くことを体験しに来るもの、自分の進路選択の参考として子どもに関連した職場での実習を望むものに大別される。目的に応じた細かいカリキュラムができていないが、本年度は担当の教諭の希望を聞きながら、〔こどもの城〕ができる範囲で体験学習の内容をアレンジした。

今後もこうした需要は増えていくと考えられる。受け入れのためのシステム作り、件数が多くなった時の〔こどもの城〕側の負担をどうするかなどが検討すべき点である。

【「こどもの城友の会」の活動】

プログラム名	日 時	内 容
特別試写会招待	7.22	映画『ぼくセザール10歳半 1m39cm』試写会を新宿明治安田生命ホールで実施。一般向け試写会に会員親子20組40人を招待。協力＝アスミック・エース エンタテインメント(株)。
特別試写会招待（新規入会キャンペーン）	7.25(キャンペーン期間＝6.15～7.10)	映画『天国の青い蝶』特別試写会を東芝エンタテインメント試写室で実施。定員50席を2回。新規入会が8家族あった。協力＝東芝エンタテインメント株式会社、アドクリエーツ。
映画『天国の青い蝶』関連イベント招待	7.28	映画のモデルとなった昆虫学者のジョルジュ博士の来日にあわせ、Aスタジオで「混虫(まぜむし)工場 夏休みスペシャル～ブルーモルフォをつくろう」とスペシャル・トークを実施。会員を優先招待。9組が参加。
「でかでかおりがみに挑戦！」招待	11.3	『おりがみカーニバル』に関連させ、3m四方の折り紙でボートを折るプログラムを体育室で実施。指導は日本折紙協会スタッフ。16家族の応募のうち5家族が当選。見学に来た落選者1家族も1.5mの紙で同様に折り紙を楽しんだ。
特別試写会招待（新規入会キャンペーン）	11.19(キャンペーン期間＝10.30～11.7)	映画『Mr. インクレディブル』特別試写会をブエナビスタ試写室で実施。定員50席。新規入会19家族。協力＝ブエナビスタインターナショナルジャパン、新通。
特別試写会招待	11.17.15	映画『アイ・アム・デビッド』試写会を銀座・ガスホールで実施。友だちへのPRを兼ねて、会員親子を中心に友だちも可とし、合計324人を招待。協力＝日本ヘラルド映画、ルビコン。
「おもしろ科学実験ショー」招待	2.11	外苑前・テピアプラザの「でんじろう先生のおもしろ科学実験ショー」に30人×2回、会員優先枠を設け、招待。協力＝TEPIA。
劇場公演などに招待・優待	通年	以下の公演に抽選で招待。(青山＝青山劇場/円形＝青山円形劇場) こどもフェスティバル(円形)/月猫えほん音楽会2004(円形)/シアター・ドラマシティ ダンスアクトシリーズvol.4「盤上の敵」(青山)/高円宮憲仁親王殿下メモリアル ローザンス国際バレエコンクール日本開催15周年「ローザンス・ガラ」(青山)/ミュージカル「BIG RIVER」(青山)/牧阿佐美バレエ団「リーズの結婚」(青山)/下村由理恵バレエ・リサイタル(円形)/ダンスビエンナーレTOKYO 2004(青山)/日韓ダンスコンタクトvol.2(円形) そのほか、自主公演の料金割引などの優待を以下に行った。 ブロードウェイミュージカル ウェストサイドストーリー (SHONENTAI PLAYZONE 04) (青山・優先予約)/シアターゲーム「行ったり来たり」(円形)/デーモン小暮の邦楽維新 Collaboration 青山夏場所 怪談 展作・牡丹灯籠(青山)/青山太鼓見聞録(青山)/とびこみ絵本〜クルクルおよいだ雲のなか(円形)/アートインAsibinaだいきらい(円形)

(エ) 動くこどもの城

※「こどもの城から全国へ」(127～134ページ) 参照。

(オ) こどもの城友の会

「こどもの城友の会」は、家族単位で入会してもらい、[こどもの城]の施設を積極的に利用し、さまざまな催しに参加してもらう会員組織で、本年度も別表のように一般の催しへの優待や友の会独自の催しを行ってきた。

会員のための会報「こどもの城友の会通信」を12回発行し、本年度末で通巻96号となった。毎回、会員から「楽しい催しや企画満載で毎月の通信が楽しみ」、「勉強以外の子育てについて考えることが少なくなったが、通信で参考になる記事を読み、子育てについて考えるきっかけになる」など好意的な意見が寄せられている。「こどもの城ニュース」(年11回)、講座募集や催しの案内なども会員あてに、毎月1回ダイレクトメールを発送した。

年度末での会員数は1,227家族。年々減少傾向にあったが、夏休みやファミリーウィーク中に案内チラシを手配するなど努力の甲斐あって、年度の途中では若干ながら増加が見られたものの、最終的には前年比11家族の微減に終わった。劇場事業部との連携で、劇場招待・優待を頻繁に行うほか、外部協力による映画試写会などの友の会特別招待イベントも増え、キャンペーン効果をあげている。今年は昆虫学者トークショーやおりがみイベントなど単発の事業とからめて、友の会優先または専用として、かろうじて特典となるような催しを実施したが、印象としては劇場・試写会以外の友の会向けイベントがあまり実施できていないというのが現状である。

20周年という区切りの年を目前にし、特典の見直しとともに「友の会」のあり方や事業部のかかわり方などについて再考が必要な時期にきたといえる。

(カ) 【こどもの城】ホームページ

平成15年3月に全面的な改定を行い、情報量も従来の



「混(まぜ)虫工場 夏休みスペシャル～ブルーモルフォをつくろう」のスペシャルトーク(昆虫学者: ジョルジュ博士)

約8倍と充実。アクセス件数も飛躍的に増加している。本年度の総閲覧ページ数は3,398,301ページ(前年比1.35倍)であり、利用者や電話での問い合わせのなかにもホームページを見てという問い合わせが多い。利用者の期待に応え、正確で、新鮮な情報提供に努めるとともに、親しみを持たれる画面作りを心がけていきたい。また、チラシ、広告、ダイレクトメール、友の会等を含めたトータルな広報戦略のなかの位置づけを明確にしていく必要がある。

(キ) 特別期間などに実施した事業

特別期間などには、ギャラリーや青山円形劇場などを使って、外部関連団体との提携事業などを積極的に行った。

3. ボランティア活動と養成

【こどもの城】には、施設内で専門スタッフとともに、子どもの健全育成活動を行う「こどもの城ボランティア」がいる(登録制)。このボランティアを養成し、活動に参画してもらうことも、大切な事業の一つである。

【こどもの城】の施設ボランティアとして、活動を希望する人に対し、年3回の講習会を実施している。講習会は対象別に2種類。大学生と社会人を対象とした「ボランティア講習会」(年2回)と、主に平日昼間に参加しやすい女性を対象とした「女性ボランティア講習会」(年1回)である。それぞれの講習会の修了者は、青年ボランティアが68人、女性ボランティアが17人で、合計85人が新規登録した。前年度からの継続者を含めて、年度末までの登録人数は、青年ボランティアが281人、女性ボランティアが102人、合計383人となった。

これら登録ボランティアは、毎月延べ500～700人余りが、さまざまな活動を行っている。

(ア) ボランティアの活動

児童福祉週間(ゴールデンウィーク)、夏休み、開館記念ファミリーウィーク、冬休み、春休みなどの特別期間に、3～7日の連続した日程で行う活動を“特別期間活動”と呼んでいる。主にプレイ事業部、企画研修部スタッフとともに、約2か月前から数人のボランティアがプロジェクトチームを編成し、企画、準備、実践までのすべてのプロセスにかかわっている。

本年度は、主に学生のボランティアが中心になって活動した。若い世代のボランティアのユニークな発想と行動力が生かされる活動である。

【モンスターグランプリ2004】

年間をとおして、いちばん来館児・者の多い児童福祉週間(ゴールデンウィーク)特別期間に、プレイ事業部と共同で企画、準備、実施した。本年度は2月から企画会議を



「モンスターグランプリ2004」

行い、5人のボランティアを中心に実施に向けて準備を行った。カードを媒介として子どもたちの仲間作りを促進させることを目的として実施した。

□準備日程とボランティア参加人数□

2月15日＝第1回ミーティング

2月24日～4月4日＝週1・2回のミーティング。プログラム内容を話し合う

4月10～30日＝計15回の準備活動（延べ101人参加）

5月1～5日＝プログラム実施（延べ81人参加）

【マックのおはなし広場】

年間をとおして、土・日曜日に活動している「パネルシアター」と「青年人形劇」のグループが協同で企画、準備、運営を行った。〔こどもの城〕のオリジナルキャラクター、マック・マックローの誕生日が5月5日であるため、それにちなんで人形劇などを実施した。

□準備日程とボランティア参加人数□

2月1日＝第1回ミーティング

2月15日～5月2日＝計11回の打ち合わせ、準備活動（延べ66人参加）

5月3～5日＝プログラム実施（延べ27人参加）

【ジャブジャブぼちゃトピア】

夏休み特別期間プログラムとしてプレイ事業部と共同で企画、準備、実施。5月16日に初回のミーティングを行い、4人のボランティアが中心になって準備を進めた。講習会を終えたばかりの第50期ボランティアも、意欲的に参加した。

□準備日程とボランティア参加人数□

5月16日＝第1回ミーティング

5月11日～7月7日＝7回のミーティング。プログラム内容を話し合う（延べ35人参加）

7月8日～8月10日＝20回の準備活動（延べ98人参加）

8月11～15日＝プログラム実施（延べ86人参加）

【ぐるっと日本あそび島】

〔こどもの城〕開館19周年を記念して実施した“秋のチ



「ジャブジャブぼちゃトピア」

ャレンジゲーム大会”。本年度も年間をとおして活動している各グループに参加を呼びかけた。今回は「キッズクラブ」「代表者会」「ピックサタデー」「こどもの城アドベンチャー」の4グループと、6人のボランティアチーフが中心になって、企画、準備、運営を行った。

□準備日程とボランティア参加人数□

9月26日＝第1回ミーティング

10月2～29日＝16回の準備活動（延べ96人参加）

10月30・31日、11月3日＝プログラム実施（延べ59人参加）

【あそびのおもちゃ箱】

年間をとおして人形劇などの表現活動を中心に活動している「青年人形劇」「パネルシアター」「青年絵本」「紙芝居」「影絵」「女性人形劇」「サンバ」の7つのグループが参加し、企画、準備、運営した。

□準備日程とボランティア参加人数□

6月26日＝第1回ミーティング

7月10日～11月19日＝15回の準備活動（延べ113人参加）

11月20・21・23日＝プログラム実施（延べ72人参加）

【新春あそびのお年玉 運とこどっ来いお正月】

プレイ事業部と共同で企画、準備、実施を行った。11月から企画会議を行い、8人のボランティアのメンバーを中心に実施に向けて準備を行った。伝承遊びをモチーフに、その遊び方と楽しさを伝えること、従来からある遊びをアレンジして、より多くの子どもたちが意欲的に取り組めることに配慮した。ボランティアの独自性あふれる発想と、スタッフの専門性が融合し充実したプログラムとなった。

□準備日程とボランティア参加人数□

11月6日＝第1回ミーティング

11月21日～12月9日＝6回のミーティングを行い、プログラム内容を話し合う（延べ58人参加）

12月11～27日＝16回の準備活動（延べ88人参加）

平成17年1月3～10日＝プログラム実施（延べ131人参加）



「ぐるっと日本あそび島」

【にこにこひろっぱ 遊びのおしくらまんじゅう】女性ボランティアが各期、グループの枠を越えて全員で取り組む毎年恒例のプログラム。女性ボランティアの特性（社会経験、子育て経験、世代特性など）を生かしたプログラムを企画。12月から企画を始め、4人のボランティアチーフが中心になって準備を進めた。

□準備日程とボランティア参加人数□

12月21日＝第1回ミーティング

平成17年1月6日～3月8日＝20回の準備活動（延べ134人参加）

3月9～11日＝プログラム実施（延べ46人参加）

【S-1フェスティバル わくわくいっぱい遊びの博覧会】

本年度最後のボランティアプログラム。毎年新しいレクリエーションプログラムを開発する機会として考えている。1月から企画会議を始め、4人のボランティアチーフが中心になって準備、運営を行った。愛知万博にちなんで『遊びの博覧会』というタイトルにした。

□準備日程とボランティア参加人数□

平成17年1月30日＝第1回ミーティング

2月9日～3月18日＝13回の準備活動（延べ67人参加）

3月19～21日＝プログラム実施（延べ30人参加）

（イ）L. I. T. の活動

「L. I. T.」（Leader In Training）は、高校生の社会参加活動プログラム。前年度の9月から継続しているメンバーが8月まで。そして、9月から新しいメンバーで本年度の活動を行った。

注目すべき活動は、6～8月に行った、「キッズクラブ」（小学1～4年生対象、プレイ事業部担当）と「ユースクラブ」（小学5～中学3年生対象、プレイ事業部担当）との合同プログラム「夏だ！サマーキッズフェスティバル」である。前年度実施した「れっつ！ゲッツ！夏っこ祭り」は、「L. I. T.」と「キッズクラブ」の合同プログラムだったが、本年度は「ユースクラブ」も加わり、より幅広い年



「にこにこひろっぱ 遊びのおしくらまんじゅう」

齢の子どもたちによるグループ活動となった。小学生から高校生までが共同で準備作業を行い、屋台形式の遊びのワークショップを運営し、来館児・者に提供するプログラム。実施にあたり次のように6つの目的を設定した。

（1）世代の違う子どもたちの交流活動をととして、互いの違いを認め合いながら共同で物事を進めていくことの難しさと、その意義を感じる機会とする。

（2）今回の活動をととして、さまざまな世代、価値観を持った子どもたちが出会い、協同作業を進めるなかで、地域社会の中で失われた他者との関係作りのあり方を考えることができる環境としたい。

（3）現代社会の急激ともいえる価値観の変容のなかで、子どもたちが生きていくための“目当て”が見つけにくくなっている。“目当て”とは、自分に身近な存在の“モデルとなる人”とも考えられる。さまざまな世代との活動をととして、こうしたモデルを見つける機会を提供したい。

（4）高学年の子どもたちが、“人づきあい”“人育て”における、悩み、苦しみ、葛藤などを経験し、それが最終的に大きな喜びとなって自分に返ってくることをこの時期に体験することは重要なこと。『次世代育成支援活動』の「次世代を育む親となるため」の取り組みの一つとも考えられる。低学年の子どもたちに慕われ、信頼される関係は、彼らの豊かな自尊感情を育む機会としたい。

（5）開館20周年を目標に、〔こどもの城〕の各グループを基盤とした、子どもが作る子どものためのプログラムの準備段階。次年度には、もっと多くの子どもたちを巻き込んだプログラムとしたい。

（6）各グループの担当ボランティアリーダーが、共同で子どもたちの活動を支援することで、互いの理念、価値観、知識、技術を共有し、それぞれのグループの活性化を図る機会とする。

このような目標を立てて、約2か月にわたり準備作業を行った。「ユースクラブ」の中学生を含む高学年が加わったことで、この年齢層の主体性を触発するために合同企画

会議を事前に行い、発達に合わせた取り組みができるよう配慮した。また、それぞれのグループの活動をサポートするボランティアリーダーとの情報交換も密に行い、ボランティアとL. I. T. のよりよいパートナーシップのもとで活動が展開できるよう配慮した。

活動のフィードバックでは、「最初子どもたちをまとめることができなかったけれど、この経験を次回に生かしていきたい」「仕事は大変だったけれど、子どもたちに楽しかったと言われて良かった」「子どもたちの新鮮なアイデア、発想力はすごいと思った」などの感想が述べられた。

(ウ) 野外活動

野外活動へのボランティアの参加は、単にキャンプへの同行にとどまらず、準備からキャンプ後のフィードバックまで、一貫して活動にかかわる。長期間にわたる活動のなかで、それぞれが自分の位置を確認し、主体的にかかわりを深めていくことになる。本年度も、「ジュニア・アウトドア・スクール」「ジュニア・スプリング・キャンプ」の2つに主体的に取り組んだ。

【ジュニア・アウトドア・スクール】

ボランティアへの参加募集は、5月初旬。何度か参加経験のある者と新しく登録した者と人数のバランスを考慮して構成。男性12人、女性22人の計34人が参加した。

□活動の概要□

- 6月13日＝リーダーミーティング（自己紹介、役割発表）
- 6月18日＝リーダートレーニング（野外活動技術習得ほか。千葉県大神保キャンプ場）
- 7月9日＝リーダーミーティング（事前講習会の準備・打ち合わせ）
- 7月11日＝事前講習会（参加者の把握、班、係りの打ち合わせ）
- 7月18日＝リーダーミーティング（L. I. T. との準備、最終打ち合わせ）
- 8月1～7日＝ジュニア・アウトドア・スクール
- 9月23日＝リーダーミーティング（全体フィードバック、来年に向けて）
- 10月10日＝事後講習会（これからの役割分担ほか）

【ジュニア・スプリング・キャンプ】

12月から参加募集開始。ボランティアも継続して参画するメンバーが7割を超え、毎年の蓄積を生かしたプログラム運営が可能になってきた。今回は初めて参加するメンバーが多いこと、各班に1人、研修のためにL. I. T. の高校生リーダーが入ること、この二つの要素を考慮して、班付きカウンセラーに経験豊かなリーダーを配置した。その結果、プログラム、物品、食事などをコーディネートする本部は、キャンプ経験1・2回目のメンバーが中心となった。

関心が高く、定員以上の参加申し込みがあった。L. I. T. 11人を含む、男性12人、女性24人の合計36人が参加した。

□活動の概要□

- 2月6日＝リーダーミーティング（今後の準備日程、各係りの打ち合わせほか）
- 2月25日＝リーダートレーニング（各プログラムに沿った知識・技術伝達／施設生活体験／本部組織運営体験／班付も含めたリーダーの「気づき」の実習。国立妙高少年自然の家）
- 3月5日＝リーダーミーティング（事前講習会について、キャンプに向けての準備）
- 3月13日＝事前講習会（班会議、保護者会の打ち合わせ、L. I. T. との打ち合わせほか）
- 3月20日＝リーダーミーティング（L. I. T. との共同準備、詳細な打ち合わせ）
- 3月27～31日＝キャンプ実施
- 6月5日＝リーダーミーティング（全体フィードバック、全体でのグループ討議）

この他、他事業部からの活動依頼を受けて、下記の野外活動に多くのボランティアが参加した。

チャレンジキャンプ（体育事業部）／ちびっこ冒険団（プレイ事業部）／フェローシップキャンプ（プレイ事業部）／ゆきんこ冒険団（プレイ事業部）／スキースクールパートⅡ（体育事業部）

(エ) ボランティアの養成

ボランティア活動を希望する人を対象とした講習会を以下のとおり行った。

【ボランティア講習会】

第51期の講習会は例年より3か月時期を早めて10～12月に実施した。講習会終了後、冬休み特別期間に実施するボランティアプログラムと、春休み特別期間に実施するキャンププログラムへ積極的に参加してもらい、継続的で意欲的なボランティア活動をうながすことをねらった。この結果、グループの核となるメンバーが生まれ全体の活性化へとつながった。しかし、前期試験をひかえていたり、卒論などの提出時期と重なる学生が多く、受講者数は定員に満たなかった。例年ならば学生の春休み期間に実施するため多くの受講者を集めることができたが、本年度の実施時期だとそれが難しいようである。今後、講習会の実施時期について、講習会の運営とその後のボランティア活動への導入のバランスを配慮する必要があるだろう。

【女性ボランティア講習会】

講習会の中で実施している、すでに活動をしているボラ

ンティアが自分たちの活動を紹介するワークショップが、活動への理解を深める助けになっている。スタッフから一方的にレクチャーするのではなく、当事者同士の情報交換や人間交流を主体としたこの時間は、受講者に大きな影響を与えるようだ。講習会終了後の活動参加状況を見ると、かなりの高率でいずれかのグループ活動に参加している。このワークショップの成果といえる。

【ボランティアグレードアップ講習会】

例年実施している野外活動の技術講習を目的としたものを、6月と平成17年2月に実施した。

6月の講習会は、「ジュニア・アウトドア・スクール」の事前トレーニング。野外活動の技術の再確認とともに、ソロ体験を中心にした、より深い自然体験のトレーニングを行った。また、野外活動経験者が、自分自身の知識や技術をより向上させることができるように、追跡ハイキングの指導法、キャンプクラフト研究なども実施した。

2月は「ジュニア・スプリング・キャンプ」のための現地トレーニングをかねて、新潟県国立妙高少年自然の家で実施した。

こうした取り組みは、参加メンバー一人ひとりのより積極的な姿勢の醸成と、初参加者との人間関係の活性化などの面でもその効果をあげている。

4. 講座・講習会など

【社会福祉講座「じょいんクラブ」】

開館以来実施してきた、大人のための社会福祉講座「手話講座」に代わり、本年度から新規に「じょいんクラブ」を開講した。「じょいん」は、[こどもの城]で作った造語で、英語の“JOY(楽しむ)”と“JOINT(つながり)”をつなげたもの。さまざまな人との出会い、人間関係作りのすばらしさを広めたいという思いが込められている。

子どもたちが「手話」に親しみながら仲間作りをしたり、現代社会のさまざまな状況の中で生活をしている人たちのことに気づき、21世紀のすてきな社会を作っていくために子ども自身、何ができるかを考えるきっかけをつくりたいという目的で開講した。

手話習得には、外部から中野佐世子さん（手話通訳士）を講師に招いた。手話だけでなく、障害者の生活、子どもたちの周りで共に生活をしているさまざまな世代や障害者に対する気づき、考えていくきっかけとなるような話題提供をしていただいた。また、車椅子・白杖（はくじょう）体験、身近にあるユニバーサルデザインの商品などを持参する宿題などをとおして、子どもたちの日常生活から、誰もが住みやすい社会作りを具体的に考える活動をした。

「こどもの城」スタッフ・ボランティアも講座に参加し、



「じょいんくらぶ」のメンバーがプレイホールでワークショップ

手話を習得しながら子ども同士の人間関係作りを支援した。具体的には、子どもたちの間に入り、会話の活性化を図ったり、アイデアを引き出したりなど、グループワーカーとしての役割を担った。そして講座後には、子どもたちの活動の様子を個人レコードに記入し、子どもへのアプローチを職員とボランティアで話し合った。

本年度から始まった事業でもあり、定員20人の半数にも満たない人数で実施したことが反省として上げられる。広報活動の遅れや、講座内容についても試行錯誤の段階であり、具体的な内容提示を来館児・者に伝えるに良かったことなどが理由としてあげられる。単に手話講座と言うことであれば、学校教育の中で取り上げられていることもあり、特段の魅力を感じられるとは思えない。[こどもの城]ならではの子どものグループ活動に視点を置きながら、こういった社会参加につながる活動を講座として運営していくにはどうしたらよいか、次年度に向けてのさらなる内容の再考をしたい。

5. まとめ

次年度はいよいよ開館して20年を迎えることとなる。この間の社会状況の変化に[こどもの城]の事業内容や運営の方法が対応できていること、できていないことの検証をまず行う必要がある。来館児・者の増加策、ニーズへの対応には施設や設備の大きな変更や組織を含むシステム変更など時間のかかることもある。しかも次年度は20周年記念事業などによって、すぐに着手できない問題も多いかもしれない。しかし、現在の能力でもすぐにできること、また気づきながら放置されていた問題もあるので、解決できるものから少しずつ取り組んで行きたい。ここ数年の活動が20周年というひとつの区切りから先の新しい時代への充実した準備期間となるように、地道に仕事をしていきたい。

平成16年度活動一覧表

1. 一般利用

〈展示・ワークショップなど〉

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 こども フェスティバル	5.3～5	来館児・者の多いゴールデンウィークに、良質のプログラムを気軽に劇場で観劇できるよう、毎年度実施している。家族で楽しめる芝居、観客参加のコーナーをふんだんに取り入れたコンサート。「ガドガド」は、音楽ロビーの一般活動から生まれたバンドで、音楽事業部スタッフと協力してくれているミュージシャンがメンバー。今年は6人で演奏。手遊び、クラシック曲のオリジナル・アレンジ、民族音楽をベースにした曲など盛りだくさんな内容。すべての年齢で共有できる、音で遊べる時間・空間となっている。 ◇3日「ざん・ばら・りん劇場」アフタフ・バーバン ◇4日「あとも時間はアンデルセン」劇団あとも ※以上2公演は（財）児童健全育成推進財団優良巡回劇事業 ◇5日「おんがくがスキ！」ガドガド (青山円形劇場)
〈 〃 〉 アイスクリームの プレゼント	5.3	5月9日のアイスクリームの日にちなんだ、来館児・者にアイスクリームをプレゼント。協力は（社）日本アイスクリーム協会。 (フリーホール)
〈児童福祉週間 &開館記念〉 マックロー グリーティング	5.5、11.3	〔こどもの城〕のマスコット、マック・マックローの誕生日である5月5日の「こどもの日」と開館記念特別期間の11月3日に館内の子どもたちと握手をして回った。11月には、記念のピンバッジを配付。 (館内各所)
〈夏休み〉 オランダで大人気！ フィープさんの イラストレーション	7.17～8.31	オランダの国民的人気イラストレーター、フィープ・ウェステンホルプの作品展。原画、リトグラフなど80余点を展示。本国でも1度しか開催されていないフィープ展。6月に日本語版が出版されたこともあり、注目度は高く、作品展を目的に来館した大人の姿も多く見られた。遊びをとおして健全育成を働きかける〔こどもの城〕は美術館とは異なるので、展示物に意識を向けてもらおうのが難しいという側面もある。展示作品を少しでも意識してもらえるように、その作品に出てくるキャラクターを使って、ポップアップカードを作るワークショップを行ったり、作品をじっくり見てもらうためにクイズシート（抽選で記念品を贈呈）を導入したりという工夫をした。これによって、多くの子どもたちも作品を見てくれるようになった。同時に、オランダという国について興味を持てるよう、木ぐつ体験・オランダクイズ・地図や国旗の掲出なども行った。 (ギャラリー)
〈 〃 〉 第10回 人形劇カーニバル	8.16～18	毎年度テーマを設定し、それに沿った作品をプロの人形劇団に上演してもらっている。本年度のテーマは「人形劇だ・い・す・き」。人形劇公演のほか、小さい子どもたちから参加できるワークショップも期間中に開催し、フェルトをてぶくろのようにして作る人形を制作した。高学年の子どもたちの参加も多かった。後援は、東京都公立児童厚生施設連絡協議会、（財）児童健全育成推進財団。関連企画、指導者向け講習会「つくって演じる人形劇2004」を8月22日と9月12日に実施した。 来館児・者に好評を得ている「人形劇カーニバル」だが、新たな企画を立ち上げるために本年度で幕を閉じることにした。人形劇を紹介していくという活動は意義があるので、人形劇プログラムを通年にわたって企画・運営している他事業部とも協力し、違った形で継続していきたい。なお、指導者向け講習会は児童厚生員等の実技指導の場として残していく。 ◇16日＝れもん座／ドラマジック劇場 ◇17日＝がこさく／高津人形座れもん座 ◇18日＝わけちゃん／人形劇・木ぐつの木 (研修室)
〈開館記念〉 第11回おりがみカー ニバル／全国児童館お りがみ作品展	10.23～11.14	子どもからお年寄りまで幅広く気軽に楽しめる折り紙に、多くの人に親んでもらうための催し。日本折紙協会と共催。「全国児童館おりがみ作品展」を同時に開催。「季節」をテーマに27館から出品された作品を展示した。関連企画「おりがみにつよくなる講習会」を開催した。 (ギャラリー)

名 称	日 時	内 容
〈冬休み〉 つくろう！飛ぶおもちゃ～えい風づくり／おりがみヒコーキ	12.23～H17.1.10	恒例の“えい風作り”のワークショップに、“おりがみヒコーキ”を加え、“飛ぶおもちゃ”のワークショップを実施。“おりがみヒコーキ”は1日2回、定員各回30人。折り方を自分で工夫し、より長い距離を飛ばせるようにするもの。計測は体育室を利用。来館児・者の出足が遅いため、午前中の回の参加者がまばらだったが、午後の回は満員のため回数を増やすほどの人気だった。簡単に作れて、調整の仕方で飛び方が変わる、単純なようで奥深い折り紙飛行機に大人も子どもも熱心に取り組んだ。“えい風作り”は、お正月らしさが出るだけでなく、幼児でも自作の風が持ち帰れるので、今後も続けたい事業である。年末は来館児・者そのものが少なく、参加者も予想を下回る数だった。 (ギャラリー・体育室)
〈 Ⅱ 〉 新春もちつき大会	1.4	伝統行事の一つ、もちつきを実施。もち米50kgを2つのうすでついた。マック・マックローも応援に駆けつけた。女性ボランティアが、つきたてのもちをまるめ、あんときなこをまぶして、もちつきを体験した子どもに配付。約500人が参加。 (ピロティ)
〈春休み〉 入館者2000万人達成セレモニー	3.21	開館以来2,000万人目の来館児・者を迎え、音楽ロビーでセレモニーを行った。音楽ロビーのプログラムの一つとして「スペシャルクイズ大会」を開催。感謝状・記念品を授与した。 (音楽ロビー)
〈 Ⅱ 〉 第13回ニッサンゆかいな絵本と童話展「たびたび旅へ」	3.26～4.5	「第20回ニッサン童話と絵本のグランプリ」で入賞した作品の原画、国際アンデルセン賞受賞作家の絵本などを展示。絵本作家の青木貴子さんが、会場全体の装飾をてがけた。日産自動車の工場から出る内装材や緩衝材などの廃材を使って、子どもが作品を作るワークショップを開催。テーマは「天地“想像”」。グランプリ入賞作品の絵柄やストーリーを取り込み、一人が一つのもの（例：海のいきもの）を作り、参加者全員で旅する世界を作るというもの。今回はワークショップも導入、楽しく会場全体を見てもらえるよう働きかけた。共催は（株）日産自動車。 (ギャラリー)

〈その他〉

名 称	日 時	内 容
おもちゃ図書館 マックロー	年末、年始を除く水曜日	心身に障害のある子どもたちが気軽に利用できる遊び場として、昭和62年（97年）に開設された「こどもの城おもちゃ図書館マックロー」。本年度も4人のボランティアを中心に運営され、延べ48回開催した。年間300人を超える利用者があった。「夏休みのお楽しみ会」や「クリスマス会」などの催しも行った。 (会議室)
ふれあいおもちゃ広場	12.1～5	おもちゃメーカーの協力で、障害を持った子どもたちにも使いやすい市販のおもちゃの展示と紹介をする「おもちゃ展」。(財)日本おもちゃ図書館財団との共催。 (ギャラリー)
アーツケープ 2005	H17.2.25～3.8	〔こどもの城〕での開催が今回で20回目となった、首都圏のインターナショナルスクール、アメリカンスクール14校と日本校1校の合同美術作品展。500人におよぶ生徒が制作した絵画、版画、素描、ステンドグラス、陶芸、建築模型、写真などさまざまなジャンルの作品を展示。 (ギャラリー)



「アーツケープ2005」

2. ボランティアの活動

〈平常期間〉

※名称欄のカッコ内は活動担当部門

名 称	日 時	内 容
保育活動 (保育研究開発)	月～金曜日 9:45～16:00	保育スタッフとともに、2歳児クラス、または3～5歳児グループに入り、運営補助をする。 (保育室ほか)
赤ちゃんサロン (小児保健)	月2回火曜日 12:30～14:00	小児保健スタッフとともに、乳幼児とその親を対象にした広場事業の運営サポート。 (音楽ロビー)
紙芝居 (プレイ)	水曜日 15:00～15:30 (第1・3水曜日)	プレイホールで親子を対象に紙芝居を行う。練習は毎週水曜日。 (プレイホール)
新体操 (体育)	水・金曜日 15:30～18:00	新体操のシニア、ジュニアクラスの指導補助。 (体育室)
女性人形 (企画研修)	第2水曜日 15:00～15:30	手作りの人形を使い、脚本作りから上演までを行う。昔話や音楽に合わせて人形が踊る人形劇を実施。練習は毎週木曜日。 (プレイホール)
影絵 (企画研修)	第3水曜日 15:00～15:30	手作りの人形、背景、脚本で、昔話や童謡をオリジナルで演出して上演。練習は毎週火曜日。 (プレイホール)
おりがみあそび広場 (プレイ)	木曜日 14:00～15:00	毎回2～3種類の折り紙遊びを子どもやその親を対象に伝える。 (プレイホール)
楽器屋わんさん(音楽)	木曜日 15:30～16:00	プログラム導入の手遊び、音楽スタッフが行うプログラムに参加する子どもたちをサポート。 (音楽ロビー)
みかんちゃんズのオパ オバサンバ！(音楽)	金曜日 15:00～15:30	スタッフとともにサンバのリズムを中心に、子どもたちと一緒に演奏、プログラム指導を行う。 (音楽ロビー)
絵本であそぼっ (企画研修)	第1・3金曜日 14:30～15:00	幼児や親子を対象に、絵本の読み語りを実施する。 (Aスタジオ)
布おもちゃ (企画研修)	第2・4金曜日 10:30～15:30	プレイホールの幼児コーナーで子どもたちが遊ぶ「抱き人形」を制作。また幼児コーナーの環境作りとして、遊具や装飾の手芸関係の活動を行う。 (ボランティアオフィス)
ビッグサタデー(体育)	土曜日 10:00～12:00	小学4年生以上の高学年を対象にしたスポーツプログラム。バスケット、バレーボール、サッカーなどを実施。 (体育室)
手足の不自由な子の水 泳(体育)	土曜日 17:00～18:00	講座の子どもたちにボランティアが一人ずつ付き、水泳の補助を行う。 (プール)
不思議な映像実験室 (AV)	土曜日 15:00～17:30	視覚がん具作りのワークショップの運営補助。 (音楽ロビー)
こどもの城アドベンチ ャー(企画研修)	第1・3土曜日 14:00～17:00	こども活動エリア全体を使って、与えられたヒントをもとに進んでいく、ウォークラリー形式のゲームを実施。 (全館)
土曜昔あそびの会 (企画研修)	第2・4土曜日 14:00～17:00	屋上を中心に、子どもたちとその親を対象に、コマや三つ馬などの伝承遊びを実施。 (ふしぎが丘ほか)
キッズクラブ(プレイ)	月2回土曜日 15:00～17:00	小学1～4年生を対象にしたクラブ活動の運営補助。プログラム開発、グループワーカーとしての役割を担う。 (会議室ほか)
じょいんクラブ (企画研修)	月2回土曜日 14:30～16:30	子どものための社会福祉講座。手話通訳士の講師が進める手話を中心にしたワークショップの運営補助。 (会議室)
青年人形劇(企画研修)	月1回土曜日 13:00～15:00	〔こどもの城〕のマスコットキャラクター、マックマックローの棒使い人形を使ってオリジナル人形劇を実施。 (プレイホール)

名 称	日 時	内 容
つくってあそぼう (企画研修)	第1・3日曜日 14:00~17:30	小学校低学年を対象に廃品や身の回りの材料を使用して、手作りおもちゃのワークショップ。 手作りおもちゃの開発も独自で行っている。 (ブリーホール)
パネルシアター (企画研修)	第2・4日曜日 13:00~15:30	パネルシアターの公演とその合間にパネルを使って遊ぶワークショップを実施。絵本などをモチーフにした、オリジナルパネルシアターも実施。 (プレイホール)
絵本の読みかたり (企画研修)	第2日曜日 14:00~15:00	お話し会の後、子どもたちに自由に絵本を読んであげる時間も実施。 (保育室2)
ユースクラブ (プレイ)	月2回日曜日 13:00~17:00	小学5年生~中学3年生を対象にしたクラブ活動の運営補助。プログラム開発、グループワーカーとしての役割を担う。 (会議室ほか)
L.I.T. (企画研修)	月2回日曜日 10:00~16:00	年間をととして高校生が行うボランティア活動を支援する。ボランティアはプログラムを企画、準備、運営する際のアドバイス、よりよいグループ活動を行うためのワーカーとして働きを担う。 (会議室ほか)
日曜クラブ (企画研修)	月2回日曜日 14:00~17:00	縄跳び、フラフープ、ドッジボールなどを実施。七夕、クリスマス、ひなまつりの時期にはクイズ大会も実施。 (屋上ふしぎが丘)
ファミリープレイタイム (プレイ)	2か月に1回日曜日 12:30~16:00	ファミリーを対象に、クラフト、プレイ、クッキングなどのプログラムを実施。ボランティアは運営のサポートを行う。 (プレイホール)
バンパー大会 (プレイ)	年に2回日曜日・祝日 10:00~15:00	小学生~高校生を対象にしたビリヤードのような遊具“バンパー”を使った試合形式のプログラム。ボランティアは運営のサポートを行う。 (プレイホール)
手作り楽器 (音楽)	夏休み特別期間 12:00~16:00	手作り楽器のワークショップの運営サポート。 (Bスタジオ)

〈特別期間ほか〉

※名称欄のカッコ内は活動担当部門／参加ボランティア人数はいずれも延べ数

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 モンスターグランプリ 2004 (企画研修・プレイ)	5.1~5 11:00~16:00 (受付時間)	〔こどもの城〕オリジナルのモンスターカードを使ったゲーム大会。ふしぎが丘にある4つのゲームにチャレンジして、カードを集める。時間ごとに子どもたち同士がカードバトルを行う。 参加ボランティアは、130人(準備)、82人(当日運営)。 (ふしぎが丘)
〈 〃 〉 マックのおはなし広場 (企画研修)	5.3~5 11:00~16:00 (受付時間)	人形劇、パネルシアターの公演と、封筒を使った手作り人形のワークショップを行った。子どもたちが作った封筒人形を使っでの参加劇も実施。参加ボランティアは、50人(準備)、39人(当日運営)。 (研修室)
〈夏休み〉 ジャブジャブぼちゃト ピア (企画研修)	8.11~15 11:00~15:00 (受付時間)	水遊びをテーマにした、5つのゲームを実施。参加ボランティアは、130人(準備)、86人(当日運営)。 (ふしぎが丘)
〈開館記念〉 ぐるっと日本あそび島 (企画研修)	8.30・31、11.3 11:00~15:00 (受付時間)	開館記念日を中心に実施。日本各地の名産、名所にちなんだ、5つのゲームを実施。参加ボランティアは、108人(準備)、56人(当日運営)。 (ふしぎが丘)
〈 〃 〉 あそびのおもちゃ箱 (企画研修)	11.20・21、23 11:00~15:00 (受付時間)	青年ボランティアのパネルシアター、人形劇、絵本、女性ボランティアの影絵、紙芝居、人形劇、絵本、サンパのチームがそれぞれ公演活動を行う。参加ボランティアは、118人(準備)、72人(当日運営)。 (フリーホール)
〈冬休み〉 新春あそびのお年玉〜 運とこどっ来いお年玉〜 (企画研修・プレイ)	H17.1.3~10 11:00~16:00 ※1月3日は13:00~16:00 (受付時間)	屋上遊園ではコマ、三つ馬などの伝承遊び、プレイホールでは伝承遊びをアレンジしたゲームコーナーを実施。各コーナーで遊ぶとお年玉カードをもらえ、それで最後に3種類のおみくじができる。参加ボランティアは、97人(準備)、131人(当日運営)。(屋上遊園・プレイホール)

名 称	日 時	内 容
にこにこひろっぱ～あそびのおしくらまんじゅう～ (企画研修)	3.9～11 11:00～16:00 (受付時間)	乳幼児とその親を対象にしたプログラム。広っぱ、はいはい、おむつ換え、喫茶、授乳の各コーナーを設置し運営をする。参加ボランティアは、118人(準備)、72人(当日運営)。 (フリーホール)
S-1 フェスティバル 2005 わくわくいっぱい! あそびの博覧会 (企画研修)	3.19～21 11:00～16:30 (受付時間)	じゃんけん、クイズ、スポーツをテーマに1日4回のゲーム大会を実施。愛知万博にちなんで、遊びの博覧会をイメージして運営。 (フリーホール)



L. I. T. の「マックロー魔法学校」

〈高校生プログラム＝L. I. T. (Leader In Training)〉

名 称	日 時	内 容
春のイベント「マックロー魔法学校」準備	4.4 10:00～16:00	3月から企画を進めているプログラムの準備活動。ジュニアスプリングキャンプに参加したメンバーを中心に活気ある活動が展開される。メンバーの相互関係を活性化させるために、館内宿泊合宿を取り入れるかどうか検討する。参加14人。
〃	4.18 10:00～16:00	引き続き準備活動。合宿も行う事を決定する。参加18人。
〃 (館内合宿)	4.24・25	相互関係がまだまだ希薄な今期のメンバーだが、プログラムの準備、実施を1泊2日の宿泊活動を行うことで、メンバーの相互関係活性化をめざした。今までの活動をとおして、一人ひとりが少しづつ積極的になってきている。相互関係をとる前に、自分の力をのびのびと生かす環境ができてくることが大切であろう。自由で積極的な活動が可能な環境と他者に対する関係作りの必要性の理解が大切であると感じた。参加19人。
春のイベント「マックロー魔法学校」実施	4.25 11:00～17:00	「魔法使いになろう」をテーマにしたゲーム大会。フリーホールを魔法学校に設定し、さまざまな魔法の練習(ゲーム)を行う。「闇の透視術」「天候あやつり術」「魔法薬調合術」「魔法集中学」「護身術入門」の6種類を実施。プログラム実施にあたり次のような目標をたてた。(1)みずからが企画、準備した活動を子どもたちに提供し、ともに遊び、ともに喜び、ともに育つことを体験する(2)子どもの遊び方、楽しみ方を身近に感じ、子どもを理解するきっかけとする(3)企画段階で自己決定したプログラムを互いの協力関係の中で準備、実施。そのプロセスで起こる個人、グループの課題に気づいていく。その課題を自分のものとして、次の目標をみずからの力で見つけ出していく(4)プログラム実施に向けて、メンバー、ボランティア、スタッフとのパートナーシップの大切さに気づき、自分ひとりの力ではなく、さまざまな人との協働関係でボランティア活動が成り立っていることを実感する。参加19人。
「ジュニア・スプリング・キャンプ2005」の振り返り	5.9 10:00～12:00	「ジュニアスプリングキャンプ2005」に参加したメンバーでキャンプの振り返りを行う。個人作業で「キャンプで印象に残ったこと」「キャンプで困ったこと」「キャンプ活動で得たもの」「キャンプの魅力」を考え、メモにする。その後グループに別れ、上記のことを発表しながら、キャンプに参加することの意義やキャンプの魅力を話し合い、共有した。参加9人。
活動の振り返り	5.9 13:00～16:00	夏の活動についての話し合いを行う前に、現在のグループで感じていることを話し合う時間とした。カード法を使い、まずは個人で「現在のL. I. T. の課題」をカードに書き、その後グループでカテゴリー分けをした。それをもとに討議を行い、グループや個人の次の目標を明確にした。話し合い終了後、夏の活動についてスタッフから提案を行う。参加18人。

名 称	日 時	内 容
夏の活動について	6.13 10:00～16:00	「ユースクラブ」「キッズクラブ」との合同プログラムの実施が決まる。それぞれのクラブメンバーが主体的、積極的に活動に参加するために必要なアプローチのあり方、L. I. T. のチームワークのあり方、準備活動の計画作り、それに伴う人的資源の確保、役割分担について話し合う。参加10人。
夏の活動について依頼 (キッズクラブへ)	6.26 13:00～16:00	夏の活動について「キッズクラブ」へ依頼。参加4人。
〃 (ユースクラブへ)	6.27 16:00～16:30	「ユースクラブ」の活動に数人が参加し、夏の合同プログラムについての依頼を行う。活動中に、直接L. I. T. が投げかけをする。「ユースクラブ」の参加意欲を高めるために、企画会議への参加も要請する。参加4人。
夏の活動準備	7.19 10:00～16:00	「ユースクラブ」「キッズクラブ」に参加依頼したメンバーから、それぞれのグループの様子を報告してもらった後、主に組織作り、役割分担を行う。役割分担は基本的には、自分の関心のある役割につくようにし、意欲的な取り組みを促した。参加13人。
夏祭り企画会議	7.19 10:00～18:00 ※13:00～16:00は「ユースクラブ」と企画会議	午前中は、それぞれのクラブから寄せられたアイデアをカテゴリ分けして、午後の合同企画会議のための準備。午後から「ユースクラブ」の13人を迎え、アイデア会議と夏祭りの名称を決定する。全体の進行は高校3年生の女子が担当。「ユースクラブ」メンバーの声を的確にひろい、それを全体の討議内容に反映させていく見事な進行ぶりに驚かされた。他のL. I. T. のメンバーもユースクラブのメンバーと良好な人間関係を形成できるよう努力。参加12人。
「夏だ!! サマーフェスティバル～全員集合まちがいない～」準備活動	8.15 10:00～18:00 ※13:00～16:00は「ユースクラブ」「キッズクラブ」と合同)	「キッズクラブ」(15人参加)、「ユースクラブ」(20人参加)との合同準備会。L. I. T. の進行で親睦ゲームを行い、その後、自分が運営してみたいゲームに別れ企画会議を行う。本部のメンバーは全体の様子を見ながら、会の進行を担当し、グループ担当のメンバーはそれぞれのチームに入り援助活動を行う。参加15人。
〃 準備活動	8.22 10:00～18:00	各クラブのボランティアリーダーのコンセンサスをとるために、共同で準備作業を行う。リーダーはL. I. T. とともに活動し、考え、協同的な空間作りをめざした。それぞれのボランティアリーダーとより良いパートナーシップを結ぶことで、お互いの持ち味を生かしあい、自己の成長、プログラムの成長をめざすよう心がけた。参加17人。
〃 準備合宿	8.28～29	「ユースクラブ」「キッズクラブ」のメンバーをまじえ、最終準備合宿。本部メンバーは合宿の進行、食事の準備、全体装飾などを担当し、グループリーダーは各グループのゲームの準備をサポート。異年齢集団の宿泊体験をサポートすることは、L. I. T. の子ども理解をより一層深めたようだった。参加18人。
〃 実施	8.29 10:00～20:00	体育室で8種類の子どもたちが考えたゲームを実施。活動終了後、フィードバックとL. I. T. の修了式が行われた。修了式では、学校ですっといじめられていたので、L. I. T. に参加して他人に認められたり、信頼される関係を初めて体験し、感激したという感想もあった。L. I. T. の活動が、学校や地域でつちかうことができない、社会的体験の場であることは確かな事実と感じた。参加18人。
平成16年度 L. I. T. 開講式	9.19 13:00～16:00	新年度の開校式。一人ひとりに入会の動機や期待感などを聞く面接。自己紹介を中心としたグループワークトレーニングを実施した。その後オリエンテーションを行い、今後の活動について相談をした。今期の登録メンバーは今まで最大の29人。昨年のメンバーも多く継続し、相互関係をとることの難しさが予想された。メンバー同士が互いの違いを認め、尊重し、その個性や可能性を生かしあうて、個人やグループの成長につなげていけるよう考えた。参加23人。
ボランティア体験実習 と遊びのリーダーについて考えるワークショップ	10.3 13:00～16:00	2つのグループに分け、ボランティア体験実習とワークショップを午前、午後それぞれ交代で行った。ボランティア体験実習はふしぎが丘で長縄、ドッジボールを子どもたちを集め実施。ワークショップは事例研究を行い、子どもの遊びを支援するリーダーとして必要な、要素を話し合った。参加19人。
ウォークラリー体験実習	11.7 10:00～16:00	午前中は、12月の活動を念頭において、リーダーが設定したウォークラリーのコースをグループに別れて歩き、「子どものためのプログラムの企画、準備」には何が必要かを体験する機会とした。午後は準備のための組織作りと、プログラムタイトルの決定を行った。参加27人。

名 称	日 時	内 容
館内ウオークラリー企画会議	12.12 10:00～16:00	3グループに別れ企画会議。今回のグループは「グループサイズの拡大」「継続者のリーダーシップ機能が十分に発揮されない」「人間関係をうまく結べない男子が多い」という特性があるため、この時期でもまだ相互関係の希薄さが目についた。そこでリーダーは、(1)メンバーの向社会的行動を察知し、それをグループ運営に反映させる (2)メンバーの特技を理解し、プログラム運営に反映させる (3)グループ運営に必要な機能をメンバーが担えない時、それを補完する (4)メンバーへの期待、グループへの期待に対して、明確なビジョンを持ち、それを適切な方法でメンバーに伝えられる (5)みずからもグループの一員として、子どもたちへ最善のプログラムを提供するために、L. I. T. とよりよいパートナーシップを結ぶ (6)リーダー自身のことをメンバーに知ってもらう——の視点でアプローチした。参加23人。
館内ウオークラリー企画会議 冬合宿オリエンテーション	12.19 10:00～17:00 // 17:00～18:00	前回に引き続き3つのグループに別れて準備作業。全員プログラム実行に対するモチベーションも高く、メンバーの相互関係も期待できそうである。ポスターや看板作りなど全グループに共通する全体作業も行い、個人個人がグループ全体とのつながりを意識できるように取り組んだ。参加24人。
みつだけせ！キャスルウオーカー ～3つのクリスマスプレゼント～	12.23 9:00～19:00	3つのテーマのウオークラリーを実施。「サンタになろうかい？ かい貝募集中」「目指せ 最強のさむらい」「マックを助けて!! こどもの城キャラクターコース」のユニークなウオークラリーを実施。179人の参加があった。今回は次のような目標を立てて実施した。(1)自分たちで考えたプログラムに楽しく参加していたかどうかを感じ、なぜ楽しんでいたかを洞察する目を持つ (2)子どもにとって、必要な声の掛け方、手の差し伸べ方を考え試行錯誤しながらアプローチする (3)子どもたちの笑顔、やる気、感動を引き出すことの喜び、難しさを感じる (4)現時点でのグループの課題、メンバーの課題、自分の課題——それぞれの特性や良いところに気がつく (5)グループの次の課題に気づくようにする。参加21人。
冬合宿	H17.1.15～16 (1泊2日)	目標は (1)冬の野外活動をととして、自分自身を見つめなおすとともに、他人を理解し、チームワークの基本を学ぶ機会とする (2)野外活動に必要な理念と技術及びリーダーとして必要な心構えを学ぶ機会とすること。テント宿泊体験の予定だったが、キャンプ場の水道が壊れたため、築120年の農家を改築した研修棟での宿泊となる。「野外炊事実習」「炎のミーティング」「原始火起こし実習」「クリエイティブカレーコンテスト」を行う。千葉県船橋市立大神保キャンプ場。宿泊泊。参加26人。
今後の活動について	1.30 13:00～16:00	今後3か月間の活動方針を話し合う。「子どもの楽しさを創り出す」をテーマに次回プログラム案について話し合い、「作って遊ぶ参加劇」と「スポーツ」の2つのプログラムが提案された。参加23人。
//	2.13 13:00～16:00	「作って遊ぶ参加劇」と「スポーツ」の2つのチームに分かれて企画を進める。参加劇は紙コップを使ってつくるバクバク人形、スポーツはチャレンジゲーム形式の遊びのコーナーを屋上ふしきが丘で運営することになった。参加23人。
//	3.20 10:00～16:00	2人のメンバーが退会。メンバーとの関係がうまく結べないのが主な理由だった。話を聞くと、毎回の活動終了後、メンバー同士が誘いあって食事をしていくのだが、その会に参加できるかどうかで関係性の深まりが違ってくるということだった。今や高校生もアフターファイブの過ごし方が関係作りに大きな影響を及ぼしているようだ。スタッフも最近の青年層のモラルの低下（深夜帰宅、オールナイトで遊ぶ、飲酒などが家庭や社会から既成事実として許され始めていること）が気になっていたため、これをきっかけに全員で話し合いを行う。参加20人。
「ジュニア・スプリング・キャンプ2005」参加	3.27～31 (4泊5日)	班付と本部リーダー付きの2つの役割に別れて活動する。班付L. I. T. はリーダーと良好なパートナーシップを結んでサポートを行ったが、緊張感が途切れてしまうこともあり、今後の研修のあり方に課題が残った。参加11人。

3. 講座・講習会など 〈講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
じょいんクラブ	(人) 小4～中3 (20)	(人) 9 7	第2土曜日 14:30～16:30	開館以来続いていた成人のための「手話講座」にかわり、本年度から始まった新規講座。手話を習得しながら、さまざまな人がともに生きる社会を作っていくために、何ができるか考え、子ども自身が子どもたちに向けてアクションを起こしていく（具体的には館内でのワークショップ）活動をめざした。手話の講師に外部から手話通訳士の中野佐世子さんを招いて開講した。[こどもの城]のスタッフやボランティアも参画し、手話習得をともにしながら、子ども同士の仲間作りを支援。活動を個人記録を作成した。前期、後期の2コース実施し、継続的に受講することも可能な内容とした。参加者は広報不足もあり、前期は9人、後期は7人で、すべて小学生。後期からの新規受講者は1人のみで、前期からの継続者が多く活動内容にも変化を持たせた。子どもたちの関係作りが深まった。 受講料＝前期（8回）6,000円、後期（10回）8,000円

〈専門指導者向け講習会など〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
第50期ボランティア講習会	(人) 18歳以上 (高校生不可) (30)	(人) 37	5.15～7.6 18:00～20:30 (5.21～23 宿泊研修)	大学1・2年生が多く、平均年齢は20歳という講習会となった。「児童健全育成と大人の役割」(元大正大学 吉澤英子)、「楽しく・真剣！子ども活動」(横浜レク・クラフト研究所 兼松ムツミ)、「はじめの一歩！ボランティア活動」(小田原女子短期大学 吉田眞理)のほか、「こどもの城のボランティア活動」「子どもと野外活動」の講座、主に人間関係トレーニングを中心にした宿泊研修を実施した。宿泊研修は、手賀の丘少年自然の家（千葉県）で実施。 ※敬称略
ボランティアグレードアップ講習会「野外活動講習会」	野外活動に参加するボランティア (30)	25	6.18～20	小4～中3を対象にした「ジュニア・アウトドア・スクール」に参加するボランティアリーダーが対象。内容は「単独野外炊事」「キャンプ指導実習アラカルト」「森の仲間の祭典研究」「徹底的にキャンプクラフト」など。また、2泊3日のキャンプの運営を、食事、物品、プログラムとそれぞれの係りに分かれて運営。本番のキャンプ本部運営の動きをシミュレートした。船橋県民の森キャンプ場（千葉県）。
第20期女性ボランティア講習会	概ね30歳以上の女性 (20)	17	H17.2.1～3.10 13:00～15:00	ここ数年定員に対する応募者の充足率も高く、今回は22人の応募があり、最終的に17人が受講した。年齢層が31～63歳で平均年齢は51歳。[こどもの城]で活動している女性ボランティアが出席して、楽しいムードのなかで活動紹介を行った。また、外部講師として小田原女子短期大学吉田眞理さんを招き、「共に育つ社会を創るボランティア活動」をテーマにワークショップを行った。エコマップを作り、地域の子育て支援環境を再確認した。また、[こどもの城]スタッフが、「こども活動と大人の役割」をテーマにワークショップも行った。遊びの一面が書かれたワークシートを見ながら、グループごとに事例研究を行い、子どもの遊びを支援する大人の役割について模索した。
第51期ボランティア講習会	18歳以上 (進路決定の高校生可) (30)	31	2.2～26 18:00～20:30 (12.5～7宿泊研修)	大学3・4年と社会人が比較的多い講習会。平均年齢22歳。「児童健全育ってなんだろう」(淑徳大学 山本真美)、「今だからこそボランティア・市民活動」(世田谷ボランティア協会 山崎富一)、「子どもの今を考える」(東京大学 汐見稔幸)のほか、「こどもの城のボランティア活動」「素敵なリーダーその心は」の講座と、主に人間関係トレーニングを中心にした宿泊研修を実施した。宿泊研修は、足柄ふれあいの村（神奈川県）で実施。 ※敬称略
ボランティアグレードアップ講習会「冬季野外活動」	野外活動に参加するボランティア (30)	19	2.25～27	小3～中3を対象にしたキャンプ「ジュニア・スプリング・キャンプ」に参加するボランティアリーダーが対象。内容は「森をあそぶ ネイチャースキーの実際」「夜の森の遊び方」「スキーハイキング実習」「雪上テント泊、雪の造形活動実習」「雪上テント泊実習」「雪上アクティビティー」など。経験豊かなメンバーを活用したトレーニングメニューを多く取り入れ、相互関係、相互援助の活性化をめざした。国立妙高少年自然の家（新潟県）。

《野外活動》

名 称	日 時	内 容
ジュニア・アウトドア・スクール2004	8.1～7 (6泊7日・テント泊)	小学生43人、中学生27人、高校生6人、ボランティアリーダー 25人、スタッフ3人の合計114人が参加。天候にも恵まれ、プログラムも順調に行われた。キャンプ終了後のアンケートによると、すべての内容について「よかった」と7割以上が回答していることから、おおむね好評であったといえる。今回初めて試みた“メニューをイチから考える”という「森の仲間の祭典」が一番楽しかったプログラムとして小・中学生ともに1位あげている。初めての活動で戸惑いもあったが、自分たちで計画し、料理を作り上げる喜び、達成感が高かったと思われる。小学生の「熊野岳登山」、中学生の「オーバーナイトソロ」はともに精神的・体力的に負荷のかかるプログラムであったため、楽しさより満足感を感じてくれたようだ。国立南蔵王青少年野営場(宮城県)。
ジュニア・スプリング・キャンプ2005	H17.3.27～31	小学生45人、中学生33人、高校生11人、ボランティアリーダー 25人、スタッフ3人の合計118人が参加。好天に恵まれ充実した活動を運営することができた。ボランティアリーダーも継続して参画するメンバーが7割を超え、毎年の蓄積を生かしたプログラム運営が可能になってきた。今回は初めて参加したメンバーが多いこと、班に一人ひとり研修のためのL. I. T. の高校生リーダーが入ること、この2つの要素を考慮して、班付きカウンセラーに経験豊かなリーダーを配置した。その結果、プログラム、物品、食事等をコーディネートする本部は、キャンプ経験が1・2回目のメンバーが中心となった。国立妙高少年自然の家(新潟県)。



ボランティアグレードアップ講習会「野外活動講習会」



ボランティアグレードアップ講習会「冬季野外活動」

平成16年度「グループ活動」プログラム一覧表

プログラム名		対象年齢	時間	内 容
体 育	すてきな新体操	3歳児～中3	60分	ボール・リング・なわなどの手具を使って楽しく体操。
	楽しい体育・運動	//	//	身近な道具を使った運動、マット・とび箱などを使ったサーキットなど。
	レクリエーション	//	//	鬼ごっこやしっぽとり・フライングディスク・パラバルーンで楽しく運動。
	球技で楽しく汗を流そう	//	//	ウオールサッカー（室内サッカー）・ユニホック・タグラグビーなどの球技から一種目を選択。
ブ レ イ	劇遊び「森へ行こう」	4歳児～小2	60～80分	森のお姉さんや木こりと一緒に森の中を探検。ごっこ遊びのプログラム。
	劇遊び「忍者修行道場」	//	//	悪者忍者の挑戦を受け、さまざまな忍者修行に挑むごっこ遊び。
	みんなであそぼうパペットランド	//	//	紙コップ、封筒などの身近な物で人形を作り、お話の世界で遊ぶプログラム。
	みんないっしょに	3歳児～小2	//	歌やレクリエーションダンス、パネルシアターなどをスタッフと一緒に楽しむプログラム。
	こどもの城オリンピック	小1～	//	オリンピック種目を愉快地アレンジしたレクリエーションゲーム大会。
	パソコンであそぼう	5歳児～	60～90分	コンピュータグラフィックス・パソコンクラブなど、パソコンを使ったさまざまな遊びを体験。
造 形	かげをうつそう	4歳児～小6	60～80分	自分の影をプレイングボード（大きな白い壁）に写しとって、その影の中を絵の具でデザイン。
	木をつくろう	//	//	グループ全員が協力して、床に大きな紙の木を作る。計画の楽しさを知ろう。
	粘土でジャングル旅行	5歳児～小2	//	粘土で飛行機・テント・木・動物などを作り、みんなでジャングル旅行。
	竹体験	小1～	//	日本の伝統的な植物“竹”の特質、しなる、かたい、筒状などを体験しながら、竹の造形を楽しむプログラム。
音 楽	忍者ってほんとうにいたの？	3～5歳児	60分	子どもたちのイメージネーションによる忍者ごっこ遊び。
	スカーフであそぼう	//	//	スタジオの照明にはえるスカーフで楽しく遊ぶプログラム。
	まつりばやし	//	//	お祭り広場になったスタジオで、楽しく和太鼓をたたくプログラム。
	ガムランで遊ぼう	3歳児～	//	インドネシアの打楽器オーケストラ、ガムランを演奏したり、踊ったりするプログラム。
	サンバでおどろう	4～5歳児	40～50分	ブラジルのカーニバル気分でサンバに挑戦。自分で作った楽器を持って踊るプログラム。
	たたいてみよう日本の太鼓	//	//	いろいろな種類の和太鼓を思いっきりたたいてコンサート。リズムは簡単！
	タムタム大王と遊ぼう	//	//	アフリカの太鼓の名人、タムタム大王と一緒に太鼓の大合奏。
	インドネシア・アングロン	小1～	//	インドネシアの珍しい竹の楽器を紹介。みんないっしょに合奏体験。
	めずらし楽器大集合	3歳児～	//	アフリカ・中国・インドネシア・ブラジルなどから集めた珍しい楽器のコンサート。

プログラム名		対象年齢	時間	内 容
A V	みんなでつくろう “ばたばたアニメ”	4歳児～	60～90分	みんなが描いた2枚の絵を交互に映し、絵の動くアニメを体験。
	フィルムに絵を描いてみよう	小2～	60分	透明な映画フィルムに着色してから映写すると、楽しい図柄がスクリーンに映し出される。
	ビデオであそぼう	小3～	60～120分	突撃インタビュー・ビデオでしりとりに・伝言ゲーム。ここではみんながカメラマン。
	ピンホールカメラをつくろう	小1～	60分	針穴があけただけのカメラ、ピンホールカメラを作るプログラム。

※障害児対応のプログラムについては、障害の程度によって実施できるプログラムが異なる。
体育部門の活動は、各プログラムを組み合わせることも可能（打ち合わせ時に相談）。

劇場 事業本部



「月猫えほん音楽会2004」のフェイス・ペインティング

平成16年度の活動

1. はじめに

青山劇場・青山円形劇場ともに、フル稼働だった(公演演目一覧表参照)。劇場の運営は、劇場を貸すことと自主(提携)公演を行うことに大別される。劇場の貸与日数は、青山劇場が稼働日数289日中234日、青山円形劇場が稼働日数332日中163日であった。貸与は景気に左右されることが多いが、青山劇場でこれほどの日数を確保できたのは、平成14年度(02年)から実施した、使用時間の延長、仕込・休演日における使用料の値下げというサービス面での改定など、営業努力が功を奏したものと思われる。

一方、自主(提携)公演については、ここ数年現状維持といえる。その意義について、あらためて考えてみる時期ではないか。自主公演を文化の発信ととらえるか、興業としてとらえるか、議論の分かれるところではある。平たく言えば、赤字覚悟でも文化の発信ということをとるのか、収益事業として公演をとらえるかだ。公演担当者各個人により、考え方は異なると思う。[こどもの城]の劇場は本来、文化施設と文化機関としての側面を併せ持つものだから、文化を発信していかなければならないが、さりとて赤字のたれ流しというわけにもいかない。文化機関としての創作事業が収益を生むことが理想だと思う。

本年度のレパトリーの中には、収益を生む公演も存在しているが、なかなか実現は難しい。なぜならば、ほとんどの公演が事業予算を持たないため、企画をたてたらまず資金調達をしなければならない。公的・私的機関からの助成金だけに頼っていると、それら助成金の減少とともに公演規模の縮小を余儀なくされるからだ。また、助成金の性格上、利益をあげることははばかられる。また、資金調達

が実らなかった場合、限られた入場料収入のなかで公演を実施しなければならないことの不安定さは大きい。公演を行うにあたり、ある程度の原資がないと収益をあげにくいのは事実であり、年度を通じてストックできる企画調整費などの有効利用を検討したい。

経済面だけではなく、文化を発信していくのに必要なものに“人”がある。次代を担う“人”を育てるという観点から、以下の試みを平成14年度から継続して行っている。

○劇学提携＝劇場の専門性と大学の若い感性を組み合わせることにより、将来劇場に足を運ぶ人々や舞台芸術にかかわる人々を増やすことを目的とする公演。

○Aoyama First Act＝若手新進劇団、制作団体支援育成プロジェクト。将来、青山劇場、青山円形劇場はもちろんのこと、演劇界の担い手となるべく精進してもらうことをねらいとした公演。

○青山パフォーミング・アーツ・セミナー(APAS)＝ダンス、ミュージカル、演劇などのパフォーミング・アーツをより身近に体験できる“場”を青少年に広く提供するワークショップ&フォーラム・プログラム。

これらをとおして、文化の発信地としての劇場にかかわる人の裾野を広げることは、将来、必ずや花が咲き、実を結ぶ事とは思われるが、その外部の「人」を育てるためにも、種をまき、地を耕すこちらの内部の「人」の充実、若い力の注入が急務ではないかと思われる。

2. 主な自主・提携公演

(ア) 青山劇場

■高円宮憲仁親王殿下メモリアル ローザンヌ国際バ

レエコンクール日本開催15周年「ローザンヌガラ」

青山劇場が開館した翌年（昭和61年＝86年）の夏、く次代を担う、舞踊の道を歩む若い才能たちに踊る場を」という趣旨のもとに「第1回青山バレエフェスティバル」が開催された。バレエをはじめ舞踊芸術全般に広い見識と愛情をお持ちであった、故高円宮殿下には折にふれ貴重なアドバイスを賜り、当初より暖かくまた厳しい眼をもってフェスティバルを見守っていただいた。

「若手にチャンスを与え、正しい方向へ育成していくことがその分野の水準を高めていく唯一の方法であり、この意味で青山バレエフェスティバルが果たしてきた役割は大きい」と第10回記念公演時のプログラムにお言葉もお寄せいただいた。平成元年（89年）、このフェスティバル開催趣旨の延長線上に「第17回ローザンヌ国際バレエコンクール東京開催」が開催される。同コンクールは平成16年（04年）現在、32回を数える世界有数のコンクールで、そのいちばんの特色は「コンクール時点での優劣ではなく、プロフェッショナルとして活躍できる人材を育てるために選ぶ」ところにある。世界各国から審査員と80人以上の参加者が集まって、1週間にわたって行われるコンクールの運営は容易ではなく、同コンクールの長い歴史の中で本拠地を離れて開催されたのは、昭和60年（85年）のニューヨークと平成元年（89年）の東京しかない。その東京開催の際に、故高円宮殿下に開催の名誉総裁をお引き受けいただき、かつ高円宮賞ゴールドメダルをお授けいただいた。

本年度は「ローザンヌ国際バレエコンクール東京開催」から15年目にあたり、故高円宮殿下への感謝の気持ちと想い出を偲ぶ意味で企画された。芸術監督に堀内元を迎え、平成2年（90年）以降のローザンヌバレエコンクール受賞者を中心に華やかに開催された。近年受賞後そのまま海外のバレエ団に所属するダンサーが圧倒的に多く、残念ながらその活躍を日本で直接目にする機会は限られている。今回のプログラムでは、マクミラン、アシュトンという現代バレエの巨匠、ウヴェ・ショルツ、レナート・ツァネラなど日本で紹介されることが少ない振付家やヨーロッパで初演されたばかりの作品なども上演され、世界の潮流に触れ

るという意味でも興味深いものとなった。

東京に引き続き、NHK大阪ホール共催で大阪公演も行われ、その模様はテレビ放映された。

〈出演〉ナターシャ・アウトレッド／雨森景子／斎藤亜紀／菅野真代／竹島由美子／田中ルリ／崔由姫／エレーナ・トマーノヴァ／中野綾子／中村祥子／賛田萌／ウィム・ヴァンレッセン／セルジオ・ヴスティンドウイ／蔵健太／ラファエル・クメス＝マルケ／清水健太／佐々木陽平／高橋宏尚／ケーシー・ハード／グレゴール・ハタラ／横関雄一郎／井澤諒

〈演奏・指揮〉堤俊作／ロイヤルメトロポリタン管弦楽団
〈主催〉（財）児童育成協会 こどもの城／高円宮憲仁親王殿下メモリアル・ローザンヌガラ実行委員会

〈助成〉日本芸術文化振興会（平成16年度舞台芸術振興事業）
〈協賛〉マ・メール

〈後援〉オーストリア大使館／オランダ王国大使館／スイス大使館ベルギー大使館／東京アメリカンセンター／ブリティッシュカウンシル／東京ドイツ文化センター／ローザンヌ国際バレエコンクール主催団体「舞踊振興財団」

〈高円宮憲仁親王殿下メモリアル・ローザンヌガラ実行委員〉
岸辺光代（日本バレエ協会理事）／高谷静治（財団法人児童育成協会劇場事業本部長）／堤俊作（指揮）／西尾智子（NHK大阪ホールプロデューサー）／堀内元（アメリカ・セントルイスバレエ芸術監督）／森岡肇（日本舞台監督協会理事）／山田博子（ローザンヌ国際バレエコンクール日本事業部代表）

〈スタッフ〉芸術監督：堀内 元／照明：中山安孝／映像：福井正紀／音響：実吉英一／舞台監督：森岡肇／制作：高輪育子・平岡久美・浜口彩子／統括：高谷静治

■デーモン小暮の邦楽維新Collaboration

青山夏場所 怪談 眞作・牡丹灯籠

“音楽で語り朗読で歌う”朗読パフォーマンス、邦楽の古典から現代曲、洋楽器と競演する古典曲そして邦楽器で味わう洋楽……他のどこでも見ることでできない、アートとエンターテインメントの絶妙なバランスにより邦楽の既成概念を打破し続けるCollaborationシリーズ。

邦楽のトップアーティストたち～吉村七重（二十絃箏）、一噌幸弘（能管）、三橋貴風（尺八）らとデーモン閣下&黒船バンドが向き合い、従来の音楽の枠にとらわれることなく、真摯な編曲と稽古を経て競演を繰り広げた。朗読パフォーマンスでは、あの怪談『牡丹灯籠』（没後100年の小泉八雲版）に挑戦。邦楽アーティストたちとデー



高円宮妃殿下を囲んで、「高円宮憲仁親王殿下メモリアル ローザンヌ国際バレエコンクール日本開催15周年 ローザンヌガラ」出演者のみなさん

モン閣下が心血を注ぎ、贋作『牡丹灯籠』の主人公・お露の愛とエロスの世界を創り上げていった。

最初のソロアルバムで、どれだけ邦楽器と交わるかを試み、琵琶、尺八、三味線、四拍子などさまざまな楽器を重用したデーモン小暮閣下。「さらに大胆に導入した」と自ら語る最新アルバムでは、邦楽器とがっぷり四つに組みに至り、閣下と邦楽器とのコラボレーションは実に15年以上に及んでいる。

邦楽啓発プロジェクト“邦楽維新Collaboration”の発展形として平成16年1月に実現した青山本場所（青山円形劇場）につづく豪華版・青山夏場所を開催した。

□出演□デーモン小暮閣下（朗読・歌唱）／吉村七重（二十絃箏）／桜井智永＋丸岡映美＋山田由紀（以上、二十絃箏）＋田村法子（十七絃箏）／一噌幸弘（能管）／望月太喜之丞（大鼓）／三橋貴風＋添川浩史＋水川寿也＋阪口夕山（以上、尺八）／黒船バンド：松崎雄一（編曲・kbd）＋石川俊介（b）＋雷電湯澤（drs・太鼓）

〈主催〉（財）児童育成協会 こどもの城

〈協賛〉株式会社宮本卯之助商店／財団法人ヤマハ音楽振興会

〈後援〉フジテレビジョン

〈スタッフ〉プロデュース：三橋貴風／演出：板垣恭一／舞台監督：山村唯史（ワルツ）／照明：雑賀博文（ステップアップ）／音響：渋谷博（オフィスクロコ）／大道具：C-COM／書：小暮邦舟／映像製作：アルゴン社／舞台機構操作：青木真（こどもの城劇場技術部）／宣伝デザイン：藤森文胡（undo）／協力：小林研司（宮本卯之助商店）／制作協力：小田島 明博、宮田 大輔（以上、吉本興業）／制作：小野晋司（青山劇場）

■青山太鼓見聞録

太鼓は、戦後生まれの“もっとも新しい日本の伝統音楽”。古来より、太鼓は祭や民俗行事、古典芸能などに用いられてきたが、それ自体が音楽として独立するのは戦後のこと。イベントや地域の活動などで、心を弾ませ、気軽に楽しめるものとして広まった。聞いて楽しく、自ら打ってなお楽しい楽器である。

「青山太鼓見聞録」は、この“若き伝統芸能”のさらなる発展を願って企画された。太鼓グループ個々のライブやリサイタルは毎週のように見られるが、民俗芸能の太鼓から創作太鼓の現在までを横断的に扱う公演は少なく、さまざまな切り口から太鼓の魅力に迫り、多くの観客とその楽しみを分かちたいと考えた。“見聞録”の筆者は青山劇場に集った観客自身。一夜の舞台は一人ひとりの心の一ページに、くっきりとつづられる——それが「青山太鼓見聞録」なのです。

その第1回は、現代の太鼓打ちより選りすぐりの精鋭を集めた、いわば“現代太鼓打ち名鑑”とでも呼ぶべき公演。伝統ある民俗芸能の太鼓と現代の創作太鼓で独自の世界を築く、第一級の演奏家により構成された。

□曲目・出演□

石見神楽・神祇太鼓：今福優、末長愛、堂本栄里、木村直樹（笛）、道川神楽社中（河本直樹、栗栖文生）

京都北部の太鼓：藤本吉利、京都北部（出野文隆、足立眞佐次、黒田誠司、上田裕之）

大太鼓／百花の乱～祈り：炎太鼓（地下朱美、山本綾乃、木下千恵子）、藤本吉利、今福優（以上、大太鼓）

阿修羅：御諏訪太鼓（小口大八、原邦晴、高山光宏、高林英彦、田中博信、アート・リー）、一噌幸弘（笛）、炎太鼓（地下朱美、山本綾乃、木下千恵子）

J INGI：藤本吉利、今福優

〈主催〉（財）児童育成協会 こどもの城／（財）浅野太鼓文化研究所

〈後援〉（財）日本太鼓連盟

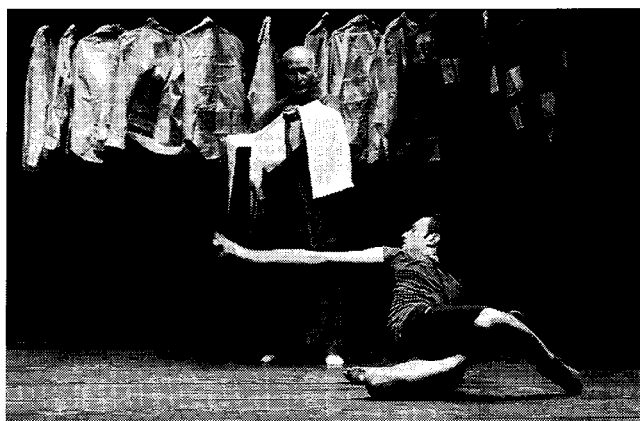
〈協力〉鼓童、林泉

〈制作協力〉アートウィル

〈スタッフ〉舞台監督：金子芳浩（ニクステージワーク）／照明：片田光彦（青山劇場）／音響：武藤一郎（青山劇場）／宣伝デザイン：野村高志／構成・演出・制作：太鼓見聞録編纂委員会＝浅野昭利（財団法人浅野太鼓文化研究所 所長）、小野晋司（青山劇場）、平沼仁一（アートウィル、東京打撃団主宰）、茂木仁史（平凡社新書「入門日本の太鼓」著者）

■ダンスビエンナーレ TOKYO 2004～10,000年の旅路

第2回となる「ダンスビエンナーレ2004」では、オーストリア、カナダ、フィンランド、フランス、ドイツ、イスラエル、イタリア、韓国、スロバキア、スペイン、日本の11か国から16カンパニー、120人以上のアーティストの参加により、青山劇場・青山円形劇場での公演、新進のア



「ダンスビエンナーレ TOKYO 2004」（撮影：塚田洋一）

ーチストによるショーケース、そしてダンスフォーラムやワークショップ、青少年のためのダンスワークショップなど、ダンスにかんする多彩なプログラムを開催した。

今回は、参加アーティスト全員がアフタートークに参加し、またワークショップを行った。ダンスに対する理解をさらに進めてもらおうと、アーティストとの交流機会を拡げた。スパイラルホールや渋谷区の協力を得て、公演・ワークショップの開催場所を面的にも拡大した。

地域や世代を超えて世界の振付家・ダンサーが東京で出会う！——世界の先駆的なコンテンポラリーダンス関係者が2年に一度集う「ダンスビエンナーレTOKYO」は舞台芸術によるにぎわいの場を創造し、世界のダンスの動向や潮流を知り、ネットワークを広げ、ダンスを取り囲む環境をさらに豊かにしていくことをめざしている。今回は他府県やソウルからの観客も多く、また、国内のみならずベルギー、韓国、カナダなどの海外メディア、評論家、プロデューサーが多数来日。「ダンスビエンナーレTOKYO」への関心が高まっている。

〈青山円形劇場公演〉

●Aプログラム（11月18日 19時開演）

エマニュエル・ガット（イスラエル）「冬の旅」

ズザナ・ハーイコヴァー／シュテウーディオ・タンツァ・
バンスカー・ピステウリツァ（スロバキア）

「サイレント・デザート」

森山開次（日本）「あらはさのくう」

●Bプログラム（11月20日 19時開演）

ポール・アンドレ・フォルティエ／フォルティエ・ダンス・クリエーション（カナダ・ケベック）「テンションズ」

●Cプログラム（11月22日 19時開演）

張銀庭（韓国）「ウィズアウト・コンサーン」

朴豪彬／ダンスシアター加頭（韓国）「月から来た人々」

安愛順（韓国）／柳瀬真澄＋朴素滯日韓共同製作

「新作公演」

●Dプログラム（11月24日 19時開演）

ミリアム・グルフィンク（フランス）「マリーヌ」

アレッシオ・シルベストリン（イタリア）「デリヴァレ」

濱谷由美子／クルスタシア（日本）「2P（要冷蔵）」

〈青山劇場公演〉

●Eプログラム（11月26日 19時開演）

李淑在／ミルムル・ダンス・カンパニー（韓国）

「ハングル・チュム」

水と油（日本）「断崖」

●Fプログラム（11月28日 15時開演）

カルメン・ワーナー／プロビジョナル・ダンザ（スペイン）
「ピエル」

クリスティーナ・チュプケ（ドイツ）「リスウムリス」

〈スパイラルホール公演〉

●Gプログラム（11月28日 18時開演）

サスキア・ヘルプリング／ダンス・キアス（オーストリア）
「エクスポジション・コア」

スサンナ・レイノネン（フィンランド）

「ノーワンジャストユア フレンド」

〈ショーケース：フリーホール〉（11月15日 19時開演）

●岡本真理子（日本）、森下真樹（日本）、木野彩子（日本）、宋眞珠（韓国）、浜口彩子（日本）

〈主催〉（財）児童育成協会 こどもの城／ダンスビエンナーレ21実行委員会

〈共催〉株式会社ワコールアートセンター

〈助成〉芸術文化振興基金／東京都芸術文化発信事業助成

〈協賛〉トヨタ自動車株式会社／麒麟ビール株式会社

〈協力〉東京ドイツ文化センター／チャコット株式会社／
QFRONT／ダンス・カフェ／NPO法人JCDN

〈後援〉オーストリア大使館／カナダ大使館／フィンランドセンター／フランス大使館／イスラエル外務省 イスラエル大使館／イタリア大使館／駐日韓国大使館 韓国文化院／スロバキア大使館／スペイン大使館／ケベック州政府
在日事務所／渋谷区教育委員会／日本ダンスフォーラム
〈インターンシップ協力〉玉川大学芸術学部／昭和音楽大学音楽芸術運営学科

〈ダンスビエンナーレ21実行委員会〉三浦雅士（評論家・ダンスマガジン編集長）／榎本了壺（評論家・アタマトテイナターナショナル）／伊東順二（評論家）／太宰久夫（玉川大学教授）

〈スタッフ〉舞台技術総合コーディネート：中嶋英樹（青山劇場・青山円形劇場）／照明コーディネート：片田光彦（青山劇場・青山円形劇場）、柘植幸久、井口眞／音響コーディネート：武藤一郎（青山劇場・青山円形劇場）／舞台監督：原口佳子、川上大二郎、岩崎健一郎、鈴木康郎／劇場操作：柏崎雅弘（青山劇場公演）、三井裕子（青山円形劇場公演）／通訳：柴田綾子、橋本ユキ／宣伝デザイン：有北眞也／プログラム翻訳：浜口彩子／プログラム編集・デザイン：安田敬（ダンス・カフェ）、佐藤誠（アルデザイン）／制作：浜口彩子、宮久保真紀（スパイラル）、李周伊、久保田夏実、桑原綾子／プロデュース：小野晋司（青山劇場・青山円形劇場）、平岡久美（Dance in Deed!）、小林裕幸（スパイラル）／統括プロデュース：高谷静治（青山劇場・青山円形劇場）

（イ）青山円形劇場

■青山円形劇場プロデュース「LYNXーリンクスー」

平成2年（90年）、10年（98年）の2回にわたり鈴木勝秀の構成・演出で上演され話題を呼んだ作品「LYNX」が、

青山円形劇場で再びよみがえった。

都市生活の中で社会とのディスコミュニケーションに陥った人間の孤独、不安定な精神世界を描いたこの作品は、14年前に初演されたとは思えないほど色あせずに、現代社会のひずみを鮮明に浮き彫りにした。今のこの社会を生きる我々には、かつてSF世界のようなこのテーマが明確に現実となってしまったということなのだろう。

現実と幻想の間をさまよいながら、自分を見失っていく不安定で繊細な主人公を、さまざまな舞台に果敢に挑戦し続ける佐藤アツヒロが自然な演技で好演した。共演の橋本さとしは、主人公の内面であり感情である分身の役で、主人公の内なる粗暴な部分を見事に表現した。

観客は彼らの演技と物語にひきこまれ、この世界が現実なのか幻想なのか混迷し、劇場を出た後も自分の身に現実として起こりうるこの作品のテーマを深く心に刻んでいたようだ。

3度上演して感じたことは、「LYNX」にはその時代時代に合った像に妥容していく普遍的なテーマがあるということ。数年後に再演したらどのような姿で「LYNX」が現れるのだろうか？ 4月1～17日（20回公演）

□出演□佐藤アツヒロ、橋本さとし、伊藤ヨタロウ、佐藤誓、鈴木浩介／構成・演出＝鈴木勝秀

■青山円形劇場オブジェクトシアター vol. 8 「KOUSKY II」～人形と音の不思議空間～ 沢則行 Meets 中西俊博

オブジェクトシアターとは、人形だけではなく、さまざまな“モノ（オブジェクト）”や仮面、俳優自身（肉体）も舞台上に登場し、総合的に作品を作り上げる方法で、チェコやポーランドで生まれ、世界に広がっている新しい舞台様式のこと。フィギュアシアターとも呼ばれ、衝立の影に隠れて人形を操るパペットシアター（いわゆる人形劇）とは異なる表現方法。

「KOUSKY」とは、部品・部分を意味するチェコ語の複数形。ここでは、チェコを拠点に活躍している人形劇作家・沢則行の小作品集のことで、いくつかの短編作品を中心に構成されている。前回の試みが好評を博したので、今回はその第2弾。人形の魔術師・沢則行とバイオリン（音）のファンタジスタ・中西俊博とのコラボレーションが、前回にも増して、人形が音楽を、音楽が人形の動きを引き出し、おしゃれで美しい舞台になった。

初めて沢則行のオブジェクトシアターを見た人は、これが人形劇？と思われたかもしれない。人形や仮面やオブジェという生命の無い“モノ”と生命を持つ沢則行という“ヒト”による、せりふの無い芝居だからだ。そこにバイオリニスト・中西俊博の即興的な“オト”が加わることで、

「LYNXーリンクスー」（撮影：加藤孝）



摩訶不思議な舞台空間が円形劇場に現出された。

公演アンケートの声（抜粋）。

- 映画や舞台、コンサートとは違う楽しめる枠が一つ増えたのが凄くうれしい！
- 「赤ずきん」のドラマチックな演出が素晴らしかった。全体的にエネルギーがたくさん詰まった演目で、しかも、こどものころの気持ちを思い出させてくれるものでした。
- 「人形劇」という括りでは表現できないアートを見せていただきました。
- 新鮮でした。自由な発想でいろいろな手法や素材を使っていて驚きました。
- 大人の「人形劇」ははじめてでした。かわいくて、こんなに面白いとは知りませんでした。
- 沢さんの人形劇と中西さんのヴァイオリンの軽妙なおしゃれっぽさがマッチして、とても素敵で楽しい舞台でした。

■Aoyama First Act #4

少年社中「ハイレゾ HIGH RESOLUTION」

■Aoyama First Act #5

InnocentSphere「HELL FIGHTER」

若手新進劇団およびパフォーマンス集団支援育成プロジェクトとして平成14年度から始まった「Aoyama First Act」。今や青山円形劇場の特殊な空間が、多くの若手劇団にとってその芸術的目標となっているが、“円形”の特性を生かせる企画を持ちながら、資金難などで公演を実現できない劇団は数多い。そこで才気と熱意にあふれる青山円形劇場未経験の劇団を選び出し、最初の1回だけのチャンスとしてさまざまな支援を与え、公演を実現させ飛躍のきっかけをつかんでもらう。そして将来、青山劇場、青山円形劇場はもちろんのこと、演劇界の担い手として精進してもらうのが、このシリーズの目的である。

今回は第4弾として、少年社中による「ハイレゾ HIGH RESOLUTION」、第5弾、InnocentSphereによる「HELL FIGHTER」を上演した。

少年社中は早稲田大学演劇研究会のアンサンブル劇団出

身で、平成9年(97年)に作・演出の毛利恒宏らを中心に旗揚げ。現代の“虚と実”を暴き出す物語をスピーディーな演出で展開。エンターテインメント系演劇を精力的に取り入れた劇団。「ハイレゾ」は、対立する架空の2大国家を舞台に恒星間飛行をめざす宇宙飛行士たちのドラマを描くAサイドと、自分の父が旅立っていった宇宙にロケットでメッセージを届けようとする少女を描くBサイドが同時進行。やがて2つの世界が交錯する話で、完全円形舞台を俳優が縦横に駆け巡り、スピード感とドラマ性を併せ持った少年社中らしい作品となった。

Innocent Sphereは、平成8年(96年)に作・演出の西森英行を中心に旗揚げ。“混沌から浮かび上がるもの”をテーマに、スピーディーでダイナミックな物語展開の中に、社会性あるテーマや哲学、心理学などを盛り込み、心に残る人間の性(さが)を描き出す。平成15年(03年)には、若手劇団の登竜門パルテノン多摩演劇フェスティバルで、最優秀作品賞を獲得するなど活躍を続けてきた。「HELL FIGHTER」は、総勢24人の俳優たちが入り乱れる壮大なアドベンチャーストーリーの中に、少年犯罪などの社会的テーマを盛り込み、劇団の個性を浮かび上がらせた。

昨今、Aoyama First Actも各方面に広がりを見せ、趣旨に賛同する方々からさまざまな協力を得られるようになってきた。これからもこの企画を通じて、さまざまな個性を展開させるとともに、演劇界に新たな枠組みを生み出すべく努力したい。

□ハイレゾ□作・演出：毛利恒宏／出演：井俣太良、加藤妙子、大竹えり、田辺幸太郎、佐藤春平、松下好、辰巳智秋、山岸拓生、清水順二ほか／主催：少年社中／提携：こどもの城劇場事業本部

□HELL FIGHTER□作・演出：西森英行／出演：狩野和馬、倉方規安、坂根泰士、日高勝郎、笕尚子、足立由夏、四十八願智子、山岸拓生、富岡晃一郎、佐藤春平、木戸雅美、田中精ほか／主催：Innocent Sphere／提携：こどもの城劇場事業本部

■青山円形劇場&玉川大学芸術学部 提携公演

シアター・ゲーム「行ったり来たり」

A Theatre Game「Comings & Goings」

この提携公演事業は、6月の青山円形劇場でのミュージカル『ドリーミングボーイ』公演から“劇学提携事業(劇場と大学とのコラボレーション)”としてスタート。“開かれた劇場”と“開かれた大学”のこれからのあり方を模索して継続的に取り組んでいる実験的なプロジェクト。今回は、60年代のニューヨーク・オフ・オフ・ブロードウェイの秀作、ミーガン・テリー原作のく変身劇 Transformation Play、変幻自在の全30シーンで構成

されたスリリングなストーリーを複数の役者が次々と演じ継ぐ小粋で洒落たステージに、これからの芸術文化を担う若者たちが全力で挑戦した。

公立文化施設や教育機関では、それぞれの知的・技術的資源などをもって他の機関と連携・交流し、積極的に社会発展に資することが求められている。舞台芸術分野への人材を育成し、幼・小・中・高・大学と一貫教育を行っている玉川大学と、児童・青少年の健全育成をめざす〔こどもの城〕が連携して、次代の文化を担う青少年の育成のため新しいタイプの連携事業に継続的に取り組んでいる。6月10～13日の4日間で10回公演を行った。

主催・企画制作：玉川大学芸術学部、(財)児童育成協会／原作：Megan Terry／翻訳：T & Pals／演出：法月敏彦／出演・舞台製作：玉川大学芸術学部長

□指導・監修□美術：方勝、小荷田知奈／照明：菊地芳子／音響：実吉英一(実吉サウンドデザイン)／衣裳：合田瀧秀／音楽：土居克行／舞台技術：青山劇場技術部／舞台監督：吉住知洋／宣伝美術：藤森文胡(undo design)／制作：太宰久夫、小野晋司(青山円形劇場)

■月猫えほん音楽会2004

えほん×ジャズ=めっちゃ² 楽しいシアターライブ

平成11年度(99年)から始まり、大好評を得ている「月猫えほん音楽会」は、“絵本”と“読み聞かせ”の持つ魅力を新しい側面から取り上げた企画で、親子(小学生)を対象とした招待公演。(財)こども未来財団との共催。

大きな月(スクリーン)に絵本を映しながらの読み聞かせと、ジャズ・ピアノの即興演奏を組み合わせ、絵本とジャズとのセッションライブ。さらにパントマイムを加え、観客参加で作るシーンなど、他に類を見ない画期的なステージを展開した。また、希望する観客には、フェイス・ペインティングで猫に扮し、“猫道”と呼ぶ長いトンネルをくぐり抜けて入場するなど、さまざまな趣向でライブの楽しさを演出することに成功した。

昨今、“絵本”と“読み聞かせ”の魅力が見直されている。それは、何かと暗い世相の中で、絵本の持つ美しさと奥深さに人々が改めて目を向け始めたからであり、親子のコミュニケーション不足が指摘されるなか、絵本の読み聞かせがコミュニケーションを深めるのに役立つと多くの人が気づいたからではないだろうか。

そのような関心の高さを示してか、定員1,750人のところ約2,535世帯7,639人の応募があった。

出演：佐山雅弘(ピアノ)、波多雅子(進行)、本多愛也(パントマイム)、能祖将夫(朗読)／演出：吉澤耕一／構成：能祖将夫／美術：小竹信節／協力：東京動物園ボランティアーズ／主催：(財)こども未来財団、(財)児童育成協会

■Aoyama Organic Night

vol.3 わたしうた〜ライブ

vol.4 ヤアラルホーン来日ツアー2004

vol.5 朝崎郁恵のシマウタムンガタリ

「幻想の島」

身体に優しく、心がなごむ音楽。老若男女、すべての世代を越えて心が温かくなり身体が元気になれる「声」「音」……。ストレスの多い現代人にそんなオーガニックなひとときを提供するのが、「Aoyama Organic Night」。このシリーズは、[こどもの城]に癒しという大変意義深い、新たな側面を与え続けている。今後もまだまだ認知度の低い癒し系ミュージシャンたちを支援することでその登竜門としての地位を確立していきたい。提携：こどもの城劇場事業本部。

□わたしうた〜ライブ□主催：mauve／出演：朝崎郁恵、新良幸人、つちだきくお、NUU

□ヤアラルホーン来日ツアー 2004 □主催：ワンネス・ミュージック、Harmony Fields／出演：ヤアラルホーン

□朝崎郁恵のシマウタムンガタリ「幻想の島」□主催：ワンネス・ミュージック／出演：朝崎郁恵、広井敏通

■青山円形劇場プロデュース「ア・ラ・カルト〜役者と音楽家のいるレストラン」

役者と音楽家が一体となって作り上げる「ア・ラ・カルト」は、クリスマスの時期を迎えたとある老舗のレストランの開店から閉店までを、ショートショート芝居とバイオリニストの中西俊博を中心としたバンドマンの生演奏でつづるしゃれたエンターテインメントショーとしてすっかり冬の風物詩となっている。

開店16年を記念して、内装を豪華にリニューアルしたレストランで、おなじみのキャラクターたちが繰り広げる新しい笑いと感動を呼び起こすストーリーは、観客がそれぞれの人生の機微を感じとり、心にしみ入る内容であったと思う。ゲストに、ミュージシャンでありエンターティナーであるROLLYを迎え、彼のシャイでまじめで上品な一

面を芝居の中に垣間見せ、ショータイムでは歌もダンスもパワーアップし、素敵な時間を提供した。

全26ステージが完売し、約9,000人を動員した。大阪公演も昨年に引き続きMIDシアターで4ステージ行い、年末の大阪を賑わせた。

出演：高泉淳子、白井晃、陰山泰、ROLLY(ゲスト)、中西俊博(バイオリン)、クリス・シルバースタイン(ベース)、宮下誠(ギター)、林正樹(ピアノ)／演出：吉澤耕一／構成：白井晃／台本：高泉淳子／音楽監督：中西俊博／協賛：キリンビール(株)、富士通(株)

*大阪公演の主催は関西テレビ放送、(株)ハートス、キョードー大阪

■第17回こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ「とびこむ絵本Ⅳ〜クルクルおよいだ雲のなか〜」

オリジナルの童話を、歌やバレエ、生演奏でつづるお正月恒例のファミリーオペレッタ。[こどもの城]のスタッフが創作するこの作品は、今年で17回目を迎え、大人も子どもも楽しめるファミリー向け公演として、常に高い人気と安定した動員を保っている。

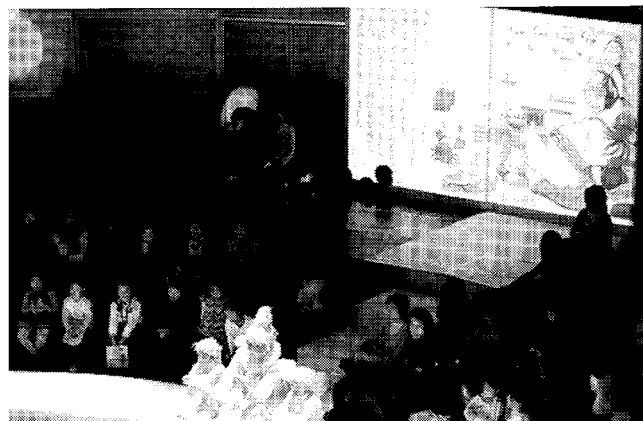
上演は、第14回からのシリーズとなる『とびこむ絵本』の第4弾。絵本「ぶっかりタウン」に住む天使たちと、その世界に飛び込むことができるクルクルが巻き起こす物語。

怒られてばかりで、自信がなく、いつも自分と人とを比べてしまう太郎くんが、クルクルやぶっかりタウンの天使たちと巻き起こす騒動をとおして、人にはそれぞれの個性があり、一人ひとり違うということに気づき、自分なりに一歩ずつでも前に進もうと思えるまでを描いた。また、シリーズとおしてのテーマを“絵本の読み聞かせ”とし、親と子が語り合うこと、ふれあうことの大切さを考えた。

温かで楽しい登場人物たちが繰り広げる童話の世界と、観客参加型の演出により、観客を物語の中に引き込み、子どもだけでなく大人からも多くの反響を得ることができた。今後も、現代社会では忘れられがちな心の豊かさ、大切さを感じとれるような良質な舞台作品を創作し、より多



「ア・ラ・カルト〜役者と音楽家のいるレストラン」(撮影：北村光隆)



「とびこむ絵本Ⅳ〜クルクルおよいだ雲の中」

く人に提供したい。

なお、この作品は、厚生労働省社会保障審議会児童文化財に選定され、さらにその中から特別推薦として「児童福祉文化賞推薦作品」を受賞した。

脚本：山下哲／演出：高谷静治／出演：オペラクリエーション・イン・青山、こどもの城児童合唱団、平多正於舞踊研究所、岸辺バレエスタジオほか／共催：麒麟福祉財団

■デーモン小暮の邦楽維新 Collaboration

青山本場所

“音楽で語り朗読で歌う”朗読パフォーマンス、邦楽の古典から現代曲、洋楽器と競演する古典曲そして邦楽器で味わう洋楽……他のどこでも見ることのできない、アートとエンターテインメントの絶妙なバランスにより、邦楽の既成概念を打破し続けるCollaborationシリーズ。

邦楽のトップアーティスト——一噌幸弘（能管）、多々良香保里（胡弓）たちとデーモン閣下&黒船バンドが向き合い、従来の音楽の枠にとらわれることなく、真摯な編曲と稽古を経て競演を展開、日本の音楽の可能性をさらに追求する公演。邦楽啓発プロジェクト「デーモン小暮の邦楽維新Collaboration」の発展形として実現した青山本場所（青山円形劇場／04年1月）、夏のスペシャル版・青山夏場所（青山劇場／同年8月）に続くCollaborationシリーズ 青山第4弾。

□「あ阿」の巻□（平成17年1月11・12日）

出演：デーモン小暮閣下（朗読・歌唱）、一噌幸弘、多々良香保里、壺井彰久（バイオリン）＋高木潤一（ギター）＋吉見征樹（タブラ）

□「うん吽」の巻□（平成17年1月13～15日）

出演：デーモン小暮閣下、一噌幸弘、多々良香保里、黒船バンド＝RICO（編曲・キーボード）＋雷電湯澤（ドラムス）＋石川俊介（ベース）

〈主催〉（財）児童育成協会・こどもの城

〈協賛〉株式会社宮本卯之助商店／財団法人ヤマハ音楽振興会

〈スタッフ〉プロデュース：三橋貴風／舞台監督：山崎正則（Waltz）／照明：雑賀博文（ステップアップ）／音響：渋谷博（オフィスクロコ）／大道具：浅井裕子（C-COM）／スライド製作：相馬宏臣（アルゴン社）／宣伝デザイン：藤森文胡（undo）／制作協力：小田島明博、宮田大輔（以上、吉本興業）／制作：小野晋司（青山円形劇場）

■ 日韓ダンスコンタクトVol.2

交流からパートナーシップへ～日韓共同で企画・制作し、韓日交互にダンス公演を開催した。東京の青山円形劇

場とソウルのTheatre Zeroが企画段階から連携して、日本と韓国の新進アーティストの創造活動がさらに刺激的に活性化することをめざして、時代を映すダンスの分野で平成15年（03年）から共同企画・制作を行い、交互に共同で開催している。

平成15年（03年）9月には青山円形劇場を舞台に、日本と韓国の共通点と差異をともに受け止め、同時代に生きる若い芸術家の課題や問題点を切り開くダンスの現場を構築していくことを目的に、第1回を開催。今回は「日韓友情年2005」記念事業として開催した。

●Aプログラム（2月16日 19時開演）

ジ・ジェウック振付・出演「動冬」

奥田純子振付・出演

「静かな距離～はかれない、みえる、感じる」

キム・ヒョンジン振付・出演「On the String」

●Bプログラム（2月18日 19時開演）

テ・ヘシン振付・出演「新ミヤルⅡ」

浜口彩子構成・演出「レモンボムーtrio Versionー」

イム・スジョン振付・出演「ONE Day...Ⅱ」

●Cプログラム（2月20日 15時開演）

吾妻琳振付・出演「宝島（Treasure Island）」

クッ・ウンミ振付・出演「昭露散歩」

イ・ジウン&チョン・ソンウ振付・出演

「40万ウォンの虐殺」

尹明希振付・出演「ベヴェラダ」

〈主催〉（財）児童育成協会／日韓ダンスコンタクト実行委員会

〈助成〉平成16年度文化庁国際芸術交流支援事業

〈後援〉駐日韓国大使館 韓国文化院／韓国国際交流財団／韓国文化観光部

〈制作協力〉オフィスダム／Dance in Deed！

〈スタッフ〉舞台監督：原口佳子／照明：アイカワマサアキ／音響：武藤一郎（青山円形劇場）／舞台技術コーディネーター：中嶋英樹（青山円形劇場）／通訳・翻訳：李周伊／宣伝デザイン：藤森文胡（undo）／制作：小野晋司（青山円形劇場）、平岡久美（Dance in Deed!）、李周伊、ハン・ヨンベ（シアターゼロ）、木村典子、キム・ウソン／統括：高谷静治（青山円形劇場）、シム・チョルチョン（シアターゼロ）

（ウ）青山パフォーミング・アーツ・セミナー

ダンス、ミュージカル、演劇、舞台の仕事などパフォーミング・アーツをより身近に体験できる“場”を青少年や一般にひろく提供するワークショップ&フォーラム・プログラムとして、5月から11月まで18のワークショップとフォーラムを開催した。

平成16年度公演演目一覧表

1. 青山劇場

名 称	日 時	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率	備考
〈自主・提携公演〉	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
ローザンヌガラ	8.9~11 (3)	2	A=7,000/B=6,000	2,152	1,974	91.7	
邦楽維新青山夏場所	8.16~18 (3)	2	S=5,500/A=4,500	2,312	1,239	53.6	
ビッグリバー	9.26~10.24(29)	32	S=12,000/A=8,000/ リピーター券=7,000	36,992	18,773	50.8	
青山太鼓見聞録	11.2 (1)	1	S=4,000/A=3,500	1,200	923	76.9	
ファニーレディ II	11.17 (1)	1	8,000	1,156	1,105	95.6	
ダンスビエンナーレ TOKYO 2004	11.25~28 (4)	2	S=4,500/A=3,500	2,220	728	32.8	
リースの結婚	12.28~31 (4)	3	SS=10,000/S=8,000/ A=6,000	3,222	2,472	76.7	
アダムクーパー危険な関係	H17.2.7~16 (10)	11	S=14,000/A=12,000	11,594	9,138	78.8	
(自主・提携公演 小計)	(55)						
〈貸し館〉							
スター誕生 (日本音楽事業者協会)	4.1~18 (18)	22	S=10,000/A=8,000/立 ち見=7,000	26,532	25,483	96.1	
丸美屋食品ミュージカル「アニー」 (日本テレビ)	4.19~5.9 (21)	25	S=7,800/A=5,800	27,707	24,026	86.7	
浪人街 (TBS)	5.11~6.23 (44)	45	S=12,500/A=10,500/ B=8,000/立ち見=5,000	52,334	51,149	97.7	
ウエストサイドストーリー (フジテレビ)	6.25~8.5 (42)	43	SS=15,000/S=13,000/ A=10,000/立ち見=9,000	46,526	45,471	97.7	
伊勢正三コンサート (キョードー東京)	8.7 (1)	1	6,300	1,160	900	77.6	
ミスターマリック新超魔術 (キョードー東京)	8.8 (1)	2	5,500/ヘアシート=8,000	2,312	2,205	95.4	
盤上の敵 (ドラマシティ)	8.12~15 (4)	4	S=8,500/A=7,500	4,656	3,133	67.3	
アウトオブオーダー (フジテレビ)	8.23~29 (7)	11	6,500(前売6,000)/ウイ ズスターシート=3,000/立 ち見=9,000	13,178	11,373	86.3	
押尾コータローコンサート (キョードー東京)	9.1・2 (2)	2	5,000	2,368	2,196	92.7	
ベギー葉山コンサート (ザ・カンパニー)	9.3 (1)	1	S=10,000/A=8,000/ ヘア席=16,000	1,156	920	79.6	
郡愛子リサイタル II (ザカンパニー)	9.4 (1)	1	S=7,000/A=5,000	1,156	856	74.2	
HAWAIIAN CHARITY CONCERT (鴻池オフィス)	9.5 (1)	8	S=7,000/A=6,000	1,156	875	75.7	
すがわらやすのりコンサート (宇野オフィス)	11.5 (1)	1	6,500	1,156	1,055	91.3	
Can't Stop Dancin' 2004 (名倉ジャズダンススタジオ)	11.8~14 (7)	6	S=7,350/A=6,000	6,576	6,056	92.1	
島田歌穂30周年記念コンサー (K Links)	11.18~21 (4)	3	S=6,500/A=5,000	3,448	2,903	84.2	
サライ創刊記念コンサート (小学館)	11.22 (1)	1	4,000	1,156	994	86.0	
渡辺真知子コンサート (キョードー東京)	11.23 (1)	1	6,500	1,156	774	67.0	
ウエストサイドストーリー (フジテレビ)	11.30~12.30 (31)	35	SS=12,000/S=10,000/ A=8,000/立ち見=8,000	37,870	37,526	99.1	

名 称	日 時	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率	備考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
サクラ大戦新春歌謡ショウ2005 (レイネット)	H17.1.4~10 (7)	7	SS=9,000/S=7,000/ A=4,000/ ファミリー券=12,000	8,082	6,816	84.3	
館野泉&岸田今日子 (ザ・カンパニー)	2.18 (1)	1	S=6,300/A=5,250	1,156	896	77.5	
デモクラシー (ホリプロ)	2.20~28 (9)	9	S=10,000/A=8,000/ 学生=5,000	10,476	8,396	80.2	
荒神 (RUP)	3.1~29 (29)	26	S=9,500/A=8,500/立見 =6,000	31,356	29,951	95.5	
(貸し館 小計)	(234)						
(青山劇場 合計)	(289)						

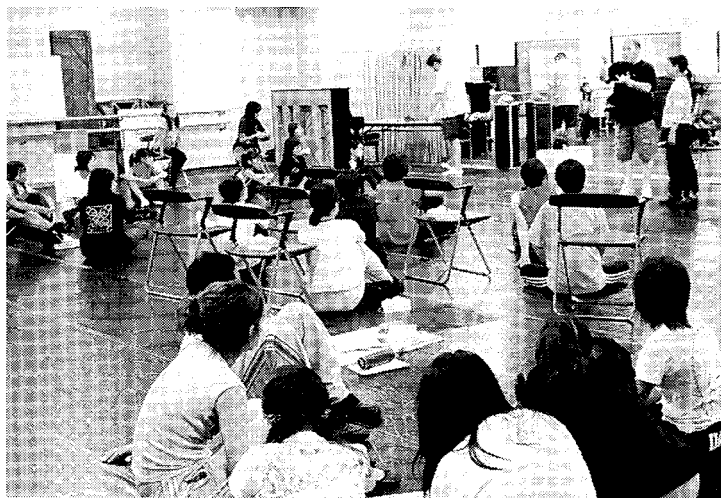
2. 青山円形劇場

名 称	日 時	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率	備考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
〈自主・提携公演〉							
リンクス	4.1~17 (17)	20	5,500	5,799	5,390	93.0	
オブジェクトシアターVol.8 「KOUSKY II」	5.6~9 (4)	4	4,500 (前売4,000)	956	791	82.7	
バナナが好きな人	5.10~23 (14)	15	5,500 (前売5,000)	5,047	4,375	86.7	
Aoyama First Act #4「ハイレゾ」	5.24~30 (7)	7	3,200 (前売3,000) / リ ピーター=1,500	1,880	1,662	88.4	
玉川大学学外公演 II 「行ったり来たり」	6.7~13 (7)	10	1,500 (前売1,300) / リ ピーター割引あり	2,170	1,267	58.4	
上田遼ダンスリサイタル8	7.9~11 (3)	4	6,000	916	771	84.2	
月猫えほん音楽会2004	7.22~25 (4)	5	招待	1,680	1,594	94.9	
ユー・ガット・ア・フレンド	7.26~8.8 (14)	20	5,000	4,298	3,602	83.8	
Aoyama Organic Night #3 「わたした」	8.30 (1)	1	5,500 (前売5,000)	334	290	86.8	
山の手事情社20周年記念公演	10.4~17 (14)	16	4,800 (前売4,000)	3,334	2,597	77.9	
下村由里恵バレエ・リサイタル	10.29~31 (3)	4	5,500 (前売5,000)	1,044	888	85.1	
Aoyama Organic Night #4 「ヤアラルホーン」	11.15 (1)	1	5,500 (前売5,000)	208	152	73.1	
ダンスビエンナーレ TOKYO 2004	11.17~24 (8)	4	3,500	906	738	81.5	
ア・ラ・カルト	11.30~12.26 (27)	26	6,800	9,348	8,952	95.8	
麒麟ファミリーオペレッタ 「とびこむ絵本 IV」	12.27~29、 H17.1.3~9 (10)	12	2,800	4,350	3,661	84.2	
デーモン小暮の邦楽維新	1.10~15 (6)	5	5,500	1,764	1,483	84.1	
イエロー	1.31~2.7 (8)	7	4,000 (前売3,800)	2,012	1,652	82.1	
日韓ダンスコンタクト Vol. 2	2.14~20 (7)	3	3,000	578	344	58.7	
Aoyama Organic Night #5 「幻想の島」	3.7・8 (2)	2	大人=4,000 / こども=3,000	455	344	75.6	
THE END	3.14~17 (4)	3	5,000 (前売4,500)	483	287	59.4	
Aoyama First Act #5 「HELL FIGHTER」	3.21~28 (8)	9	3,300 (前売3,000) / ペア =5,600 / 中高生=2,000	1,785	1,625	91.0	
(自主・提携公演 小計)	(169)						

名 称	日 時	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率	備考
〈内部利用〉	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
こどもフェスティバル	5.2~5 (4)	6	無料 (入館券対応)	1,860	1,625	87.4	企画研修
マタニティコンサート2004	7.3・4 (2)	1	無料 (")	354	247	69.8	小児保健
キダー・フィルム・フェスティバル	8.12~22 (11)	39	無料 (")	10,296	5,870	57.0	A V
第15回三味線のつどい	H17.1.16 (1)	1	無料 (")	374	282	75.4	音 楽
ぼくらのサウンド 2005	3.18~20 (3)	5	無料 (")	1,238	839	67.8	"
(内部利用 小計)	(21)						
〈貸し館〉							
鶴瓶 2004 (デンナーシステムズ)	4.24~28 (5)	5	4,200	1,856	1,754	94.5	
STELLA CONCERT 2004 (東京音楽文化協会)	4.29 (1)	1	4,500	334	271	81.1	
ダンスインプロビゼーション (C.I.Co)	4.30 (1)	1	3,300 (前売3,000)	244	231	94.7	
ル・サクレ (LA DANNCÉ CONTRASTÉE)	6.1・2 (2)	2	5,000 (2日セット=8,000)	412	368	89.3	
千原浩史一詩一 (吉本興業)	6.3 (1)	1	3,800 (前売3,500)	390	364	93.3	
原田真二コンサート (キョードー東京)	6.4~6 (3)	3	6,500	1,034	841	81.3	
ドナインシタイン博士のひみつ学会 (吉本興業)	6.14~17 (4)	5	4,200 (前売3,800)	1,522	1,158	76.1	
メネシスの降りた町 (劇団前方公演)	6.18~27 (10)	10	4,000 (前売3,500)	2,050	1,893	92.3	
Live Cafe Music #8「週末組曲」 (オズエンタテイメント)	7.1・2 (2)	2	6,500	699	666	95.3	
CCB21、あがた森魚 (アーク)	7.6~8 (3)	3	6,300 (前売5,800)	1,018	933	91.7	
バカが見る夢すごい夢 (拙者ムニエル)	7.12~21 (10)	11	3,800 (前売3,500)	2,644	2,304	87.1	
アキコカンダ作品選 (アキコ・カンダ事務局)	8.10・11 (2)	3	4,600	522	491	94.1	
田原総一朗熱論90分スペシャル (テイクシステムズ)	8.23 (1)	1	無料	300	280	93.3	
草色の空への水路 (ムージャック)	8.24・25 (2)	3	大人=4,500 (前売4,000) ／子ども=2,500 (前売2,000)	696	514	73.9	
Fake Her ~虚構の彼女~ (劇団シアター・ジャック)	8.26~29 (4)	4	4,300 (前売3,800)	786	707	90.0	
ママがわたしに言ったこと (シス・カンパニー)	9.1~10.3 (33)	34	6,500	12,132	11,852	97.7	
沢木順ソロミュージカル (レイネット／サワキドットネット)	10.18~24 (7)	7	6,000	2,016	1,333	66.1	
内外 (ウチソト) (ARCHITANZ)	10.25~28 (4)	5	6,500 (前売6,000)	835	668	80.0	
ヨシケン 路上の弦楽セレナード (ヴァニラスカイ)	11.5 (1)	1	3,000	183	116	63.4	
第三回笑福亭鶴瓶落語会 (デンナーシステムズ)	11.6・7 (2)	3	3,800	1,002	903	90.1	
腑抜けども、悲しみの愛を見せる (劇団、本谷有希子)	11.8~14 (7)	7	3,300 (前売3,000)	2,059	1,719	83.5	
妃衣子コンサート (矢沢妃衣子)	11.16 (1)	1	6,500	325	219	67.4	
岩下徹ソロダンス 放下17 (シュール&ルーツ)	11.25 (1)	1	3,500 (前売3,000) / 学 生=2,500 (前売2,000)	264	110	41.7	
創作舞踊展 (創作舞踊展)	11.26~28 (3)	3	5,000	876	606	69.2	
サナダ イレブン (劇団S.W.A.T)	H17.1.17~23 (7)	7	4,500 (前売4,300)	2,349	2,006	85.4	

名 称	日 時	回 数	料 金	総席数	入場者数	入場率	備考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
木乃下真市ツアー2005 パッション! (J-STATION)	1.24~26 (3)	3	5,500	870	701	80.6	
colors (北村雅則事務所)	1.27~29 (3)	3	4,500 (4,000)	522	446	85.4	
中西俊博 Leaping Bow 2005 (ミュージックハウスモズ)	1.30 (1)	1	6,000 (前売5,500)	285	275	96.5	
だいきらい (アートインAsibina)	2.10~13 (4)	5	2,500 (前売2,000)	994	658	66.2	
国分弘子コンサート (フィリップサイド)	2.21 (1)	1	6,000	375	344	91.7	
フシギの国のジョーダン氏 (日本映画学校)	2.22~28 (7)	6	2,000	1,397	1,064	76.2	
毎色の窓から (ベテカン)	3.1~6 (6)	6	4,000 (前売2,000) / マチ ネー= 3,300 (前売2,800)	1,713	1,228	71.7	
(貸し館 小計)	(142)						
(青山円形劇場 合計)	(332)						

「青少年向けダンスワークショップ」
(講師：アレッシオ・シルベストリン)



「NYMTミュージカルワークショップ」
(講師：マーク・パデンドン、トニー・カストロ)

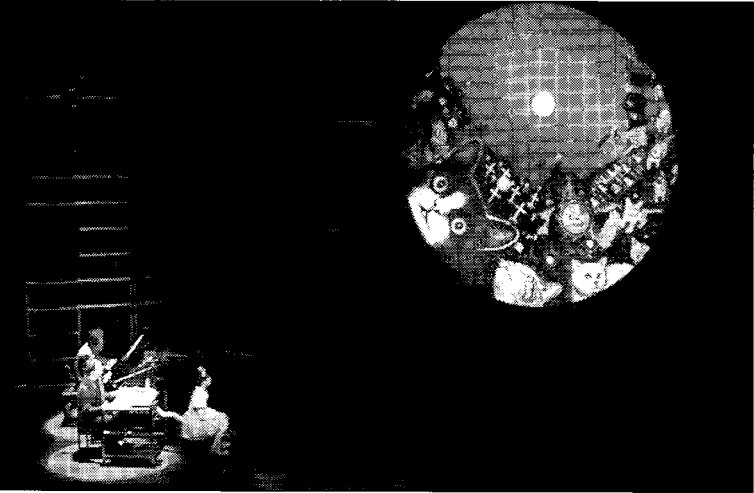
3. その他

〈青山パフォーミング・アーツ・セミナー2004 (APAS) ワークショップ〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
オブジェクトシアター・ワークショップ	(人) 一般 (20)	(人) 25	5.15・16 10:00~18:00	講師=沢則行。受講料=10,000円(2日間。材料費込み)。 (Bリハーサル室)
フィンランドのダンス	// (40)	36	5.21 19:00~21:00	講師=アウリ・ラサネン、立木あき子。受講料=1,000円。 (")
振付ワークショップ	経験者 (25)	22	6.25~27 19:00~21:00	講師=アレッシオ・シルベストリン。受講料=13,000円。 (")
青少年向けダンスワークショップ	小・中学生 (20)	14	6.27 11:30~12:30	講師=アレッシオ・シルベストリン。受講料=1,000円。 (")
NYMTミュージカルワークショップ	12~22歳 (30)	31	8.13~18 11:00~17:00	講師=マーク・バデンドン(演出家)、トニー・カストロ(音楽家)。 受講料=12,000円(6回)。 (")
稲尾芳文・ダンサーのためのワークショップ	ダンサー (20)	28	8.30・31 15:00~17:00	講師=稲尾芳文(パットシェバ・ダンスカンパニー芸術監督)。 受講料=9,000円(3回)。 (")
イスラエルのダンスのいま	一般 (40)	45	8.30 19:00~21:00	講師=稲尾芳文(パットシェバ・ダンスカンパニー芸術監督)×乗越たかお(作家・評論家)。受講料=1,000円。 (")
フィジカルシアターコック・システム入門	// (各40)	延べ 32	9.18~20 (1) 14:00~17:00 (2) 18:00~21:00	講師=野崎夏世、猪俣哲史。受講料=5,000円。 (")
Meet the Artists (1)	// (20)	19	11.16 19:00~21:00	講師=エマニュエル・ガット(イスラエル)。受講料=2,500円。(青山山形劇場)
コンテンポラリー・ダンス・テクニック(1)	ダンサー (20)	17	11.17、21 19:00~21:00	講師=ポール=アンドレア・フォルティエ(カナダ・ケベック)。 受講料=6,000円。 (Bリハーサル室)
コンテンポラリー・ダンス・テクニック(2)	// (20)	12	11.19・20 19:00~21:00	講師=スザナ・ハーイコヴァー(スロバキア)。受講料=6,000円。 (")
こどもとコンテンポラリー・ダンス(1)	小・中学生 (20)	21	11.21 13:00~14:30	講師=濱谷由美子(日本)。受講料=1,000円。 (")
ダンスの空間	一般 (60)	51	11.21 14:00~19:00	講師=伊藤千枝、黒沢美香、鈴木稔、日比野克彦ほか。受講料=1,000円。 (")
Meet the Artists (2)	// (20)	16	11.23 13:00~15:00	講師=ミリアム・グルフィンク(フランス)。受講料=2,500円。 (")
こどもとコンテンポラリー・ダンス(2)	小・中学生 (20)	16	11.23 16:00~17:30	講師=水と油(日本)。受講料=1,000円。 (")
Meet the Artists (3)	一般 (20)	19	11.26 13:00~15:00	講師=スサンナ・レイノネン(フィンランド)。受講料=2,500円。 (")
Meet the Artists (4)	// (20)	16	// 16:00~18:00	講師=サスキア・ヘルプリング(オーストリア)。受講料=2,000円。 (")
クリエイションの現場	// (30)	20	11.27 14:00~16:00	講師=李淑在(韓国)、水と油(日本)、カルメン・ワーナー(スペイン)、クリスティーナ・チュプケ(ドイツ)ほか。受講料=1,000円。 (")

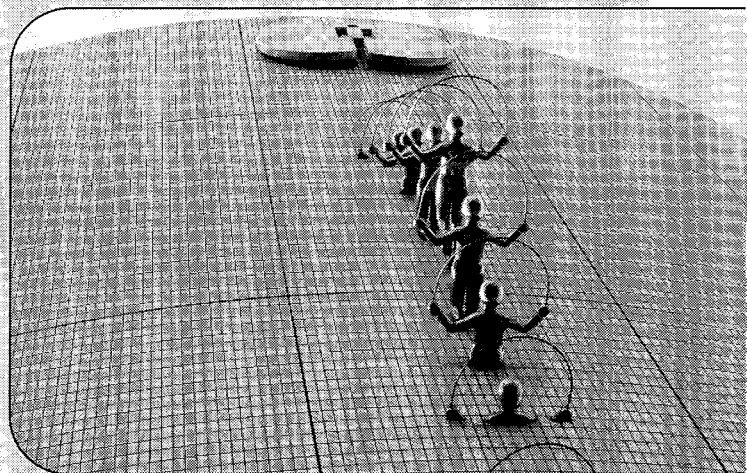
〈青山劇場プロデュースによるツアー公演〉

公 演 名 称	期 間	回 数	公 演 会 場 (都 道 府 県)
月猫えほん音楽会2004	5.5	1	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール (滋賀県)
//	7.29・30	2	山口情報芸術センター (山口県)
//	8.1	1	北九州芸術劇場・中劇場 (福岡県)
//	8.3	1	倉吉未来中心・小ホール (鳥取県)
//	8.8	1	鯖江市文化センター (福井県)
//	8.9	1	福井市文化会館 (福井県)
//	8.26	1	茅ヶ崎市文化会館・小ホール (神奈川県)
//	8.28	1	三芳町文化会館コピスみよしホール (埼玉県)
ア・ラ・カルト	12.28 ～30	4	MIDシアター (大阪府)



「月猫えほん音楽会2004」

広報部



平成16年度の活動

1. はじめに

広報部の役割は、一言で言えば、多くの人に「こどもの城」を知ってもらう、理解してもらうことである。機関紙「こどもの城ニュース」の編集・発行、ちらし・ポスターの制作、外部（マスコミやミニコミなど）への情報提供など、さまざまな手段を使って“知ってもらう活動”を展開している。

“知ってもらう活動”と言うとすぐに、ちらしを配ればいい、ポスターを掲示すればいいなどと短絡的に考える人もまだ多い。もちろん、効果がゼロではないが、ちらしやポスターを作ったことで、知ってもらう努力をしたんだと自分自身を免罪してしまうことも少なくない。一步間違えれば、形骸化・マンネリ化への道を歩むことになる。

“知ってもらう活動”の背景には、“知ってもらいたいこと”があるはずで、そこには“どうして”“なぜ”などの理由も隠されている。なんのために広報活動をしているのか、根源的なところから常に自問自答していく必要があるのではなかろうか。“なにを”知ってもらいたいのかという「こどもの城」側の考え方が重要になる。

最近は官公庁・私企業を問わず、社会の一員としての“責任”が問われることが多い。そのため、情報の開示、説明責任などが求められるようになってきている。国立の総合児童センターとして、「こどもの城」も児童健全育成の大切さを訴え、社会の理解を得ていく努力——「こどもの城」を知ってもらうことがますます重要になっていくだろう。

2. 情報の収集と提供

広報活動の基本となるのは、それぞれの部門でどのよう

な活動をしているのか、しようとしているのか等々の情報を集めること。情報を集めるシステムが構築すればいいのかもしれないが、机上プランがそっくりそのまま通用しないのが人間の集合体である組織。システムを運用するためのメンテナンスに手がかり、自分で動いてしまったほうが速いことも少なくない。

それぞれの思いを込めた活動を伝えるためには、目に見えないものまで伝えなければならなくなる。人に伝える時に重要な意味を持つ“差別化”にも関係し、十分な配慮が要求される。このようなこともあり、機械的・事務的な情報収集ではなく、必然的にニュアンスまで理解できるように個別に情報収集をせざるを得ない。

正確な情報を収集して、そのなかから選択し、知ってもらいたい情報として外部へ伝えていくことになる。「こどもの城」の活動は、多岐の分野にわたり、さらに利用する年齢層も幅広く、さまざまな視点で情報を振り分ける柔軟性などが必要になってくる。

情報を伝える形は、大きく二つに分けられる。「こどもの城ニュース」「ちらし・ポスター」「こどもの城写真ニュース」など、自前の媒体で情報を伝えること（媒体のスペースを買う広告もこれに準じる形と考えられる）と、外部の媒体を使って情報を伝えるという形である。

外部の媒体が「こどもの城」の情報を取り上げてくれるのは、それだけの価値があると認めてくれているからである。19年にわたって継続して活動してきたことが、評価されていると考えられる。これはたいへんな財産で、これからも大切にしていかなければならない。

積極的に外部の媒体に情報を提供し、取り上げてもらえるように働きかけるだけでなく、信頼に応えられるだけの

内容を持った活動を展開していかなければならない。[こどもの城]の活動への理解より深めてもらうために、毎月定期的に情報を送るなど、地道な関係作りを続けていきたいと考えている。

3. まとめ

IT技術の進歩とともに、「情報」が注目を集めている。映画や音楽のソフトから、各種ニュース、ショッピング情報まで、さまざまなものが情報として取り扱われている。その量は膨大であると同時に内容・質の点からも千差万別。

それぞれの人にとって、どの情報が有用なのかが分らなくなるほどあふれかっている。情報の海のなかで、情報の飢餓におちいつているという、奇妙な状況におかれているといえる。

このような状況のなかで、広報の仕事はますます重要性を増すと思われる。伝えたい相手や知りたいという人に、必要な情報を的確に提供する——きわめて単純な構造なのだが、その方法となるとさまざまで、非常に難しい。

どのような情報を、どのような形で提供すればいいのか、検討を重ねていきたい。



平成16年度活動一覧表

名 称	日 時	内 容
「こどもの城ニュース」 の編集・発行	毎月15日発行 (1月を除く)	〔こどもの城〕の活動を紹介する新聞形式の機関紙。B3判、表面4色、裏面1色印刷。各号25,000部発行。主な配布先は下記のとおり。 都道府県児童館連絡協議会など(6,350部)／都道府県児童福祉主管課(1,156部)／こどもの城友の会(約2,000部)／渋谷・港区内の保育所、幼稚園、小・中学校(390部)／渋谷区町内会ほか(200部)／その他・一般来館児・者など(約15,000部) ◇主な内容◇ 第148号(4月15日号)＝いろいろな〈あそび〉をおもしろいにおもしろい楽しんで ゴールデンウィーク(児童福祉週間)特別期間プログラム 第149号(5月15日号)＝見えない“なにか”を“かたち”にする 造形スタジオ 第150号(6月15日号)＝“遊び”を作ってみんなで遊ぶ 「土曜昔遊び」「日曜クラブ」 第151号(7月15日号)＝第12回キンダー・フィルム・フェスティバル～国際こども映画祭 第152号(8月15日号)＝遊びのおもしろさを再発見！ 土曜日の小・中学生向けプログラム 第153号(9月15日号)＝夏にはじけろ！ 遊びのチャンピオン 〔こどもの城〕の夏休み 第154号(10月15日号)＝全国児童館おりがみ作品展 それぞれの“季節”を折り紙で表現しました 第155号(11月15日号)＝20,000タイトルを超える作品があるビデオの図書館 第156号(12月15日号)＝おはるきよじ??? 2～5歳児の会話から～保育活動展 第157号(平成17年2月15日号)＝仲間と〈あそび〉楽しむ 「ユースクラブ」 10代前半の子どものための“遊びのクラブ” 第158号(3月15日号)＝親子でゆったり遊べます 〔こどもの城〕の平日(火～金曜日)定例プログラム
「こどもの城写真ニュース」作成・掲示	毎月20日	館内の壁面に掲示しているA3判サイズ・カラーの写真ニュース。毎月20日に更新。 4月20日＝ジュニア・スプリング・キャンプ／世界なりきり！ハリキリダンス ほか 5月20日＝走れ！キャスルトレイン～鉄道模型運転会／モンスターグランプリ2004 ほか 6月20日＝ビッグサタデー～体操アラカルト～／草笛コンサート ほか 7月20日＝マタニティ・コンサート／スイカ割りに挑戦～保育クラブ ほか 8月20日＝月猫えほん音楽会／布と造形～フェルトのワークショップ ほか 9月20日＝テコンドーに挑戦／小学生パソコン教室マルチメディア探検隊 ほか 10月20日＝小・中学生のための土曜日プログラム／忍者の達人めざせ！「忍者武勇伝」 ほか 11月20日＝赤ちゃん大集合！／おりがみカーニバル ほか 12月20日＝手話劇「動物はおことわり」じょいんクラブ／水泳記録会 ほか 平成17年1月20日＝伝承あそび大全集／新年絢爛おんがく祭～ライブブッチャイナ ほか 2月20日＝節分会 大まめまき大会&こども歳時記～節分～／第3回児童厚生員等実技指導講習会「つくってあそぶおもちゃの魅力～手作りおもちゃを考える」 ほか 3月20日＝2000万人目のお友だちが来館！／ぼくらのサウンド2005 ほか
特別期間のちらし・ポスターなどの作成		以下の催し案内ちらし・ポスターなどを作成。あわせて英語のちらしも作成した。 ○児童福祉週間(ゴールデンウィーク)特別期間ちらし(A4判/4色×1色/35,000部) ○夏休み特別期間ちらし(B4判2つ折り/4色×1色/105,000部)、同ポスター(B2判) ○冬休み特別期間ちらし(A4判/1色×1色/70,000部) ○春休み特別期間ちらし(A4判/4色×1色/82,000部) 夏休みのみ、同じデザインでポスターも印刷した(他の期間はちらしを拡大コピーして使用)。英語版もあわせて作成した。
その他のちらし作成		講座・クラブの募集ちらし(2期、3期、夏休み短期講座/B4判・A4判/1色×1色)や土曜日プログラムのちらし、および特別期間の英文ちらしなどを作成した。
こどもの城の案内	H17.3	〔こどもの城〕の案内を一部改訂して増刷。和文200,000部、英文20,000部印刷。
平成17年度講座・クラブ一覧		新年度の講座・クラブ受講生の募集にあわせて、例年同様に一覧を作成した。B4判4ページ(2色)。260,000部印刷。一部は新聞折り込み・ポストインちらしとして使用。

名 称	日 時	内 容
新聞広告		朝日小学生新聞、毎日小学生新聞への定期的な記事広告掲載のほか、特別期間や講座・クラブ受講生募集などの時期に、新聞広告をととしてPRした。
催し物案内ほか	通年	朝日小学生新聞と毎日小学生新聞に定期的に記事広告を特約掲載。
夏休み特別期間のお知らせ	7.5～8.31	朝日新聞都内各版（全5段ほか）／埼玉少年少女スポーツ新聞（半2段・半3段）／朝日小学生新聞（半2段・全5段）／毎日小学生・中学生新聞（タブロイド3段）／東京新聞・東京中日スポーツ新聞（半5段・全5段）／毎日新聞・読売新聞・日本経済新聞（特集広告）
冬休み特別期間のお知らせ	12.16～H17.1.1	朝日小学生新聞（全5段）／毎日小学生新聞（タブロイド3段）／東京新聞（全5段）／読売新聞（特集広告）
平成17年度の講座・クラブ受講生募集	1.29～3.30	朝日新聞都内各版（全5段ほか）／朝日小学生新聞（全5段）
その他の広告		
夏休み特別期間のお知らせ（都営交通とのタイアップ広告）	8.3～9、10～16	都営交通とのタイアップ広告。車内つりの記事下スペース（80mm×515mm）で夏休み特別期間をPR。都営交通（都営地下鉄・都バス・都電）の全線・全車両内に述べ14日間にわたって掲出した（約3,800枚）。
平成17年度の講座・クラブ受講生募集の新聞折り込み・ポストイン	H17.2.11、15	平成17年度開講の全講座・クラブの案内と受講生募集のちらしを〔こどもの城〕周辺地域の読売新聞・毎日新聞の朝刊（計38,650部）に折り込み広告を実施。サンケイリビングの各戸ポストイン（199,240部）も行った。
取材関係	通年	取材の申し込みがあり、その後記事として掲載されたり放送されたものは以下のとおり（カッコ内は前年度の数）。新聞35（17）、テレビ・ラジオ18（10）、雑誌46（44）、その他85（74）で、全体では184（145）となっている。取材を受けたところには、その後、毎月定期的にプレスリリースを送っている。
第21回渋谷スタンプラリー	7.17～8.31	恒例となった「渋谷スタンプラリー」に本年度も参加した。NHKスタジオパーク、こどもの城、たばこと塩の博物館、電力館、東京都児童会館のほか、本年度からUNギャラリーが加わり6館で開催した。参加者は約1万人。

3

こどもの城から 全国へ

こどもの城 から全国へ



平成16年度の活動

1. はじめに

本年度も、[こどもの城]のセンター的な機能の充実を目的にさまざまな取り組みを実施した。

こどもの城児童厚生員等実技指導講習会の開催、〈動くこどもの城〉事業の実施、講師派遣や実習生・研修生の受け入れは、いずれも児童館活動の活性化や今後の児童館活動を担う人材の育成をめざしたものであり、[こどもの城]のセンター機能の主なものである。これらは[こどもの城]に蓄積された情報の発信である。

一方、公民館、保健所、学校など児童館以外の公的施設や子ども会、町内会、市民団体などが行う子育て支援活動についての情報や事業のノウハウは、児童館活動を活性化する上で重要な要素である。本年度も独立行政法人福祉医療機構子育て支援基金からの助成を受け、「妊娠中の女性と乳幼児をもつ母親のための子育て支援事業」「子育てネットワークによる小中学生交流事業」のモデル事業を[こどもの城]の外で行い、新たな情報の収集やノウハウの蓄積に励んだ。

また同様の目的で、厚生労働省と(財)こども未来財団が主催した「子育てサークルリーダー研修事業」を実行委員会の一員としてコーディネートした。

(ア) 児童厚生員対象の講習会

「こどもの城児童厚生員等実技指導講習会」は、本年度も2日間の通い型1回、2泊3日の宿泊型2回の計3回のほか、前年度に引き続き、児童館でのパソコン遊びをテーマに、実際にパソコンにふれながらプログラムを体験する2日間の通い型の講習会を実施した。

講習会の第一の目的は、児童館活動に必要な技術の習得。テーマの選定は子どもの遊びや興味の多様化、児童館利用年齢層の拡大にともない、年々難しくなっている。児童館で働く人たちの興味は、固有の遊びだけにとどまらず、例えば「児童館での乳幼児と母親の受け入れ」のように、極めて広範なテーマもその対象になってきている。

講習を受けるだけでなく、宿泊研修会という機会を利用して、児童館で働く者同士が情報交換をする機会を得たいという要望も根強い。こうした要望に応えるため、参加各児童館の活動内容が分かる印刷物を配布したり、夜間の時間帯を活用して任意参加の情報交換会を開催するなどの工夫をしてきた。一方参加費を負担する自治体などからは、日帰りで気軽に参加できる講習会への要望も高い。内容だけでなく形式そのものも、多様化した需要に対応していかなくはならない時代になっている。

「こどもの城児童厚生員等実技指導講習会(パソコン編)」や指導者向け講習会「つくって演じる人形劇」「おりがみにつよくなる講習会」は、パソコン、人形劇、折り紙といった特に児童館で関心の高い遊びの実際をトピックス的に取り上げた講習会である。いずれも日帰りで実施し、気軽に参加できると好評であった。これらの講習会にしても、継続者を前提に発展的なテーマ展開をするのか、あるいは常に初心者でも容易に取り組めるというスタイルをつらぬくのか、開催形式では迷うことが多かった。

(イ) 研修生・実習生の受け入れ

大型児童館の初任者研修などとして、本年度は研修生12人を受け入れた。実習生は大学・短期大学、専門学校から依頼のあった保育、博物館学等の科目履修を目的とした実

習の場として学生を受け入れたもので、日産自動車(株)が実施しているNPOラーニングシステムの奨学生を含め、本年度は27人を受け入れた。指導、教育が伴う実習生の受け入れは、時間のかかる仕事であるが、〔こどもの城〕の社会的役割を果たす上でも必要な事業として今後も継続していきたい。

(ウ) 講師派遣

地域で開催される児童健全育成のための研修会や催しのために、〔こどもの城〕の職員が講師として招かれた件数は、前年より若干増加して133件であった。本年度は、都道府県や地区の児童館連絡協議会が主催する講習会への派遣依頼が特に多かった。懸案となっている講師派遣にかんするルール作りは本年度も完成を見なかった。バランスのよいシステムを早く作り、〈動くこどもの城〉、講習会、講師派遣が有機的に機能し、センター的な機能が効率よく果たせるようにしたい。

2. 動くこどもの城

平成6年度の事業開始以来10年が経過し、一部の県を除きほぼ全国の都道府県に派遣を行うことができた。継続した課題となっている新規プログラム開発とともに、〈動くこどもの城〉事業効果の検証の時期にきていると考える。

前年度から、派遣先での活動の状況や地域でのプログラムの受け入れられ方を紹介する報告書を都道府県に配布し、多くの人に〈動くこどもの城〉の成果を紹介してきた。また、派遣事業がその後各地の児童館などでどのように活用されているか、事業の成果についても追跡するとともに、その結果に基づき、研修プログラムを再検討していきたい。

3. 助成金による事業

本年度は、独立行政法人福祉医療機構子育て支援基金の助成を受け、「妊娠中の女性と乳幼児をもつ母親のための子育て支援事業」と「子育てネットワークによる小中学生交流事業」の2事業に取り組んだ。

2年計画で実施してきた「妊娠中の女性と乳幼児をもつ母親のための子育て支援事業」は、これまで〔こどもの城〕で実施してきた「マタニティ・コンサート」と「赤ちゃんサロン」のノウハウを生かし、妊娠中の女性と乳幼児を持つ先輩ママとの交流をはかるとともに、地域固有の需要や事業開催にかんする方法論を学んだ。最終事業年度である

本年度は、前年度にくらべて小規模な会場でモデル事業を実施するとともに、事業実施のノウハウと意義をまとめた映像ソフト(DVD)を作成し、全国の子育て支援事業にかかわる人たちに配布した。

また、新たに2年計画で新規事業として着手した「子育てネットワークによる小中学生交流事業」は、今までどちらかというと乳幼児を中心としてきた子育てネットワークに、小中学生の交流につながる事業に積極的に取り組んでもらおうというものである。子育てサークル、子ども会、公民館、児童館などを中心とした既存のネットワークを使い、全国9か所で小中学生の交流につながるモデル事業を実施してもらった。このモデル事業の実施内容は、公開フォーラムで検討するとともに、年度末に報告書「みんなで子育て」としてまとめ、事業趣旨の普及に努めた。

【その他の共催事業】

前年度から開始した、厚生労働省・こども未来財団が主催する「子育てサークルリーダー研修事業」のなかで、岩手県盛岡市、香川県高松市、静岡県静岡市で実施した際に運営などをコーディネートを行った。

本年度は午前中のみ4日間の実施とした。コミュニケーション・トレーニング、サークル運営のノウハウ、行政の子育て支援施策の説明、子育てサークルの運営やネットワーク作りについてのディスカッションなどを行った。また研修会終了後、それぞれの地域のテーマに沿って、研修会の趣旨がより地域に定着するようにするためのモデル事業も行った。

4. まとめ

利用者を迎える児童館としての機能だけでなく、センター的な事業についても、〔こどもの城〕として需要の多様化にどのように対応していくべきか、迷うことが多かった。こうした迷いは恐らくは全国4,000か所に及ぶ、すべての児童館に共通のものではないだろうか。こうした状況に対応するには、早急にある一つの方針を打ち出すよりも、数多い需要を少しずつ集約することで結論が見えて来るのではないかと思う。

助成金を受けて〔こどもの城〕の外部で行う「モデル事業」、(財)こども未来財団が行う研修会のコーディネートなどは、〔こどもの城〕の外の社会状況を実感できる貴重な機会と考え、ここで得たものをセンター的な機能や〔こどもの城〕自体の事業の中に有効に生かせたらよいと考える。

平成16年度活動一覧表

1. 講座・講習会など

〈専門指導者向け講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
平成16年度こどもの城児童厚生員等実技指導講習会				
第1回「ちよつと一工夫！身近な素材で人形劇～伝授します!! 作ってあそんで演じるポイント～」	(人) 児童館職員ほか (50)	(人) 32	5.19、20 (2日間の通い)	「にんぎょうげきコロ団」代表荒本文子氏を講師に、身近な素材を使った人形作りと演じ方を講習。人形作りでは紙コップ・色画用紙・バンダナなどを使って数種類の人形作りを体験、特殊な素材を使わなくても柔軟な発想でいろいろな人形ができ、子どもたちにも作りやすいことを学んだ。演じ方では動かし方のコツなどを学ぶとともに、特別な舞台がなくても、自分の体を舞台にして人形劇はできること、その場にあるものをうまく使えば立派な舞台になることを実際に披露。難しいことは考えず、子どもの目線で演じれば、子どもは自然に引きつけられることを実演し、講習を終えた。(研修室)
第2回「児童館リフォーム作战～みんなが来なくなる児童館づくり～環境・人・広報～」	// (50)	48 (台園のため2人欠席)	10.20～22 (2泊3日)	みんなが来なくなる児童館作りをめざして、“環境・人(スタッフ)・広報”の3つの視点から実技をととして考察した。“環境”は造形事業部が担当。環境設定の事例を紹介した後に造形物の制作をし、環境設定の実際を実習した。“人”は(財)児童健全育成推進財団依田秀任氏を講師に、魅力的な児童館スタッフについて考えた。自分を知り他人を知ることの重要性を認識した後、児童館スタッフに必要な能力について全員でキーワードを出し合い整理分析を行った。経験年数や立場などの違いによる意識の差を実験をととして明確にし、それぞれの能力を理解しあって初めて魅力あるスタッフとなりうることを確認した。“広報”は広報部スタッフが、参加者から事前に集めた実際の“お便り”をもとに講習。情報に優先順位をつけ、伝えたいものを大きくするなどしてレイアウトに変化をつける、対象を絞り込んで対象にあわせた表現をすると情報が伝わりやすくなるなどを実習。(研修室)
第3回「つくってあそぶおもちゃの魅力～手づくりおもちゃの可能性を考える～」	// (50)	46	H17.1.21～23 (2泊3日)	児童館でのもの作りプログラムとして常に核となる手作りおもちゃに視点をあて、手作りおもちゃプログラム開発のヒントを実技をととして学んだ。1日目は日本児童遊戯研究所所長有木昭久氏が講師。講師が制作したおもちゃを多数紹介し、一つの発想から数知れないほどのおもちゃができる事例を示した。制作方法については一切ふれず“物まねではなく自分で考え発想することの重要性を強調した。2日目の前半はプレイ事業部スタッフが講師。一つのおもちゃを集団遊びにつなげるプログラムを紹介、遊び方も工夫次第(発想)でいくとおりにも変化・発展していくことを体験。さらに、「こどもの城」の高学年向けプログラムとして行ってきた「サタデー・ラボラトリー」から4種類のプログラムを体験した。後半は、参加児童館に持ちよってもらった手作りおもちゃを相互に紹介するワークショップ。17施設のプログラムを2グループに分けて出店形式で、それぞれに体験(1プログラム10人まで。参加者は他の作り方や遊びを発展させる案などの意見・感想を必ず紙に書いていくことが条件)。活発な意見交換が行われた。3日目は最後のまとめ。東京都図画工作研究会会長鈴木弘之氏を講師に、現在の子どもの造形活動について講義。学校での子どもの物作りについて発想の豊かさ、個々の取り組み方の違いなどの様子を写真やビデオをととして紹介。学校5日制で図画工作の時間が減らされているという中で、児童館などでの物作りプログラムの重要性を改めて再認識した。(研修室)

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
平成16年度こどもの城児童厚生員等実技指導講習会パソコン編				
第1回「児童館でのパソコン遊び (1)」	(人) 児童館職員ほか (20)	(人) 19	6.9・10 (2日間の通い)	前年度から始まったパソコン遊びの講習会。今回は、クラフト遊びを中心に紹介した。1日目は、木の葉の輪郭が書かれている下絵にぬりえの要領で色を塗り、カラープリンターで出力。壁面などに用意した大きな木にはりつけて、みんなで木を作るというプログラム「はっぱのぬりえ」。箱の展開図に好きな色・模様などをつけ、プリンターで出力後厚手の台紙にはってから切り抜き、組み立てる「わくわくBOX」を実施。その後、子どもたちにプログラムを提供する場合にあらかじめ準備しておかねばならないデータ作りの実習を行った。2日目「ペーパープレーンファクトリー」。同じクラフト系のプログラムだったが、作ったもので遊ぶ・遊べるというもの。ペーパープレーンを作って、飛ばして遊ぶところまで体験した。 (パソコンルーム)
第2回「児童館でのパソコン遊び (2)」	// (20)	17	11.17・18 (2日間の通い)	今回はグラフィックス遊びのプログラムを紹介。ペンで文字や絵をかくのと同じような感覚でパソコンに図柄などを入力することができる、ペンタブレットという入力装置を使ったプログラム——写真などをなぞって輪郭を写し取る「なぞってアート」。パソコンに接続したカメラで自分の顔を撮影し、それをなぞって似顔絵を作る「似顔絵ペインター」——を紹介。午後は、写真を組み合わせるコラージュ遊び「どんなかなスコープ」。事前に写真のデータベースとしてたくさんの素材（背景、切り抜いた写真など）を用意しておく必要があるの、素材を作るための写真加工の方法を実習。2日目はグラフィックス遊びをさらに変化・発展させるための方法の一つとして、画像を処理するためのフィルターを使ったり、文字を入力する方法を練習。コラージュで作られ世界が広がるのを体験した。午後は、パソコン遊びでも使ったグラフィックス機能を生かしながら、操作説明書（マニュアル）やポスター作りの方法も講習した。 (パソコンルーム)
つくって演じる人形劇	児童館職員ほか (各30)	43 41	8.22 9.12	児童館や保育所などで、子どもを対象とした人形劇を上演する際に使える、ウレタンを素材にした表情人形を“つくって演じる”講習会。1回目は表情人形の制作、2回目に操作方法と上演に関するコツを学んだ。 (研修室)
おりがみにつよくなる講習会	// (各50)	52 49	10.24 11.7	1回目は「折って遊べるおりがみ～折り紙で子どもたちと遊ぼう～」、2回目は「四季のおりがみ～クリスマス etc.」をテーマに、初音みね子（日本折紙協会折紙師範）さんを講師に招き児童館や保育所など、子どもを対象とした折り紙の指導と装飾方法について学んだ。 (研修室)

「こどもの城児童厚生員等実技指導講習会パソコン編」



「こどもの城児童厚生員等実技指導講習会～
ちょっと一工夫！身近な素材で人形劇」

2. 〈動くこどもの城〉

〈子どもや家族を対象としたプログラム〉

名 称	内 容
「おにごっこ」で楽しく体力づくり (体育)	かつて、子どもたちは元気に軽快に遊ぶなかで、基本的な体力を自然に向上させていたが、現代ではその基本的な体力の低下が危ぶまれている。かんたんに転んだり、よけることができなくてぶつかってしまうこともある。「敏捷性」「バランス」を養うための陣取りゲームなどの「スポーツ遊び」を多彩に展開。
身近な道具でスポーツあそび (体育)	身の回りにある道具を使って体を動かしてみる。新聞紙・棒・ひも、そして特定のスポーツの道具として用いることが多いボールなどの使い方を、人数や場所の広さによって変えていく発展型プログラム。発想を変えることによって、さまざまなスポーツ遊び、スポーツへと展開していく。
親子ふれあい体操“1・2・3” (体育)	“歩く”から“走る”へと運動発達が著しい1～3歳の時期に、親子で楽しく体を動かしながら、子どもの成長やコミュニケーションを楽しめるかんたんな体操、模倣動作、親子で鬼ごっこなど、室内外でできる運動や遊びを紹介。
お母さんと赤ちゃんの すくすくスキンシップ (体育・小児保健)	赤ちゃんが自然に健康に成長していることは、母親でも意外と意識しないもの。音楽や楽しい遊具を使いながら、赤ちゃんと一緒にできる簡単な体操をとおして、表情や動きの新しい発見をするプログラム。
やってみよう! パソコン遊びのプログラム (プレイ)	「きれいなグラフィック遊び」、さまざまなペーパークラフトをパソコンでデザインしてから作って遊ぶ「パソコンクラフト」など、〔こどもの城〕で実施したプログラムの中から、いくつかを選択して実施。パソコンで楽しく遊ぶコーナーを一定期間設置する。
みんなで遊ぼう バベットランド (プレイ)	人形作りと人形遊びの2つの活動で構成。紙コップや封筒など身近な素材で人形を作り、作った人形で話をしたり、仲間とコーラスを楽しんだり、ごっこ遊びを繰り広げたり——イメージの世界をみんなで楽しむ、人形遊びのプログラム。
レクリエーションゲーム大会の 演出プラン (プレイ)	ごっこ遊びの要素を取り入れて、レクリエーションゲームをよりおもしろく演出しようというプログラム。忍者の世界をテーマにファンタジーの世界を仲間と共有しながら、協力、相談、競争をキーワードに、さまざまなゲームをとおして交流をはぐくむことをねらいとしたプログラム。
ガドガドコンサート 「おんがくがスキ！」 (音楽)	参加者に演奏を聞かせるだけのコンサートではなく、歌遊び、手遊びなどを盛り込み、演じる・見る・聞く・楽しむ行為が一体となって、音楽の楽しさをより深く体験できる参加型のプログラム。
竹の響き「アンクルンコンサート」 (音楽)	アンクルンは、竹で作られたインドネシアの民族楽器。一つの楽器から一つの音しかでない“竹のハンドベル”。アンクルンのほかに、竹のマリンバ、ベースなどと一緒に、童謡やインドネシアの民謡を演奏。竹の優しく素朴な音のハーモニーが楽しめる。参加した子どもたちが体験するコーナーもある。
音楽ゲームセンターであそぼう 「スーパースターゲッター！」 (音楽)	子どもたちとの遊びのなかから作り上げたオリジナルの音楽遊びプログラム。“踊る”“歌う”“聞く”“リズムをたたく”“楽器を体験する”など、音楽的要素を含んだゲームコーナーが屋台のように並ぶ。
アニメ・ワークショップ (AV)	2枚の簡単な絵を描いて作る「ばたばたアニメ」、映画発明以前の動く絵を楽しむ“視覚がん具”の制作などをとおして映画、映像の仕組みを体験。また、制作の難しい複雑な「視覚がん具」も展示。
こどもの城映画劇場 (AV)	子ども向けに作られた国内外の芸術的なアニメーションの短編作品——〔こどもの城〕フィルムライブラリー「武藤行雄記念文庫」に収蔵された作品から数本——を上映。〔武藤行雄記念文庫〕にはカナダ国立映画制作庁(NFBC)のアニメーションをはじめ、世界中の優れた作品を約110本収蔵。
映像探検 写真ワークショップ (AV)	日常なにげなく撮っている写真の“写る仕組み”を体験。写真の発明以前に、画家たちがデッサンの補助的器具として用いていた“カメラオブスクラ”や、レンズを使わないカメラ“ピンホールカメラ”を使ったワークショップ。また、写真の仕組みや歴史を巡る展示も行う。
絵本の読み語り 「おはなしコンサート」 (企画研修)	スライドで写し出した大きなイラスト(絵本の絵)——ピアノとパーカッションの生演奏をバックに、絵本の読み語りを行う。絵本の楽しさを家族一緒に体験できるプログラム。
ボランティア交流プログラム (企画研修)	〔こどもの城〕で活動しているボランティアリーダーと地域のボランティアとの交流プログラム。ボランティアの養成やさまざまな活動についての情報を交換。

〈児童厚生員などを対象とした実技研修会〉

名 称	内 容
手作り楽器のワークショップ (音楽)	“がらくた”として捨ててしまうようなもの（金属の缶やフィルムのケースなど）を生き返らせて、音が出る“音の道具＝楽器”に。制作終了後には、作った楽器を使って全員で合奏。
打楽器で遊ぶワークショップ (音楽)	ブラジルのサンバ、アフリカの太鼓“タムタム”、和太鼓のほか、スプーンなど身近な道具を使った打楽器体験。児童館などで行うリズム遊びを紹介。
想像遊びのワークショップ (企画研修)	さまざまな絵本をモチーフにした、想像遊び、みたて遊び、言葉遊びを楽しむワークショップ。かんたんなカード制作をとおして、共同制作者とのコミュニケーションを図ります。
造形ワークショップ (造形)	素材・発想・技法などを組み合わせると、さまざまなプログラムが生まれる。どこにでもある素材も、ほんの少しだけ発想を変えると、ふだんは見えないものが見えてくる。そうしたプログラムの何種類かを体験制作。背景となる考え方や発想法についても考える。
不思議な映像実験室 (AV)	“映像の時代”ともいえる現代に生きる子どもたちにとって、豊かな映像。その映像の基本的な原理について、遊びをとおして理解するプログラム。
人形遊びのワークショップ (プレイ)	くつした、紙コップ、タオル、てぶくろなど、身近な素材で人形を作って遊ぶためのワークショップ。表現遊びの楽しさを知ってもらうことをねらいとしている。

〈巡回展示とワークショップ〉

名 称	内 容
造形ワークショップ展 (造形)	〔こどもの城〕造形スタジオの実践プログラムを視覚的に分かりやすく、展示パネルの形式にまとめて展示。展示中心のプログラムだが、いくつかのプログラムを子どもたちやその家族を対象に実施することもできる。展示のテーマは以下のとおり。それぞれ独立した展示内容で、開催団体と相談のうえ展示テーマを決定する。 ■素材ア・ラ・カルト■紙、木、土、竹、金属などの素材の特性を生かしたプログラム作品の展示。 ■竹体験ワークショップ■竹に焦点をあて、竹で作られた生活道具、楽器、オブジェなどの展示を含め、竹のプログラム作品の展示。竹の特質を総合的に学習、体験できる。 ■絵本の世界へ■ブルーノ・ムナーリの「アートとあそぼう」や「造形発見展～絵本と造形」で実施したプログラム作品をはじめ、多様な絵本の表現方法を使ったプログラム作品を中心にして展示。 ■アートとあそぼう クレイワーク■表現素材としての土の可能性を考えて「素材との出会い展～土と造形」で実施したプログラム作品の展示。立体物が多い展示です。 ■光体験ワークショップ■光ってなんだろう？ どんなものだろう？ いつも私たちの身の回りにあふれているにもかかわらず、気がつかない光のプログラム作品の展示と光を体験できるものの展示。
お父さんの少年時代 (企画研修)	児童館などを訪れる子どもたちのお父さん、お母さんが子どもだったころ、昭和30～40年代の“遊び”の展示。展示されたメンコ、ベーゴマ、凧、日光写真などの遊び道具をきっかけに、親子のコミュニケーションをはかると同時に、子どもたちは昔遊びのエッセンスを体験。
絵本とコミュニケーション (企画研修)	絵本は子どもたちの感性をはぐくむ優れた媒体。子どもの様子を見ながらページをめくれば、自然と親子のコミュニケーションを図ることもできる。駒形克己さん(グラフィックデザイナー)は、絵本がもつ“コミュニケーションのためのツール”という側面に着目し、さまざまな絵本を制作するだけでなく、絵本作りのワークショップを実践している。〔こどもの城〕で実施した展示とワークショップで構成したプログラム。駒形さんの絵本の世界を中心に「絵本とコミュニケーション」について考える。
全国児童館おりがみ作品展 (企画研修)	各地の児童館活動のなかで制作したおりがみ作品を集めた「全国児童館おりがみ作品展」(参加17館/10月25日～11月16日/こどもの城)を、12月から全国で巡回展示。本年度は「おはなしの世界」がテーマ。6月までは前年度の作品(テーマは「私たちの街」)を巡回展示。

〈実施一覧〉

都道府県	開催団体	会場	日時	内容	催し	研修	展示
宮崎県	清武町の児童館	清武町の児童館	4.12~17	全国児童館おりがみ作品展			○
佐賀県	鳥栖市児童センター	鳥栖市児童センター	5.16	全国児童館おりがみ作品展			○
青森県	青森県子ども家庭支援センター	青森県子ども家庭支援センター	6.21・22	お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	○	○	
新潟県	新津市美術館	新津市美術館	6.26・27	造形ワークショップ展	○	○	
栃木県	野木町立新橋児童館	野木町立新橋児童館	7.2	親子ふれあい体操1・2・3	○	○	
岡山県	岡山市浜川原児童館	岡山市浜川原児童館	7.8	みんなで遊ぼう！パベットランド	○	○	
北海道	子どもの夢を育てる未夢の会	子どもの夢を育てる未夢の会	7.30.8.1~29	絵本とコミュニケーション	○	○	○
群馬県	三波川ふるさと児童館「あそびの学校」	同左	8.12~25	お父さんの少年時代	○	○	
山形県	新庄市地域子育て支援センター	新庄市地域子育て支援センター	9.10・11	みんなで遊ぼう！パベットランド	○	○	
新潟県	上越市市民プラザ内 こどもセンター	上越市市民プラザこどもセンター	9.14	お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	○	○	
奈良県	大和高田市子育て支援センター	大和高田市子育て支援センター	9.17	親子ふれあい体操1・2・3	○	○	
福島県	会津本郷町教育委員会	会津本郷町教育委員会	10.19・20	絵本の読み語り「おはなしコンサート」	○	○	
神奈川県	葉山町福祉環境部福祉課	葉山町福祉環境部福祉課	10.1	お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	○	○	
香川県	さぬきこどもの国	さぬきこどもの国	10.9・10	ガドガドコンサート「おながくがスキ！」	○	○	
岐阜県	世界イベント村ぎふ運営協議会	世界イベント村 ぎふ運営協議会	10.11	「おにごっこ」で楽しく体力づくり	○	○	
栃木県	栃木県子ども総合科学館	栃木県子ども総合科学館	10.15~17	やってみよう！パソコン遊びのワークショップ	○	○	
長崎県	長崎県児童文化・スポーツ交流事業	佐世保市立稲荷児童センター	10.23・24	レクリエーションゲーム大会の演出プラン	○	○	
長野県	八千穂村	八千穂村	10.28	みんなで遊ぼう！パベットランド	○	○	
三重県	小俣町地域子育て支援センター	小俣町地域子育て支援センター	10.30	親子ふれあい体操1・2・3	○	○	
埼玉県	NPO法人新座子育てネットワーク	NPO法人新座子育てネットワーク	11.6~21	お父さんの少年時代			○
岡山県	瀬崎町立植松児童館	瀬崎町立植松児童館	11.13	竹の響き「アンクルンコンサート」	○	○	
兵庫県	子ども家庭支援センターたからづか	子ども家庭支援センターたからづか	11.19	親子ふれあい体操1・2・3	○	○	
熊本県	熊本県健康福祉部少子化対策推進課	健康福祉部少子化対策推進課	11.20・21	絵本の読み語り「おはなしコンサート」	○	○	
石川県	石川県立中央児童会館	石川県立中央児童会館	11.20~ 12.11	全国児童館おりがみ作品展			○
岐阜県	岐阜市社会福祉事業団梅林児童館	岐阜市社会福祉事業団梅林児童館	12.8~ H17.1.16	造形ワークショップ展	○	○	○
富山県	富山県児童館連絡協議会	富山県児童館連絡協議会	12.9	不思議な映像実験室		○	
栃木県	栃木県子ども総合科学館	栃木県子ども総合科学館	12.18~ H17.1.7	全国児童館おりがみ作品展			○
熊本県	西合志町社会福祉協議会ふれあい館	西合志町児童館	1.12~17	全国児童館おりがみ作品展			○
埼玉県	上福岡市児童センター	上福岡市児童センター	1.13~18	全国児童館おりがみ作品展			○
福島県	福島市東浜児童センター	福島市東浜児童センター	1.22~31	全国児童館おりがみ作品展			○
愛媛県	えひめこどもの城	えひめこどもの城	2.5~20	全国児童館おりがみ作品展			○
仙台市	(財)仙台ひと・まち交流財団子ども育成課	同左	2.17	レクリエーションゲーム大会の演出プラン		○	
北海道	財団法人札幌市青少年女性活動協会	札幌市中の島児童会館	2.26~3.7	全国児童館おりがみ作品展			○
栃木県	野木町立新橋児童館	野木町立新橋児童館	2.26~3.7	全国児童館おりがみ作品展			○
佐賀県	久保田町児童会館	佐賀県立生涯学習センター「アバンセ」	2.26~4.10	全国児童館おりがみ作品展			○
佐賀県	川副町児童館	川副町児童館	3.5・6	レクリエーションゲーム大会の演出プラン	○	○	○
大阪府	大阪府立大型児童館ビッグバン	大阪府立大型児童館ビッグバン	3.12~21	全国児童館おりがみ作品展			○
群馬県	ぐんまこどもの国児童会館	ぐんまこどもの国児童会館	3.26~4.10	全国児童館おりがみ作品展			○

3. 助成金による事業

〈独立行政法人 福祉医療機構「子育て支援基金」助成事業「子育てサークルネット支援事業」〉

名 称	日 時	内 容
思春期までを見通した子育てネットワーク活動を考えるためのモデル事業	6月～H17.2月	多くの子育てネットワークは、乳幼児期の活動を中心に行っている。しかし、子どもたちの成長を長い目でみるため、子育てをしている当事者による活動を維持していくためには、思春期までを見通した活動が必要となってくる。そこで、乳幼児期を中心としたネットワークから、思春期までを見通したネットワークへの移行段階について、モデル事業を通じて調査・研究した。 モデル事業実施団体：NPO法人子育てネットワークとかち（北海道芽室町）／さっぽろ子育てネットワーク（札幌市）／NPO法人新座子育てネットワーク（埼玉県新座市）／NPO法人子育てサポーター チャオ（埼玉県越谷市）／佐倉子育て応援団（千葉県佐倉市）／さいたま市子育てネットワーク（さいたま市）／子育て広場「きらら」（東京都小平市）／NPO法人ふれあいサポートちゃていず（岡山県和気郡日生町）／乳幼児子育てネットワーク・ひまわり（北九州市）
子育てネットワーク全国フォーラム	H17.1.29	モデル事業で実施した内容の発表とそれに対する参加者の討論により、思春期までを見通した子育てネットワーク活動の課題を明確にするために全国フォーラムを開催した。各モデル事業の発表のほか、「乳幼児と小・中・高校生とのふれあい事業について考える」「スポーツを通じたネットワークづくり」「学校と子育てネットワークの連携を考える」「児童館と子育てネットワークの連携を考える」「街づくりの視点からみた子育てネットワーク」というテーマで分科会を実施した。146人参加。
児童館と公民館を対象としたアンケート調査	1月	思春期までを見通したネットワーク活動を公的機関が支援する場合、18歳までを対象としている児童館や生涯学習の拠点でもある公民館の役割が期待される。これらの施設が、どのような子育て支援活動を行っているのか、また市民活動をどのように支援しているかについて情報を収集することを目的としてアンケート調査を実施した。全国約3,000の市区町村から、300市区町村を無作為抽出し、該当する市区町村の全児童館・公民館・児童福祉担当課・生涯学習課、合計2,004か所を調査の対象とした。
「みんなで子育て」の発行	3月	モデル事業やアンケート調査の結果をフィードバックし、今後の子育てネットワーク活動への提言するために報告書「みんなで子育て」を発行し、全国の自治体などに配布した。

〈独立行政法人 福祉医療機構「子育て支援基金」助成事業

「妊娠中の女性と乳幼児をもつ母親のための支援事業」

名 称	日 時	内 容
マタニティコンサート&赤ちゃんサロン（静岡県静岡市）	8.28	本年度は、地元の子育て支援団体・ネットワークなどでも継続的に事業展開ができるように、規模や方法などを工夫。地元のネットワーク・行政・こどもの城との共催事業として行った。規模としては、勤労者福祉会館「清水テルサ」のリハーサル室で地元の清水フィルハーモニーの木管楽器メンバーによるミニ・コンサートを実施。コンサート終了後に会場を「赤ちゃんサロン」に移し、先輩ママとの交流を図った。共催：マミーズネットワーク清水、後援：静岡市・社団法人静岡市清水医師会・静岡新聞社・静岡放送。
マタニティコンサート&赤ちゃんサロン（東京都青梅市）	10.30	子育て広場「こども未来館」を運営しているNPO法人青梅こども未来と共催して実施。マタニティコンサートと赤ちゃんサロンを並行して実施し、コンサート終了後に妊産婦と乳幼児をもつ母親との交流を図った。後援：青梅市・社団法人西多摩医師会。
スペシャル「HAPPYにんぶさん」にんぶさんのためのプチコンサート（埼玉県朝霞市）	12.6	子育てネットワークとプレママのサークル「HAPPYにんぶさん」のスペシャルイベントとして実施。コンサートは、洗足学園音楽大学の協力で、学生と卒業生とで構成する弦楽四重奏を楽しんだ。コンサート終了後に、先輩ママがサポーターとして参加し、子育てなどについての情報交換を行った。共催：ASAHIいくじネットワーク・プレママサークルHAPPYにんぶさん、後援：朝霞市。
マタニティふれあいコンサート&サロン（埼玉県新座市）	12.13	新座市立栄保育園の協力を得て、保育園児・プレママ・先輩ママがいっしょに楽しめるコンサートを実施した。コンサート終了後に、保育園の見学、子育てサロンなどを実施した。また、1月25日、2月8日にもマタニティふれあいサロンを実施した。共催：NPO法人新座子育てネットワーク・新座市立栄保育園・地域子育て支援センター「るーえん」、後援：新座市・新座市医師会・新座市助産師会、協力：洗足学園音楽大学。

名 称	日 時	内 容
ほっとマタニティコンサート&赤ちゃんサロン（神奈川県横浜市港北区）	H17.2.19	横浜市港北区で“つどいの広場”事業を実施しているNPO法人びーのびーを中心に、行政との協働モデルとして実施。コンサート終了後に、乳幼児をもつ母親との交流や疑似サロンを開催し、地域の子育て支援情報を提供した。共催：港北区福祉保健センター・NPO法人びーのびー、後援：港北区医師会、社会福祉法人港北区社会福祉協議会。
マタニティコンサート&赤ちゃんサロン（長野県長野市）	3.1	公共ホールとの共催事業として実施。ホールの主催事業としてマタニティコンサートを実施し、そこに地元子育て支援団体の協力を得て、子育て情報などを提供する形をとった。共催：長野県県民文化会館・長野県・長野県教育委員会、後援：長野市、NPO法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト。
「いきいきママ にこにこ赤ちゃん」の発行	3月	モデル事業の結果をまとめ、妊娠中の女性の支援活動の運営モデルを示し、支援活動普及の参考資料として活用してもらうために、報告書「いきいきママ にこにこ赤ちゃん」を発行した。
「いきいきママ にこにこ赤ちゃん」DVDの制作	3月	プレママを対象とした事業の普及を目的としたDVDを作成し、報告書とともに全国に配布した。DVDの内容は、朝霞市・青梅市・新座市でのマタニティコンサートの様子、市民団体によるプレママ支援活動、〔こどもの城〕の赤ちゃんサロンの様子などを収録した。

財団法人こども未来財団委託事業〈子育てサークルリーダー研修事業〉

名 称	日 時	内 容
子育てサークルリーダー研修事業（高松市）	7.1、15、27、9.9	厚生労働省・財団法人こども未来財団が主催する「子育てサークルリーダー研修事業」について、財団法人こども未来財団から委託されて実施した。内容は、「子育てに必要なコミュニケーショントレーニング」「情報交換 身近なもので楽しんじゃおう」「効果的な情報交換・情報発信の仕方を学ぼう」「パネルディスカッション 地域の子育て支援」。協力：NPO法人わははネット。
〃（盛岡市）	8.24、27、31、9.1	「子育てに必要なコミュニケーション術1」「子育てに必要なコミュニケーション術2」「サークル運営ハンドブックづくり」「パネルディスカッション 地域の子育て支援」の内容で研修を実施。協力：NPO法人いわて子育てネットワーク。
〃（静岡市）	11.4、10、15、29	「子育てに必要なコミュニケーショントレーニング」「情報交換 サークルで好評な手作り玩具・工作プログラム」「サークル運営ハンドブックづくり」「パネルディスカッション 地域の子育て支援」の内容で研修を実施した。協力：マミーズネットワーク清水。

こどもの城 事業年報

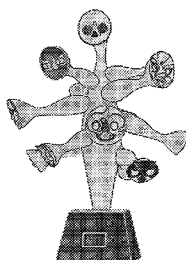
平成16年度

平成17年11月1日発行

[編集・発行]
財団法人 児童育成協会
理事長 吉武 民樹

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1
電話 03-3797-5666

表紙イラスト/KOHYA
デザイン/ COIL
印刷所/日本印刷株式会社



財団法人 児童育成協会



〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1
TEL 03-3797-5666(代表) FAX 03-3797-5676
<http://www.kodomo-no-shiro.or.jp/>